静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第243集

# 助宗古窯群

第二東名No.86地点

# 寺島大谷遺跡
# 寺島大谷古墳

第二東名No.87地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

藤枝市－3

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第243集

# 助宗古窯群

第二東名No.86地点

# 寺島大谷遺跡
# 寺島大谷古墳

第二東名No.87地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

藤枝市－3

２０１１

中日本高速道路株式会社東京支社

# 序

静岡県内では第二東名高速道路建設が進められ、それに伴う発掘調査が各地で行われています。藤枝市域ではすでに発掘調査報告書が刊行された衣原古墳群、衣原遺跡、衣原古窯群、中ノ合イセ山遺跡、中ノ合イセ山古墳群、中ノ合遺跡をはじめとして、寺家前遺跡、助宗古窯群、寺島大谷遺跡、寺島大谷古墳、花倉大柳遺跡、花倉大柳古墳の８地点12遺跡の本調査が行われました。こうした調査の結果から、遺跡群の分布する志太平野北部の丘陵地帯は古来より人々の活動が活発な地域であったことがうかがえます。

助宗古窯群は藤枝市助宗に所在し、奈良・平安時代を中心とした時期の須恵器を生産した一大窯跡群であることが知られています。今回の発掘調査により、工房の可能性がある建物跡が発見され、生産地における人々の営みの一端を知ることができました。藤枝市寺島に所在する寺島大谷遺跡では丘陵部に展開する弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落域が発見されました。また隣接する寺島大谷古墳（１号墳）は、主体部より古墳時代前期後半から末葉の所産とみられる鉄剣・鉄斧・ヤリガンナなどの副葬品が発見され、志太平野最古級に位置づけられる古墳であることが明らかとなりました。

本書で報告するこれら調査成果が地域の歴史を解明するために活用され、また郷土に対する愛情をはぐくむ一助となれば幸いです。

発掘調査ならびに資料整理にあたっては、中日本高速道路株式会社東京支社、藤枝市教育委員会、静岡県教育委員会をはじめとする関係諸機関各位、また地元住民の方々より多くの御理解と御協力をいただきました。また、現地調査及び資料整理については多くの方々より御指導、御教示をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。最後に現地調査、資料整理に従事した作業員諸氏にも感謝の意を表します。

平成23年３月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所　長　石　田　　彰

# 例　言

1　本書は静岡県藤枝市における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、静岡県藤枝市助宗に所在する助宗古窯群及び藤枝市寺島に所在する寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳の発掘調査報告書である。

2　第二東名建設事業に伴って実施した埋蔵文化財発掘調査においては、それぞれ地点名が付されているが、本書で報告する助宗古窯群はNo.86地点、寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳はNo.87地点にあたる。

3　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の作成は地区（市町村）単位で実施している。藤枝市域では本書が第３冊目にあたるため、「第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　藤枝市－３」とした。

4　調査は第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧文化課）の指導のもと、藤枝市の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

5　現地調査・資料整理の期間と担当者は以下の通りである。

（１）助宗古窯群現地調査

確認調査：平成９年10月～12月　足立順司、篠宮晋士、石田　勉、杉本勝彦

本 調 査：平成９年12月～平成10年２月　足立順司、篠宮晋士、石田　勉、杉本勝彦

（２）寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳現地調査

確認調査：平成９年11月～12月　足立順司、篠宮晋士、石田　勉、杉本勝彦

本 調 査：平成10年１月～平成10年９月　足立順司、篠宮晋士、石田　勉、杉本勝彦、飯塚晴夫、大庭　宏、蔵本俊明、大林　元

（３）資料整理

資料整理・報告書作成：平成22年４月～平成23年３月　溝口彰啓

6　本書の執筆は溝口彰啓、澁谷昌彦、大谷宏治、西尾太加二が行った。執筆分担は下記のとおりである。

溝口彰啓：第２章第１節、第３章第１節、同第２節２の遺構記述、第４章第３節

大谷宏治：第３章第４節、第４章第４節　　西尾太加二：附編１

上記以外は澁谷昌彦が執筆した。

7　整理作業では、弥生土器について篠原和大氏(静岡大学人文学部准教授)、須恵器及び灰釉陶器について井上喜久男氏（愛知県陶磁資料館)、石器石材について伊藤通玄氏（静岡大学名誉教授）に御指導いただいた。

8　現地での基準点測量、空中写真撮影及び遺構測量の一部は株式会社フジヤマに委託した。

9　出土須恵器および灰釉陶器の胎土分析は株式会社パリノ・サーヴェイに委託し、分析結果を附編２として掲載した。

10　本書で使用した遺物写真図版は、すべて当研究所写真室担当職員が撮影した。

11　脆弱遺物の取り上げ及び保存処理は当研究所保存処理室が実施した。

12　調査の概要は当研究所の出版物等で一部公表されているが、内容において本書と相違がある場合は本報告をもって訂正する。

13　本書の編集は財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所があたった。

14　発掘調査の資料は、静岡県教育委員会が保管している。

# 凡　例

1　座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を使用している。

2　グリッドは、上記座標を用い一辺10ｍの方眼を設定している。また、方位も上記座標による方位(座標北)を基準としている。

3　本書に使用した図表は主に調査によって測量・実測した図を基に作成している。これ以外の図については各図中に出典等を示している。

4　本書で使用した遺構の表記は次の通りである。

例）ＳＨ01（ＳＨ：遺構の種別　　01：遺跡内の全遺構通し番号）

ＳＨ：竪穴住居跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＤ：溝状遺構

ＳＰ：小穴　　ＳＸ：性格不明遺構

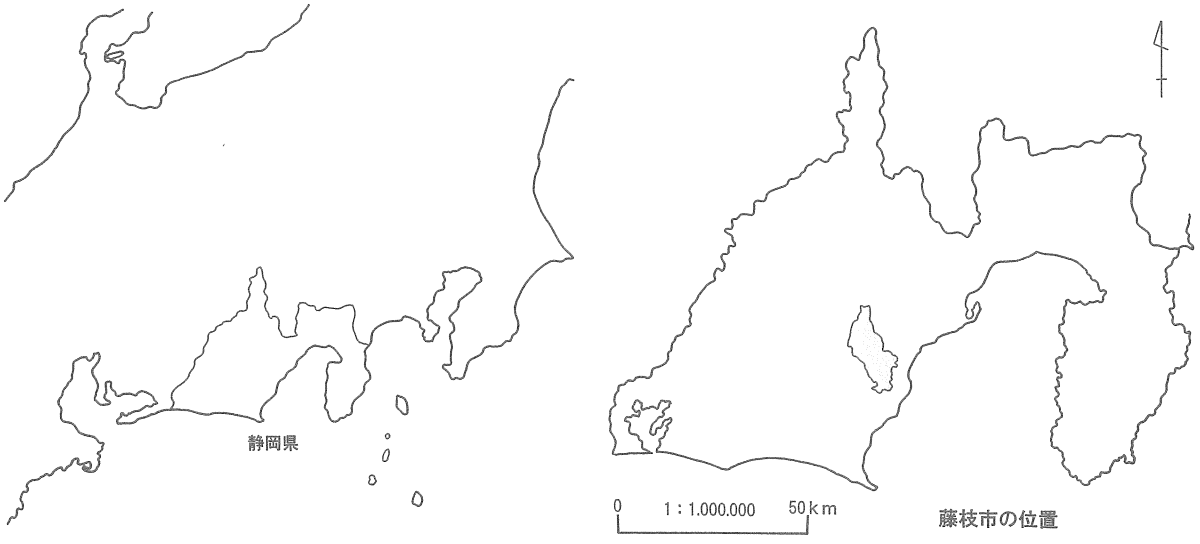
5　遺構図、遺物実測図の縮尺はそれぞれの図版に明記した。

6　遺物番号は遺跡ごとに通し番号を付した。

7　本書の図中に用いたスクリーントーン等の使い分けは、必要なものを各図の中で表記した他、遺構・遺物については次のように統一した。

遺構：竪穴住居に伴う炉跡

遺物：石器・石製品使用痕



# 目　次

序／例言／凡例／目次 …… i～vii

第１章　位置と環境
　第１節　位置と地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境と調査歴 …… 1
第２章　助宗古窯群
　第１節　調査の方法と経過 …… 6
　　１．調査の体制 …… 6
　　２．発掘調査の方法と経過 …… 6
　　３．資料整理の方法と経過 …… 7
　第２節　概要 …… 7
　　１．地形 …… 7
　　２．土層 …… 8
　　３．遺構と遺物の概要 …… 8
　第３節　調査成果 …… 8
　　１．遺構と遺物 …… 8
第３章　寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳
　第１節　調査の方法と経過 …… 33
　　１．発掘調査の方法と経過 …… 33
　　２．資料整理の方法と経過 …… 36
　第２節　概要 …… 39
　　１．地形 …… 39
　　２．土層 …… 40
　　３．遺構と遺物の概要 …… 40
　第３節　寺島大谷遺跡の調査成果 …… 41
　　１．縄文時代の遺構と遺物 …… 41
　　２．弥生時代・古墳時代・古代の遺構と遺物 …… 57
　　３．遺構外出土遺物 …… 73
　第４節　寺島大谷１号墳の調査成果 …… 103
　　１．寺島大谷１号墳周辺の古墳の分布状況 …… 103
　　２．古墳の現況 …… 104
　　３．墳丘 …… 104
　　４．埋葬施設 …… 110
　　５．遺物の出土状況 …… 113
　　６．出土遺物 …… 113
第４章　まとめ
　第１節　助宗古窯群の須恵器・灰釉陶器について …… 118
　第２節　寺島大谷遺跡の縄文時代の住居跡と土製品について …… 119
　第３節　寺島大谷遺跡の弥生～古墳時代の集落について …… 119
　第４節　寺島大谷１号墳について …… 120

附編１　寺島大谷１号墳出土金属製遺物にともなう木質部の樹種について …… 123
附編２　助宗古窯群出土須恵器および灰釉陶器の胎土分析　パリノ・サーヴェイ㈱ …… 125

抄録

# 挿図目次


助宗古窯群

第１図　静岡県中部地域の地質概略図 …… 2
第２図　位置と周辺遺跡分布図 …… 4
第３図　周辺地形と調査区 …… 9
第４図　トレンチ配置図 …… 10
第５図　グリッド配置図 …… 10
第６図　全体図及び基本土層図 …… 11
第７図　ＳＸ01平面・断面図 …… 12
第８図　ＳＸ03平面・断面図 …… 12
第９図　ＳＸ01・ＳＸ03出土遺物実測図 …… 13
第10図　ＳＸ04平面・断面図 …… 14
第11図　ＳＨ01平面・断面図 …… 15
第12図　ＳＨ01・灰原出土遺物実測図１ …… 16
第13図　灰原出土遺物実測図２ …… 17
第14図　灰原出土遺物実測図３ …… 19
第15図　灰原出土遺物実測図４ …… 20
第16図　灰原出土遺物実測図５ …… 21
第17図　灰原出土遺物実測図６ …… 22
第18図　灰原出土遺物実測図７ …… 24
第19図　灰原出土遺物実測図８ …… 26
第20図　灰原出土遺物実測図９ …… 27

寺島大谷遺跡

第21図　グリッド配置図 …… 33
第22図　トレンチ配置図 …… 34
第23図　周辺地形と調査区 …… 35
第24図　寺島大谷遺跡Ａ地点・
　寺島大谷古墳全体図 …… 37・38
第25図　寺島大谷遺跡Ｂ地点全体図 …… 39
第26図　基本土層図 …… 40
第27図　ＳＨ05平面・断面図・出土遺物実測図 … 42
第28図　ＳＨ05出土遺物実測図 …… 43
第29図　ＳＨ12平面・断面図・出土遺物実測図１ … 44
第30図　ＳＨ12出土遺物実測図２ …… 45
第31図　ＳＨ12出土遺物実測図３ …… 47
第32図　ＳＨ14平面・断面図・出土遺物実測図 … 48
第33図　遺構外出土遺物実測図１ …… 49
第34図　遺構外出土遺物実測図２ …… 50
第35図　遺構外出土遺物実測図３ …… 52
第36図　遺構外出土遺物実測図４ …… 53
第37図　遺構外出土遺物実測図５ …… 54
第38図　遺構外出土遺物実測図６ …… 55
第39図　遺構外出土遺物実測図７ …… 56
第40図　ＳＨ01・ＳＨ02平面・断面図 …… 58
第41図　ＳＨ01・ＳＨ02出土遺物実測図 …… 59
第42図　ＳＨ03平面・断面図 …… 60
第43図　ＳＨ03・ＳＨ11出土遺物実測図 …… 61
第44図　ＳＨ04平面・断面図 …… 63
第45図　ＳＨ11平面・断面図 …… 63
第46図　ＳＨ06平面・断面図・出土遺物実測図 … 64
第47図　ＳＨ07炭化物出土状況、平面・断面図 … 65
第48図　ＳＨ07出土遺物実測図 …… 66
第49図　ＳＨ08平面・断面図 …… 67
第50図　ＳＨ08出土遺物実測図 …… 68
第51図　ＳＨ09平面・断面図・出土遺物実測図 … 69
第52図　ＳＨ13平面・断面図・出土遺物実測図 … 70
第53図　ＳＫ160平面・断面図・出土遺物実測図 … 71
第54図　ＳＫ165平面・断面図・出土遺物実測図 … 72
第55図　ＳＰ32・ＳＰ49・ＳＰ33出土遺物実測図 … 73
第56図　遺構外出土遺物実測図８ …… 74
第57図　遺構外出土遺物実測図９ …… 75
第58図　遺構外出土遺物実測図10 …… 77
第59図　遺構外出土遺物実測図11 …… 78
第60図　遺構外出土遺物実測図12 …… 79
第61図　遺構外出土遺物実測図13 …… 80
第62図　遺構外出土遺物実測図14 …… 81
第63図　遺構外出土遺物実測図15 …… 82
第64図　遺構外出土遺物実測図16 …… 83
第65図　遺構外出土遺物実測図17 …… 84
第66図　遺構外出土遺物実測図18 …… 85
第67図　遺構外出土遺物実測図19 …… 86
第68図　遺構外出土遺物実測図20 …… 87
第69図　遺構外出土遺物実測図21 …… 88
第70図　遺構外出土遺物実測図22 …… 89
第71図　遺構外出土遺物実測図23 …… 90
第72図　遺構外出土遺物実測図24 …… 91

寺島大谷古墳

第73図　志太地域の主要古墳分布図
　（古墳時代前期～後期前半） …… 103
第74図　寺島大谷１号墳の立地状況 …… 104
第75図　寺島大谷１号墳墳丘測量図 …… 105
第76図　寺島大谷１号墳墳丘土層図１ …… 106
第77図　寺島大谷１号墳墳丘土層図２ …… 107
第78図　寺島大谷１号墳墳丘復原案 …… 108
第79図　寺島大谷１号墳周溝遺物出土状況図 … 109
第80図　想定される木棺の部位名称 …… 110
第81図　寺島大谷１号墳埋葬施設実測図 … 111
第82図　寺島大谷１号墳木棺設置状況想定図 … 112
第83図　寺島大谷１号墳埋葬施設出土玉類 … 113
第84図　寺島大谷１号墳埋葬施設出土鉄製品 … 114
第85図　寺島大谷１号墳周辺表土出土土器実測図 … 116

第86図　古墳に伴わない遺物実測図 …… 116

## 挿表目次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 5
第２表　藤枝地区の調査体制 …… 5
第３表　助宗古窯群出土土器観察表 …… 28
第４表　助宗古窯群出土土製品観察表 …… 32
第５表　助宗古窯群出土石製品観察表 …… 32
第６表　寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表 … 93
第７表　寺島大谷遺跡出土弥生
～古墳時代土器観察表 …… 99
第８表　寺島大谷遺跡出土石製品観察表 … 101
第９表　寺島大谷１号墳埋葬施設出土
玉類観察表 …… 117
第10表　寺島大谷１号墳出土鉄製品観察表 … 117
第11表　寺島大谷１号墳出土土器等観察表 … 117

## 挿写真目次

写真１　発掘調査状況（南から）…… 6
写真２　発掘調査状況（南西から）…… 6
写真３　寺島大谷遺跡Ａ地点
発掘調査状況 …… 36
写真４　寺島大谷１号墳調査状況 …… 36

## 図版目次

カラー図版１　1.助宗古窯群全景
2.寺島大谷遺跡・
寺島大谷古墳全景
カラー図版２　寺島大谷１号墳主体部全景
（東から）
カラー図版３　1.助宗古窯群ＳＸ01出土遺物
2.寺島大谷遺跡遺構外出土遺物
カラー図版４　寺島大谷１号墳出土鉄製品
**助宗古窯群**
図版１　1.助宗古窯群遠景（南西から）
2.調査区全景トレンチ完掘状況
図版２　1.調査区全景（南東から）
2.調査区全景（北東から）
図版３　1.ＳＨ01検出状況
2.ＳＸ04検出状況
図版４　1.ＳＸ01遺物出土状況
2.ＳＸ01出土遺物
図版５　1.ＳＸ01出土遺物
2.ＳＨ01出土遺物
3.ＳＸ03出土遺物
図版６　灰原出土遺物１
図版７　灰原出土遺物２
図版８　灰原出土遺物３（内面・外面）
図版９　灰原出土遺物４
図版10　灰原出土遺物５（内面・外面）
図版11　灰原出土遺物６
図版12　灰原出土遺物７
図版13　灰原出土遺物８
**寺島大谷遺跡**
図版14　1.遠景
2.調査区対象地区丘陵部遠景
図版15　1.ＳＨ05完掘状況（南東から）
2.ＳＨ05完掘状況（北から）
図版16　1.ＳＨ12完掘状況（北から）
2.ＳＨ12石器・礫・石錘出土状況
（南から）
図版17　1.ＳＨ12炭化材検出状況（北から）
2.ＳＨ12完掘状況（東から）
図版18　1.ＳＨ14完掘状況（北東から）
2.ＳＨ01壁溝ＳＤ10検出状況(東から)
図版19　1.ＳＨ01・02遺物出土状況（南から）
2.ＳＨ01・02完掘状況（西から）
図版20　1.ＳＨ01・02・03完掘状況（南から）
2.ＳＨ01～05・11完掘状況遠景
（南から）
図版21　1.ＳＨ03南東隅土器出土状況(西から)
2.ＳＨ03内ＳＫ75半截状況（北から）
図版22　1.ＳＨ03検出状況（南から）
2.ＳＨ03・04・11完掘状況（南から）
図版23　1.ＳＨ11ピット検出状況（西から）
2.ＳＨ06完掘状況（南から）
図版24　1.ＳＨ07炭化材検出状況（西から）
2.ＳＨ07完掘状況（西から）
図版25　1.ＳＨ07土器出土状況（西から）
2.ＳＨ07・08完掘状況（北東から）
図版26　1.ＳＨ09完掘状況（北から）
2.ＳＨ13炉跡検出状況（北東から）
図版27　1.ＳＫ160土器出土状況（北東から）
2.ＳＨ05出土遺物
3.ＳＨ12出土遺物
図版28　1.ＳＨ01・遺構外出土縄文土器
2.遺構外出土縄文土器
図版29　1.遺構外出土縄文土器
2.ＳＨ01出土土器

3. ＳＨ03出土土器
4. ＳＨ01・ＳＨ03出土石器
5. ＳＨ03・07・09出土石鏃
6. ＳＨ07出土土器
図版30　1. ＳＨ07出土土器
2. ＳＨ08出土土器
3. ＳＨ09出土土器
4. ＳＨ13出土土器
5. ＳＫ160出土土器
6. ＳＫ165出土土器
7. ＳＰ32・ＳＰ49出土土器
図版31　遺構外出土土器
図版32　1. 遺構外出土土器
2. 遺構外出土石器
図版33　1. ＳＨ12・遺構外出土石器
寺島大谷古墳
図版34　1. 寺島大谷1号墳遠景（北から）
2. 寺島大谷1号墳遠景（南東から）
図版35　1. 完掘状況全景
2. 完掘状況全景
図版36　1. 周溝土層堆積状況
（Ｇ－Ｇ´断面、北西から）
2. 周溝土層堆積状況
（Ｅ－ｅ断面、南西から）
3. 周溝土層堆積状況北西トレンチ
（南西から）
図版37　1. 埋葬施設棺内完掘状況（北東から）
2. 埋葬施設棺内東側小口部分裏込め粘土出土状況（南西から）
3. 埋葬施設棺内西側小口部分裏込め粘土出土状況（北から）
図版38　1. 木棺内完掘状況および遺物出土状況
（北東から）
2. 埋葬施設墓壙完掘状況（北から）
図版39　1. 埋葬施設上部土層（盛土、北東から）
2. 埋葬施設棺内土層（北東から）
3. 埋葬施設棺内の土層
（Ａ－Ａ´土層西側、北東から）
4. 埋葬施設棺内の土層
（Ａ－Ａ´土層東側、南東から）
5. 埋葬施設棺内の土層
（Ｃ－Ｃ´土層、南西から）
6. 埋葬施設棺内の土層
（Ｂ－Ｂ´土層、南西から）
7. 埋葬施設墓壙内の土層
（Ｃ－Ｃ´・Ｄ－Ｄ´土層、北東から）
8. 埋葬施設墓壙内の土層
（Ｂ－Ｂ´土層、南西から）
図版40　1. 周溝遺物出土状況（北西から）
2. 木棺内鉄剣出土状況（北東から）
3. 木棺内鉄斧・ヤリガンナ出土状況
（南から）
図版41　木棺内出土鉄剣
図版42　1. 木棺内出土鉄剣Ｘ線写真
2. 木棺内出土玉類
図版43　1. 木棺内出土鉄斧
2. 木棺内出土鉄斧Ｘ線写真
3. 古墳に伴わない遺物
図版44　1. 木棺内出土鉄斧・ヤリガンナ
2. 木棺内出土ヤリガンナ
3. 墳丘表土出土遺物

# 第１章　位置と環境

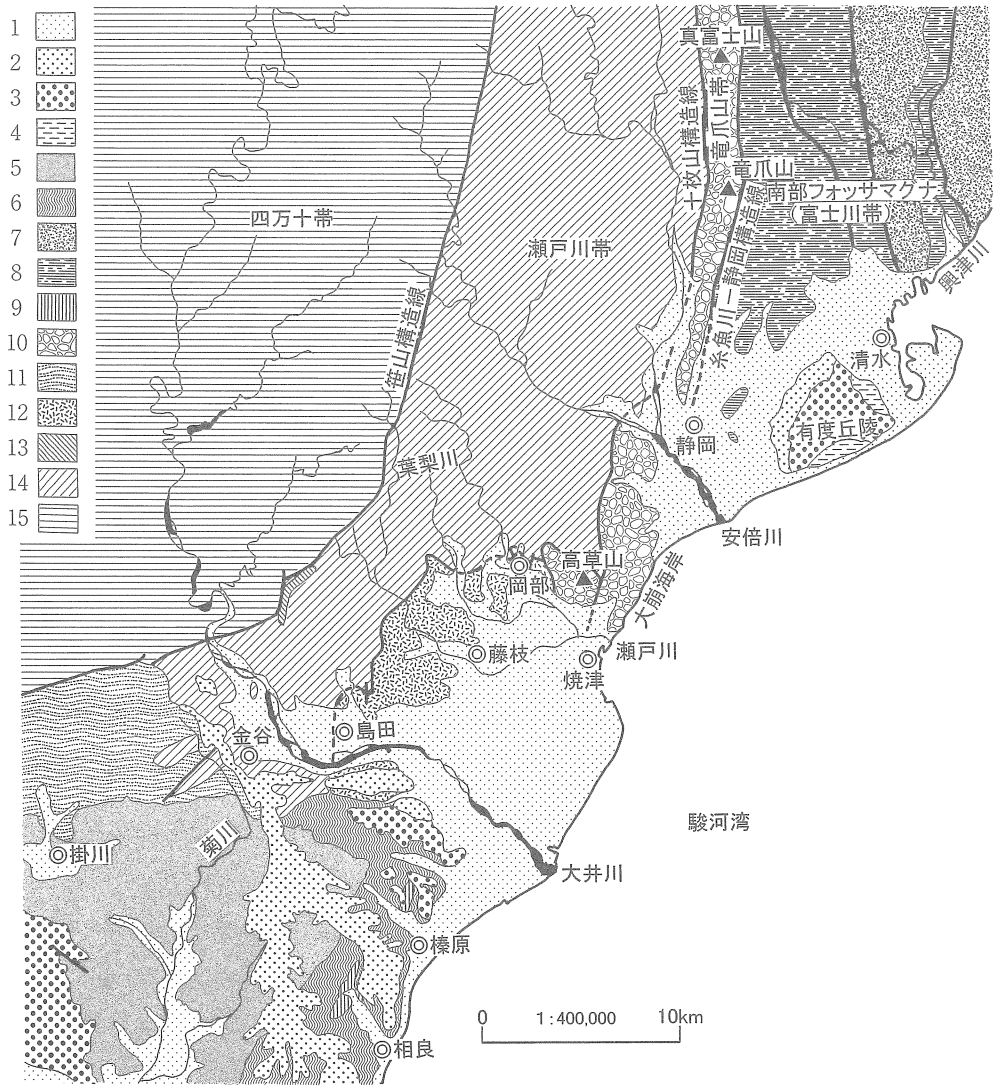
## 第１節　位置と地理的環境

遺跡周辺の地理的環境や歴史的環境について『静岡県史』、『藤枝市史』、『静岡県の窯業遺跡』などを参考に記載する。志太平野北部の地形は高根山（海抜871ｍ）を頂上として、南東側に傾斜する山地が続く、（第１図）の「静岡県中部地域の地質概略図」に示したように、高根山の山頂付近は四万十層群とよばれる白亜紀の層群からなる。瀬戸川や朝比奈川流域の山地は瀬戸川層群とよばれる古第三紀の層群からなり、山地南端部の丘陵が平野に没するあたりは大井川層群と呼ばれる新第三紀の層群がみられる。第四紀になると山地は隆起し海面の低下と海面の上昇が繰り返され、山地の浸食が進み旧大井川による多量の砂礫が堆積した。そして、志太平野の小さな支丘陵と谷が複雑に入り込み、やせ尾根から急斜面になる地形を形成したとされる。最終氷期が終わり完新世になると、気温が上がり海水面も上昇した。現在から約6,000年前から約7,000年前に気温が上昇し、海面が侵入し入江や谷部に多量の砂礫が運ばれ埋没が進んだ。藤枝の遺跡の立地について、篠原和大氏は縄文時代に現在の谷部まで海面が入り込み、入江に臨む丘陵上が居住の適地になったとする。弥生時代には水田耕作が開始され遺跡が低地部に立地し、不安定な大井川の扇状地を避け、谷底低地後背部や丘陵縁辺の微高地が選地されたとする。そして、古墳時代中期や律令期に低地の開発が進み、律令期に益頭・志太郡衙などが平野に臨んだ低地部に営まれた。

## 第２節　歴史的環境と調査歴

助宗古窯群と寺島大谷遺跡の調査歴と周辺遺跡の概要について、『静岡県史』、『藤枝市史』、『静岡県の窯業遺跡』などを参考に述べたい。（第２図８－１～８－５）の助宗古窯群はＪＲ藤枝駅から北西に約６㎞離れた瀬戸川流域に位置する。瀬戸川は蛇行して流れ、峡小な沖積地に面する丘陵地帯を発達させている。助宗古窯群はこの瀬戸川左岸の助宗集落を取り囲む低丘陵地の斜面部に築造されている。1931年発行の『静岡縣史』に花倉地区で須恵器が出土したことが記載され、これが助宗古窯群の報告の初出とされる。戦後は県立藤枝東高等学校郷土研究部の部報に採集品が掲載され、1956年には開墾中の斜面から16基の窯跡が発見された。1979年には藤枝市教育委員会による助宗窯の分布調査が実施され、東西２㎞、南北１㎞の範囲に総数97基以上の窯跡が存在することが明らかとなった。1985年には細谷地区で新たに窯跡が２基発見され、このうちＤｂ１号窯の発掘調査が行われた。2000年には市史編纂の資料収集目的で細谷Ｂｂ地区のトレンチ調査が実施され、窯体前庭部の排水溝とみられる遺構が検出された。2001年には県立藤枝東高校歴史部による分布調査で鹿鳴渡地区Ｃ群の上部に２基の窯跡が発見された。窯跡は海抜150ｍ前後を最高所として南に下る丘陵西側の細谷地区、東側の鹿鳴渡地区、清水下地区、そして支谷を取り囲む丘陵斜面に存在が明らかとなった。助宗古窯群は助宗字細谷地区（第２図８－３）、清水下地区（第２図８－４）、鹿鳴渡地区（第２図８－１）、花倉地区（第２図８－２）、寺島地区（第２図８－５）の５地区からなる。古窯群は８世紀から９世紀初頭の須恵器窯を中心に、９世紀後半から12世紀の灰釉陶器及び山茶碗の窯が継続的に営まれている。本報告書では第二東名建設事業に伴って1998年に静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査した、助宗古窯群清水下地区の発掘調査成果について記載する。

寺島大谷遺跡（第２図１）は瀬戸川中流域の右岸の丘陵上に位置し、丘陵から東に延びる支丘陵の頂




1 沖積層　2 中位段丘堆積物　3 高位段丘堆積物　4 根古屋累層　5 掛川層群及び曽我層群
6 相良層群　7 清見寺層群及び浜石岳層群　8 静岡層群・和田島層群及び小河内層群　9 女神層
10 高草山層群　11 三笠層群　12 大井川層群　13 相賀層群　14 瀬戸川層群　15 三倉層群

（５万分の1地質図幅　静岡　工業技術院地質調査所　1982　より再トレース）

**第１図　静岡県中部地域の地質概略図**

部に立地する。遺跡は助宗古窯群寺島地区として登録されていたが、第二東名建設に伴い1998年に当研究所が発掘調査を行い、その結果縄文・弥生・古墳時代の集落や古墳（寺島大谷１号墳）の存在が明らかとなった。この寺島大谷遺跡と寺島大谷古墳（寺島大谷１号墳）については本報告書の中で詳述する。次に周辺における遺跡の様相を時代別に概観する。

**縄文時代**　（第２図２）の寺畑遺跡は縄文時代の散布地で、瀬戸川中流域の紺屋に所在する。打製石斧、石剣などが採集されており、縄文時代後・晩期の遺跡と思われる。（第２図３）の中山遺跡は瀬戸川と滝沢川との合流部に立地する縄文時代の散布地である。縄文土器、打製石斧、スクレイパーなどが採集されているが詳細な時期は不明である。（第２図４）の萩ノ平遺跡は縄文時代の散布地である。瀬戸川中流域の中山橋の手前の比高差約10ｍの低い丘陵に位置し、県立藤枝東高等学校郷土研究部の試掘調査で中期前半の北裏Ｃ式土器、後期末から晩期初頭土器、東海地方晩期初頭土器（寺津式・伊川津式）、

清水天王山式、大洞ＢＣ式に並行する土器、氷式土器、晩期終末から弥生時代前期の土器、打製石斧、石鏃、石剣、石錐などが出土している。（第２図６）の上野山平遺跡と（第２図10）の塩ケ原遺跡は縄文時代の散布地である。（第２図14）の荘館山遺跡は瀬戸川中流域の原地区に位置する遺跡で、縄文時代早期末、前期末から中期初頭、五領ヶ台式土器、北裏Ｃ式土器、勝坂式土器、曽利Ⅱ式から曽利Ⅲ式土器、加曽利Ｅ３式土器、また晩期終末から弥生前期の条痕文土器なども出土している。石器は打製石斧、石匙、石鏃などが出土している。（第２図16）の五斗地山遺跡と（第２図25）の礫段遺跡は縄文時代の散布地である。（第２図27）の滝川遺跡は藤枝市内瀬戸字滝川、現在の市立青島北小学校の西側に所在する。出土遺物は条痕文土器、中期初頭土器、北裏Ｃ式土器、勝坂式土器、親田式中期末土器、晩期終末から弥生時代前期初頭土器などを出土した。また石器は打製石斧、石錐、石鏃、石匙、磨製石斧などである。

**弥生時代**　（第２図13）の白砂谷遺跡は藤枝市街地の西方約２㎞の清水寺付近より、瀬戸川北東岸に向かう丘陵上のやや広い平坦面に位置する。弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての集落跡で、総数120棟の竪穴住居、環濠、方形周溝墓などが検出され、荘館山遺跡とともに市内最大級の集落遺跡である。また、この遺跡から中世から近世に属すると考えられる集石墓と土壙群も検出されている。（第２図14）の荘館山遺跡では弥生時代後期集落を中心とした環濠が検出された。北方の白砂谷遺跡の住居跡群と密接な関係にあると考えられている。（第２図20）の谷稲葉高草遺跡は瀬戸川が平野部に出ようとする直前の堀之内の湿地部を望む丘陵先端に位置する。丘陵端部南向き斜面に弥生時代後期の土器が出土したことから、集落が存在した可能性がある。（第２図21）の蛭ヶ谷遺跡は谷稲葉川が東流し、五州岳の東側で瀬戸川と合流した谷稲葉の狭い舌状台地に位置する。竪穴住居跡８棟、方形周溝墓１基、集石墓１基が検出されており、弥生時代後期後半の丘陵上に営まれた集落遺跡と考えられている。（第２図23）の大谷池Ⅰ遺跡は弥生時代、古墳時代の散布地である。（第２図27）の滝川遺跡では弥生時代末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡７棟が検出され、短期間に営まれた集落として注目されている。（第２図28）の稲ヶ谷遺跡は瀬戸川が平野部に流れ出る西岸域に広がる低丘陵地帯に立地している。弥生時代後期から古墳時代初期に位置付けられる竪穴住居跡が55棟、掘立柱建物跡3棟、他にも古墳時代以降の住居跡１棟が検出された。

**古墳時代**　周辺の古墳群としては（第２図５）の上半谷古墳群、（第２図７）の助宗古墳群、（第２図11）の満蔵寺（堀之内）古墳群、（第２図17）の慈光院（谷稲葉）古墳群、（第２図18）の殿開戸古墳群、（第２図19）の堀之内古墳群が知られる。（第２図12）の中ノ谷（堀之内）古墳群は古墳群の他、古代から中世の遺跡としても知られる。（第２図13）の白砂谷古墳群は瀬戸川に向かって南に延びる白砂谷丘陵上に位置し、200ｍの範囲にわたって６世紀中葉から８世紀代にかけての58基の古墳が築造され、中でも７世紀後半から８世紀代にかけての古墳が多い。（第２図14）の荘館山遺跡では６世紀中葉に古墳の築造が開始され、以後８世紀代にかけて継続的に築造された。７世紀後半より８世紀代に築造された古墳が中心で58基が調査されている。（第２図20）の谷稲葉高草遺跡は東西方向へ舌状に延びた主丘陵の先端部に所在し、海抜80ｍ付近から40ｍの急斜面の緩傾斜面部に古墳が28基造られていた。５世紀後半に築造が始まり、６世紀後半、７世紀前半、７世紀中葉、７世紀後半以降も継続して営まれ、８世紀初めに終焉している。（第２図22）の五州岳古墳は瀬戸川が流れを東に変えて志太平野へ出ようとする位置にあり、五州岳と呼ばれる独立丘陵上に立地している。５世紀前半の築造とされる直径27ｍの大形円墳で、志太地域の有力古墳に位置付けられている。

**古代～中近世**　（第２図15）の屋敷山遺跡は古代の墓地である。（第２図21）の蛭ヶ谷遺跡の古代は８世紀代の竪穴住居跡が２棟検出されている。（第２図26）の内瀬戸火葬墓群は旧字名が内瀬戸字滝川・瀬古字稲ヶ谷・瀬戸新屋字堤内にまたがる。南北に分かれた複数の支丘陵からなり、その丘陵稜線上や

第２図　位置と周辺遺跡分布図

斜面から遺構や遺物が検出された。遺跡は志太郡衙跡から西側に続く丘陵上にあり、火葬墓は志太郡衙にかかわる郡司たちの墓と考えられている。出土遺物から８世紀前半に築造されたと推定され、８世紀代の一時期で造営は終了したとされる。また、（第２図28）の稲ヶ谷遺跡でも内瀬戸火葬墓群の一部をなす土壙11基などが検出されている。（第２図20）の谷稲葉高草遺跡は中世から近世にかけての墓群であり、土壙７基、集石墓18基が検出されている。（第２図９）の寺屋敷遺跡は中世の城館とされる。（第２図24）の大谷池Ⅱ遺跡は詳細な時期が不明の散布地である。

**第１表　周辺遺跡一覧表**

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 寺島大谷遺跡 | 弥生・古墳 | 集・古 | 13 | 白砂谷遺跡 | 弥生・古代～近世 | 集落 |
| 2 | 寺畑遺跡 | 縄文 | 散布地 | 14 | 荘館山遺跡 | 縄文・弥生 | 集落 |
| 3 | 中山遺跡 | 縄文 | 散布地 | 15 | 屋敷山遺跡 | 古代 | 墓地 |
| 4 | 萩ノ平遺跡 | 縄文 | 散布地 | 16 | 五斗地山遺跡 | 縄文 | 散布地 |
| 5 | 上半谷古墳群 | 古墳 | 古墳 | 17 | 慈光院（谷稲葉）古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 6 | 上野山平遺跡 | 縄文 | 散布地 | 18 | 殿開戸古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 7 | 助宗古墳群 | 古墳 | 古墳 | 19 | 堀之内古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 8-1 | 助宗古窯群（鹿鳴渡地区） | 古代 | 古窯 | 20 | 谷稲葉高草遺跡 | 弥生・中世～近世 | 集・墓 |
| 8-2 | 助宗古窯群（花倉地区） | 古代 | 古窯 | 21 | 蛭ヶ谷遺跡 | 弥生・古代 | 集落 |
| 8-3 | 助宗古窯群（細谷地区） | 古代 | 古窯 | 22 | 五州岳古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 8-4 | 助宗古窯群（清水下地区） | 古代 | 古窯 | 23 | 大谷池Ⅰ遺跡 | 弥生・古墳 | 散布地 |
| 8-5 | 助宗古窯群（寺島地区） | 古代 | 古窯 | 24 | 大谷池Ⅱ遺跡 | 不明 | 散布地 |
| 9 | 寺屋敷遺跡 | 中世 | 城館 | 25 | 礫段遺跡 | 縄文 | 散布地 |
| 10 | 塩ヶ原遺跡 | 縄文 | 散布地 | 26 | 内瀬戸火葬墓群 | 古墳 | 火葬墓 |
| 11 | 満蔵寺（堀之内）古墳群 | 古墳 | 古墳 | 27 | 滝川遺跡 | 縄文・弥生 | 散・集 |
| 12 | 中ノ谷（堀之内）古墳群 | 古墳・古代～中世 | 古墳 | 28 | 稲ヶ谷遺跡 | 縄文・弥生・古代 | 散・集 |

**第２表　藤枝地区の調査体制**

| | | 9年度 | 10年度 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所長 | | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 斉藤　忠 | 斉藤　忠 | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 斎藤　忠 | 清水　哲 | 天野　忍 | 石田　彰 |
| 副所長 | | 池谷和三 | | 山下　晃 | 山下　晃 | 飯田英夫 | 飯田英夫 | 飯田英夫 | | | | | | |
| 常務理事 | | | | | | | | | | | 清水　哲 | 清水　哲 | 天野　忍 | 石田　彰 |
| 総務部 | 常務理事兼総務部長 | 三田村昌明 | 伊藤友雄 | 伊藤友雄 | 粂田徳幸 | 粂田徳幸 | 粂田徳幸 | 平松公夫 | 平松公夫 | 平松公夫 | | | | |
| | 総務次長 | | | | | | 鎌田英巳 | 鎌田英巳 | 鈴木大二郎 | 鈴木大二郎 | | 大場正夫 | 松村　享 | 松村　享 |
| | 総務課長 | 初鹿野英治 | 杉木敏雄 | 杉木敏雄 | 本杉昭一 | 本杉昭一 | 鎌田英巳 | 鎌田英巳 | 鈴木大二郎 | 鈴木大二郎 | 大場正夫 | 大場正夫 | 松村　享 | 松村　享 |
| | 経理専門員 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | | | | | |
| | 専門監兼事業係長 | | | | | | | | | | | | | 稲葉保幸 |
| | 総務係長 | | | | | | | | | | | 山内小百合 | 山内小百合 | 瀧みやこ |
| | 会計係長 | 杉田　智 | 杉田智 | | | | | | | | | 杉山和枝 | 杉山和枝 | 杉山和枝 |
| | 副主任 | | | 鈴木秀幸 | 鈴木秀幸 | | | 中鉢京子 | 中鉢京子 | 中鉢京子 | 中鉢京子 | 中鉢京子 | 中鉢京子 | 中鉢京子 |
| | 主事 | | | | | 鈴木秋博 | 鈴木秋博 | | | | | | | |
| 調査研究部 | 部長 | 石垣英夫 | 石垣英夫 | 佐藤達雄 | 佐藤達雄 | 山本昇平 | 山本昇平 | 山本昇平 | 石川素久 | 石川素久 | | | | |
| | 担当次長 | 栗野克巳 | | 及川　司 | 及川　司 | 中嶋郁夫 | 中嶋郁夫 | 中嶋郁夫 | 中嶋郁夫 | 及川　司 | 及川　司 | 及川　司 | 及川　司 | |
| | | | | | | | | | | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | 稲葉保幸 | |
| | 次長心得 | | 佐野五十三 | | | | | | | | | | | |
| | 担当課長 | 栗野克巳 | 足立順司 | 及川　司 | 及川　司 | 篠原修二 | 中嶋郁夫 | 中嶋郁夫 | 中嶋郁夫 | 及川　司 | 及川　司 | 及川　司 | 及川　司 | 中鉢賢治 |
| | 係長 | | | | | | | | | 河合　修 | 河合　修 | 河合　修 | 河合　修 | 溝口彰啓 |
| | 主任調査研究員 | 足立順司 | 飯塚晴夫 | 飯塚晴夫 | 鈴木良孝 | | | 長谷川睦 | | | | | | |
| | 調査研究員 | 篠宮晋士<br>石田　勉<br>杉本勝彦 | 大場　宏<br>蔵本俊明<br>大林　元 | 大畑　要<br>中川律子<br>蔵本俊明<br>中田　出<br>川上　努<br>大林　元 | 深田雅一<br>三井文洋<br>横山智之<br>長谷川睦<br>蔵本俊明<br>中田　出<br>川上　努 | 大畑　要<br>横山智之<br>長谷川睦<br>中田　出<br>田中　淳<br>山本剛史 | 三井文洋<br>鈴木昌明<br>山本剛史<br>長谷川睦<br>中田　出<br>河合　敦<br>田中　淳<br>小木　充<br>川上　努<br>田村隆太郎<br>大林　元<br>筒井　京 | 増田充弘<br>中田　出<br>小林正和<br>河合　敦<br>勝又直人<br>大場隆幸<br>田村隆太郎<br>木村淑子 | 永島宏一<br>北野寿一<br>小林正和<br>河合　敦<br>菊池吉修<br>井鍋誉之<br>大場隆幸 | 北野　寿一<br>中谷哲久<br>佐々木和也<br>小林正和<br>菊池吉修<br>松川理治<br>伊藤嘉孝 | 菊池吉修<br>井鍋誉之<br>松川理治 | 中川律子 | 中川律子<br>前嶋秀張 | 中川律子 |

# 第２章　助宗古窯群

## 第１節　調査の方法と経過

### １．調査の体制

当研究所では、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業にあたり、日本道路公団静岡建設局の管轄に合わせ、工区を設定して調査にあたることとした。本書で扱う藤枝地区は静岡工区に含まれる。藤枝地区の発掘調査では藤枝市内に設置した藤枝地区事務所を拠点として、それぞれ現地調査を実施した。

本書で取り扱う№86地点助宗古窯群、№87地点寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳の調査は第２表にある体制で実施した。なお、第二東名建設事業に伴う全体の経緯及び藤枝地区全体の体制については、『衣原古墳群　衣原遺跡　衣原古窯群』発掘調査報告書に記されたとおりである（静岡埋文研2010）。

### ２．発掘調査の方法と経過

#### （１）発掘調査の方法

確認調査によって遺跡の存在が確認された箇所について、本調査を実施した（第３図）。重機による表土除去作業は0.45㎥クラスのバックホウを使用し、確認調査で確認された層位に従って、遺物包含層上面まで行った。遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削は人力によって実施した。人力掘削によって生じた排土はベルトコンベアを使用して仮置場に集積した。

調査における測量及び遺物取上げを正確かつ円滑に行うために10m方眼のグリッドを設定した。グリッドは第５図に示すように、調査区の形状に合わせる形で設定し、南北軸に南から１、２、３、東西軸は西からＡ、Ｂ、Ｃと記号を付し、各グリッドは例えばＡ－１区という形で北西の交点をもって呼称した。なお、グリッドの設置の際に設定した基準点は改正前の国土座標（日本測地系）に拠っている。遺構測量及び遺物取り上げについては、トータルステーション及びオートレベルを使用し、1/20を基本として行い、遺物出土状況などの詳細図については必要に応じて1/10で図化を行った。調査の迅速化を図るため、遺構完掘状況測量及び図化作業の一部を、ラジコンヘリを使用した空中写真測量を行った。測量業務は上記基準点及びグリッド杭設置と併せて㈱フジヤマに委託した。

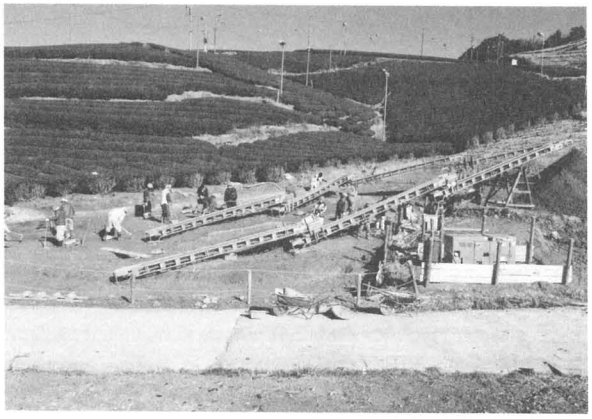


写真１　発掘調査状況（南から）

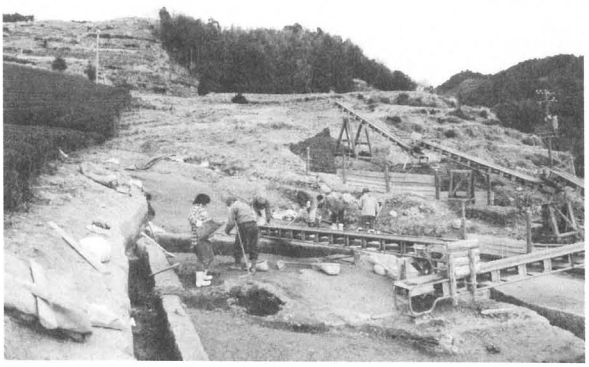


写真２　発掘調査状況（南西から）

現地における写真撮影については、６×７判モノクロフィルム、35㎜判リバーサルフィルム・モノクロフィルム・カラーネガフィルムを使用した。完掘全景写真は上記空中写真測量と併せて、６×4.5判リバーサルフィルム・モノクロフィルムを使用して行っている。

### （２）発掘調査の経過

確認調査は平成９年10月～平成９年12月にかけて、第４図に示したように、調査対象地に計41本の試掘坑を設定して実施した。その結果、遺跡の広がりが明らかとなった部分について、引き続き本調査を実施する運びとなった。なお、確認調査の状況については『衣原古墳群　衣原遺跡　衣原古窯群』発掘調査報告書で報告されているので参照されたい（静岡埋文研2010）。

本調査は平成10年１月６日より開始した。対象面積は350㎡である。調査はまず重機による表土除去から行った。調査区境に土止めや排水溝を設置し、安全管理に留意しつつ、排土は場外へと搬出した。９日から現地作業員による人力掘削作業を開始し、面的な包含層の掘削を行った。その後、遺構検出作業によって判明した遺構の掘削作業を行った。調査区は茶畑であったため、改植などによる攪乱が及んでいる部分もあったが、工房跡とみられる建物跡や灰原等の遺構が検出されている。これら遺構及び出土した遺物は写真撮影、実測作業などの記録作成を適宜実施した。２月12日には完掘状況の空中写真測量を実施し、17～18日には重機による埋め戻しとともに撤去作業を行い、調査を終了した。

## ３．資料整理の方法と経過

第二東名建設に伴う発掘調査については現地調査を優先するという方針から、資料整理は各工区における現地調査が終了する段階から実施することとなった。資料整理の前段階としての基礎整理作業、すなわち出土遺物の洗浄・注記、写真整理、図面整理、各種台帳作成といった作業を逐次進め、本格的な資料整理作業に備えた。

本格的な資料整理及び報告書作成作業は平成22年４月より中原整理事務所で実施した。出土遺物は分類・仕分け・接合作業を経て、復原可能な遺物は樹脂を用いて復原作業を行った。また遺構出土遺物、残存度の高い個体を中心に抽出して実測を行い、報告書掲載のために版組・トレースを実施するとともに、６×７判モノクロ及びリバーサルフィルムを中心に使用し、当研究所本部写真室にて写真撮影を行った。遺構図については現地で作成した遺構図、遺物出土状況図などを編集して版組・トレースを行い、現地で撮影した遺構写真については報告書の体裁に即して版組を行った。これら作業と並行して報告書の執筆と編集作業を進め、発掘調査報告書を刊行した。出土遺物及び図面・写真等の記録類は上記作業終了後、台帳を作成した上で収納した。

# 第２節　概要

## １．地形

助宗古窯群清水下地区（第２図８－４）は経塚山の北側山麓に沿って東方へ谷間が続き、細谷地区の主丘陵東側、主谷の両側の丘陵部分に位置する。清水下地区は行政区分で西側丘陵地が大字助宗字大谷、東側が字清水下となる。しかし、分布の中心が東側の丘陵にあることから「清水下」を地区の名称としている。窯跡の分布状況からＡ～Ｃの３地点（第２図）に分けられている。Ａ地点は本地区の北側に位置し、東側から北側に延び鞍部となる低地にありａ・ｂの２群に細分される。ａ群は鞍部の西側斜面に窯体が４基露出している。ｂ群はａ群より南側に突出している小支丘の付け根に３基が存在する。Ｂ地点はＡ地点の主丘陵と向かい合う西側丘陵地の斜面に３基点在している。Ｃ地点は今回の発掘対象区が

入り、東側の主丘陵から経塚山山麓の低地に延びた支丘の裾部の南面する斜面に位置し、瀬戸川支流の鹿鳴渡川左岸の丘陵斜面と低地部に位置する。この地区には10基群在しａ～ｄ群に細分されている。

### ２．土層

土層は全体図（第６図）に併載した土層図に従って堆積状況を説明する。まず、盛土があり、褐色砂質シルトである。第１層は黄褐色砂質シルトで砂質が強い。旧耕作土と考えられる。第２層は褐灰色砂質シルトで、砂質で粘性もあり径２㎜～５㎜の黄褐色の砂のブロックをまだら状に多く含み、炭化物も認められる。第３層は灰褐色砂質シルト、砂質で粘性も強い。径２㎜～10㎜の黄褐色の砂のブロックをまだら状に多く含んでいる。全体的にボソボソしており軟らかい。須恵器片や炭化物が混入しており灰原である。第４層は褐色砂質シルトで砂質感が強く、サラサラしている。径２㎜～３㎜の小礫を僅かに含むが、さらに下層のような砂のブロックはほとんど含まれない。無遺物層である。

### ３．遺構と遺物の概要

窯跡本体は今回の発掘区内に存在しなかった。本体は発掘区外の斜面部に存在すると思われる。今回の三角形に近い調査区（第６図）では海抜67.5ｍから海抜72.5ｍの範囲内で散在する遺構が検出されている。北東の海抜70.5ｍ付近では工房跡とみられるＳＨ01、北側の海抜70ｍ付近でＳＸ04、南西の海抜69ｍ付近でＳＸ03、南西隅の海抜68ｍ付近でＳＸ01を検出した。全体図（第６図）において網かけで示した黒灰色砂質粘土層の広がりを調査区中央北側で検出しており、これを灰原分布範囲として認識した。

遺構に伴う遺物は８世紀前半から中頃の須恵器などがＳＸ01・03で出土している。出土遺物の多くは灰原及び遺構から出土した須恵器及び灰釉陶器である。これらは８世紀中頃～10世紀代の長期間にわたる遺物群であり、調査区周辺における生産活動を窺う資料といえる。

## 第３節　調査成果

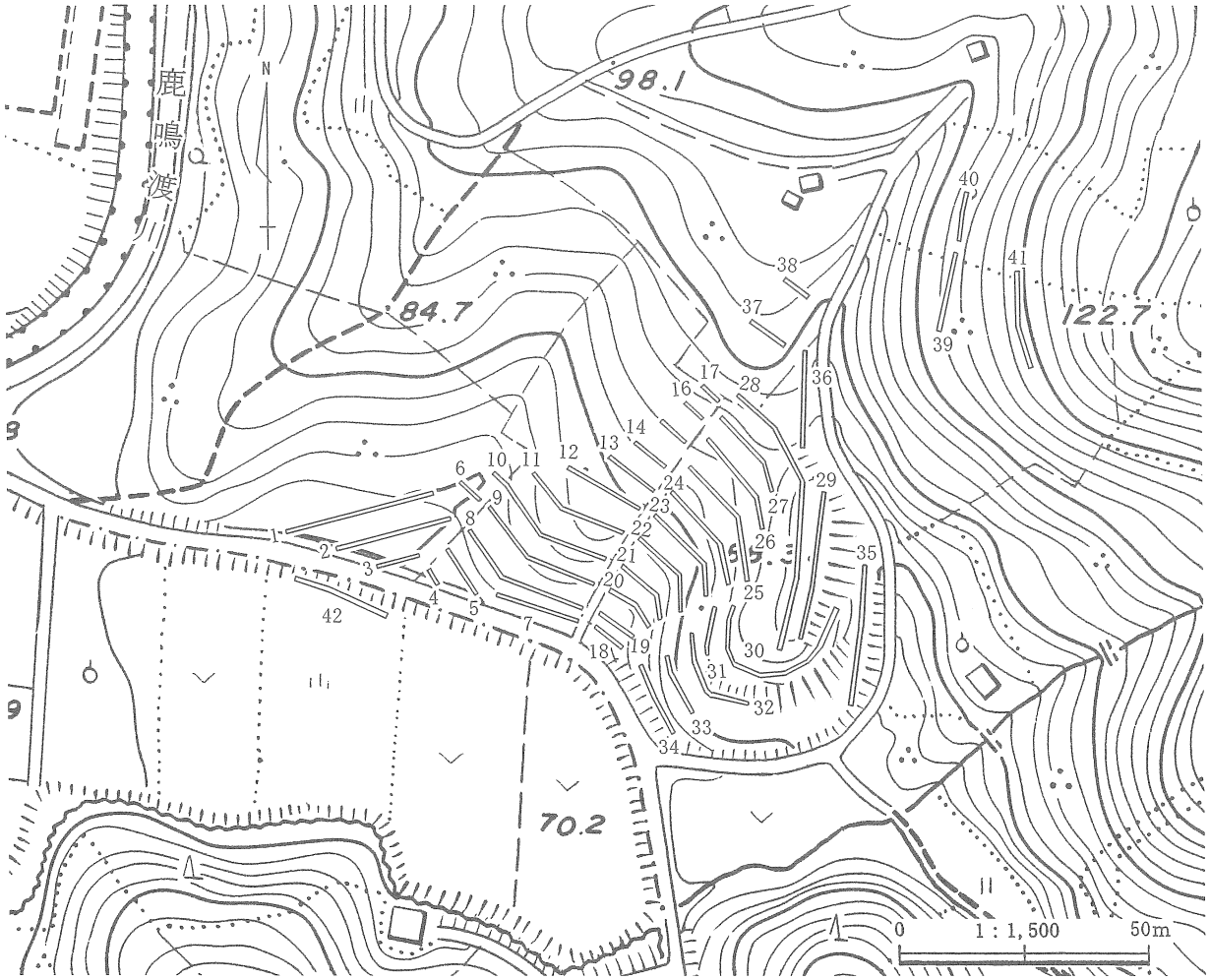
### １．遺構と遺物

#### （１）ＳＸ01（第６図・第７図・第９図）

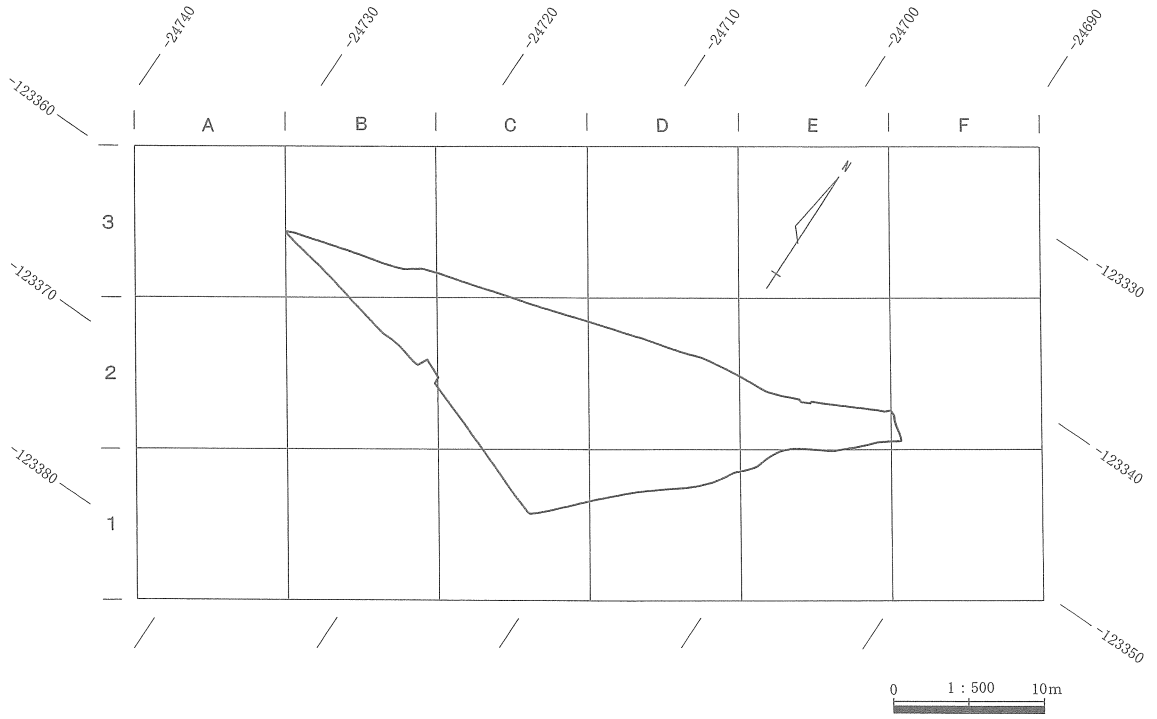
【遺構】ＳＸ01は発掘調査区のＢ３とＢ２グリッドの境目で検出した。東西約0.8ｍ、南北約0.9ｍの円形範囲内に礫、炭化物、須恵器などが集中して出土した。しかし、掘り込みを伴う遺構としての把握はできなかった。

【遺物】ＳＸ01からの出土遺物は図上復元できる資料が13点（第９図１～13）で助宗古窯群清水下地区生産の須恵器である。このうち（第９図１～９）は須恵器の坏蓋、（第９図10）が須恵器の坏身、（第９図11）が土師器の甕、（第９図13）が土錘であった。坏蓋（１）は宝珠形のつまみを付け口径16.88㎝、器高が3.55㎝と比較的大形である。つまみの下から体部までヘラ削りを施している。（２～７）は扁平なボタン状のつまみを付け口径約13.0から14.88㎝、器高1.4から3.1㎝で中形の蓋である。扁平なボタン状のつまみの下から体部までヘラ削りを施している。（８・９）は扁平なボタン状のつまみを付け、口径11.1から13.4㎝、器高2.12から2.45㎝で小形である。技法的に口縁端部の引き出しが短く、端部が断面三角形であり８世紀前半と思われる。（10）は坏身で口径約15.4㎝の坏身である。比較的大形の蓋とのセットになると思われる。（11）は土師製長胴甕で口径約24㎝、口縁部を横方向に強く引き出して、口縁端部を内側に引き上げている。（12）は焼成の甘い須恵器の盤と思われ、高台径約9.4㎝の貼り付け高台である。（13）は土錘で幅が1.0㎝の幅狭のタイプである。（８・９）は口縁端部の引き出しが短く、端部断面が三角になっていることから８世紀前半と思われる。（１～７）の蓋はロクロから口縁の引き

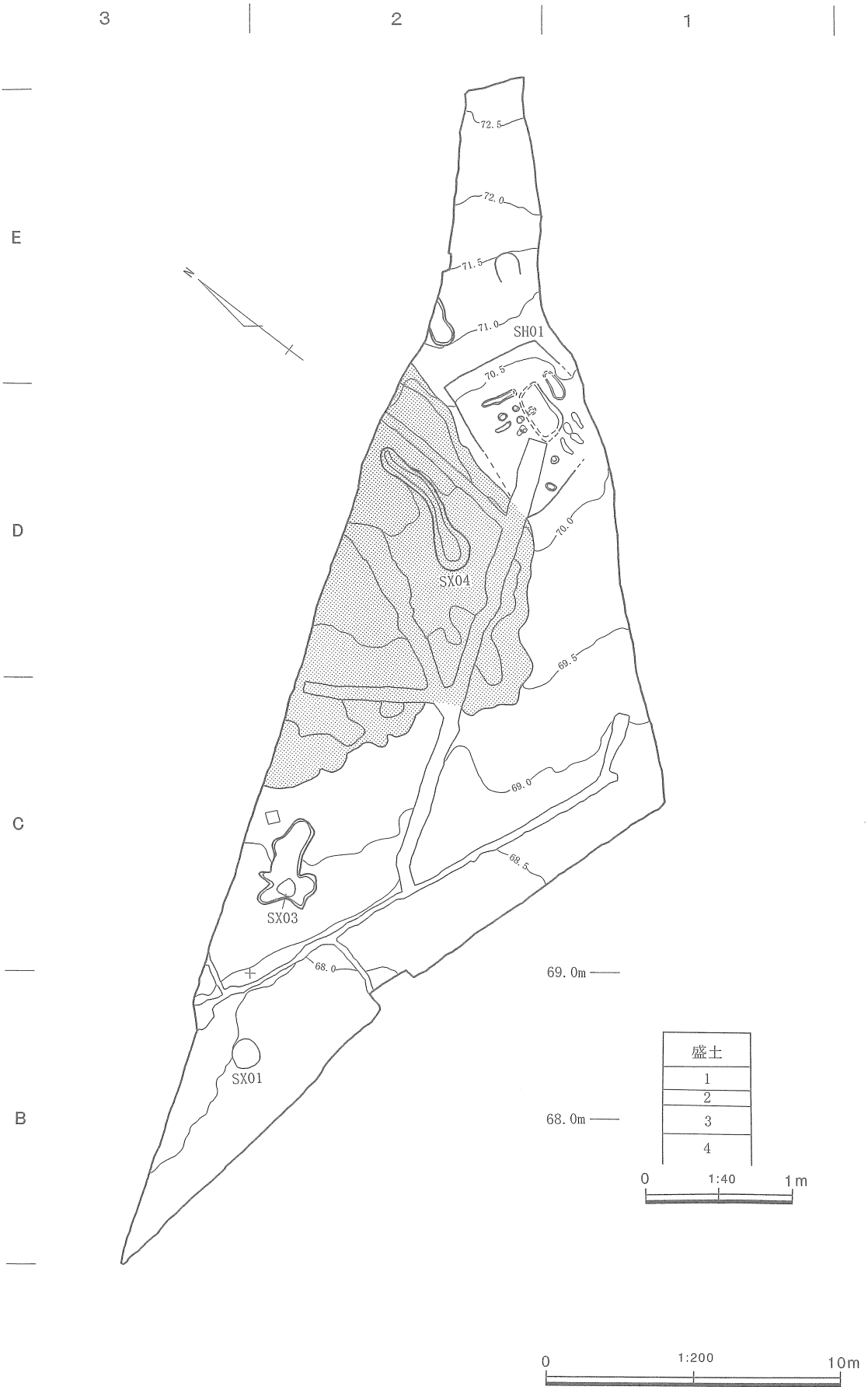
第３図　周辺地形と調査区



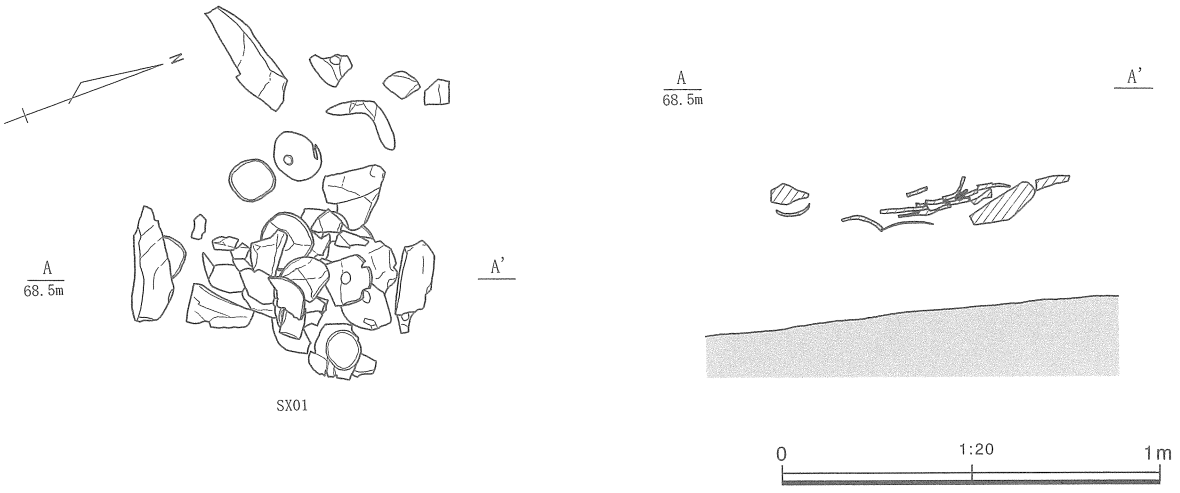

第４図　トレンチ配置図



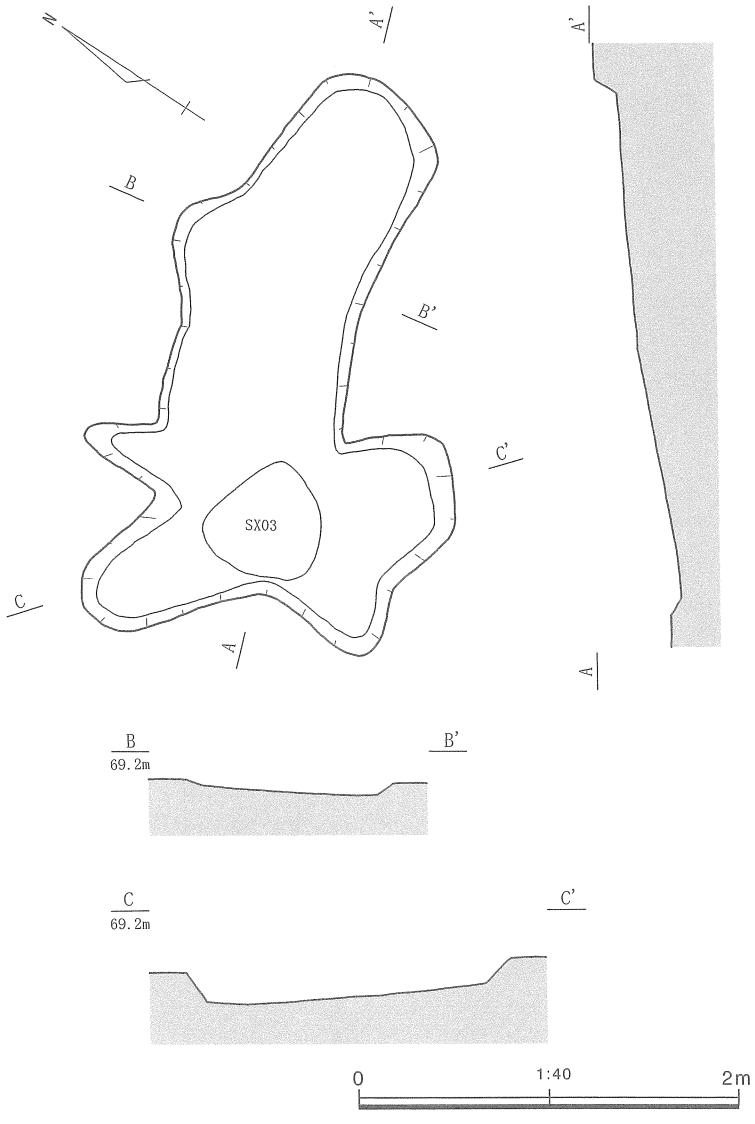

第５図　グリッド配置図




第６図　全体図及び基本土層図




第７図　ＳＸ01平面・断面図



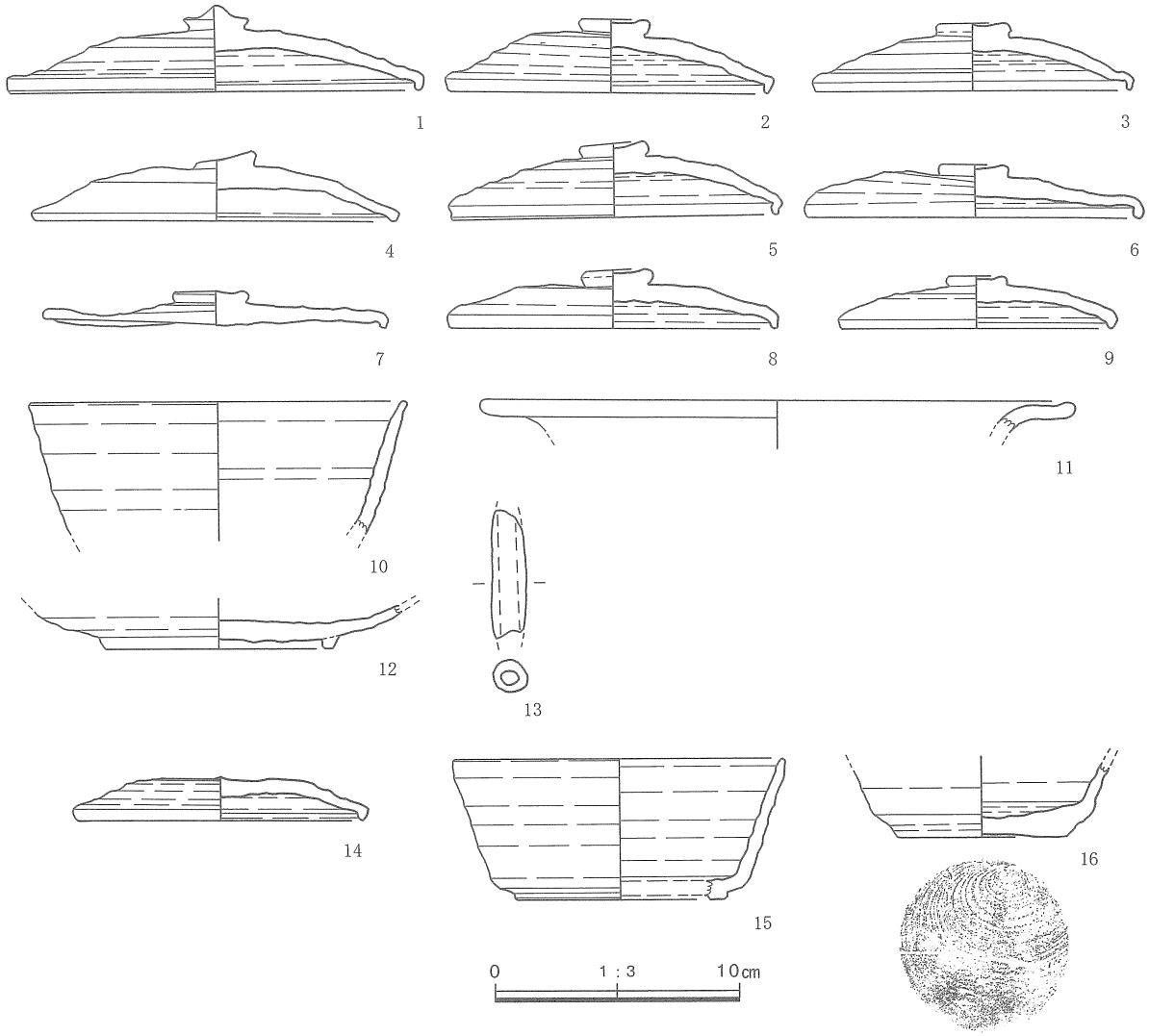

第８図　ＳＸ03平面・断面図

出しが長くなり、削りから末端までが広がる傾向にある。遺物はＮＮ－32号窯期併行の８世紀中頃の製品と思われる。

（２）ＳＸ03（第８図・第９図）

【遺構】ＳＸ03は調査区のＢ2グリッドとＣ３グリッドの境目で検出した。北東から南西にかけて約3.4m、北西から南東の最大幅約2.08ｍの不定形である。底面はほぼ平らで検出面からの深さが10㎝から17㎝であった。ＳＸ03に堆積した暗褐色砂質粘土層より遺物が出土した。

【遺物】ＳＸ03から出土した清水下地区生産の須恵器である。復元できる遺物は（第９図14～16）の３点である。(14）は無鈕須恵器坏蓋で口径約11.8㎝、器高約1.8㎝で比較的小形である。(15）は有台坏で削り出し高台である。底部内面と外縁に内外からヘラをあて回転ヘラ削りし、扁平な高台を削り出している。高台は底部の内側に付けられ、胴部の内外面にノタ目が残っている。口縁端部は尖り気味にしている。口径約13.56㎝、高台径約8.56㎝、器高約5.7㎝である。(16）は無台坏で底面に糸切り痕を残しており底径7.0㎝である。遺物は８世紀代の製品と思われる。




**第９図　ＳＸ01・ＳＸ03出土遺物実測図**

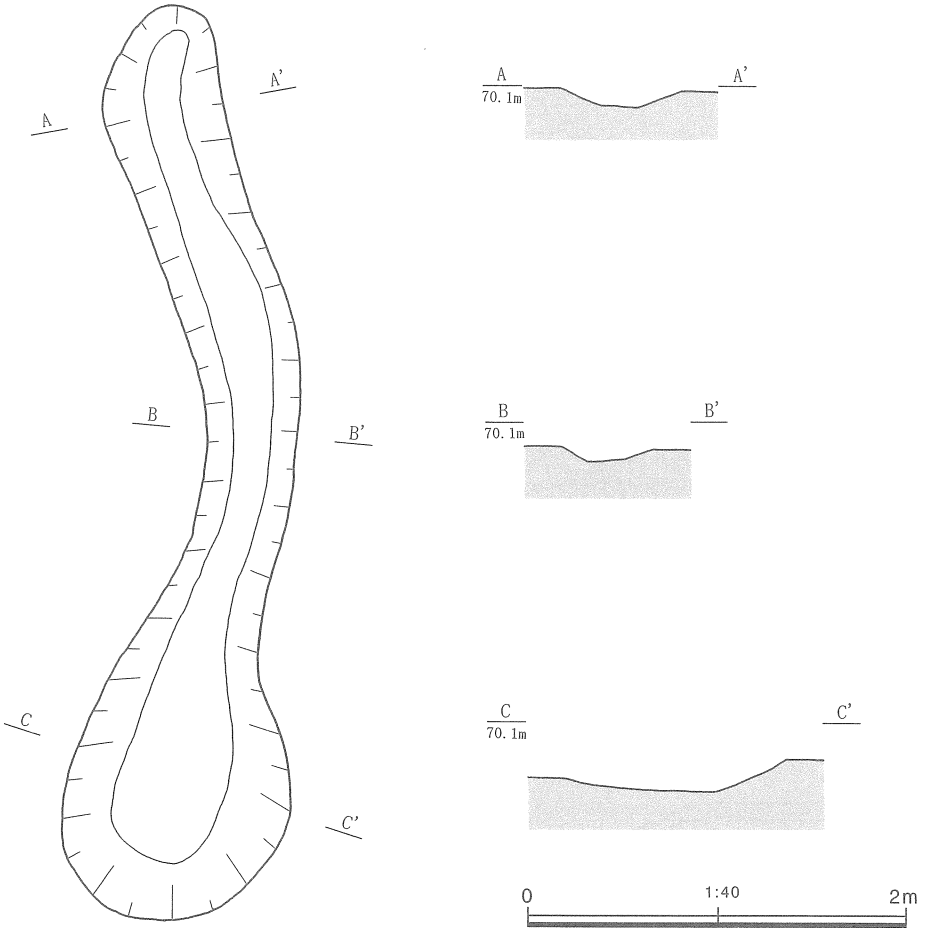
### （３）ＳＸ04（第６図・第10図）

【遺構】ＳＸ04は調査区のＤ２グリッドの北側から東側にかけて弓状に検出した。遺構は標高70.1ｍから69.7ｍに位置し、最大長が4.8ｍで最大幅が1.2ｍである。深さは北西部で11㎝、中間部で４㎝、南東部で15㎝、底面が皿状に窪んでいた。出土遺物はなく用途不明の遺構である。

### （４）ＳＨ01（第６図・第11図・第12図）

【遺構】ＳＨ01は工房跡と考えられて調査区Ｄ２グリッドの北東隅に位置し灰原の東側から検出した。遺構は立ち上がりなどが検出できなかった。このため工房跡の正確なプランが不明である。検出遺構はピット４基、炉跡３か所、溝状の落ち込み２条である。約５ｍの台形状の遺構と思われる。出土遺物は復元できる資料が７点である。

【遺物】ＳＨ01の工房跡から出土した図上復元できる遺物（第12図17～23）は７点で清水下地区生産である。（17）は須恵器の坏蓋で体部までヘラ削りしている。（18）は須恵器の坏蓋でボタン状のつまみを付けている。（19）は須恵器の坏蓋で体部までヘラ削りして、口径が約15.4㎝である。（20）は工房跡床下から出土している。（21）は須恵器の坏蓋で口径が約10.0㎝と小形である。（22）は工房跡の埋土から




**第10図　ＳＸ04平面・断面図**

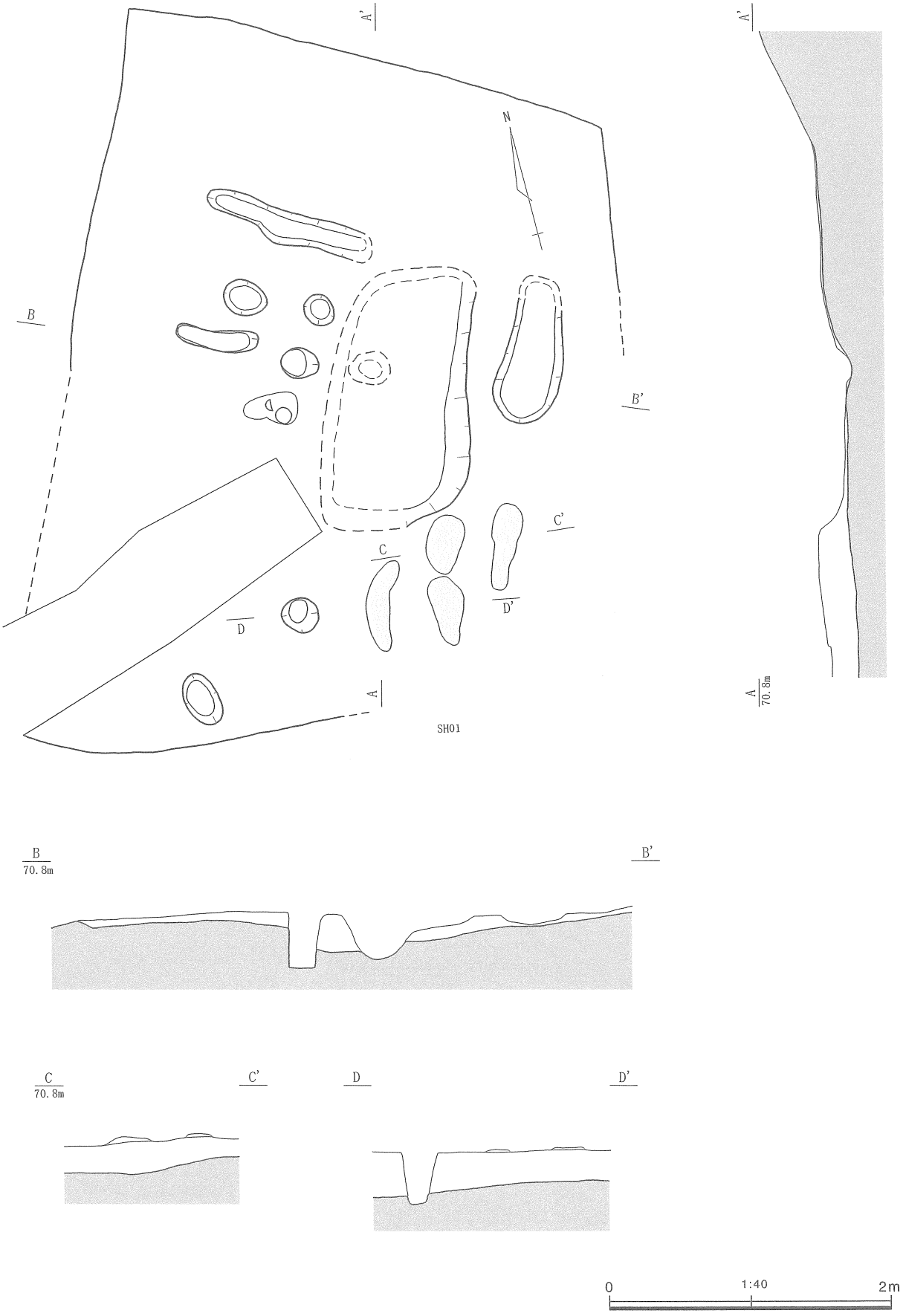
出土し、壺Ｇの頸部と思われる。(23) は須恵器の坏身で口径が約14.2㎝と小形である。遺物は８世紀代の製品と思われる。

**（５）灰原など遺構外出土遺物**

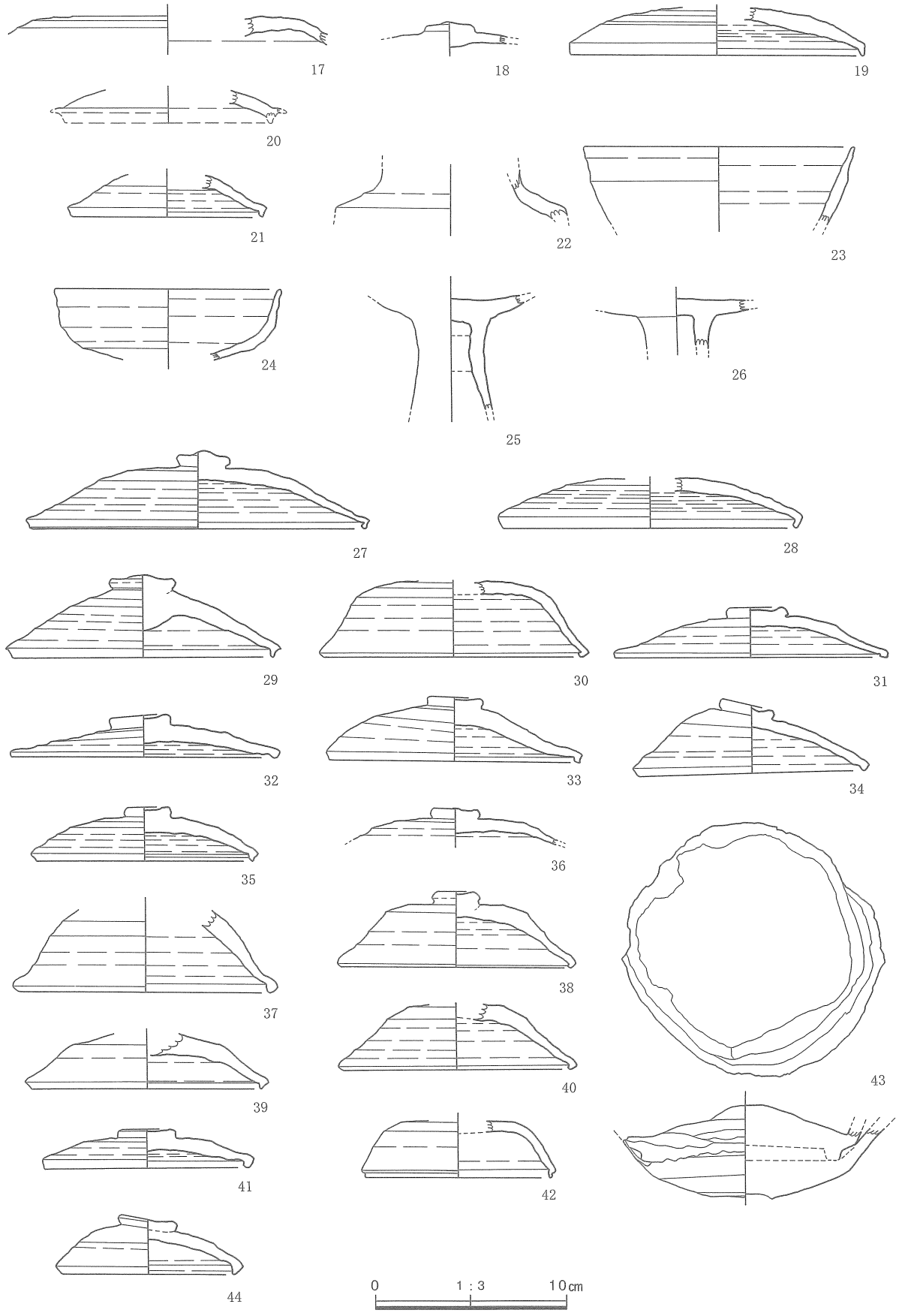
（第12図24）は須恵器の坏身で口径約11.8㎝である。(第12図25・26) は須恵器の高坏である。遺物は７世紀前半の製品と思われ、流れ込みの遺物と考えられる。

（第12図27～第17図145）の須恵器は灰原出土遺物である。(27) は中形大きめの須恵器蓋で宝珠形のつまみを有し、体部までヘラ削りしている。口径が約17.8㎝、器高が4.07㎝である。(28) は中形須恵器の蓋で口径が約15.6㎝であり、重ね焼き痕が外面に付いている。(29～33) は中形須恵器蓋で (29) がつまみを有し、口径13.7㎝で表面と内面に重ね焼き痕がある。つまみから体部をヘラ削りしている。(30) は深めの蓋である。(31・32) は扁平なボタン状のつまみを有し、口径が約14.0から14.4㎝で、つまみから体部をヘラ削りしている。(34・35・38～42・44) は小形の須恵器蓋で (34・35・38・41・44) が扁平なボタン状のつまみを有し、口径が約9.0から12.1㎝である。つまみから体部をヘラ削りしている。(34) は内面に重ね焼き痕がある。(43) は重ね焼きの状態で出土した須恵器の蓋と坏身であり、坏蓋のつまみを打ち欠いて除去し、この蓋をひっくり返して碗状の焼台に使用している。蓋の上部に高台付きの坏身を置いて焼成したと思われる。遺物は８世紀中頃の製品と思われる。

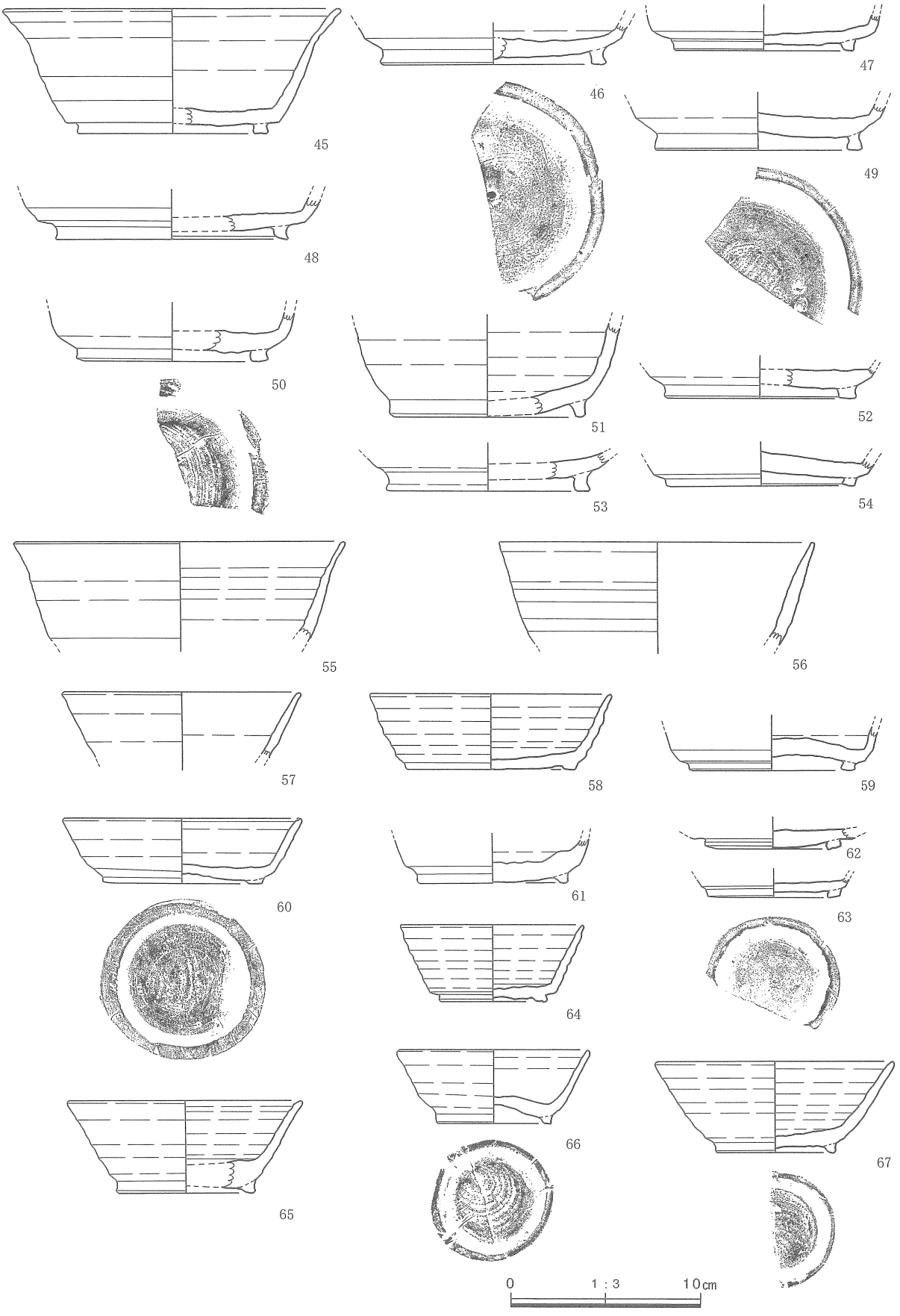
（第13図45～54）の須恵器は灰原から出土した比較的大形の有台坏である。(45) は貼り付け高台で口径約17.8㎝、高台径約10.12㎝である。底部底面は一部回転ヘラ削りしていると思われ、扁平な底部から




第11図　ＳＨ01平面・断面図




第12図　ＳＨ01・灰原出土遺物実測図１



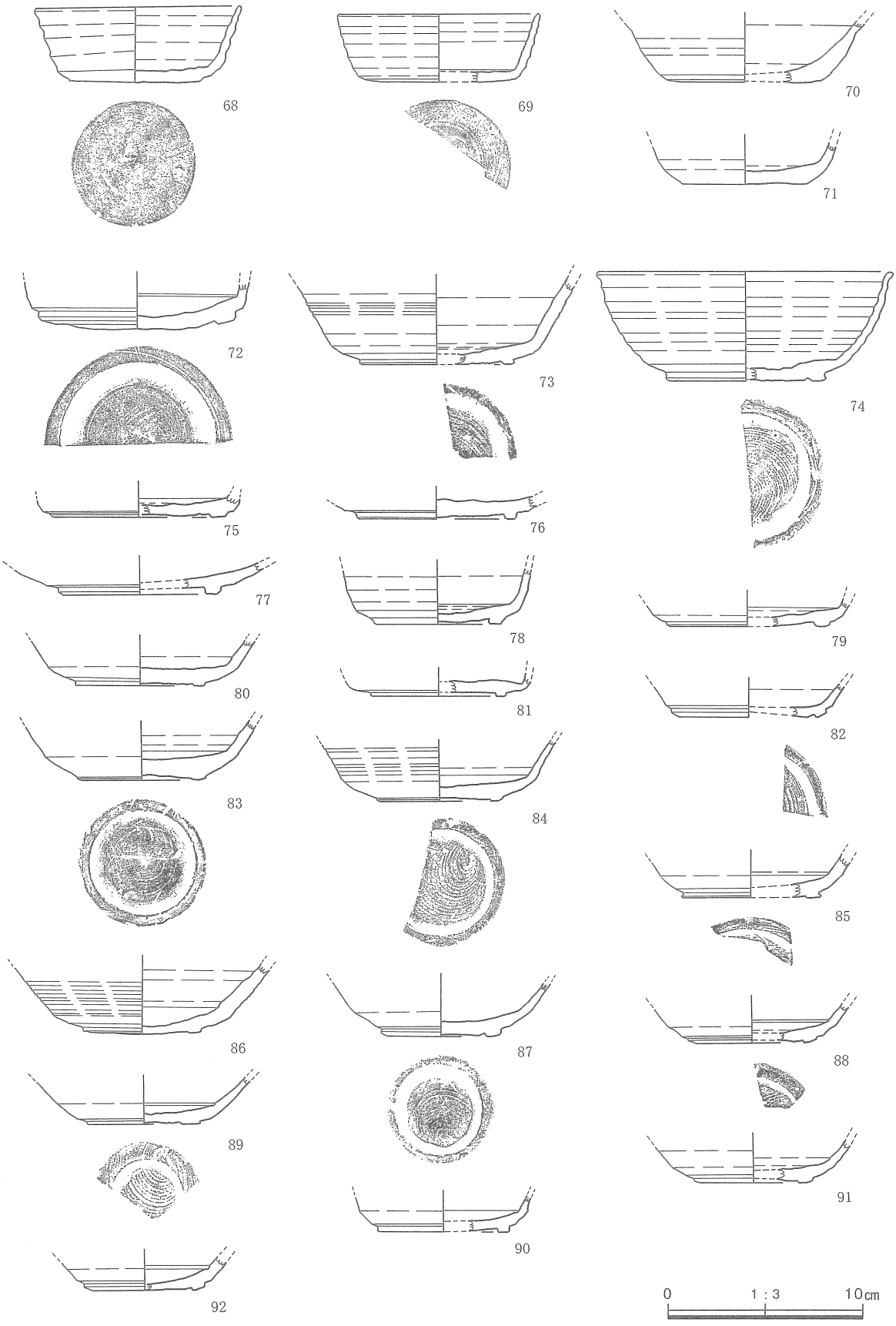

第13図　灰原出土遺物実測図２

胴部が鋭く屈曲して斜めに立ち上がり、端部をやや外側に引いて収めている。体部はノタ目を残さず入念に調整している。(46) は貼り付け高台の坏身で高台径約12.0㎝である。底部底面は回転ロクロ上でナデ調整しており、高台部が底面の内側に付けている。(47) は焼成不良であるが貼り付け高台の坏身で高台径約9.6㎝である。底面の調整は不明であるが扁平の底部から胴部が鋭く屈曲して立ち上がる。(48) は貼り付け高台で高台径が約12.3㎝、底面はナデ調整して高台が内側に付いている。底部から胴部はゆるやかに丸く立ち上がっている。(49) は貼り付け高台の坏身で高台径が約11.0㎝であり、底面の中心部に糸切り痕を残し一部をヘラ削りし、内面にノタ目を残している。(50) は貼り付け高台の坏身で高台径が約10.2㎝、底面の中心部に糸切り痕を残す。底部から胴部はゆるやかに丸く立ち上がっている。(51) は貼り付け高台の坏身で高台径が約10.4㎝、底面をナデ調整し中心部に糸切り痕を残して一部をヘラ削りしている。底部から胴部はゆるやかに丸く立ち上がっている。(52) は貼り付け高台の坏身で高台径が約9.9㎝で、底面は一部に糸切り痕を残しナデ調整している。底部から胴部はゆるやかに丸く立ち上がっている。(53) は貼り付け高台の坏身で高台径が約10.8㎝、底面の高台内側脇を削り、他をナデ調整している。底部から胴部は丸くゆるやかに立ち上がっている。(59) は貼り付け高台で高台径約8.8㎝である。(54) は貼り付け高台で径が約10.0㎝、底面の高台内側を削っている。高台の端部に板状圧痕があり、底部から胴部は鋭く屈曲して斜めに立ち上がっている。(第13図55・56) は坏身体部のノタ目を消して整形している。これらの須恵器は８世紀中頃の製品と思われる。

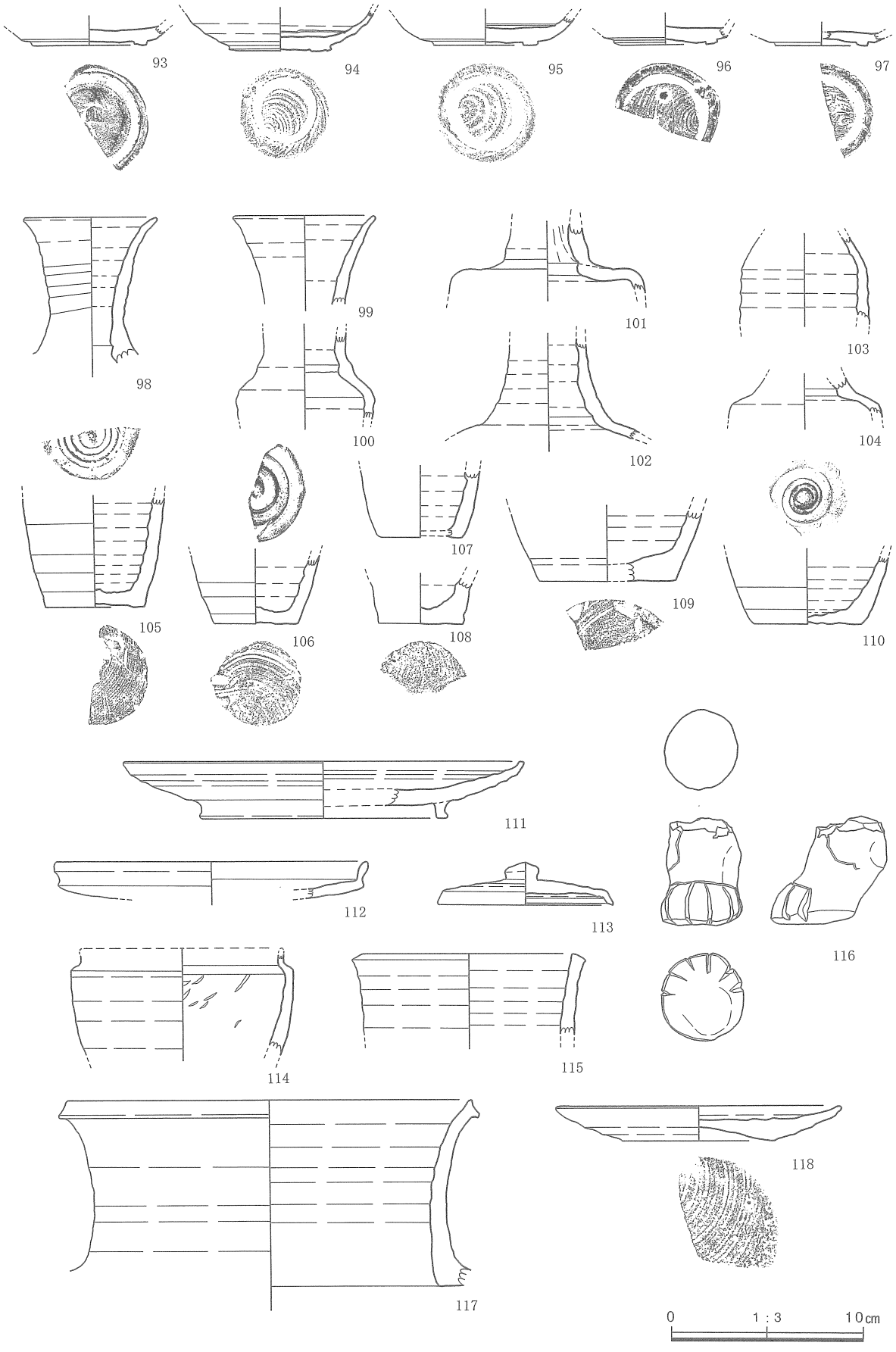
(第13図57～60・65・67) は灰原出土の中形坏身と思われる。(57) は口径約12.5㎝で口縁部のノタ目を消して整形し端部を収めており底面を上部に押し込んでいる。(58) は削り出し高台の坏身で口径12.8㎝、器高4.0㎝、高台径9.0㎝である。底面の高台側を削り出しており、体部の外面と内面にノタ目を残している。(60) は貼り付け高台の坏身で口径12.6㎝、器高3.45㎝、高台径約8.5㎝であり、表面体部にノタ目を残している。高台内部の糸切り痕を消している。(61～64・66) は小形の坏身である。(61～63) は貼り付け高台で高台径が7.0から8.0㎝である。(64) は削り出し高台の坏身で口径約9.7㎝、器高4.03㎝、高台径約5.6㎝である。底面の高台側を削り出し、外面体部にノタ目を残している。高台部ヘラ削り面の外側が稜をなして鋭く屈曲している。(65) は貼り付け高台の坏身で口径約12.4㎝、器高4.87㎝、高台径約7.4㎝である。底面に糸切り痕を残し、外面と内面のノタ目を消している。体部は直線的に開いている。(66) は貼り付け高台の坏身で口径約10.0㎝、器高3.9㎝、高台径約6.12㎝である。底面に糸切り痕を残し、外面と内面のノタ目を消しており、底面を上部に押し込んでいる。体部は直線的に開いている。(67) は貼り付け高台の坏身で口径約12.6㎝、器高4.8㎝、高台径約6.4㎝である。底面の糸切り痕をナデており、外面と内面のノタ目を消しており、体部は直線的に開いている。これらの須恵器は８世紀後半の製品と思われる。

(第14図68～71) は灰原出土の小形の無高台坏で口径約10.2から10.6㎝、器高3.48から3.92㎝、高台径約6.6から8.0㎝、底部を回転ヘラ削りしている。(68・69) は底部を回転ヘラ削りし、体部を直線的に立ち上げており、外面と内面にノタ目を残している。(70) は底部を回転ヘラ削りし、外面にノタ目を残し、内面のノタ目を消している。(71) は底部を回転ヘラ削りしている。これらの須恵器は８世紀中頃の製品と思われる。

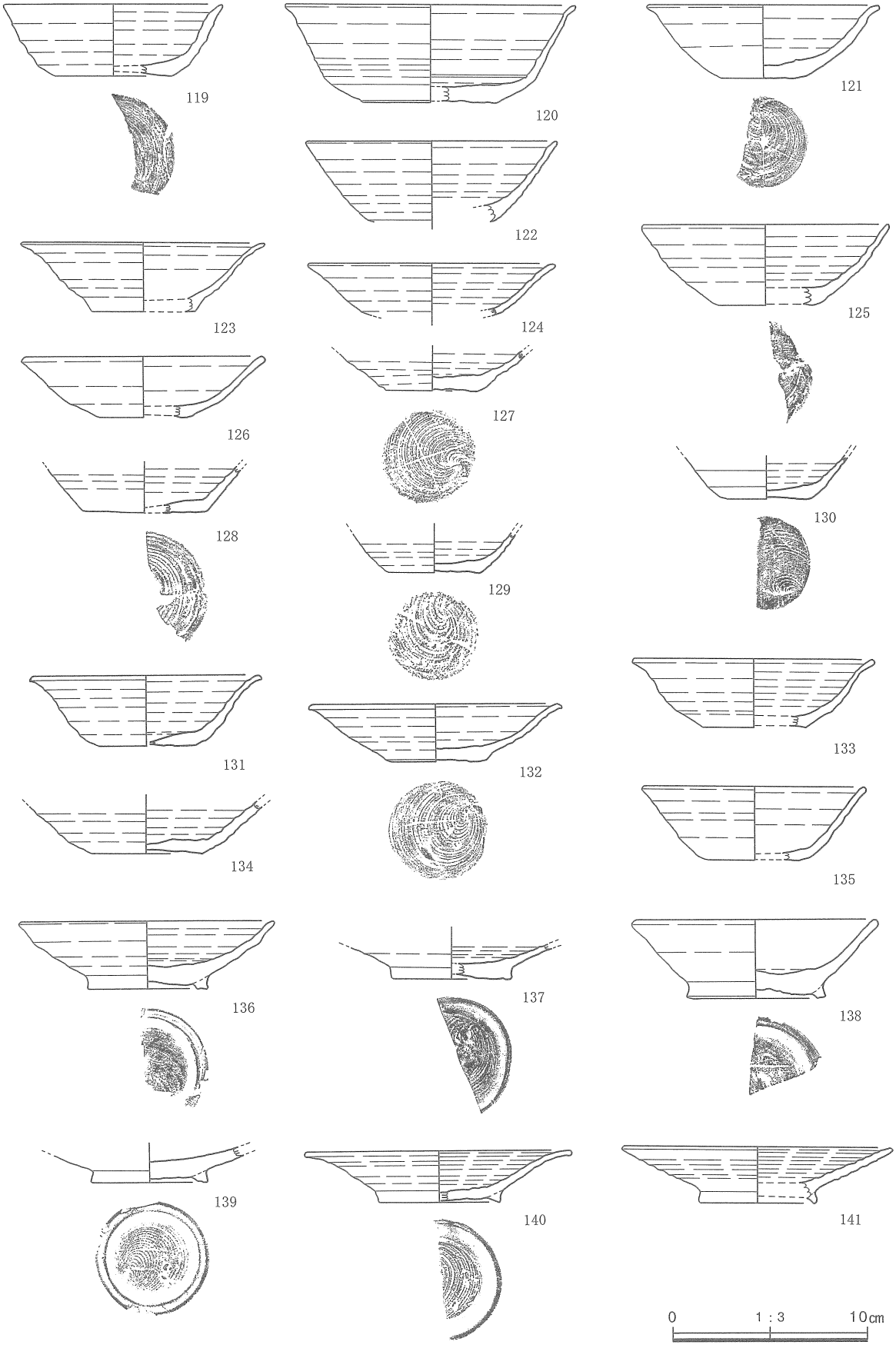
(第14図72・74～77・79・82) は比較的大形の削り出し高台の坏身で高台径約8.0から約10.2㎝である。これらの須恵器は、高台部を作るのに底面の糸切り痕を削り取っているＡ類 (75～79・86・90・92) と、糸切り痕を削り出しているが、糸切り痕が高台部と底面に残っているＢ類 (83・84・87～89・91) とに大別できる。さらに、Ａ類は高台を高く見せるため高台内の底面や高台外面を比較的に深く削る資料(76) や高台部から底面が丸く出る資料 (72) がある。また、(75～77) は底部内面を丁寧に削っている。Ｂ類 (74・82) は底面に糸切り痕が付いている。(74) は体部が内湾して端部を外側に外反させ、内面に



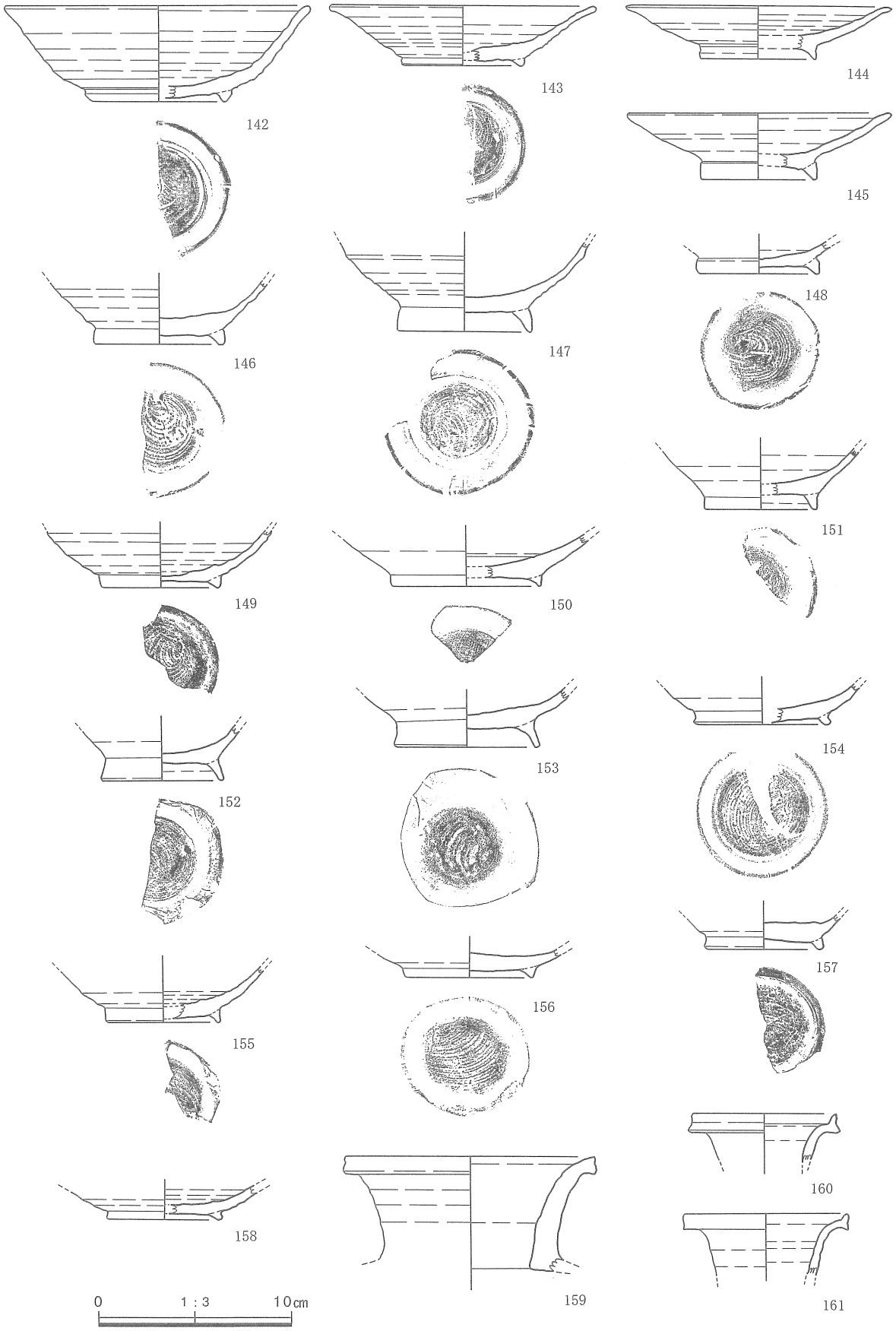

第14図　灰原出土遺物実測図３




第15図　灰原出土遺物実測図４




第16図　灰原出土遺物実測図５




第17図　灰原出土遺物実測図６

ノタ目を残しており、器形が灰釉陶器の碗形に近い。遺物は高台などの技法が異なり８世紀末から９世紀初めの製品と思われる。

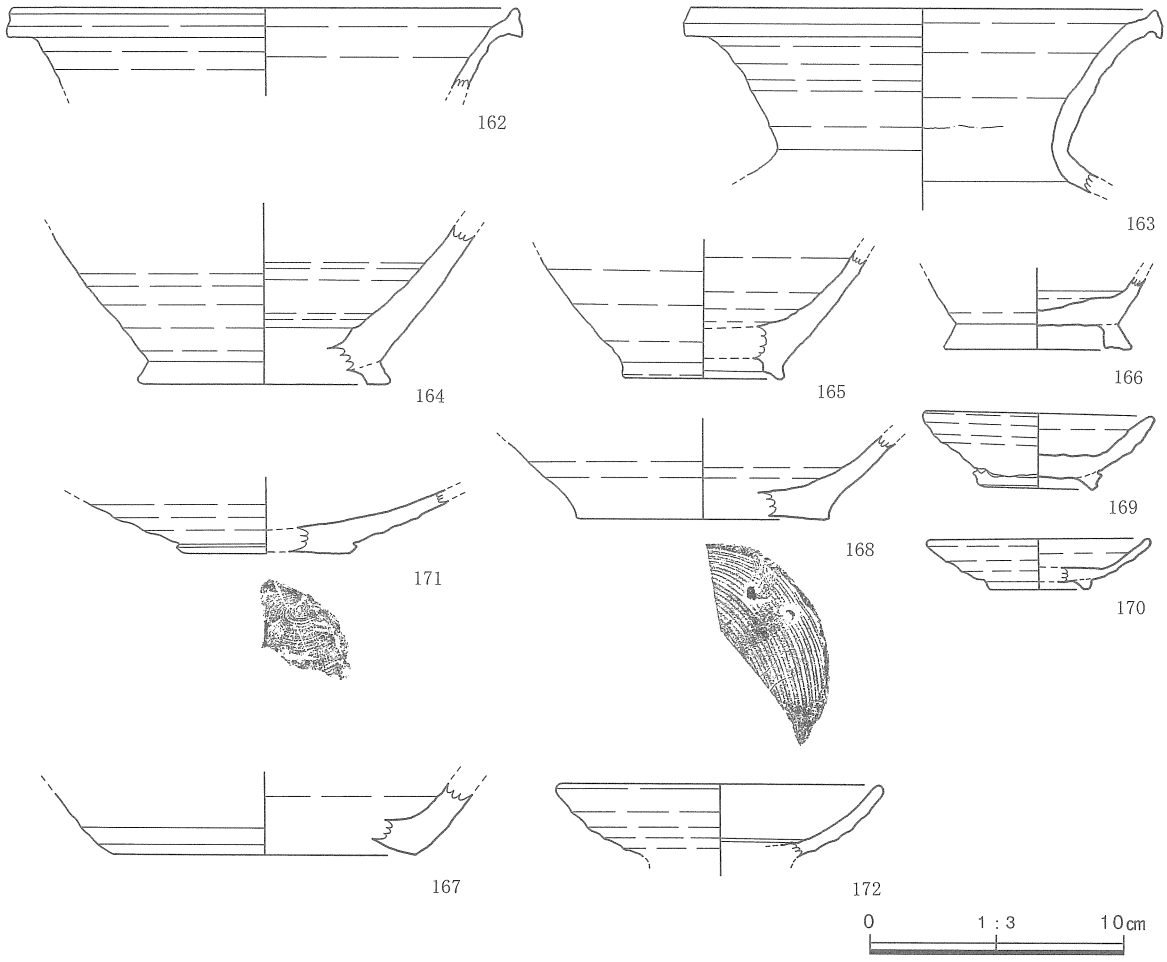
（第14図73・78・80・81・83～92）は中形の削り出し高台坏身で高台径が約6.0から7.2㎝である。これらの資料は、高台部を作るのに底面の糸切り痕を削り取っているＡ類（73・78・86・90・92）と、糸切り痕を削り出しているが、糸切り痕が高台部と底面に残っているＢ類（83・84・87～89・91）とに大別できる。さらに、Ａ類（第14図73・78・90）は高台を高く見せるため高台内の底面や高台外面を比較的深く削る資料である。遺物は８世紀末から９世紀初めの製品と思われる。

（第15図93～97）は灰原出土の小形の削り出し高台坏身である。（95）はＡ類で高台径が約5.45㎝で、高台部を作るのに底面の糸切り痕を削り取っている。（93・94・96・97）は底面や高台部の糸切り痕を残して、高台内側の一部と高台外側を削り出したＢ類（94～97）である。（94）は底面の糸切り痕を残し、高台を作るために高台外側と高台内側を円形に削り取っている。（96・97）は底部を糸切りした後、高台の内側と高台の外側を削っている。（95）は底面をヘラ削りし、高台に沿って内面と外面をヘラ削りしている。この須恵器は８世紀末から９世紀初めの製品と思われる。

（第15図98～110）は灰原出土の壺Ｇである。（98・99）は壺Ｇの口縁部約6.8から7.2㎝である。（105～110）は底径約4.34から7.2㎝である。（98）は頸部にノタ目を残し、肩部の接合付近で破損している。（第15図100～104）は頸部の破片で、ノタ目を残しているものが多い。（第15図105～110）は底部で糸切りしており、糸切り痕を残すものとナデ消したものがある。８世紀末中頃から後半の製品と思われる。（第15図111・112）は盤である。（111）は高台径が約20.8㎝と大形である。（第15図113）は小形の蓋で宝珠つまみが付き、口径は約9.2㎝である。（第15図114・115・117）は壺である。（第15図116）は獣足壺の脚部であり、脚の幅4.2㎝、長さ4.2㎝のほぼ円形、高さ5.7㎝、足の５本指か爪をヘラ状工具の沈線で描いている。焼成は良好で足部にひびが入る。獣足壺の脚の類例は御子ヶ谷遺跡にある。（第15図118）は須恵器の皿と思われ扁平で底部無高台、底面に糸切り痕が付いている。口径が約14.7㎝、高さ約1.8㎝である。８世紀中頃から後半の須恵器と思われる。

（第16図119～135）は灰原出土の糸切り碗で無高台である。須恵器段階の坏身と、須恵器の灰釉模倣段階に伴う糸切り碗がある。底径が約5.0㎝未満の資料に灰釉陶器段階の糸切り碗が多い傾向があると思われる。この点から須恵器段階の糸切り碗の可能性がある資料は（119～123・125・127・130・131・133）で、碗の外面と内面にノタ目を強く残す。底径が約4.5から約6.8㎝、器高約3.5から約5.0㎝、口径約11.3から約15.0㎝である。器形は口径に対して底径が比較的大きく、口縁部先端を外反させた形（119・120・131）が典型と思われる。これらの糸切り碗は灰釉模倣須恵器でＫ－14号からＫ－90号窯期併行と考えられる。（121・124・126・132・135）は、碗の外面と内面にノタ目をあまり残さず体部をなめらかに成形している。底径が約4.5から約5.6㎝、器高約3.1から約3.75㎝、口径約11.34から約13.1㎝である。新段階の糸切り碗は器高が低くなり、口径に対して底径が比較的小さくなる。口径や器高も小形化する傾向があると思われる。口縁部先端を外反させた形（121・132）が典型であろう。これらの糸切り碗は灰釉陶器Ｏ－53号窯期併行と考えられる。

（第16図136～141・第17図142・144）は「灰釉模倣須恵器」でＫ－14号窯併行としたい。（136・138・139）は器形や高台形が灰釉陶器風であるが、焼成や体部成形技法が須恵器無釉碗となる。高台は二重高台となる。（136）は体部外面にノタ目が残り、内面のノタ目を消している。底部は厚めに糸切りした後に高台を付けており、底面の糸切り痕を消している。（138）は体部内面と外面のノタ目を入念に消し、底面を厚めに糸切りした後に高台部を付け、高台内の糸切り痕を消すが一部残っている。（137・139～141）は皿形である。（137）は底部を糸切りした後、低い高台を付けて底面に糸切り痕を残している。（139）は底部を厚く糸切りした後、二重高台風にして底部の糸切り痕を残している。（140）は内面にノタ目を




**第18図　灰原出土遺物実測図７**

残し、外面はノタ目を消している。底部は底面を厚く糸切りした後、高台を付けており、底面に糸切り痕が残る。器形は皿形で端部を外反させている。(141) は無釉で体部の内面と外面にノタ目を残し、底部を糸切りした後、高台を付けており、焼成が須恵器で器形が灰釉陶器皿形である。(142・144) は清水下地区生産の須恵器で器形が灰釉陶器である。(142) は焼成が須恵器で器形灰釉陶器の無釉大形深碗で、高台を三日月高台風に成形している。底面は糸切りし一部をナデ消すが中心部に残り、高台を成形しながら、高台脇の外側をヘラ削りしている。(143) は無釉の皿で底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底部の糸切り痕を残しており、灰釉陶器でＫ－90号窯併行である。(144) は無釉の皿形で底部内面の糸切り痕をナデ消している。三日月高台風に貼り付け、体部の内面にノタ目が残る。(第17図145) は皿形で灰釉を内面全体に施している。底部は糸切りした後に三日月高台風を貼り付け、底面の糸切り痕が残り、灰釉陶器でＫ－90号窯期新段階併行である。

(第17図146～158) は灰釉陶器で (146) が貼り付け高台の碗で底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底面の糸切り痕を残している。Ｏ－53号窯式新段階併行である。(147) は貼り付け高台が高い大形碗である。底面の糸切り痕をナデているが一部残る。Ｈ－72号窯式併行である。(148) は貼り付け高台の碗で焼成が甘い。底面の糸切り痕が残っている。Ｏ－53号窯式古段階併行であろう。(149) は貼り付け高台の碗で、底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底面の糸切り痕をナデているが残っている。Ｏ－53号窯式古段階併行である。(150) は貼り付け高台の碗で、底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底面の糸切り痕が残っている。Ｈ－72号窯式併行である。(151) は貼り付け高台の碗で、底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底面の糸切り痕をナデているが残っている。Ｈ－72号窯式併行である。

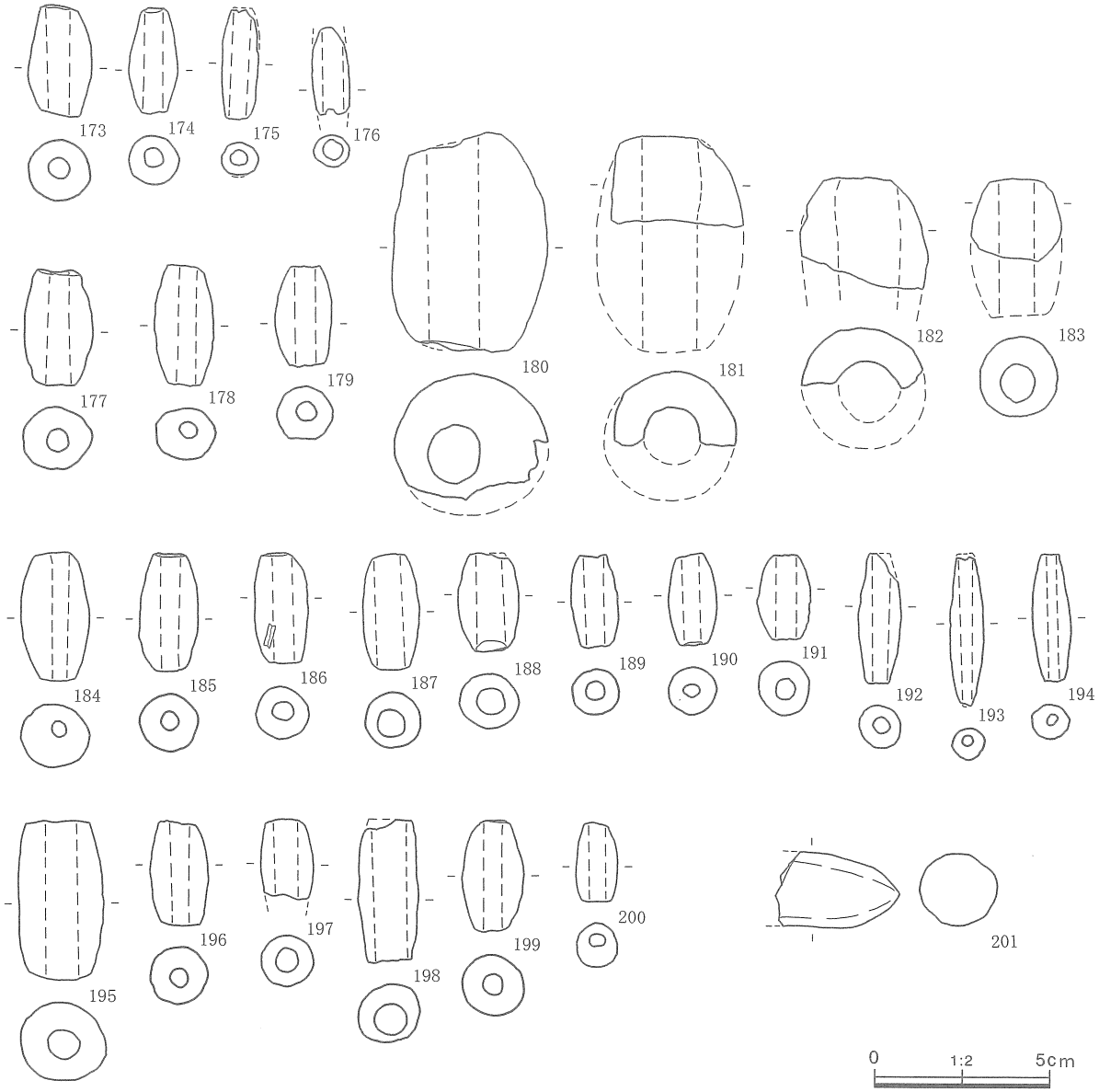
(152) は貼り付け高台の碗で、内面に灰釉が付いている。底部を糸切りした後に高台部を貼り付け、底部の糸切り痕をナデ消しているが一部に残っている。Ｈ－72号窯式併行である。(153) は大形碗で貼り付け高台である。底面の糸切り痕をナデ消しているが中心部の糸切り痕が残る。Ｈ－72号窯式併行である。(154) は高台の低い碗で貼り付け高台し、底面の糸切り痕を一部ナデ消しているが中心部に糸切り痕が残る。底面高台内側に籾痕が付いている。Ｏ－53号窯式古段階併行である。(155) は碗で貼り付け高台であり、底面の糸切り痕をナデ消しているが一部に糸切り痕が残る。Ｏ－53号窯式新段階併行である。(157) は碗で貼り付け高台であり、底面の糸切り痕をナデ消しているが一部に糸切り痕が残る。Ｏ－53号窯式新段階併行である。(158) は碗で低く貼り付け高台し、底面の糸切り痕をナデ消しているが一部に糸切り痕が残る。百代寺窯式段階併行である。(159) は助宗窯産の灰釉模倣須恵器広口瓶の口縁部であり、Ｋ－14号窯式併行と思われる。(160) は助宗窯産の灰釉模倣須恵器長頸瓶の口縁部であり、Ｋ－14号窯式併行と思われる。(161) は助宗窯産の灰釉模倣須恵器長頸瓶の口縁部であり、Ｋ－14号窯式併行と思われる。

(第18図162) は灰原出土の甕である。(163) は灰原出土の灰釉陶器広口瓶の口縁部であり、Ｋ－90号窯式からＯ－53号窯式併行と思われる。(164) は灰原出土の灰釉陶器広口瓶の底部と考えられ、Ｋ－90号窯式からＯ－53号窯式併行と思われる。(165) は灰原出土の灰釉陶器広口瓶の底部と思われ、高台部付近に灰釉が掛かっている。Ｋ－90号窯式併行と思われる。(166) は灰原出土の灰釉陶器長頸瓶底部と思われ、高台部付近と底面の中心部に灰釉が掛かっている。Ｋ－90号窯式併行と思われる。(168) は灰原出土の須恵器無高台の甕底部破片である。高台部底面に糸切り痕を残している。(169) は灰原出土の小碗であり、内面に自然釉が掛かっていて、重ね焼きの上部に置かれていたと考えられる。高台部は三角高台でスノコ板状の圧痕が付き、底面の糸切りをナデている。山茶碗Ⅰ－2期（河合2001）で12世紀中葉の製品と思われる。(170) は灰原出土の小碗で高台部が三角高台でスノコ板状の圧痕が付き、底面の糸切りをナデている。山茶碗Ⅰ－2期からⅡ期の製品で12世紀後半から末期の製品と思われる。(171) は灰原出土の無高台大碗で須恵器か灰釉陶器の底部と思われ、底面に糸切り痕を残している。

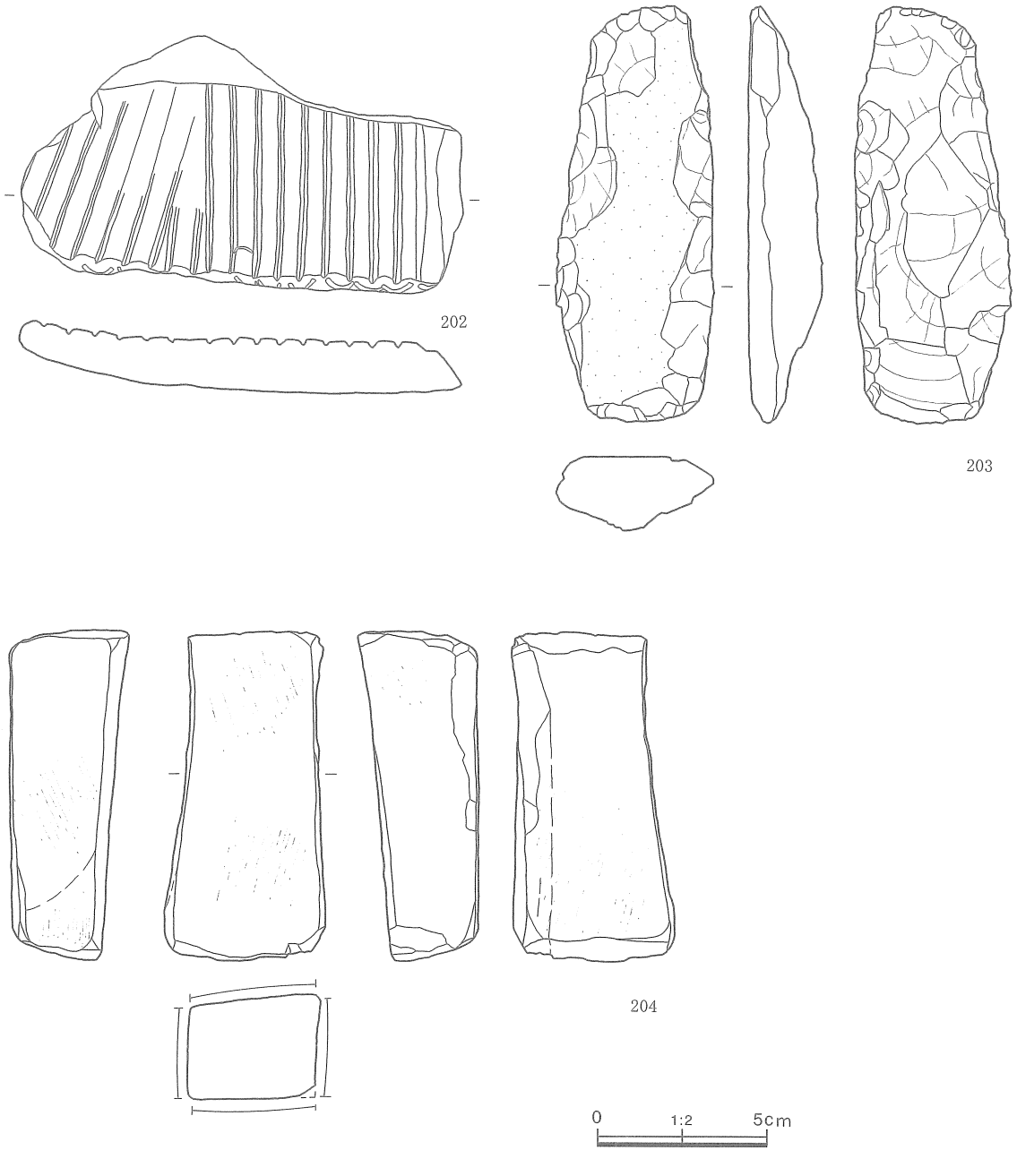
(第18図167) は志戸呂焼の鉄釉壺の底部破片である。(第18図172) は藤枝市助宗古窯群細谷地区から表面採集した灰釉陶器の碗である。灰釉が内面と外面の一部に発色している。内面を調整し、外面にノタ目を残している。Ｏ－53号窯式併行と思われる。

(第19図173～200) は灰原出土の土錘でその幅広・幅中・幅狭の３段階に分かれ、さらに幅広の中が広いタイプと狭いタイプに分かれる。幅広土錘（第19図180～183・195）の中で広いタイプは（180～182）であり、(180) が長さ6.32㎝、幅約4.43㎝である。(183・195) は幅広タイプの中の幅狭土錘で、(195) が幅2.41㎝、長さ4.59㎝、重量27.04ｇである。(173・177～188・196～199) は幅中土錘で幅1.56から1.99㎝、長さ2.40から4.08㎝、重量5.06から11.20ｇである。このタイプの幅平均は1.73㎝、長さ平均3.25㎝、重量平均8.34ｇである。(第９図13・第20図175・176・189・190・192・193・200) は幅狭土錘で幅0.98から1.40㎝、長さ2.29から3.73㎝、重量3.34から4.97ｇである。このタイプの平均の幅は1.16㎝、平均の長さ2.84㎝、平均の重量4.39ｇである。(第19図201) は名称や用途不明品で先端が尖っている。

(第20図202) は灰原出土の瓦塔で、瓦葺屋根の軒丸瓦を半截竹管状工具の先端刺突で表し、丸瓦葺きの部分を半截竹管状工具の密接蒲鉾状沈線文で表現している。また、瓦葺屋根の丸瓦列の部分は半截竹管状工具の密接蒲鉾状沈線文で角度を変えて付けている。瓦塔の瓦の表現が抽象的になり、手抜きしている点に特色があり、８世紀後半から９世紀初頭の資料と考えられる。(第20図204) は砥石で褐灰色細粒砂岩製、４面とも良く研磨されている。(第20図203) は短冊形打製石斧で暗灰色粗粒砂岩製で、原礫面の一部を残している。刃の部分は表裏に磨滅痕がありよく使用していたことがわかる。縄文時代中期の打製石斧と思われる。




**第19図　灰原出土遺物実測図８**




**第20図　灰原出土遺物実測図９**

## 第３表　助宗古窯群出土土器観察表（１）

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 1 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面5Y6/1灰<br>内面N4/灰 | 径1～2.5mmの長石　1～1.5mmの黒色粒子多量　1mmの燈色粒子含有　黒色の吹き出し | 99% | 16.88 | － | 3.55 |
| 9 | 2 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | N6/灰<br>ヘラ削り部分N4/灰 | 径1～2mmの長石<br>1～1.5mmの黒色粒子<br>1～2mmの燈色粒子わずかに含有 | 98% | 13.0 | － | 3.0 |
| 9 | 3 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面7.5Y7/1灰白<br>内面5Y7/2灰白 | 径1～2mmの長石・黒色粒子多量<br>1～9mmの燈色粒子含有 | 95% | (13.0) | － | 2.75 |
| 9 | 4 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面10Y6/1灰<br>内面5Y6/2灰オリーブ | 径0.65～1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子・燈色粒子<br>2mmの茶色粒子含有 | 60% | (14.88) | － | 2.81 |
| 9 | 5 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | N6/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有<br>黒色の吹き出し | 100% | 13.45 | － | 3.10 |
| 9 | 6 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面N5/灰<br>内面7.5YR5/1褐灰 | 径1～1.5mmの長石　1～2mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 99% | 13.68 | － | 2.15 |
| 9 | 7 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面2.5YR5/2灰赤<br>内面2.5YR4/2灰赤 | 径1～2mmの長石　1mmの黒色粒子・燈色粒子含有　黒色の吹き出し | 97% | 14.20 | － | 1.40 |
| 9 | 8 | 須恵器 | 坏蓋 | B3 | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面体部～天井部7.5Y6/1灰<br>口縁部N4/灰　内面5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子・燈色粒子わずかに含有 | 45% | (13.40) | － | 2.45 |
| 9 | 9 | 須恵器 | 坏蓋 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | N6/灰 | 径1～5mmの長石　1mmの黒色粒子・燈色粒子含有　黒色の吹き出し | 100% | 11.10 | － | 2.12 |
| 9 | 10 | 須恵器 | 坏身 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 外面N4/灰<br>内面10R4/1暗赤灰 | 径1mmの長石・黒色粒子わずかに含有 | 口縁～体部25% | (15.40) | － | － |
| 9 | 11 | 土師器 | 甕 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 内外面7.5YR6/6橙 | 径3mm以下の白色粒子<br>金色の雲母含有 | 口縁部16% | (24.0) | － | － |
| 9 | 12 | 須恵器 | 盤 | | SX01　灰褐色砂質粘土層（炭化物混） | 7.5Y7/灰 | 径1～4mmの長石　1～3mmの燈色粒子　黒色粒子含有　黒色の吹き出しあり | 底部98% | － | 9.40 | － |
| 9 | 14 | 須恵器 | 坏蓋 | C2 | SX03 | N4/灰 | 径0.5mmの長石　1mmの黒色粒子わずかに含有　緻密 | 60% | (11.80) | － | (1.80) |
| 9 | 15 | 須恵器 | 坏身 | C2 | SX03 | N5/灰 | 径0.1mmの長石・黒色粒子含有 | 14% | (13.56) | (8.56) | (5.70) |
| 9 | 16 | 須恵器 | 坏身 | C2 | SX03 | 外面N4/灰(底部5R6/1赤灰)<br>内面5YR5/1褐灰 | 径0.5～1.5mmの長石　0.5mmの黒色粒子　1～3mmの燈色粒子含有 | 底部100% | － | 7.0 | － |
| 12 | 17 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | SH01（工房址） | 内面N5/灰　外面N6/灰 | 白色粒子含有 | 体部14% | － | － | － |
| 12 | 18 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | SH01（工房址） | 内外面5Y7/2灰白 | 白色粒子含有 | 摘み99% | － | － | － |
| 12 | 19 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | SH01（工房址） | 内面N6/灰　外面N7/灰白 | 径2mm以下の白色粒子含有 | 口縁部14% | (15.40) | － | － |
| 12 | 20 | 須恵器 | 坏蓋 | D1 | 埋土・工房址床下 | 内面N6/灰　外面N7/灰白 | 白色粒子含有 | 体部10% | － | － | － |
| 12 | 21 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | SH01（工房址） | 内外面N4/灰 | 白色粒子含有 | 口縁部10% | (10.0) | － | － |
| 12 | 22 | 須恵器 | 壺G | D2 | 埋土・SH01（工房址） | 内面N6/灰　外面N7/灰白 | 白色粒子含有 | 肩部10% | － | － | － |
| 12 | 23 | 須恵器 | 坏身 | D2 | 埋土・SH01（工房址） | 内外面5Y6/1灰 | 白色粒子含有 | 口縁部8% | (14.20) | － | － |
| 12 | 24 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | N5/灰 | 径0.5～1.5mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 天井部20% | (11.80) | － | － |
| 12 | 25 | 須恵器 | 高坏 | C2 | 旧耕作土層 | 外面10YR5/2灰黄褐<br>内面10YR6/3にぶい黄燈 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 脚部65% | － | － | － |
| 12 | 26 | 須恵器 | 高坏 | B2 | | 外面N5/灰<br>内面10YR6/3にぶい黄燈 | 径1～2mmの長石・黒色粒子<br>茶色粒子含有 | 脚部15% | － | － | － |
| 12 | 27 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | 暗淡褐色土層 | 外面5YR6/2灰褐<br>内面10YR7/2にぶい黄燈<br>外面口縁部10Y5/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 天井部70% | (17.80) | － | 4.07 |
| 12 | 28 | 須恵器 | 坏蓋 | B3 | 撹乱層 | 外面7.5Y7/1灰白<br>内面天井部N6/灰<br>体部～口縁部N3/暗灰 | 径1～2mmの長石<br>1～3mmの黒色粒子含有 | 口縁部20% | (15.60) | － | － |
| 12 | 29 | 須恵器 | 坏蓋 | C2 | 撹乱層　SX01 | 周辺7.5Y6/灰<br>内面天井部5PB7/1明青灰<br>口縁部周辺N5/灰 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 20% | 13.70 | － | (4.30) |
| 12 | 30 | 須恵器 | 坏蓋 | C2 | 旧耕作土層 | 外面10Y6/1灰　体部下部N6/灰　内面7.5Y6/1灰　体部下部N4/灰 | 径1～2mmの長石・黒色粒子含有 | 10% | (13.60) | － | － |
| 12 | 31 | 須恵器 | 坏蓋 | D1 | 暗褐色土層 | 10Y6/1灰 | 径1～1.5mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子多量含有 | 30% | (14.40) | － | 2.60 |
| 12 | 32 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | 灰色粘土内 | 外面N5/灰　内面7.5Y6/1灰 | 径1～4mmの長石・燈色粒子　1mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 80% | (14.0) | － | 2.15 |
| 12 | 33 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | N4/灰 | 径1～2mmの長石　1mmの黒色粒子　微細透明石英少量含有 | 70% | 13.20 | － | 3.45 |
| 12 | 34 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | 暗褐色土層 | N4/灰<br>7.5Y6/1灰（変色部分） | 径1mmの長石<br>1～4mmの黒色粒子含有 | 98% | 11.85 | － | 3.45 |
| 12 | 35 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | 外面10YR6/1灰<br>内面10Y7/1灰白<br>（釉）10Y3/1オリーブ黒 | 径1～1.5mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 50% | (11.40) | － | 2.81 |
| 12 | 36 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | 黒灰色砂質粘土直上 | N5/灰 | 径1～3mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子多量含有 | 98% | － | － | － |
| 12 | 37 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | 外面天井部N7/灰白　体部N5/灰　口縁部N3/暗灰（釉化）内面N6/灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁部20% | (14.20) | － | － |
| 12 | 38 | 須恵器 | 坏蓋 | C3 | | 外面N6/灰　内面N5/灰<br>重ね焼き部分N4/灰 | 径1～2mmの長石 1mmの黒色粒子 | 30% | (11.96) | － | (3.95) |
| 12 | 39 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | 外面N4/灰　（釉N2/黒）<br>内面N6/灰　一部N4/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 口縁～体部20% | (12.10) | － | － |
| 12 | 40 | 須恵器 | 坏蓋 | D2 | 旧耕作土層 | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 口縁部40% | (11.88) | － | － |
| 12 | 41 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | 外面7.5Y5/1灰<br>内面7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 70% | 10.70 | － | 2.08 |
| 12 | 42 | 須恵器 | 坏蓋 | C2 | 旧耕作土層 | N6/灰<br>内面口縁部周辺N3/暗灰 | 径1mmの長石・黒色粒子<br>燈色粒子含有 | 体部40% | (9.74) | － | － |

## 助宗古窯群出土土器観察表（２）

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 43 | 須恵器 | 坏身・坏蓋 | B2 | | 坏身・内外面N8/灰白<br>坏蓋・内面N6/灰、N7/灰白 | 坏身・径3mm以下の白色粒子含有<br>坏蓋・径2mm以下の白色粒子含有 | 坏身・体部100%　坏蓋・高台部100% | － | (10.0) | － |
| 12 | 44 | 須恵器 | 坏蓋 | B2 | | 内面N5/灰・N4/灰　外面N7/灰白 | 白色粒子含有 | 口縁～体部30% | (9.0) | － | 2.90 |
| 13 | 45 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | 7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部～底部16% | (17.80) | (10.12) | 6.60 |
| 13 | 46 | 須恵器 | 坏身 | D2 | 灰原 | 外面N3/暗灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 底部45% | － | (12.0) | － |
| 13 | 47 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 撹乱層 | 7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部55% | － | (9.60) | － |
| 13 | 48 | 須恵器 | 坏身 | E2 | | 外面5Y6/1灰<br>内面10YR6/2灰黄褐 | 径1mmの長石<br>1～4mmの黒色粒子含有 | 底部16% | － | (12.30) | － |
| 13 | 49 | 須恵器 | 坏身 | B3 | | N5/灰 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 底部35% | － | (11.0) | － |
| 13 | 50 | 須恵器 | 坏身 | B3 | 旧耕作土層 | 外面N4/灰　内面N7/灰白 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 底部25% | － | (10.20) | － |
| 13 | 51 | 須恵器 | 坏身 | B3 | | 外面N7/灰白<br>（釉？N5/灰）内面N5/灰 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 底部16% | － | (10.40) | － |
| 13 | 52 | 須恵器 | 坏身 | B2 | 旧耕作土層 | N5/灰 | 径1mmの長石　1～2mmの黒色粒子　茶色粒子含有 | 底部25% | － | (9.90) | － |
| 13 | 53 | 須恵器 | 坏身 | C2 | | 外面N5/灰<br>内面10YR6/2灰黄褐 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部12% | － | (10.80) | － |
| 13 | 54 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N3/暗灰　内面5Y6/1灰 | 径1～3mmの長石　1～2mmの黒色粒子　砂粒　9mmの礫含有 | 底部85% | － | (10.0) | － |
| 13 | 55 | 須恵器 | 坏身 | C1 | 盛土 | 外面5Y6/1灰　内面N5/灰 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子　砂粒含有 | 口縁部16% | (17.36) | － | － |
| 13 | 56 | 須恵器 | 坏身 | E2 | 旧耕作土層 | N4/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 口縁～体部16% | (16.20) | － | － |
| 13 | 57 | 須恵器 | 坏身 | | 調査区外 | 内外面N7/灰白<br>（釉2.5Y6/1オリーブ灰） | 白色粒子含有 | 口縁～体部20% | (12.50) | － | － |
| 13 | 58 | 須恵器 | 坏身 | B2 | 撹乱層 | 外面5Y6/1灰<br>内面5Y7/1灰白 | 径1～2mmの長石　1～3mmの黒色粒子　1～2mmの茶色粒子含有 | 75% | (12.80) | (9.0) | 4.0 |
| 13 | 59 | 須恵器 | 坏身 | B3 | 旧耕作土層 | 外面10YR3/1黒褐<br>内面7.5Y4/1灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子　砂粒含有 | 底部40% | － | (8.80) | － |
| 13 | 60 | 須恵器 | 坏身 | B3 | 旧耕作土層 | 外面10Y6/1灰<br>内面N7/灰白 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁部20%・底部70% | (12.60) | (8.5) | 3.45 |
| 13 | 61 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面5Y5/2灰オリーブ<br>内面10YR7/1灰白 | 径1～3mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 底部40% | － | (8.0) | － |
| 13 | 62 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | N6/灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子　砂粒含有 | 底部25% | － | (7.20) | － |
| 13 | 63 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 2.5Y6/1黄灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部70% | － | 7.0 | － |
| 13 | 64 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 撹乱層 | 外面N4/灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石　1～2.5mmの黒色粒子含有（鉄の吹き出しか） | 口縁～体部25%・底部70% | (9.70) | (5.60) | 4.03 |
| 13 | 65 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面7.5Y6/1灰　底部5PB7/1明青灰　内面7.5Y5/1灰 | 径1mmの長石　0.5mmの黒色粒子わずか・燈色粒子含有 | 20% | (12.40) | (7.40) | 4.87 |
| 13 | 66 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N4/灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石　1～1.5mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 65% | (10.0) | (6.12) | 3.90 |
| 13 | 67 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 周辺7.5Y5/1灰<br>内面7.5Y5/1灰<br>底部5Y7/2灰色 | 径0.5～1.5mmの長石<br>0.5mmの黒色粒子わずかに含有 | 口縁～体部15%・底部50% | (12.6) | (6.4) | 4.80 |
| 14 | 68 | 須恵器 | 無高台坏身 | B2 | 褐灰色砂質土層 | N5/灰 | 径1～3mmの長石<br>砂粒　黒色粒子少量含有 | 100% | 10.60 | 6.60 | 3.92 |
| 14 | 69 | 須恵器 | 無高台坏身 | B2 | | 外面10Y4/1灰　内面N6/灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁～体部15%・底部25% | (10.20) | (7.80) | 3.48 |
| 14 | 70 | 須恵器 | 無高台坏身 | C2 | | 外面N3/暗灰　内面10YR7/2にぶい黄燈 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部～底部12% | － | (8.0) | － |
| 14 | 71 | 須恵器 | 無高台坏身 | C1 | 旧耕作土層 | 外面10YR4/2灰黄褐（釉）<br>内面2.5Y6/2灰黄 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 底部65% | － | (6.60) | － |
| 14 | 72 | 須恵器 | 坏身 | C1 | | 外面N5/灰　内面N7/灰白 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子　砂粒含有 | 底部50% | － | (10.20) | － |
| 14 | 73 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N6/灰　内面N5/灰 | 径1mm以下の長石・黒色粒子<br>砂粒少量含有 | 底部20% | － | (6.90) | － |
| 14 | 74 | 須恵器 | 坏身（摸倣坏） | B2 | | 外面口縁部～内面N4/灰<br>外面体部～底部2.5Y7/1灰白 | 径1mmの長石　1～2.5mmの黒色粒子　砂粒わずか<br>燈色粒子わずかに含有 | 口縁～体部25%・底部50% | (15.20) | (8.30) | 5.60 |
| 14 | 75 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N4/灰　内面N5/灰（釉7.5Y3/2オリーブ黒） | 径1mmの長石・黒色粒子　茶色粒子含有 | 底部40% | － | (9.0) | － |
| 14 | 76 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面10YR6/1褐灰<br>内面N6/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部35% | － | (8.20) | － |
| 14 | 77 | 須恵器 | 坏身 | C2 | | 2.5Y6/1黄灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部20% | － | (8.40) | － |
| 14 | 78 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | N6/灰 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子　茶色粒子含有 | 底部35% | － | (6.57) | － |
| 14 | 79 | 須恵器 | 坏身 | C3 | 旧耕作土層 | 5Y6/1灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 底部15% | － | (9.0) | － |
| 14 | 80 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N6/灰　内面N5/灰 | 径1～2mmの長石　砂粒　礫含有 | 体部25%<br>底部100% | － | (6.60) | － |
| 14 | 81 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | 外面N5/灰　内面5Y6/1灰 | 径1mmの長石<br>1～3mmの黒色粒子含有 | 底部15% | － | (7.0) | － |
| 14 | 82 | 須恵器 | 坏身 | C3 | | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部15% | － | (8.0) | － |
| 14 | 83 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面2.5Y7/1灰白<br>内面2.5Y6/2灰黄 | 径1mmの長石・黒色粒子　砂粒<br>3mmの礫含有 | 底部100% | － | (6.60) | － |
| 14 | 84 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面2.5Y7/1灰白<br>内面10YR7/3にぶい黄燈（火のあとN5/灰） | 径1mmの長石・黒色粒子　砂粒<br>3mmの礫含有 | 体部25%<br>底部70% | － | (6.44) | － |
| 14 | 85 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | 5Y7/1灰白 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 底部15% | － | (7.2) | － |

## 助宗古窯群出土土器観察表（３）

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 86 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子　砂粒 燈色粒子含有 | 底部35% | － | (6.0) | － |
| 14 | 87 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面10Y8/1灰白 内面N6/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部35% 底部100% | － | 6.20 | － |
| 14 | 88 | 須恵器 | 坏身 | B3 | | 外面7.5Y6/1灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 底部10% | － | (6.60) | － |
| 14 | 89 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | 外面7.5Y6/1灰 内面7.5Y4/1灰 | 径1mm以下の長石・黒色粒子含有 | 体部12% 底部40% | － | (5.80) | － |
| 14 | 90 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N6/灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 底部35% | － | (7.0) | － |
| 14 | 91 | 須恵器 | 坏身 | B3 | | 7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部10% 底部20% | － | (6.0) | － |
| 14 | 92 | 須恵器 | 坏身 | C2 | 旧耕作土層 | 2.5Y6/2灰黄（内面底部の一部　2.5Y5/1黄灰） | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部25% | － | (6.20) | － |
| 15 | 93 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 10YR6/2灰黄褐 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部50% | － | (6.0) | － |
| 15 | 94 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面N5/灰 内面N4/灰（底部10Y6/1灰） | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部30% 底部100% | － | 4.80 | － |
| 15 | 95 | 須恵器 | 坏身 | B2 | | 外面7.5Y6/1灰　内面N6/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子　赤色粒子含有 | 体部30% 底部100% | － | 5.45 | － |
| 15 | 96 | 須恵器 | 坏身 | C2 | | 外面N5/灰　内面10Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部50% | － | (5.40) | － |
| 15 | 97 | 須恵器 | 坏身 | B3 | 旧耕作土層 | 5Y6/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部40% | － | (4.80) | － |
| 15 | 98 | 須恵器 | 壺G | E2 | 旧耕作土層（撹乱） | 外面N5/灰　内面7.5Y6/1灰（釉10Y4/1灰） | 径1～3mmの長石　1～2mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 口縁部～頸部100% | 6.80 | － | － |
| 15 | 99 | 須恵器 | 壺G | D2 | 旧耕作土層 | 外面～内面口縁部周辺N6/灰　内面2.5Y7/3浅黄 | 径1mmの長石 1～3mmの黒色粒子含有 | 口縁～頸部20% | (7.20) | － | － |
| 15 | 100 | 須恵器 | 壺G | E2 | 旧耕作土層 | 外面N6/灰（釉5YR3/1黒褐） 内面N7/灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子　燈色粒子含有 | 頸部～肩部25% | － | － | － |
| 15 | 101 | 須恵器 | 壺G | D2 | 旧耕作土層 | 頸部10Y7/1灰白 肩部N5/灰 | 径1mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 肩部25% | － | － | － |
| 15 | 102 | 須恵器 | 壺G | C2 | | 外面2.5Y4/1黄灰 内面N4/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 頸部20% | － | － | － |
| 15 | 103 | 須恵器 | 壺G | B3 | 灰色粘土内 | 10YR7/2にぶい黄燈 外面一部N5/灰 | 径1mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 胴部25% | － | － | － |
| 15 | 104 | 須恵器 | 壺G | B2 | | 外面5Y6/1灰（釉5Y3/1オリーブ黒）内面N7/灰白 | 径1mmの長石 1～3mmの黒色粒子含有 | 肩部20% | － | － | － |
| 15 | 105 | 須恵器 | 壺G | B2 | | 灰オリーブ　内面N5/灰 底部2.5GY3/1暗オリーブ灰（釉） | 径1mmの長石・黒色粒子　微細透明石英微量含有 | 胴部25%・底部50% | － | (5.20) | － |
| 15 | 106 | 須恵器 | 壺G | B2 | | 外面7.5Y7/1灰　白（釉7.5Y3/1オリーブ黒）　内面7.5Y7/1灰白 | 径0.5～1.5mmの長石・黒色粒子含有 | 体部50%・底部99% | － | (4.38) | － |
| 15 | 107 | 須恵器 | 壺G | B2 | | N5/灰（釉10YR3/1黒褐） | 径1mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 胴部25% | － | (4.34) | － |
| 15 | 108 | 須恵器 | 壺G | C2 | 旧耕作土層 | N5/灰 | 径1～1.5mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 底部50% | － | (4.40) | － |
| 15 | 109 | 須恵器 | 壺G | C2 | 旧耕作土層 | 外面2.5Y7/2灰黄 内面2.5Y7/3浅黄 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 黒色の吹き出し | 底部20% | － | (7.2) | － |
| 15 | 110 | 須恵器 | 壺G | B2 | | 外面5Y7/1灰白 内面5Y6/2灰オリーブ | 径1mmの長石　1～2mmの黒色粒子　赤褐色粒子少量含有 | 底部50% | － | (5.60) | － |
| 15 | 111 | 須恵器 | 盤 | B3 | 撹乱層 | N6/灰 | 径1mm以下の長石・黒色粒子少量含有 | 体部～底部15% | (20.80) | － | (2.95) |
| 15 | 112 | 須恵器 | 盤 | B3 | | N7/灰白（外面黒くなった部分N3/暗灰） | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部10% | (16.20) | － | (1.90) |
| 15 | 113 | 須恵器 | 坏蓋 | B3 | 第一トレンチ南　耕作土層 | 外面N5/灰　内面N7/灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 65% | (9.20) | － | 2.20 |
| 15 | 114 | 須恵器 | 広口壺 | D2 | | 外面2.5Y6/2灰黄 内面2.5Y7/1灰白 | 径1～2mmの長石・黒色粒子含有 | 胴部20% | － | － | － |
| 15 | 115 | 須恵器 | 壺 | B3 | 暗褐色土層 | N3/暗灰（断面10YR8/2灰白） | 径1～4mmの長石 1mmの黒色粒子含有 | 口縁部25% | (10.80) | － | － |
| 15 | 116 | 須恵器 | 獣足脚 | B2 | | 7.5Y6/1灰 | 径1mm以下の長石微量含有 | 脚部 | － | － | － |
| 15 | 117 | 須恵器 | 壺 | E2 | 旧耕作土層 | 外面10YR3/2黒褐（釉） 内面10YR4/1褐灰 | 径1mmの長石　砂粒含有 | 口縁部15% | (21.0) | － | － |
| 15 | 118 | 須恵器 | 皿 | D1 | 旧耕作土層 | N5/灰 | 径1～2mmの長石 1mmの黒色粒子　砂粒含有 | 50% | (14.70) | － | (1.80) |
| 16 | 119 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | 内面N7/灰白 外面5Y7/2灰白 | 白色粒子含有 | 30% | (11.30) | (6.0) | 3.70 |
| 16 | 120 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | 7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石 0.5～2mmの黒色粒子多量含有 | 40% | (15.0) | (6.8) | 5.0 |
| 16 | 121 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | N5/灰 | 径1～2mmの長石 1mmの黒色粒子含有 | 50% | 11.84 | 4.50 | 3.75 |
| 16 | 122 | 須恵器 | 糸切り碗 | B2 | | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 口縁～体部40% | (12.82) | － | － |
| 16 | 123 | 須恵器 | 糸切り碗 | C2 | 旧耕作土 | 内外面N7/灰白 | 白色粒子含有 | 10% | (12.40) | (5.30) | 3.55 |
| 16 | 124 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | 10Y5/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 口縁～体部40% | (12.60) | － | － |
| 16 | 125 | 須恵器 | 糸切り碗 | B2 | | N5/灰 | 径1～2mmの長石・黒色粒子含有 | 20% | (12.60) | (4.80) | 4.10 |
| 16 | 126 | 灰釉 | 糸切り碗 | D1 | 旧耕作土層 | 10Y4/1灰 | 径1mmの長石 1～2mmの黒色粒子含有 | 10% | (12.20) | (5.06) | (3.10) |
| 16 | 127 | 須恵器 | 糸切り碗 | B2 | | 外面10YR7/2にぶい黄燈 内面10YR7/1灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子・赤色粒子含有 | 底部100% | － | 4.85 | － |
| 16 | 128 | 須恵器 | 糸切り碗 | B2 | | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部～底部25% | － | (6.40) | － |
| 16 | 129 | 灰釉？ | 糸切り碗 | B3 | 第2トレンチ　暗淡褐色土層 | 外面N6/灰 内面2.5Y/7/1灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 体部15% 底部98% | － | (4.80) | － |
| 16 | 130 | 灰釉？ | 糸切り碗 | D2 | 旧耕作土層 | 2.5Y6/1黄灰 | 径1mmの長石・黒色粒子 1～3mmの茶色粒子含有 | 体部～底部25% | － | (4.60) | － |

## 助宗古窯群出土土器観察表（4）

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 131 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 30% | (11.68) | (5.0) | 3.60 |
| 16 | 132 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | 外面N5/灰　内面7.5Y5/1灰<br>内外面口縁部周辺N3/暗灰 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 口縁～体部25%・底部100% | (13.0) | 5.0 | 3.10 |
| 16 | 133 | 灰釉 | 糸切り碗 | B2 | | 外面5Y7/1灰白<br>内面5Y6/1灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 30% | (12.4) | (5.30) | 3.50 |
| 16 | 134 | 灰釉 | 糸切り碗 | C2 | 撹乱層 | 外面N5/灰　内面5Y6/灰 | 径1～2mmの長石含有 | 底部50% | － | (5.60) | － |
| 16 | 135 | 灰釉 | 糸切り碗 | C2 | 暗褐色土層 | 5Y6灰 | 径1mmの長石<br>1～3mmの黒色粒子含有 | 35% | (11.34) | (5.44) | 3.75 |
| 16 | 136 | 須恵器 | 碗 | B2 | | 外面7.5Y6/1灰<br>内面7.5Y5/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子わずかに含有 | 口縁～体部20%・底部35% | (13.0) | (6.2) | 3.45 |
| 16 | 137 | 須恵器 | 皿 | E2 | 旧耕作土層 | N4/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子<br>3mmの茶色粒子含有 | 底部40% | － | (6.20) | － |
| 16 | 138 | 須恵器 | 碗 | B2 | | N5/灰 | 径1mm以下の長石　黒色粒子　砂粒少量含有 | 10% | (12.75) | (7.20) | 4.0 |
| 16 | 139 | 須恵器 | 皿 | B3 | 第2トレンチ南<br>暗淡褐色土層 | 5Y6/1灰（釉10YR4/1褐灰） | 径1mmの長石・黒色粒子　茶色粒子含有 | 底部97% | － | 6.0 | － |
| 16 | 140 | 須恵器 | 皿 | B2 | | 外面N5/灰　内面7.5Y5/1灰 | 径1mmの長石・黒色粒子わずかに含有 | 口縁～体部15%・底部50% | (13.60) | (6.20) | 2.60 |
| 16 | 141 | 須恵器 | 皿 | B3 | 第1トレンチ耕作土 | 内外面5Y7/1灰白 | 白色粒子含有 | 15% | (13.80) | (6.10) | 2.90 |
| 17 | 142 | 須恵器 | 碗 | B2 | | N4/灰 | 径1mmの長石　1～1.5mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 35% | (15.90) | (7.0) | 4.95 |
| 17 | 143 | 灰釉 | 皿 | B2 | | 5Y7/1灰白 | 径1mmの長石<br>0.5mmの黒色粒子わずかに含有 | 口縁～体部20%・底部40% | (13.70) | (6.0) | 3.10 |
| 17 | 144 | 須恵器 | 皿 | B2 | | 5YR4/1褐灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 10% | (13.86) | (6.0) | 2.75 |
| 17 | 145 | 灰釉 | 皿 | B3 | 第6トレンチ　耕作土層 | 外面5Y7/1灰白<br>外面口唇部～内面（釉）5Y5/2灰オリーブ | 径1～5mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 10% | (13.0) | (6.20) | 3.4 |
| 17 | 146 | 灰釉 | 碗 | B3 | | 2.5YR5/3にぶい赤褐<br>内面底部5YR5/1褐灰 | 径1～3mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 底部60% | － | (6.64) | － |
| 17 | 147 | 灰釉 | 碗 | | 旧耕作土層 | 10YR4/1褐灰<br>底部10YR7/2にぶい黄燈 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子　黒雲母含有 | 体部30%<br>底部80% | － | (7.0) | － |
| 17 | 148 | 灰釉 | 碗 | C2 | 旧耕作土 | 内面2.5Y7/1灰白<br>外面2.5Y7/2灰黄 | 径7mm大の礫や白色粒子含有 | 96% | － | (6.20) | － |
| 17 | 149 | 灰釉 | 碗 | B2 | | 内外面N7/灰白 | 白色粒子含有 | 底部30%<br>体部20% | － | (6.20) | － |
| 17 | 150 | 灰釉 | 碗 | C2 | 旧耕作土 | 内面N6/灰・10YR6/2灰黄褐　外面2.5Y6/1黄灰 | 白色粒子含有 | 底部～体部15% | － | (7.80) | － |
| 17 | 151 | 灰釉 | 碗 | B3 | 第3トレンチ盛土 | 内外面5Y6/1灰 | 白色粒子含有 | 底部～体部30% | － | (5.90) | － |
| 17 | 152 | 灰釉 | 碗 | C2 | 旧耕作土 | 内外面5Y8/1灰白<br>(釉5Y6/2灰オリーブ) | 白色粒子含有　黒色の吹き出し | 底部45% | － | (6.40) | － |
| 17 | 153 | 灰釉 | 碗 | C2 | 第8トレンチ　耕作土層 | 7.5Y7/1灰白 | 径1～2mmの長石<br>1mmの黒色粒子含有 | 底部30% | － | (7.20) | － |
| 17 | 154 | 灰釉 | 碗 | B2 | 旧耕作土層 | N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子　砂粒含有 | 底部90% | － | 7.10 | － |
| 17 | 155 | 灰釉 | 碗 | B3 | 旧耕作土 | 内面N6/灰<br>外面10YR7/2にぶい黄燈 | 白色粒子含有 | 底部～体部30% | － | (6.0) | － |
| 17 | 156 | 山茶碗 | 碗 | C2 | 旧耕作土層 | 10YR5/2灰黄褐<br>底部内外面一部N3/暗灰 | 径1mmの長石・黒色粒子　赤色粒子含有 | 底部100% | － | 6.60 | － |
| 17 | 157 | 灰釉 | 碗 | B2 | | 内面N7/灰・N6/灰<br>外面N5/灰 | 白色粒子含有 | 底部25% | － | (6.0) | － |
| 17 | 158 | 灰釉 | 碗 | C2 | 旧耕作土層 | 外面N6/灰<br>内面2.5Y6/1黄灰 | 径1mmの長石・黒色粒子　茶色粒子含有 | 底部30% | － | (5.90) | － |
| 17 | 159 | 須恵器 | 広口瓶 | C2 | 旧耕作土層 | 内外面10Y3/1オリーブ黒<br>断面7.5R4/1暗赤灰 | 径1mmの長石　1～1.5mmの黒色粒子含有　黒色の吹き出し | 口縁部15% | (13.0) | － | － |
| 17 | 160 | 須恵器 | 長頸瓶 | B2 | | 内面N7/灰白<br>外面N7/灰白・N4/灰 | 白色粒子含有 | 口縁部30% | (7.50) | － | － |
| 17 | 161 | 須恵器 | 長頸瓶 | B2 | | 外面7.5Y5/1灰<br>内面7.5Y6/1灰 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁部30% | (8.42) | － | － |
| 18 | 162 | 灰釉 | 広口瓶 | B3 | 第一トレンチ　耕作土層 | 外面2.5Y5/2暗灰黄<br>(釉2.5Y6/2灰黄)<br>内面2.5Y6/2灰黄 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁部15% | (20.0) | － | － |
| 18 | 163 | 灰釉 | 広口瓶 | B2 | | 外面N6/灰（口縁部一部10Y6/1灰）　内面N7/灰白 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 口縁部5%・頸部15% | (18.40) | － | － |
| 18 | 164 | 灰釉 | 広口瓶 | B2 | | 外面2.5Y6/1黄灰<br>内面2.5Y7/1灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部～胴部25% | － | (10.0) | － |
| 18 | 165 | 灰釉 | 広口瓶 | B2 | | 外面10YR6/1褐灰<br>内面10YR7/1灰白 | 径1mmの長石<br>1～2mmの黒色粒子含有 | 底部5%・胴部15% | － | (7.60) | － |
| 18 | 166 | 灰釉 | 広口瓶 | B2 | | 外面N6/灰　(釉) 7.5Y4/1灰　内面10YR7/1灰白 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部80% | － | 7.40 | － |
| 18 | 167 | 志戸呂焼 | 甕 | B3 | | 外面2.5YR3/2暗赤褐<br>内面7.5YR2/1黒 | 径1mmの長石<br>微細透明石英　赤色粒子含有 | 底部10% | － | (12.0) | － |
| 18 | 168 | 須恵器 | 甕 | B2 | | 外面N6/灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石・黒色粒子含有 | 底部15% | － | (10.0) | － |
| 18 | 169 | 山茶碗 | 小碗 | C3 | 撹乱層 | 外面5Y7/1灰白　内面2.5GY4/1暗オリーブ灰(釉) | 径1～3.5mmの長石多量<br>1～1.5mmの黒色粒子含有 | 98% | 8.90 | 4.70 | 2.10 |
| 18 | 170 | 山茶碗 | 小碗 | C3 | 撹乱層 | 外面10Y6/1灰　内面N5/灰 | 径1mmの長石<br>1～1.5mmの黒色粒子含有 | 40% | (8.54) | (4.0) | 2.0 |
| 18 | 171 | 灰釉？ | 皿？ | B3 | 第1トレンチ耕作土 | 内面10YR6/2灰黄褐<br>外面2.5Y7/1灰白 | 白色粒子含有 | 底部～体部35% | － | (6.60) | － |
| 18 | 172 | 灰釉 | 碗 | | 細谷E | 内外面7.5Y7/1灰白<br>(釉7.5Y5/2灰オリーブ) | 白色粒子含有 | 口縁～体部15% | (12.60) | － | － |

## 第４表　助宗古窯群出土土製品観察表

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | グリッド | 層位・遺構 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 器高(cm) | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 13 | 土錘 | C2 | 撹乱層 | 7.5YR8/1灰白 | 径1mm以下の長石　微細透明石英　砂粒含有 | 80% | (3.52) | 1.0 | － | 2.24 |
| 19 | 173 | 土錘 | B2 | 撹乱層 | 7.5Y5/1灰 | 径1mm以下の長石　微細透明石英　砂粒黒色粒子含有 | 100% | 3.22 | 1.82 | － | 10.08 |
| 19 | 174 | 土錘 | B2 |  | 7.5YR6/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 99% | 3.06 | 1.47 | － | 4.49 |
| 19 | 175 | 土錘 | B2 |  | 10Y6/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 90% | (3.15) | 1.05 | － | 2.73 |
| 19 | 176 | 土錘 | B2 |  | 10YR6/4にぶい黄燈 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 70% | (2.50) | 1.08 | － | 1.56 |
| 19 | 177 | 土錘 | B3 | 旧耕作土層（撹乱層） | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 99% | 3.37 | 1.99 | － | 10.68 |
| 19 | 178 | 土錘 | B3 | 第1トレンチ旧耕作土層 | 2.5Y5/2暗灰黄 | 径1mm以下の長石　微細透明石英　砂粒黒色粒子含有 | 99% | 3.50 | 1.75 | － | 7.76 |
| 19 | 179 | 土錘 | B3 | 撹乱層 | 10YR6/1褐灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 2.89 | 1.65 | － | 6.31 |
| 19 | 180 | 土錘 | B3 |  | 2.5Y6/1黄灰 | 径1～4mmの長石　砂粒　黒色粒子含有 | 30% | 6.32 | 4.43 | － | 80.76 |
| 19 | 181 | 土錘 | B3 |  | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒微量含有 | 15% | (2.59) | (3.81) | － | 17.05 |
| 19 | 182 | 土錘 | B3 |  | 7.5YR7/3にぶい燈 | 径1mm以下の長石　砂粒　赤色粒子含有 | 25% | (3.22) | (3.68) | － | 11.22 |
| 19 | 183 | 土錘 | B3 | 旧耕作土層（撹乱層） | 5Y3/1オリーブ黒わずかに釉付着か？ | 長石微量含有 | 25% | (2.38) | (2.59) | － | 9.41 |
| 19 | 184 | 土錘 | B3 | 第1トレンチ旧耕作土層 | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒微量含有 | 100% | 3.70 | 1.99 | － | 11.71 |
| 19 | 185 | 土錘 | B3 | 旧耕作土層（撹乱層） | N4/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 100% | 3.40 | 1.72 | － | 9.05 |
| 19 | 186 | 土錘 | B3 | 第1トレンチ旧耕作土層 | 7.5Y4/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 100% | 3.18 | 1.56 | － | 7.93 |
| 19 | 187 | 土錘 | B2 |  | 7.5YR6/2灰褐 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 99% | 3.45 | 1.62 | － | 6.79 |
| 19 | 188 | 土錘 | 不明 | 不明 | 10YR7/1灰白 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 99% | 2.85 | 1.72 | － | 5.06 |
| 19 | 189 | 土錘 | B3 | 撹乱層 | N4/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 99% | 2.69 | 1.38 | － | 4.47 |
| 19 | 190 | 土錘 | B3 | 暗褐色土層 | N6/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 2.65 | 1.4 | － | 4.97 |
| 19 | 191 | 土錘 | B3 |  | 10Y5/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 99% | 2.40 | 1.62 | － | 5.49 |
| 19 | 192 | 土錘 | B3 |  | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　赤色粒子含有 | 85% | 3.73 | 1.23 | － | 4.81 |
| 19 | 193 | 土錘 | B2 |  | 10Y5/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 99% | (4.25) | 0.98 | － | 3.38 |
| 19 | 194 | 土錘 | B3 | 暗褐色土層 | N6/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 3.67 | 1.11 | － | 3.98 |
| 19 | 195 | 土錘 | C2 |  | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒微量含有 | 90% | 4.59 | 2.41 | － | 27.04 |
| 19 | 196 | 土錘 | C2 |  | 2.5Y5/1黄灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 3.08 | 1.69 | － | 7.46 |
| 19 | 197 | 土錘 | C2 | 暗褐色土層 | 10YR8/3浅黄燈 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 65% | (2.32) | 1.58 | － | 4.04 |
| 19 | 198 | 土錘 | D2 | 暗褐色土層 | N5/灰 | 径1mm以下の長石　砂粒含有 | 90% | 4.08 | 1.77 | － | 11.20 |
| 19 | 199 | 土錘 | D2 | 旧耕作土層 | 7.5Y5/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 3.20 | 1.78 | － | 8.90 |
| 19 | 200 | 土錘 | D2 | 旧耕作土層 | 7.5YR5/1灰 | 径1mm以下の長石　砂粒　黒色粒子含有 | 100% | 2.29 | 1.20 | － | 3.34 |
| 19 | 201 | 不明 | C1 | 旧耕作土層 | 10YR7/3にぶい黄燈 | 長石微量含有 | － | (3.60) | 2.20 | － | － |
| 20 | 202 | 瓦塔・五輪塔 | E2 | 旧耕作土層 | 2.5Y8/1灰白 | 径1mm以下の長石微量含有<br>黒色の吹き出し多い | 屋蓋部破片 | (7.60) | (13.10) | (1.62) | － |

## 第５表　助宗古窯群出土石製品観察表

| 図番 | 図版番号 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 203 | 打製石斧 | B3 | 褐灰色砂質粘土 | 12.28 | 4.68 | 2.20 | 148.0 | 暗灰色粗粒砂岩 |  |
| 20 | 204 | 砥石 | B3 |  | (9.70) | (4.78) | (3.58) | 248.9 | 褐灰色細粒砂岩 |  |

# 第３章　寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳

## 第１節　調査の方法と経過

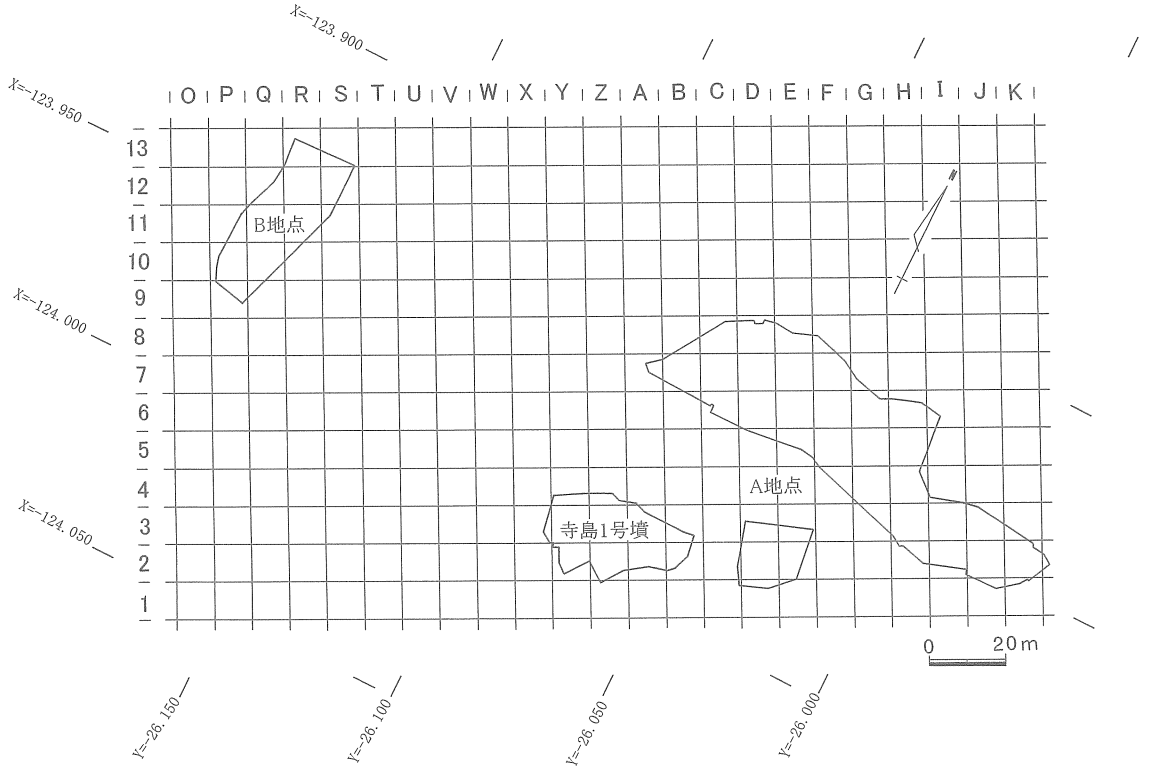
### １．発掘調査の方法と経過

#### （１）発掘調査の方法

確認調査の結果によって把握された遺跡の広がりから、遺跡の立地する丘陵北東部の緩斜面を中心とした地区をＡ地点、西側に約100ｍ離れた丘陵北西部の緩斜面をＢ地点とした（第23図）。Ａ地点に隣接する丘陵頂部からは確認調査時に鉄斧とヤリガンナが出土し、古墳であることが判明したため、寺島大谷古墳（寺島大谷１号墳）として調査を進めた。なお、本調査対象面積はＡ地点が3,262㎡、Ｂ地点が581㎡、寺島大谷古墳が595㎡である。

調査はまず、バックホウを使用した表土除去作業から行った。表土除去は確認調査で確認された層位に従って、遺物包含層上面まで行い、引き続き人力による遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を実施した。重機及び人力掘削によって生じた排土は、調査区内を分割する形で仮置場を設定したうえで仮集積し、適宜重機によって処理を行った。

調査における測量及び遺物取上げを正確かつ円滑に行うために10ｍ方眼のグリッドを設定した。グリッドは第21図に示すように、調査区の形状に合わせる形で設定し、南北軸は南から1、2、3・・・と番号を付した。また、東西軸はＡ地区西端を起点として東に向かってＡ、Ｂ、Ｃ・・・と記号を付し、起点から西に向かってはＺ、Ｙ、Ｘ・・・と記号を付した。各グリッドは、例えばＡ－１区という形で南西の交点をもって呼称した。なお、グリッドの設置の際に設定した基準点は改正前の国土座標（日本




第21図　グリッド配置図

測地系）に拠っている。

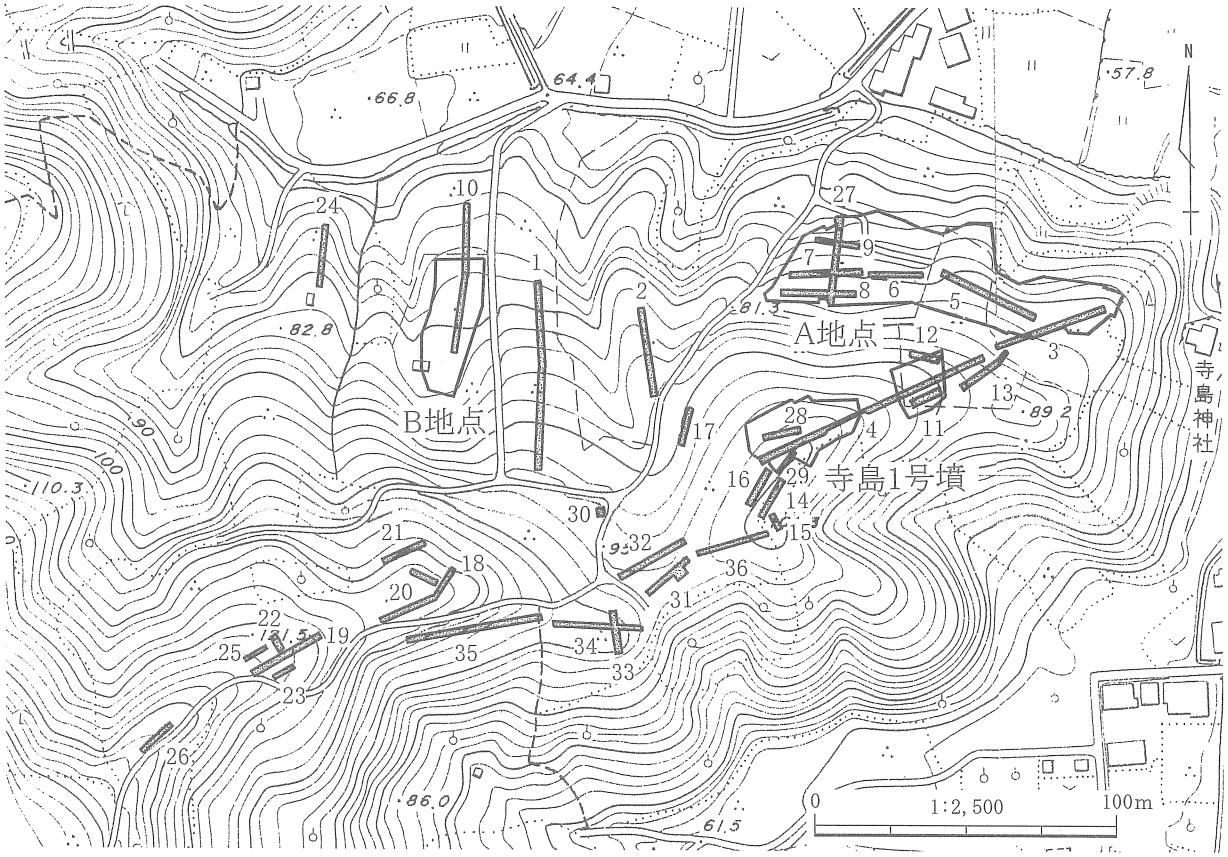
遺構測量及び遺物取り上げについては、トータルステーション及びオートレベルを使用し、1/20を基本として行い、遺物出土状況などの詳細図については必要に応じて1/10で図化を行った。調査の迅速化を図るため、遺構完掘状況測量及び図化作業の一部を、ラジコンヘリを使用した空中写真測量を行った。測量業務は上記基準点及びグリッド杭設置と併せて㈱フジヤマに委託した。

現地における写真撮影については、６×７判モノクロフィルム、35㎜判リバーサルフィルム・モノクロフィルム・カラーネガフィルムを使用した。完掘全景写真は上記空中写真測量と併せて、６×4.5判リバーサルフィルム・モノクロフィルムを使用して行っている。

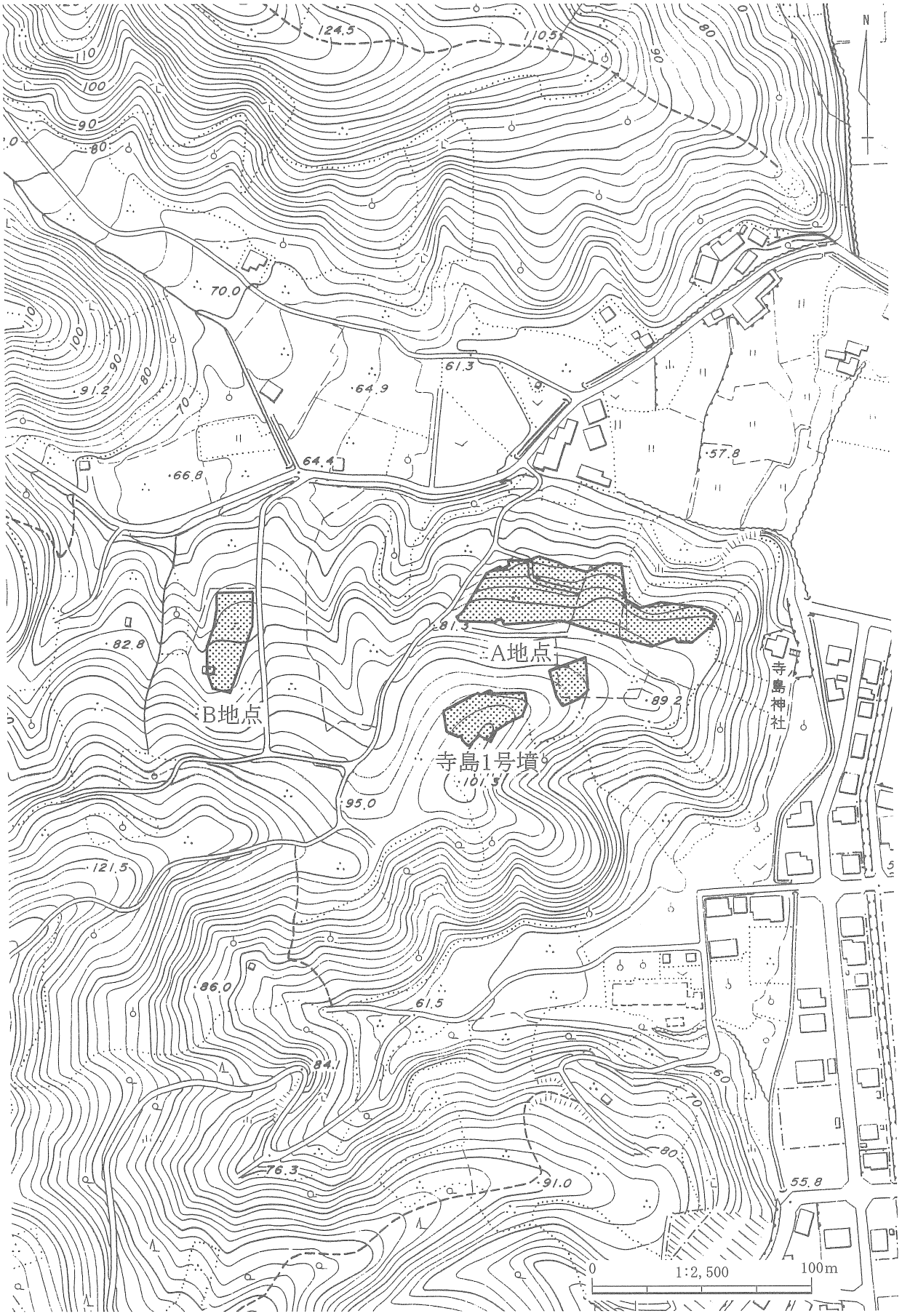
### （２）発掘調査の経過

確認調査は平成９年11月～平成９年12月にかけて、調査対象地に№１～26の試掘坑を設定して実施した（第22図）。その結果、遺跡の広がりが明らかとなった上記寺島大谷遺跡Ａ地点・Ｂ地点及び寺島大谷古墳について、平成10年１月より本調査を実施する運びとなった。確認調査の状況は『衣原古墳群　衣原遺跡　衣原古窯群』発掘調査報告書で報告されているので参照されたい（静岡埋文研2010）。また、本調査と並行して№27～36のトレンチを設定して一部対象地についての確認調査を実施し、遺跡の広がりが確認された部分については本調査へと移行している。

本調査は平成10年１月26日よりＢ地点の調査から着手した。調査はまず重機による表土除去から行い、２月２日からは現地作業員による人力掘削作業を開始し、面的な包含層掘削、遺構掘削作業を行った。Ｂ地点ではピット、炉などが検出されている。遺構及び出土した遺物は写真撮影、実測作業などの記録作成を適宜実施し、２月27日に調査を終了させた。２月16日からはＡ地点の調査に着手した。Ａ地点は




第22図　トレンチ配置図




第23図　周辺地形と調査区

工事用道路を先行して引き渡すため、北東側調査区の一部を対象として調査を先行させた。Ａ地点の面的な調査とともに、丘陵頂部に存在する寺島大谷１号墳の調査を実施し、重機による表土除去、現地作業員による包含層掘削、遺構掘削作業を行った。調査区内には樹木が多く繁茂していたため、人力による抜根作業を並行して実施している。Ａ地点では竪穴住居を中心とした遺構群、また寺島大谷１号墳では木棺直葬の主体部が発見されているが、これら遺構及び出土遺物については適宜実測及び撮影を行った。また委託による完掘状況の空中写真測量及び写真撮影を適宜実施することにより、適切な記録保存を心がけた。９月14～18日には重機による埋め戻しとともに撤去作業を行い、調査を終了した。

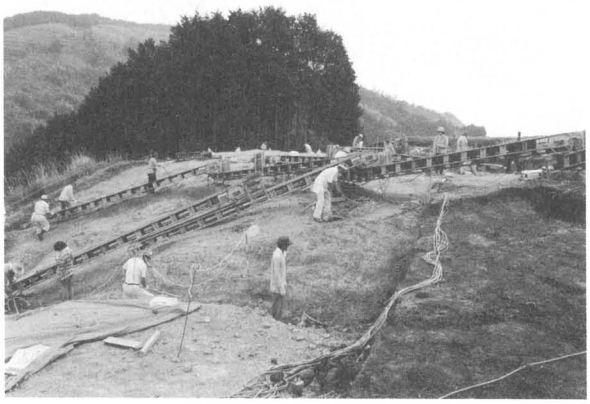


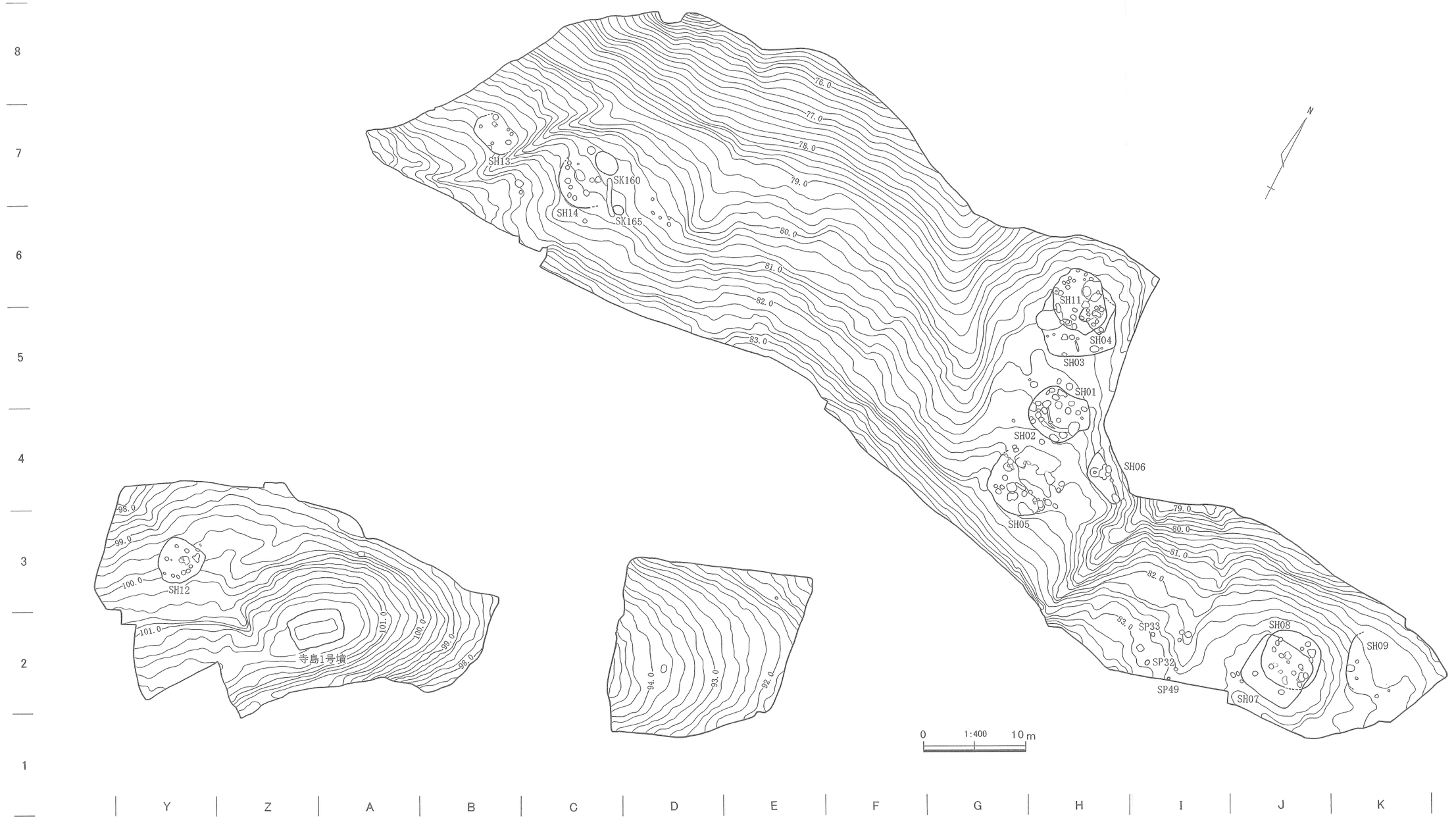
写真３　寺島大谷遺跡Ａ地点発掘調査状況

写真４　寺島大谷1号墳調査状況

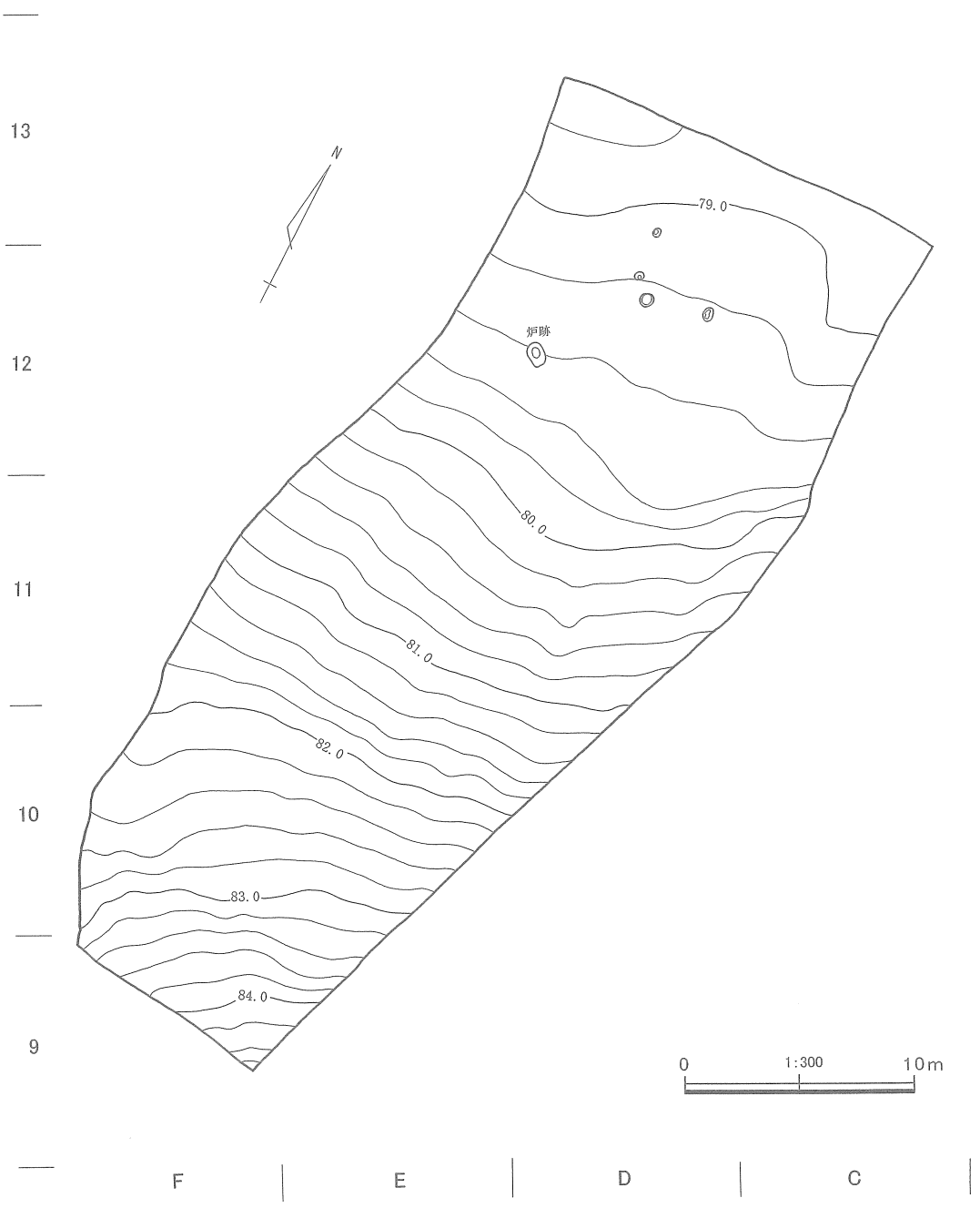
## ２．資料整理の方法と経過

第二東名建設に伴う発掘調査については現地調査を優先するという方針から、資料整理は各工区における現地調査が終了する段階から実施することとなった。資料整理の前段階としての基礎整理作業、すなわち出土遺物の洗浄・注記、写真整理、図面整理、各種台帳作成といった作業を逐次進め、本格的な資料整理作業に備えた。

本格的な資料整理及び報告書作成作業は№86地点助宗古窯群と同時並行の形で、平成22年４月より中原整理事務所で実施している。出土遺物は分類・仕分け・接合作業を経て、復原可能な遺物は樹脂を用いて復原作業を行った。また遺構出土遺物、残存度の高い個体を中心に抽出して実測を行い、報告書掲載のために版組・トレースを実施した。出土遺物の写真撮影は６×７判モノクロ及びリバーサルフィルムを中心に使用し、当研究所本部写真室にて行った。遺構図については現地で作成した遺構図、遺物出土状況図などを編集して版組・トレースを行い、現地で撮影した遺構写真については報告書の体裁に即して版組を行った。これら作業と並行して報告書の執筆と編集作業を進め、発掘調査報告書を刊行した。出土遺物及び図面・写真等の記録類は上記作業終了後、台帳を作成した上で収納した。




第24図　寺島大谷遺跡Ａ地点・寺島大谷古墳全体図

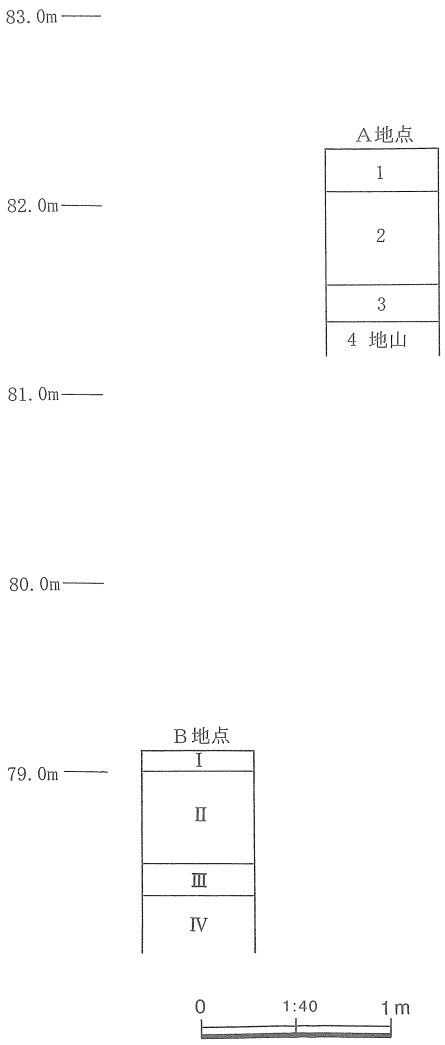



第25図　寺島大谷遺跡Ｂ地点全体図

# 第２節　概要

## １．地形

寺島大谷遺跡と寺島大谷古墳はＪＲ藤枝駅から北西に約５㎞離れた瀬戸川中流域の右岸の低位丘陵に位置する。遺跡周辺の瀬戸川の左岸や右岸には標高100～200ｍほどの丘陵が広がっている。寺島大谷遺跡は瀬戸川右岸の丘陵から東に向かって延びる、標高79～83ｍの支丘陵尾根上、及び北側の斜面を中心に立地する。また、寺島大谷１号墳は標高102ｍの丘陵頂上部に位置している。遺跡周辺は瀬戸川が形成した助宗地区及び寺島地区の沖積平野部を北東に望む、眺望のよい場所である。




第26図　基本土層図

## ２．土層

Ａ地点とＢ地点は距離がかなり離れており、土層堆積状況に差がある。（第26図）に示したように基本土層を分けて示した。

Ａ地点の基本土層は１～４層に分層される。第１層は耕作土及び表土で、しまりがなくやや粘性のある黄褐色土を主体とする。第２層は明黄褐色土である。粒子が細かく、しまりのある土壌で、径３㎜程度の小礫を多く含んでいる。第３層は黄褐色土層で、基盤層の砂岩粒や小礫を多く含む土層である。第４層は黄褐色砂岩層で、基盤層にあたる。基本的には第２層及び第３層が遺物包含層、基盤層である第４層上面が遺構検出面となる。

Ｂ地点の土層はⅠ～Ⅳ層に分層される。第Ⅰ層は耕作土及び表土である。第Ⅱ層は明黄褐色土で、粘性やしまりがあり、径３㎜程度の小礫を多く含む。第Ⅲ層は第Ⅱ層の明黄褐色土と第Ⅳ層の青灰色土が混じる土層である。小礫を多く含み、粘性はあるが、しまりに欠ける。第Ⅳ層は青灰色土である。粘性が強く、しまりがあるが、砂質である。第Ⅱ層下層から下面で若干の遺物が出土するとともに、小穴・炉跡が検出されている。

## ３．遺構と遺物の概要

寺島大谷遺跡では前述のように、Ａ地点とＢ地点の調査区を設定して調査を行っている。主に遺構と遺物が確認されたのはＡ地点である。縄文時代の遺構はＡ地点の尾根上、また寺島大谷１号墳西側に点在するかたちで３棟の竪穴住居が検出されている。遺構に伴って縄文時代中期の土器、石器が出土している。弥生時代後期から古墳時代前期の遺構はＡ地点調査区内に所在する比較的平坦な尾根に選地された竪穴住居が10棟検出されている。多くの住居は２～３棟重複した状態で検出されており、時期的にも近接する様子が窺えるため、尾根上という限られた空間の中で繰り返し建替えを進めたものと思われる。この時期の竪穴住居が廃絶すると、遺跡が立地する尾根周辺では集落域としての利用は途絶え、奈良時代になって土坑墓とみられるＳＫ160が単独で造営される状況となる。

Ｂ地点はＡ地点から約100ｍ西に離れた低位丘陵と谷部の間にある緩斜面を対象としている。高所となるＢ地点南側では遺物包含層及び検出面となる第Ⅱ層が存在せず、北側の低位緩斜面部において４基の小穴と１基の炉跡とみられる焼土集中部分を検出した（第25図）。位置関係から、いずれも同時期のものと判断されるが、遺構に伴う明確な出土遺物がなかったため、その帰属年代及び性格は不明である。

Ａ地点の南西端にあたる丘陵頂部では古墳時代前期の木棺直葬墳である寺島大谷古墳（寺島大谷１号墳）が検出された。主体部からは鉄剣や鉄斧など、豊富な副葬品が出土しており、志太地域で造営された古墳の中でも古い段階の古墳として注目される。

# 第３節　寺島大谷遺跡の調査成果

## １．縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の住居跡としてはＳＨ05、ＳＨ12、ＳＨ14の３棟を検出した。

### （１）ＳＨ05（第27・28図）

【遺構】発掘調査区Ｇ４とＨ４グリットで検出した円形と思われる住居跡である。幅12～65㎝、深さ10㎝の壁溝が周囲を巡っていた。住居跡の直径は約6.6ｍの円形住居と思われ、北半分が斜面部で流失していた。標高は81.75ｍから82.00ｍに位置する。

柱穴は壁溝の内側にＳＰ123、ＳＰ108、ＳＰ122の３か所を確認した。ＳＰ123は最大直径約50㎝の楕円形で深さ約40㎝であり、ＳＰ108が最大直径約40㎝の楕円形で深さ約60㎝、ＳＰ122が最大直径約50㎝の不定形で深さ約25㎝である。柱穴ＳＰ123からＳＰ108の長さは約４ｍ、柱穴ＳＰ108からＳＰ122の長さは約５ｍである。

中央やや北西よりに炉跡と思われる焼土が２か所あり、炉跡７は南北約38㎝、東西約20㎝、厚さ約６㎝の楕円形であり、炉跡８が南北約35㎝、東西約48㎝、厚さ約５㎝の不定形であり地床炉と思われる。柱穴ＳＰ122の北西に石皿（第28図30）が出土している。周辺には北東に約6m離れて弥生時代後期末から古墳時代前期の遺構と思われるＳＨ06が、北に約５ｍ離れて古墳時代前期の遺構と思われるＳＨ01・02が存在する。

【遺物：土器】土器は26点（第27図１～13・第28図14～26）出土している。（１～６）は口縁部の破片で（１）が無文浅鉢の口縁部で中期末と思われる。（２）は風化しているが口縁から沈線区画をしており中期終末の土器と思われる。（３～５）は風化して文様不明で中期末の土器と思われるが、（３）が東海系土器であろう。（４）は口縁部に刺突を付けた中期末の東海系土器である。（７）は口縁に沿って微隆起を付けた加曽利Ｅ４式土器である。（８・10～12・14～16）は風化しているが同一個体と思われ、胴部以下を縦位沈線で区画しており加曽利Ｅ４式土器である。（18・19）は東海地方の中期末土器と思われる。（22・26）は底部の破片である。

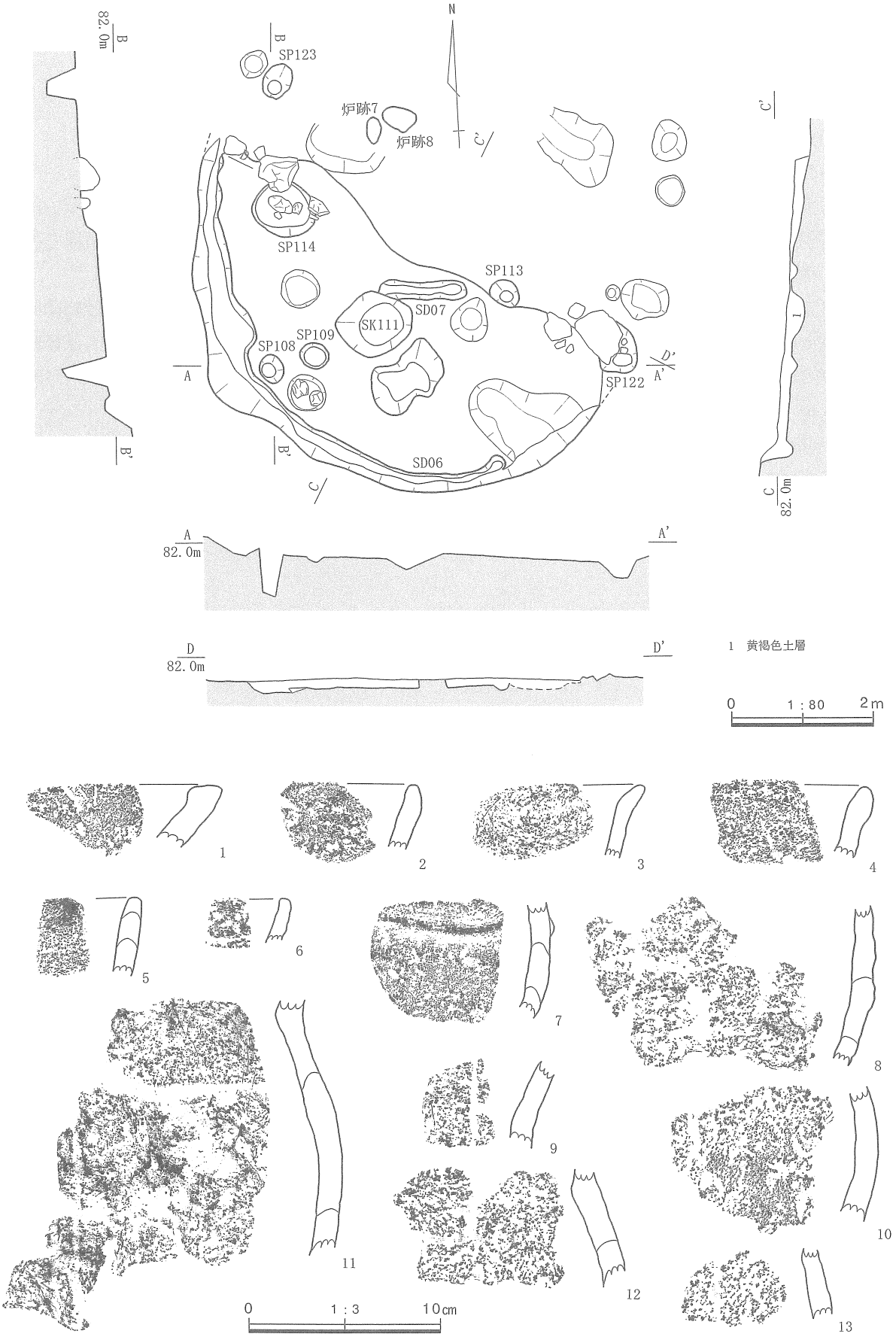
【遺物：石器】石器は５点（第28図27～31）出土している。（27・28）は黒曜石製の凹基無茎石鏃である。（29）はチャート製の凹基無茎石鏃である。（30）は淡黄褐色中粒砂岩製の板状石皿である。片面を良く使用している。（31）は褐灰色中粒砂岩製の磨石であり、全体を良く使用している。一部に敲打痕も有する。

### （２）ＳＨ12（第29～31図）

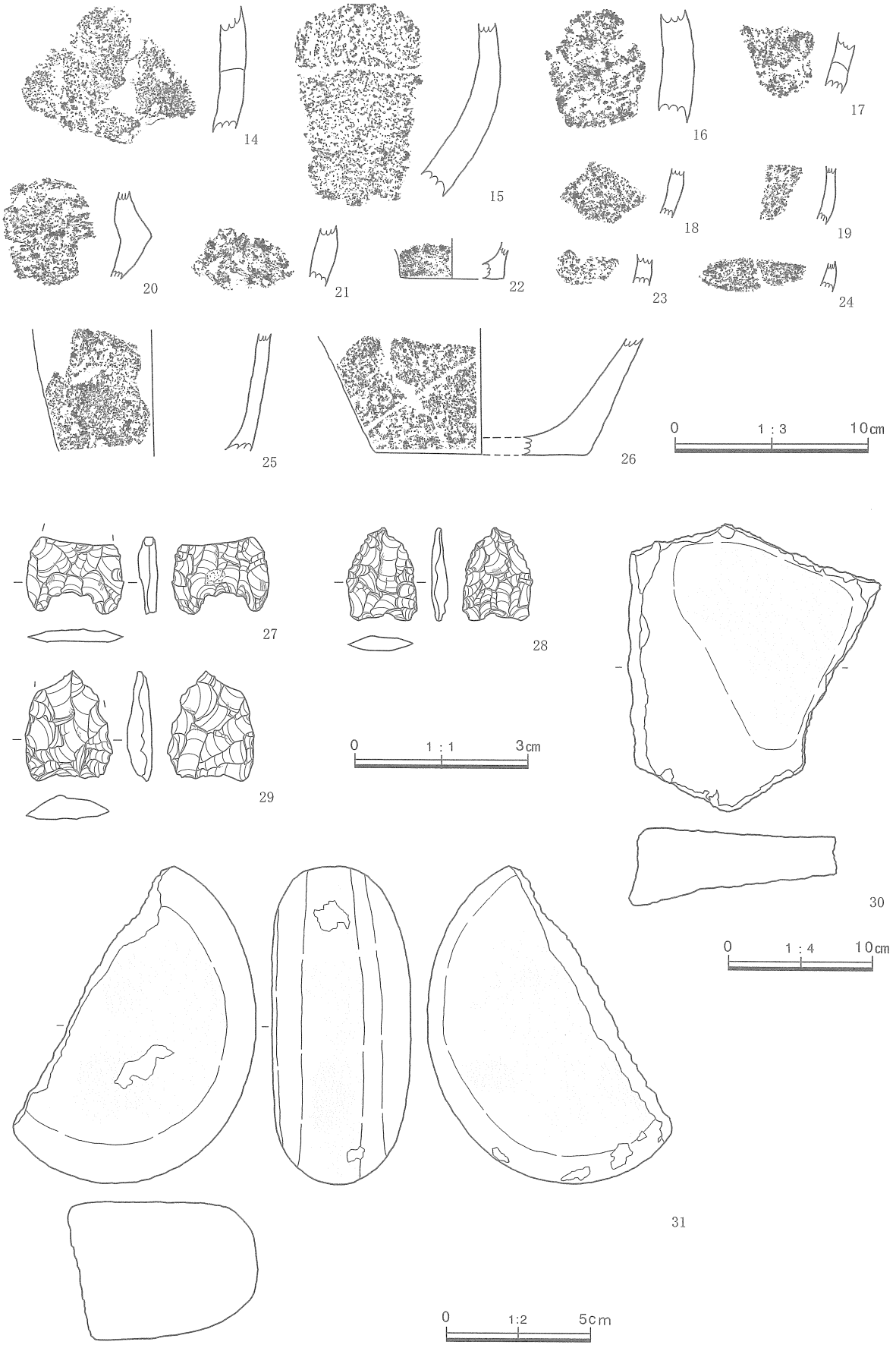
【遺構】発掘調査区Ｙ３グリットの北東部で検出した不定形住居跡である。住居跡は南北約4.4m、東西約4.25ｍである。標高は99.5ｍから100.0ｍに位置する。

柱穴は壁溝の内側にＳＰ144、ＳＰ143、ＳＰ157、ＳＰ146の4か所確認した。ＳＰ144は最大直径約30㎝の円形で深さ25㎝であり、ＳＰ143が最大直径約34㎝の円形で深さ41㎝、ＳＰ157が最大直径約48㎝の楕円形で深さ34㎝、ＳＰ146が最大直径約30㎝の円形で深さ35㎝である。柱穴ＳＰ144からＳＰ143の長さは約1.8m、柱穴ＳＰ143からＳＰ157の長さは約2.2m、柱穴ＳＰ157からＳＰ146の長さは約2.2m、柱穴ＳＰ146からＳＰ144の長さは約2.2ｍである。住居跡の東側に屋根の部材と思われる炭化物が出土したが、住居跡床面より約20㎝高い覆土層からの検出である。

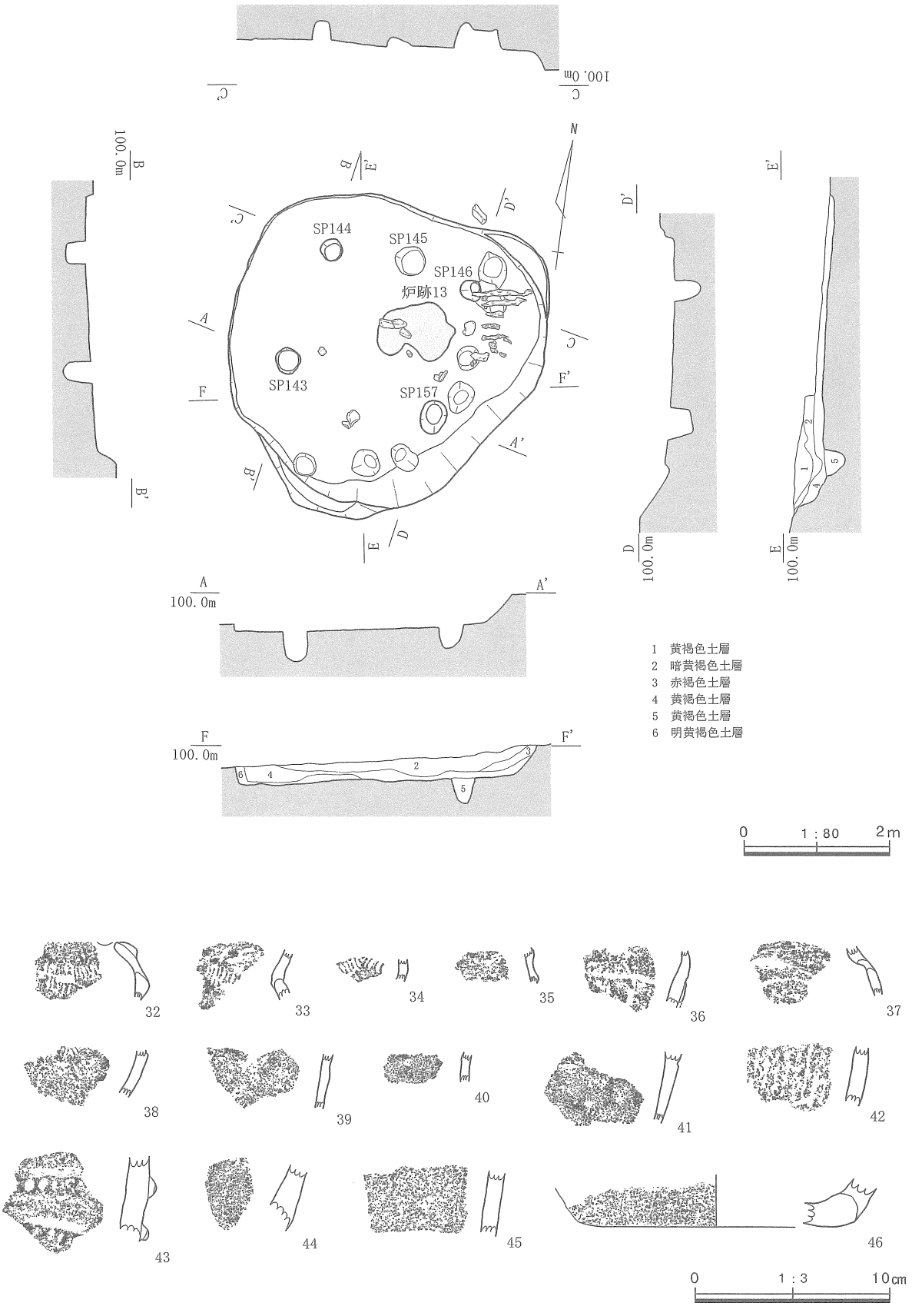
中央やや北東よりに石囲炉があり、焼土が石囲炉とその東側にも堆積している。焼土の範囲は東西約98㎝、南北約74㎝、厚さ約10㎝で、石囲炉の一部に３個の石が残っていた。他の石は抜き取られたと思



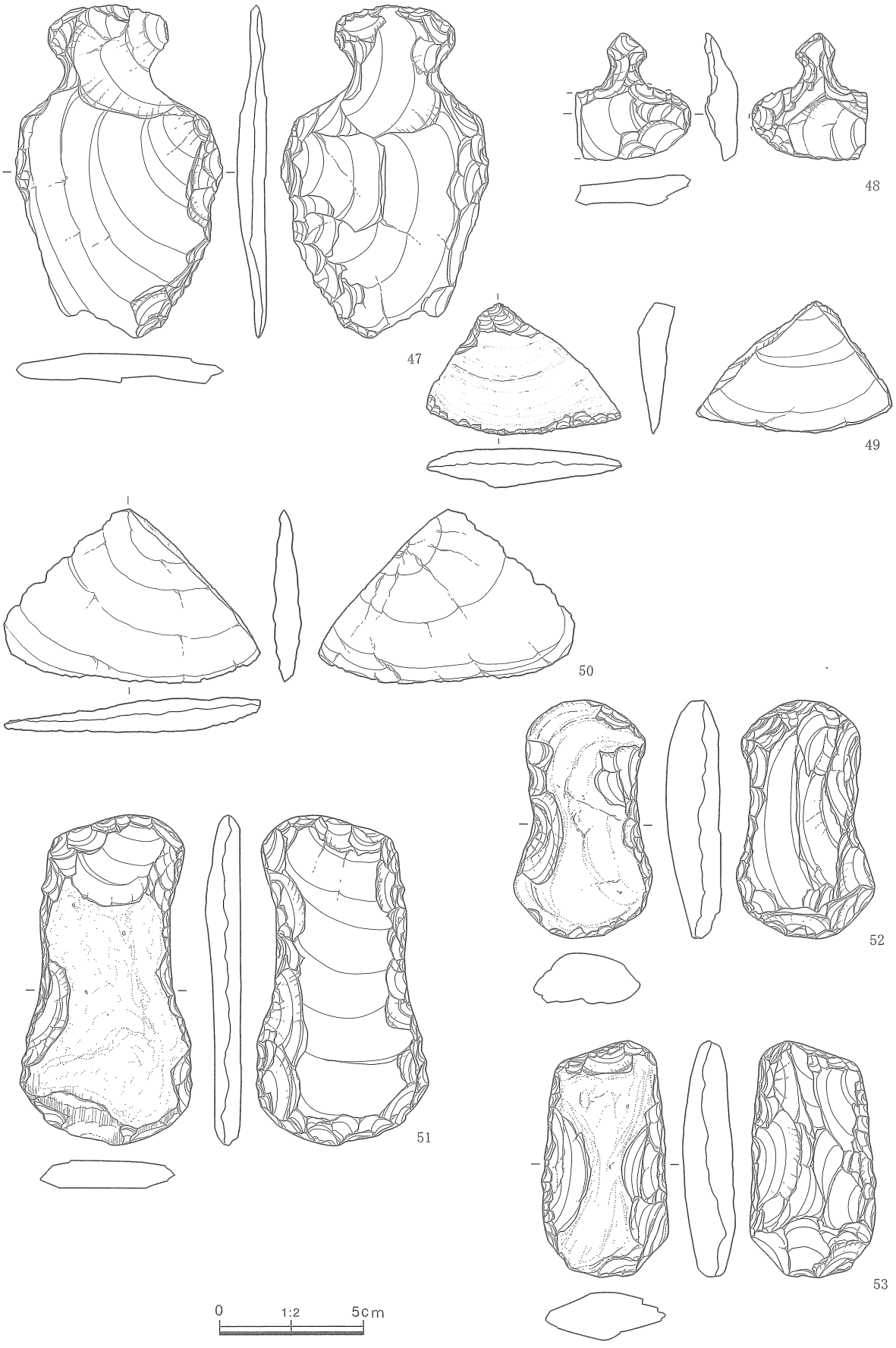

第27図　ＳＨ05平面・断面図・出土遺物実測図




第28図　ＳＨ05出土遺物実測図




第29図　ＳＨ12平面・断面図・出土遺物実測図１




第30図　ＳＨ12出土遺物実測図２

われる。この住居跡は中期中葉の住居跡と思われる。

【遺物：土器】土器は15点（第29図32～46）出土している。(32～34）は口縁部などの破片で波状口縁に沿って区画した中にヘラ状工具の連続刺突を付けた北屋敷式土器である。(35）は無文であるが北屋敷式土器である。(36）は刺突と沈線を付けた北屋敷式土器である。(37）は風化しているが連続刺突を付けた北屋敷式土器である。(38～41）はヘラ状工具で刺突を施した北屋敷式土器である。(42）は半截竹管状工具で密接蒲鉾状平行沈線を縦位に付けた勝坂式土器である。(43）は隆帯を横位と弧状に付け、隆帯上部に半截竹管状工具で刺突を付けた勝坂式土器である。(44・45）は風化しているが中期の土器と思われる。(46）は中期の勝坂式土器の底部と思われる。

【遺物：石器】石器は12点（第30図47～53、第31図54～58）出土している。(47）は泥岩製の縦形石匙である。母岩から薄い剥片を取り石匙に加工している。(48）は頁岩製の横形石匙である。(49）は頁岩製のスクレイパーである。三角形で刃部を弧状にして原礫面をそのままに残し、そこに片刃を付けている。(50）は粗粒砂岩製のスクレイパーである。三角形で刃部を弧状にし片面を剝片として取った時の原礫面を残している。(51）は撥形の打製石斧で石質は泥岩である。片面に原礫面を広く残しており、刃部に縦の使用痕がある。(52）は撥形の打製石斧で石質が細粒砂岩製である。片面に原礫面を広く残している。(53）は短冊形の打製石斧で石質が細粒砂岩製、片面に原礫面を広く残しており、刃部に使用痕がある。

（第31図54～56）は石錘で（54・56）は泥岩製である。(55）は細粒砂岩製で、瀬戸川中流域の河原で採集した扁平な円礫を加工して使用したと思われる。いずれも打欠石錘で楕円形の両端２か所を打ち欠いたもの（55・56)、３か所を打ち欠いたもの（54）がある。(54・56）は縄掛け部が一部磨滅している。(第31図57・58）は淡黄褐色花崗岩製の磨石で、両資料とも欠損している。

### （３）ＳＨ14（第32図）

【遺構】この住居跡は発掘調査区Ｃ７グリットの南東隅から、一部がＣ６グリットの北側に掛かり検出し、住居プランが円形と思われる。住居跡周溝はその南側から西側にかけてＣ状に残っていた。住居の規模は周溝から東西約5m程度と思われ、標高が80.75mから81.25mに位置する。

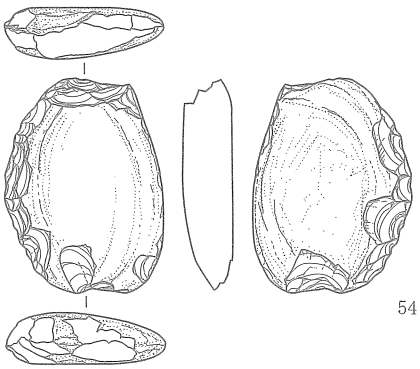
柱穴は壁溝の内側にＳＰ183、ＳＰ180の２か所を確認した。ＳＰ183は最大直径40㎝の円形で深さ20㎝あり、ＳＰ180が最大直径45㎝の楕円形で深さ50㎝である。柱穴ＳＰ183からＳＰ180の長さは約3.3mである。周溝の幅約20㎝、深さ約18㎝である。炉跡は焼土などを検出していないため不明である。住居跡の東側にＳＫ165、北側にＳＫ160、西側約5m離れてＳＨ13がある。

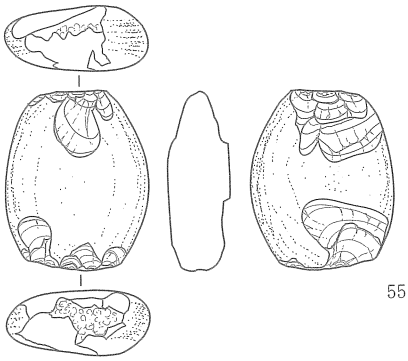
【遺物：土器】土器は２点（第32図59･60）出土している。(59）は半截竹管状工具で地文に斜位に沈線を付けた東鎌塚式土器である。(60）は風化して文様不明であるが薄手東海系の中期後半の土器である。この他に石器類は出土していない。

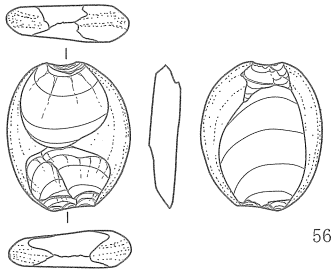
### （４）遺構外出土の縄文土器

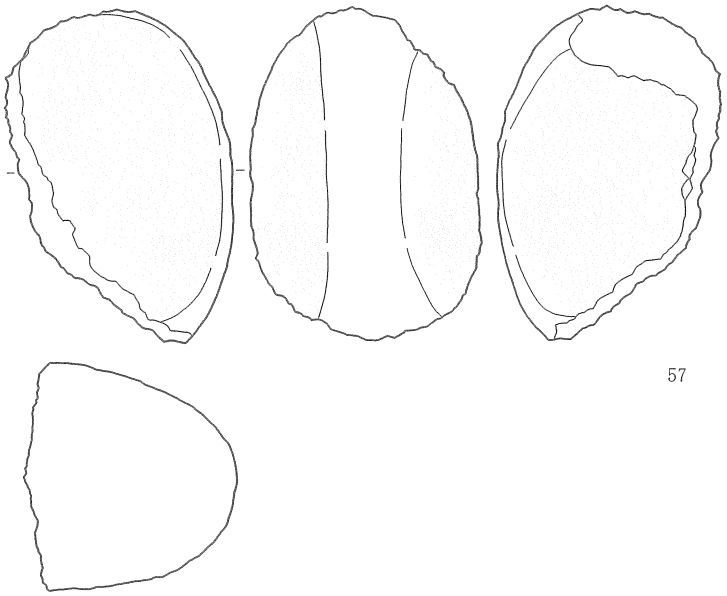
（第33図61～第39図303)は遺構外の出土土器である。出土土器は中期中葉から中期終末、後期初頭であった。

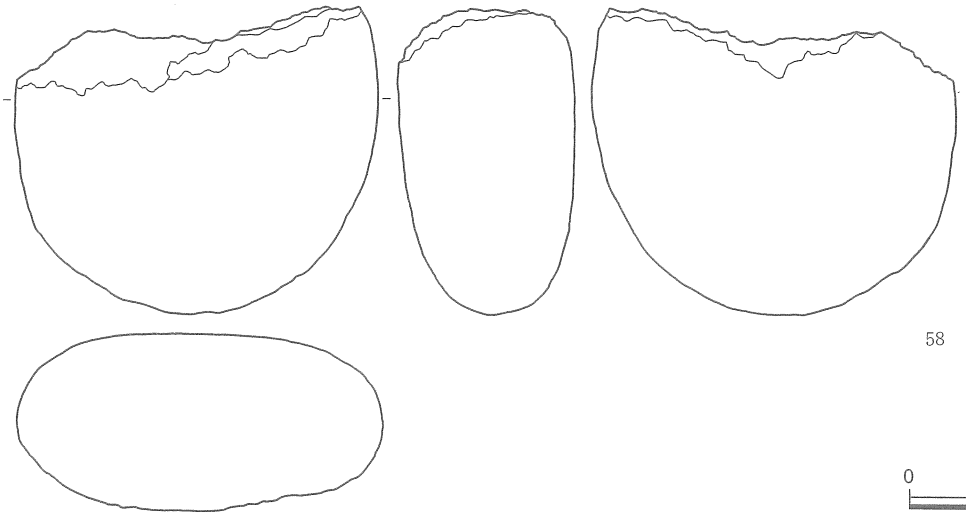
まず、(第33図）の土器から記載する。(61）は口縁部に半截竹管状工具で連続爪形を付けた北裏Ｃ式土器である。(62～64)は波状口縁に沿って、Ｖ状のヘラ状工具で連続刺突した北屋敷式土器である。(65・66・69・70）は風化しているが、薄手な点から北屋敷式土器の胴部破片と思われる。(67・68）は同じく北屋敷式土器の底部である。(71)は口縁部横位に隆帯を貼り付けており、中期中葉の土器である。(72）は口縁部に沿って半截竹管状工具の横位沈線で区画し、中に同一工具で弧状線を付けた中期中葉の土器

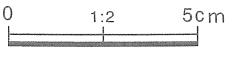


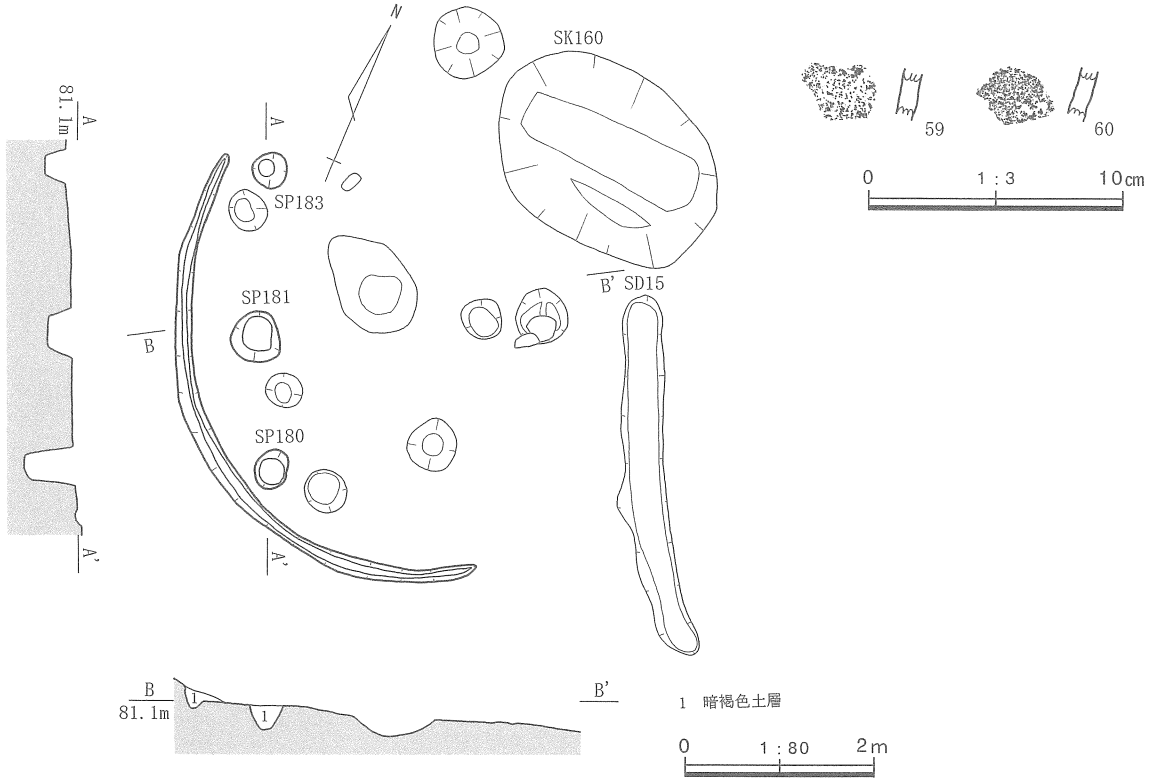



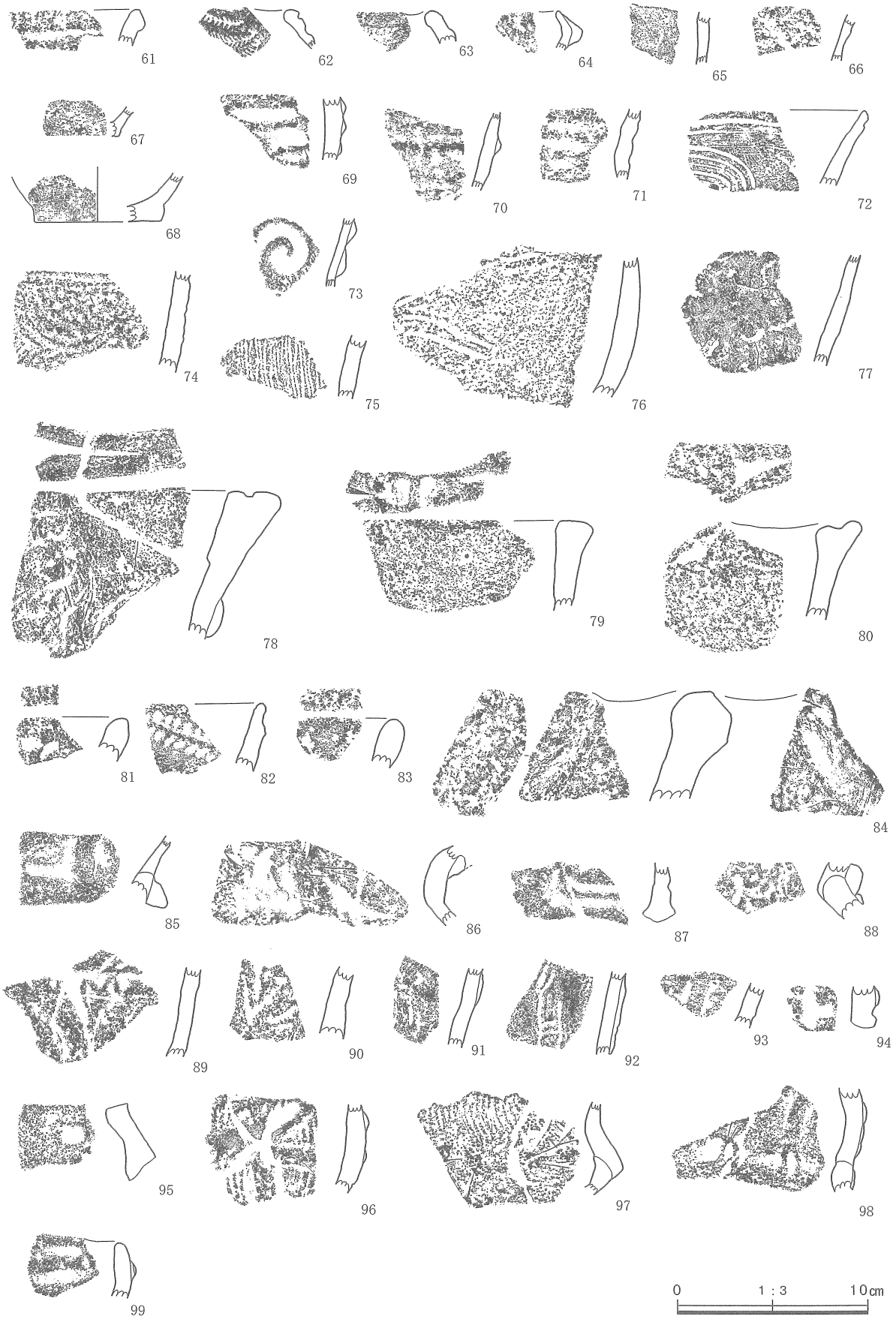




第31図　ＳＨ12出土遺物実測図３

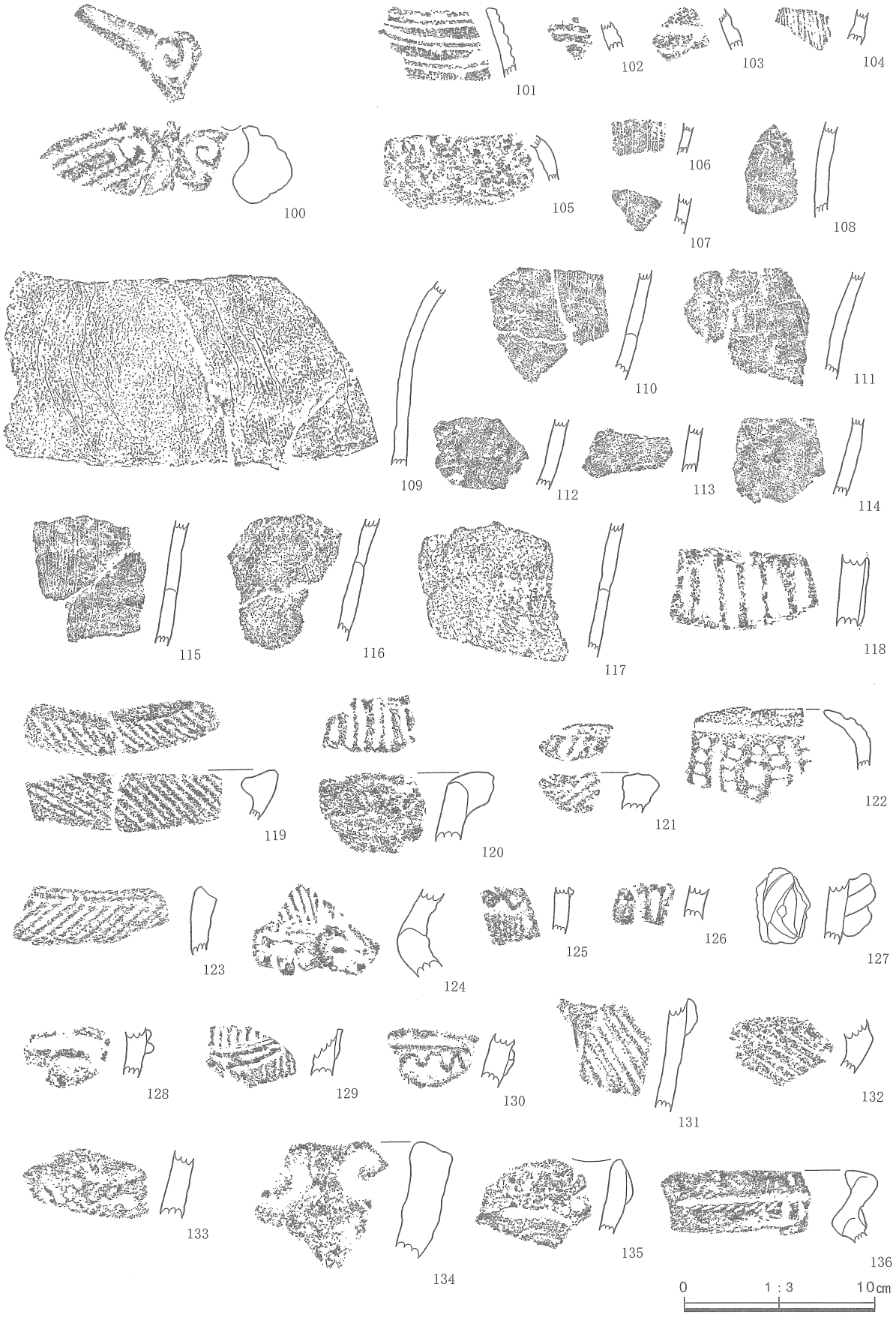



**第32図　ＳＨ14平面・断面図・出土遺物実測図**

である。(73)は薄手で隆帯渦巻きと半截竹管状工具で斜位に沈線を付けた在地系の曽利Ⅳ式土器である。(74）は半截竹管状工具で波状沈線を付け、刺突を施した中期末の土器である。(75）は条の太さ約２㎜のＲの撚糸文を付けた加曽利Ｅ式土器である。(76）は文様が風化しているが、半截竹管状工具で波状沈線を付けた中期末の土器である。(77）は無文で中期末と思われる。(78）は風化しているが口唇部に三叉文状の沈線を施し、口唇部に沿って半截竹管状工具の連続爪形と隆帯を弧状と縦位に付け、竹管状工具で連続刺突を施した勝坂式土器である。(79・80）は風化しているが口唇部に沈線で三叉文を付けた勝坂式土器と思われる。(81～83）は半截竹管状工具で連続刺突を付けた勝坂式土器である。(84）は風化しているが、波状口縁に沈線を付けた中期中葉と思われる土器である。(85）は風化しているが、口縁部に隆帯を逆Ｔ字状に付けた勝坂式土器である。(86）は口縁部に三叉状の文様を付けた勝坂式土器である。(87）は風化しているが、口縁部に隆帯を逆Ｔ字状に付けた勝坂式土器である。(88）は突起を付けて隆帯で区画した中に、密接蒲鉾状平行沈線を縦位に施した勝坂式土器である。(89）は隆帯で区画し、隆帯に竹管状工具で刺突を施した勝坂式土器である。(90）は隆帯で斜位に区画し、隆帯に沿って半截竹管状工具で爪形を付けた勝坂式土器である。(91）は隆帯上に半截竹管状工具で刺突を付け、下に同一工具の縦位沈線を付けた勝坂式土器である。(92）は粘土紐を縦位に貼り付け、半截竹管状工具で沈線を付けた勝坂式土器である。(93）は粘土紐を斜位に貼り付け、半截竹管状工具で沈線を付けた勝坂式土器である。(94）は半截竹管状工具で太い沈線を付けた勝坂式土器である。(95）は半截竹管状工具で円形刺突文を付けた勝坂式土器である。(96）は半截竹管状工具で隆帯区画した中に半截竹管状工具で縦位沈線を付けた勝坂式土器である。(97）は屈折底の上部まで縄文原体の条の太さ約３㎜のＲＬの縄文を縦走させた勝坂式土器である。(98）は風化しているが隆帯で区画した勝坂式土器である。(99）は口縁部に沿って隆帯を横位に付け、隆帯上部に棒状工具で刺突を施した勝坂式土器である。




第33図　遺構外出土遺物実測図１




第34図　遺構外出土遺物実測図２

（第34図100）は口唇部に半截竹管状工具で渦巻き状の刺突を付け、口縁部にも同一工具で渦巻き刺突を施した咲畑式土器である。（第34図101～117）は東鎌塚原式土器である。（101～103）は地文に半截竹管状工具で横位や斜位沈線を付け、半截竹管状工具で太い連弧状沈線文を施している。（第34図118～133）は曽利Ⅱ式土器である。（118～121・123）は口唇部や口縁部に密接蒲鉾状平行沈線を付け、口縁部にも密接蒲鉾状平行沈線を斜位に施している。（122）は口縁が内反し、口縁に沿って横位沈線で区画した中に、棒状工具で縦位弧状に刺突を付けた曽利Ⅱ式頃の土器である。（第34図123～129・131・133）は曽利Ⅱ式で隆帯で区画した中に、密接蒲鉾状平行沈線を斜位や縦位に付けている。（130）は口縁部を隆帯で区画した中に、横位の波状隆帯を付けている。（第34図134～136・第35図137～148）は曽利Ⅲ式土器である。（134）は口縁部に渦巻きを付けている。（135）は口縁部に隆帯を付け、半截竹管状工具で波状沈線を施している。（136）は口縁部に沿って横位沈線で区画し、横位隆帯を貼り付け、隆帯上部にヘラ状工具で矢羽根状に刺突を施している。（137・139・142）は口縁部沿って渦巻き沈線を付けている。（第35図140・141・143・144・149）は横位や渦巻隆帯などで区画している。（第35図145～148）は隆帯で区画した中に密接蒲鉾状平行沈線を縦位や横位に付けている。

（第35図150）は曽利Ⅲ式から曽利Ⅳ式土器である。隆帯で渦巻きや縦区画をし、中に半截竹管状工具で斜位沈線を付けている。

（第35図151～162、第36図163～175）は曽利Ⅳ式土器である。（151～154）は口縁部に隆帯を付けた土器である。（155）は口縁部に隆帯で楕円形区画し、胴部を隆帯で区画した中に半截竹管状工具で縦位沈線を付けている。（156・157）は胴部に隆帯区画した中に半截竹管状工具で縦位に沈線を付けている。（158・159）は細い隆帯で縦位に区画した中に半截竹管状工具で縦位沈線を付けている。（163・164）は太い隆帯でＸ状把手を付けている。（165～175）は隆帯で区画している。

（第36図176）は曽利Ｖ式土器で胴部を逆Ｕ字状沈線で区画し、中に半截竹管状工具でハ状の沈線を付けている。

（第36図177）は親田式土器である。胴部に条の太さ約２㎜のＬＲの開いた端を２連続結節した原体を、縦位回転している。

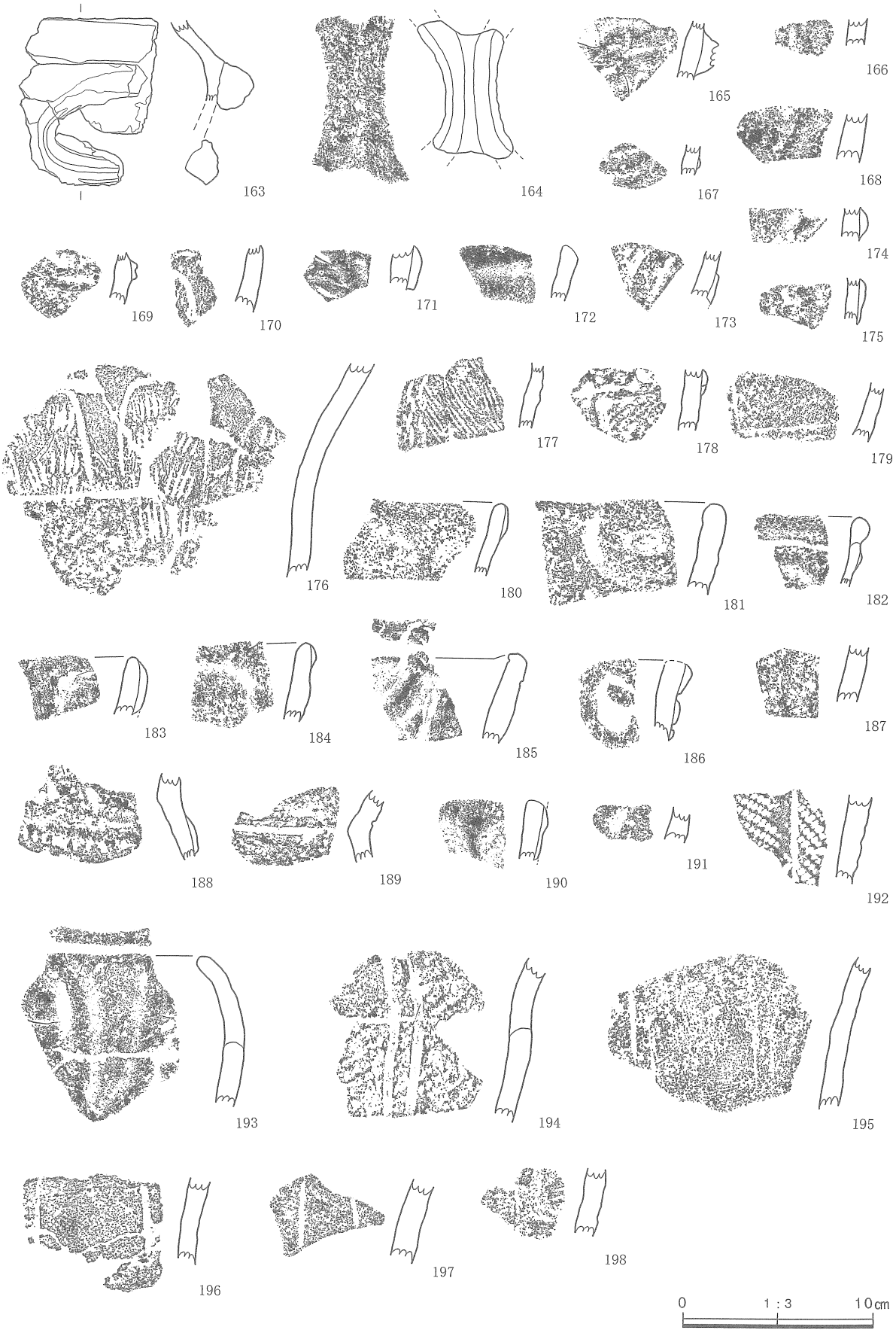
（第36図178・179）は加曽利Ｅ２式と思われる土器である。（178）は隆帯を波状に貼り付け、隆帯で区画した中に、条の太さ約３㎜のＲＬの多条縄文を付けている。（179）は風化して原体記号不明であるが縄文を施し、半截竹管状工具で沈線区画している。

（第36図180～191、第38図230）は加曽利Ｅ３式土器である。口縁部に隆帯で区画している。（180～191）は口縁部とその周辺に隆帯を貼り付けている。（188）は風化しているが、隆帯で区画して、隆帯上に刺突を施している。（189）は風化しているが、口縁部と胴部の境をくの字状にして、沈線で区画した中に、条の太さ約３㎜のＬＲの縄文を付け、横位沈線で区画している。（230）は半截竹管状工具の縦位沈線で区画した中に条の太さ約３㎜のＲＬの多条縄文を施している。

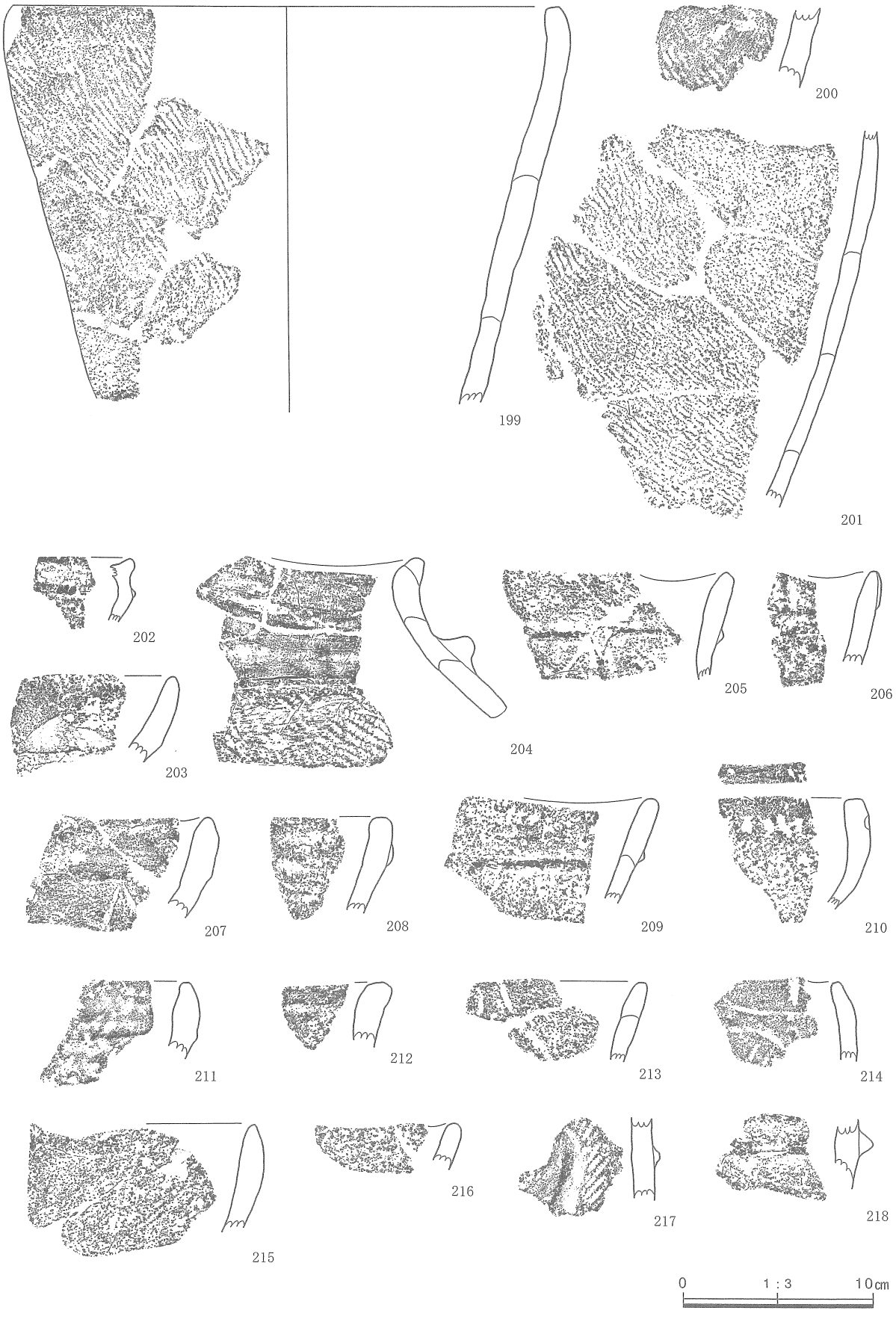
（第36図192～198・第37図199～201）は加曽利Ｅ３式から加曽利Ｅ４式土器である。（192・194・195）は縄文を施し縦位沈線で区画している。（192）は条の太さ約５㎜のＬＲの縄文を付け、半截竹管状工具で縦位沈線を施している。（194）は条の太さ約３㎜のＬＲの縄文を付け、半截竹管状工具で縦位沈線を施している。（193）は口縁部から弧状隆帯を付けている。（196～198）は胴部を縦位沈線で区画している。（199～201）は口縁部から条の長さ約2.2㎝、太さ約４㎜のＬＲの縄文を付けている。口径約28.0㎝である。（200）は風化しているが、条の太さ約３㎜のＬＲの縄文を付けている。（201）は風化しているが、条の太さ約３㎜のＲＬの縄文を付けている。

（第37図202～209・211～218・第38図219～229・231）は加曽利Ｅ４式土器である。（202～209）は口縁部に沿って微隆起を付けている。（204）は鍔付で鍔に穴が貫通していない。鍔の下に条の太さ約５㎜の

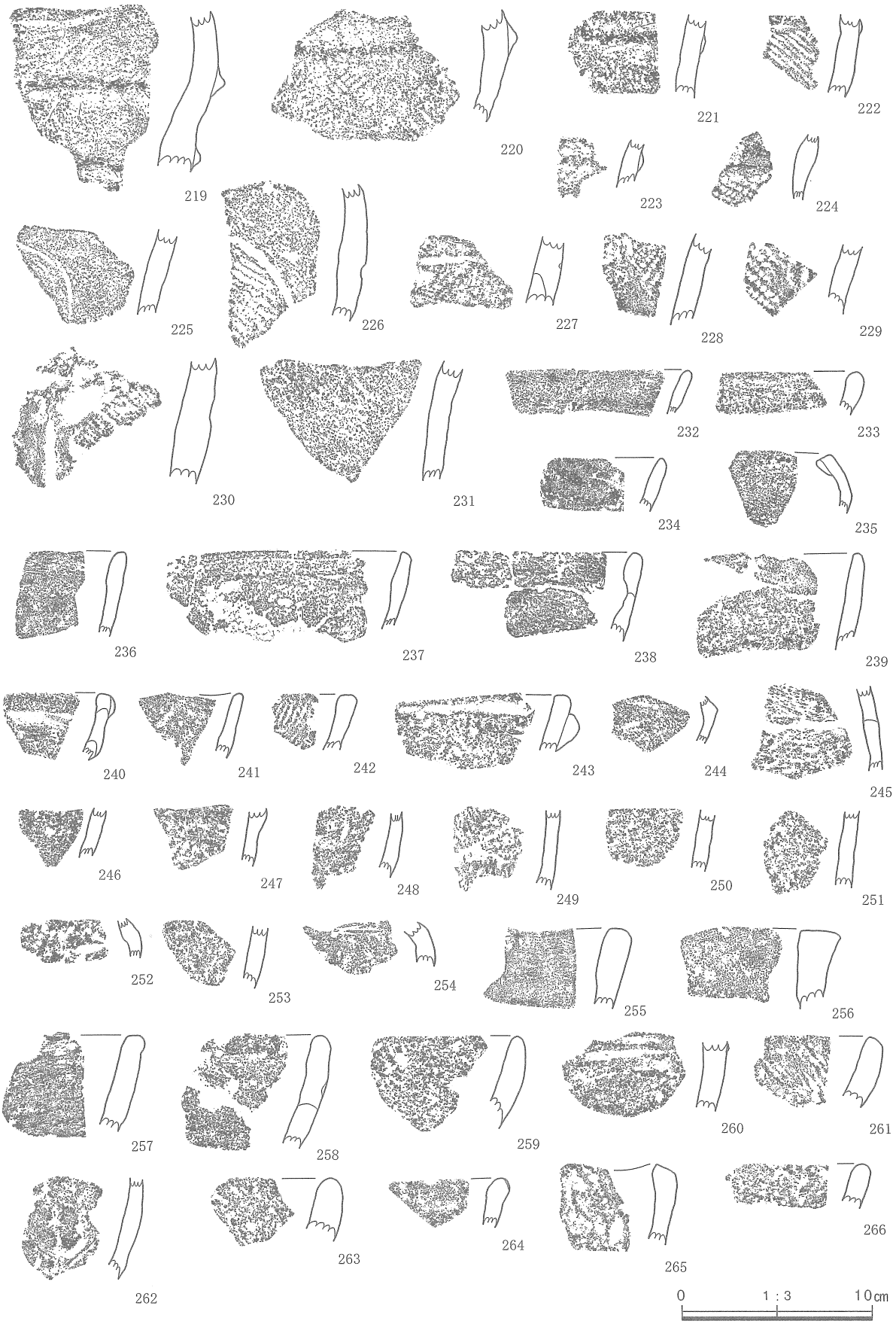
第35図　遺構外出土遺物実測図３



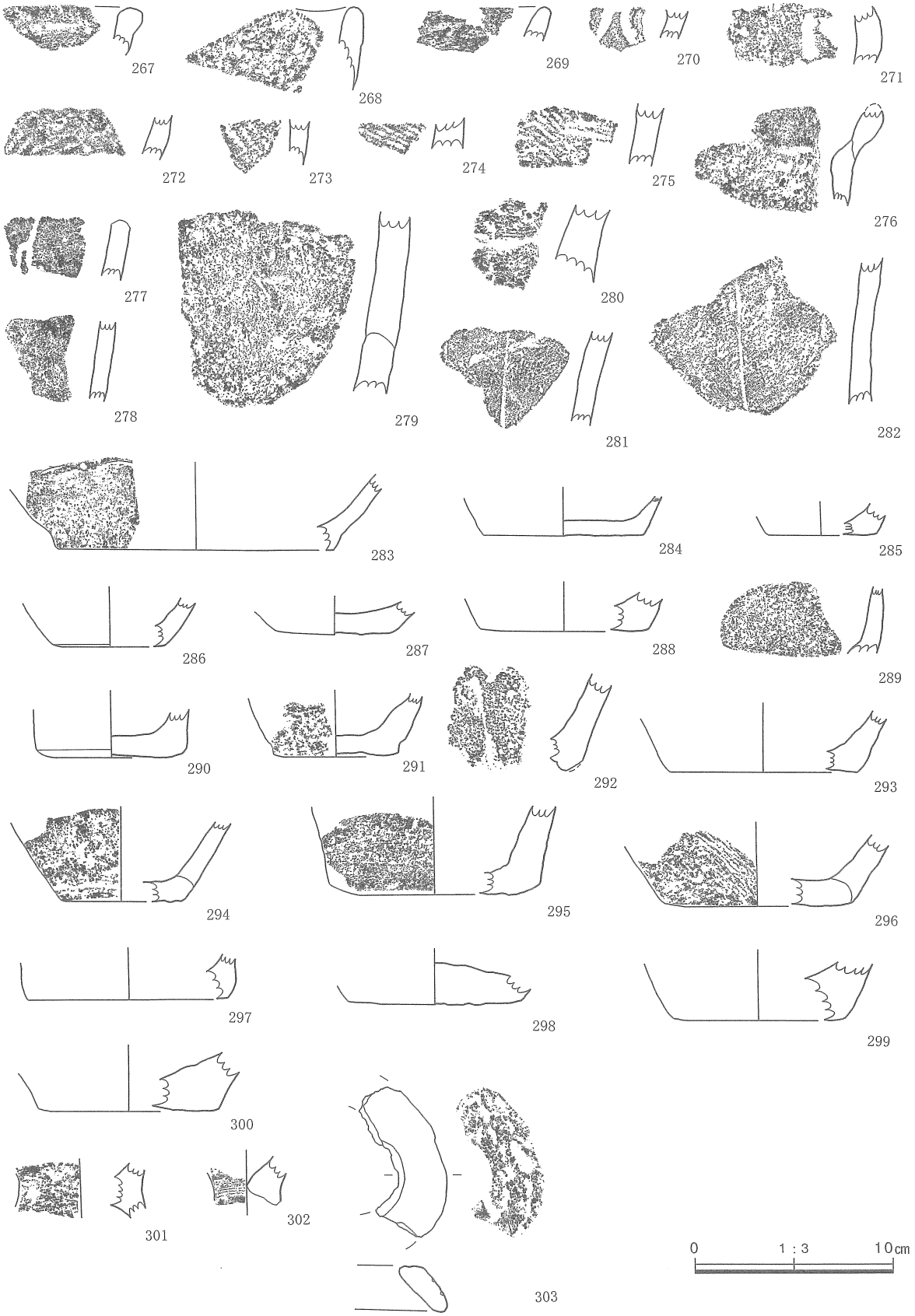

第36図　遺構外出土遺物実測図４




第37図　遺構外出土遺物実測図５




第38図　遺構外出土遺物実測図６




第39図　遺構外出土遺物実測図７

ＲＬの縄文を付けている。(205～209）は口縁部に微隆起が付き縄文を施しているが、風化により原体不明である。(206）は波状口縁となる。(210）は風化しているが加曽利Ｅ２式頃か加曽利Ｅ４式土器と思われる。口唇部に半截竹管状工具で刺突を付け、口縁部に沿って半截竹管状工具で刺突を施し、以下に縄文を付けている。(211)は風化しているが口縁部に沿って微隆起が付き、縄文が施されている。(212)は口縁部に沿って横位沈線で区画し、ＬＲの縄文を付けている。(213）は風化しているが、口縁部から縄文を施し弧状沈線を付けている。(214）は口縁部に弧状沈線を付け、下に沈線で区画した中に縄文を付けている。(215）は風化しているが口縁に縄文を付け、沈線で区画している。(216）は風化しているが口縁に縄文を付けていると思われる。(217）は隆起線で弧状に区画した中に条の太さ約３㎜のＲＬの多条縄文を付けている。(第38図219～223)は風化しているが、縄文を付け隆起線で区画している。(220)は風化しているが、条の太さ約３㎜の縄文を付けている。(221・222）は条の太さ約２㎜のＬＲの多条縄文を付けている。(224）は口縁部を折り返して膨らめ、下に条の太さ約４㎜のＬＲの縄文を付けている。(第38図225～231）は竹管状工具の沈線で区画した中に縄文を付けている。(225）は竹管状工具で弧状沈線を付け、縄文を施している。(226）は半截竹管状工具の弧状沈線で区画した中に条の太さ約３㎜のＬＲの多条縄文を付けている。(227）は条の太さ約２㎜の縄文を施し、半截竹管状工具の横位沈線で区画している。(228）は条の太さ約３㎜のＬＲの縄文を付け、縦位沈線で区画している。(229）は条の太さ約５㎜のＬＲの縄文を付け、縦位沈線で区画している。(231）は風化しているが（226）と同一個体である。

（第38図232～254）は風化しているが中期東海系の型式不明土器である。(232～241）は口縁部から無文にしている。(242）は口縁部から条の太さ約２㎜のＬＲの多条縄文が付いている。(243）は口縁部に沿って横位隆帯を付けている。

（第38図255～266・第39図267～279）は中期の型式不明土器である。(255～259・261・263～266・267～269）は口縁部である。(261）は口縁部から条の太さ約３㎜のＬＲの縄文を施している。(265・272～275）は縄文を付けた土器である。(270・271）は弧状沈線を付けている。(272）は条の太さ約３㎜のＬＲの多条縄文を施している。(273）は条の太さ約３㎜のＬＲの多条縄文を施している。(274）は条の太さ約２㎜のＬＲの多条縄文を施している。(275)は条の太さ約２㎜のＲＬの多条縄文を施している。(276)は風化しており口縁部に縄文を施している。

（第39図281・282）は後期初頭の称名寺式土器で細い沈線を縦位に付けて区画している。

（第39図283～300）は底部破片である。(283～287・289・291・294）は東海系土器の底部と思われる。

（第39図301・302）は台付き土器の破片である。

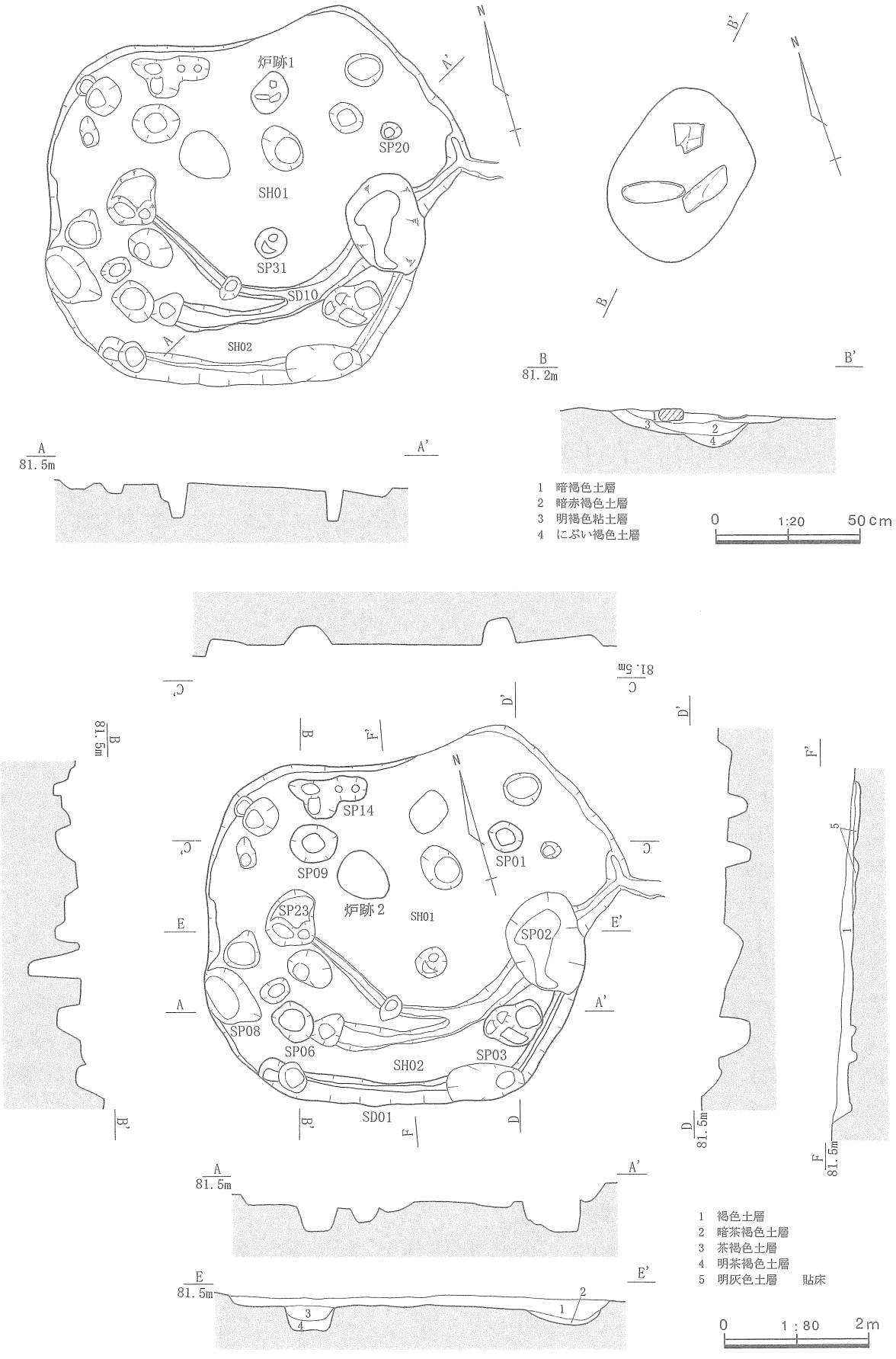
（第39図303）は土製貝輪形腕輪（貝輪形土製品）で谷藤保彦氏からご教示頂いた。外形は楕円形になると思われ、輪の断面形も上部と内面を平らに磨いたようなＤ形で、輪の断面の内角が約46度である。輪の部分の幅は約3.1㎝、厚さが上部で約1.25㎝、下部で約0.85㎝である。表面文様は土製品の縁に沿って幅６㎜の半截竹管状工具のＣ状刺突を二重に施し、内側は平にして内面が無文である。Ｇ６グリッドの遺構外から出土している。

## ２．弥生時代・古墳時代・古代の遺構と遺物

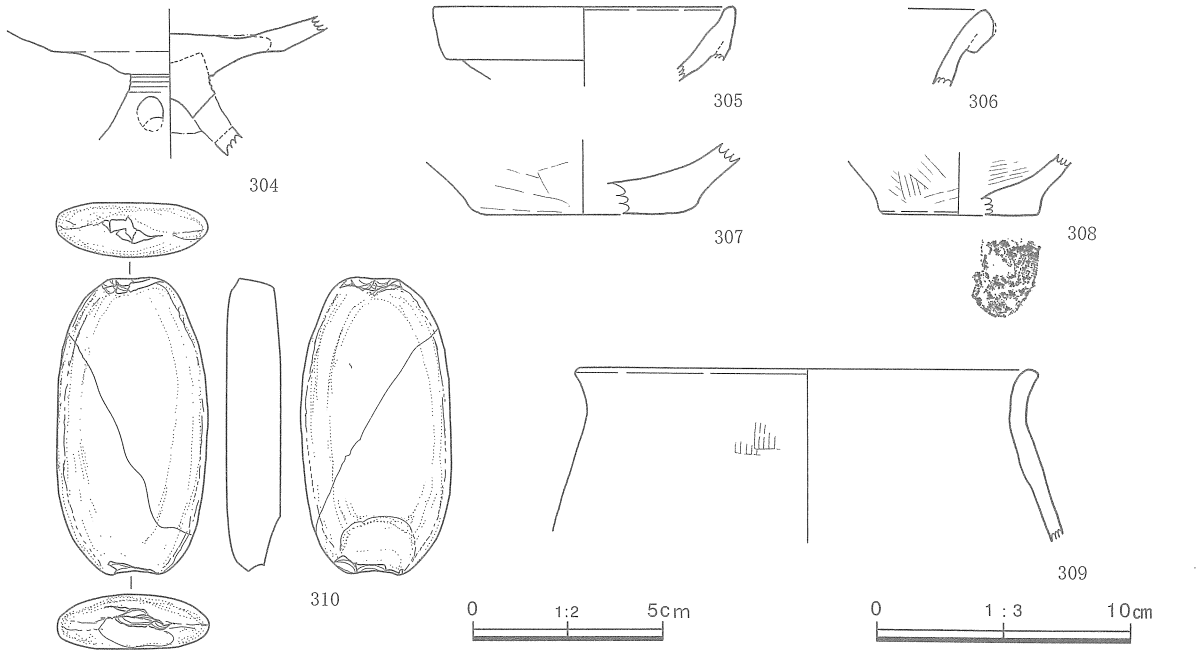
弥生時代・古墳時代に属する遺構は、竪穴住居がＳＨ01、ＳＨ02、ＳＨ03、ＳＨ04、ＳＨ11、ＳＨ06、ＳＨ07、ＳＨ08、ＳＨ09、ＳＨ13の10棟、土坑はＳＫ165の１基である。奈良時代に属する遺構は、ＳＫ160の１基であった。

### （１）ＳＨ01・02（第40図・第41図）

【遺構】




第40図　ＳＨ01・ＳＨ02平面・断面図

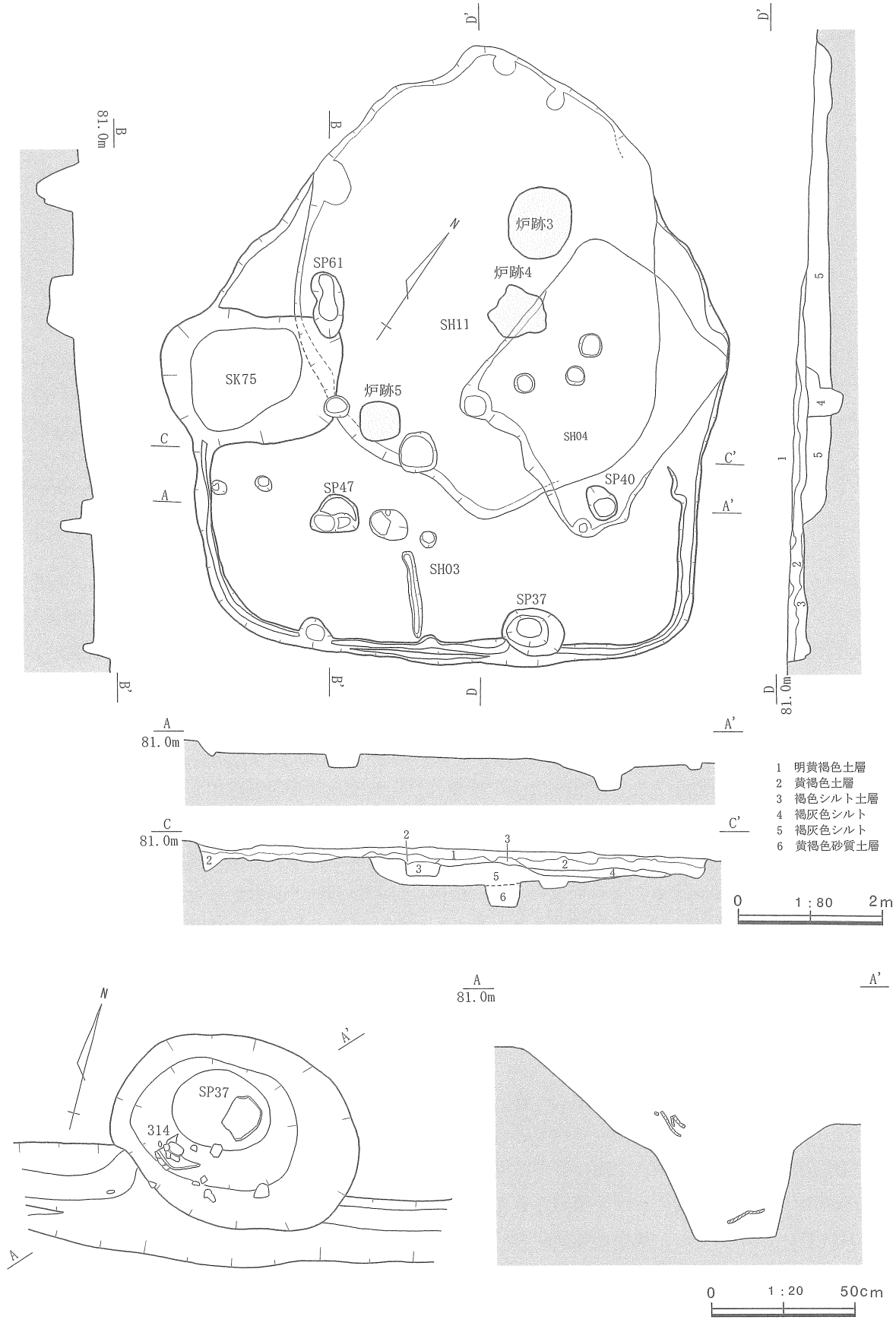



**第41図　ＳＨ01・ＳＨ02出土遺物実測図**

Ｈ４～５グリッドで検出された遺構で、ＳＨ03・04・11の南側、ＳＨ05とＳＨ06の北側に隣接する。ＳＨ01とＳＨ02は重複して検出された遺構である。覆土が類似しているため、平面的な新旧関係を把握するのは困難であったが、断面観察によればＳＨ01が古く、ＳＨ02が新しくなる可能性が高い。標高81.0ｍから81.4ｍの範囲に所在する。

ＳＨ01の平面形はややいびつではあるが、隅丸方形を呈する。規模は長軸4.1ｍ、短軸は3.2ｍ、主軸方向はＮ－65°－Ｅであった。検出面からの深さは深い部分でも12㎝程度と浅く、床面はほぼ平坦であるが、貼床は認められなかった。幅15～30㎝の壁溝ＳＤ10が南東隅から西側にかけて巡っており、南側隅部で外側に分岐していることから、さらに一棟の竪穴住居が拡張改修される形で建てられていた可能性が高い。また、壁溝の南東隅には住居外側へと延びる排水溝とみられる溝が確認された。主柱穴は南東側のＳＰ20・31を確認することができたが、北西側の柱穴は判然としなかった。楕円形を呈する柱穴は長径25～43㎝、深さ43～50㎝の規模である。炉として把握された炉跡１は長径60㎝、短径40㎝の地床炉で、約15㎝の掘り込みに粘土を含む構築土を充填しており、その上には５～７㎝程度の炭化物混じりの焼土層が形成される。焼土層に食込む形で長辺20㎝程度の置石が炉の南側に並んで２個配置されていた。

ＳＨ02はＳＨ01を切っていると思われるが、北東側の形状は不明瞭であった。平面形は隅角が緩やかな隅丸方形を呈し、規模は長軸5.2ｍ、短軸4.7ｍ、主軸方向はＮ－25°－Ｗであった。検出面からの深さは12～16㎝で、ＳＨ01とほぼ同一レベルとなる。床面はほぼ平坦に整えられ、北側の床面に明灰色土層による貼床が確認されるが、全面に広がるものではない。遺構覆土は褐色土の単層であった。幅30㎝前後の壁溝が東壁から南壁にかけて確認されており、(305) の土師器壺の口縁が出土した。主柱穴はＳＰ01・03・06・09が該当し、規模は長径49～85㎝、深さ26～35㎝、平面形は楕円形もしくは不整形な円形であった。壁面に接するＳＰ02・08や主柱間にあるＳＰ23は長径84～135㎝、深さ18～77㎝と大型土坑であることから、貯蔵穴になるものであろうか。ＳＰ02内には大型の石が入れられており、(309) の土師器甕が出土した。炉はＳＰ09近くで炉跡２を検出した。長径70㎝、短径60㎝の範囲で焼けた粘土層として把握された地床炉である。出土遺物から、ＳＨ01は古墳時代前期初頭の遺構と思われる。ＳＨ02




第42図　ＳＨ03平面・断面図

第43図　ＳＨ03・ＳＨ11出土遺物実測図

から図示可能な遺物は出土していないが、古墳時代前期の遺構と推定される。

【出土遺物】

遺物（第41図）はＳＨ01より高坏（304）、壺（305～308）、甕（309）、石錘（310）が出土した。（304）は高坏で脚部に円形の透かし穴を付けている。内面を板ナデしており、外面の調整は風化により不明である。（305・306）は壺で口縁部の調整が磨滅により不明である。（307）は壺底部で風化しているが、調整は内面と外面を板ナデしていると思われる。（308）は内面にハケ目痕、外面にヘラ磨き痕が付き、底面に木葉痕を施している。（309）は全体に風化しており、内面と口縁端部の調整不明であり、一部にハケ目痕がある。（310）は打欠石錘で泥岩製である。これらは古墳時代前期初頭の遺物と思われる。

（２）ＳＨ03（第42・43図）

【遺構】

Ｈ５～６グリッドで検出された竪穴住居である。ＳＨ01・02の北側に隣接し、ＳＨ05、ＳＨ06を含む竪穴住居群が築かれた尾根の北端に位置する。ＳＨ03・04・11が重複して検出されており、ＳＨ03が最も新しく、ＳＨ04、ＳＨ11の順に古くなる。遺構は標高80.3ｍから80.8ｍの範囲に所在する。

ＳＨ03は南半が良好に検出されたものの、北半は削平が顕著であったため、遺構形状は不明瞭であった。平面形状は隅丸方形で、西壁の一部はＳＨ03よりも新しいＳＫ75によって破壊されている。南北の規模は明らかでないが、東西は7.0ｍを測る。主軸方向はＮ－35°－Ｅである。最も残りの良い南側では検出面のからの深さ28㎝を測る。床面はやや凹凸はあるが、ほぼ平坦となり、西側の一部で貼床が確認された。遺構覆土は炭化物を含む明黄褐色土と黄褐色土を主体とし、下部に褐色シルトが一部みられる。壁溝は南半を巡る形で検出され、幅20～30㎝、深さは８～20㎝程度であった。主柱穴はＳＰ40・47・61とみられるが、北東隅の柱は未検出である。柱穴の平面形状は不整形な楕円形で、規模は長径50～93㎝、深さ16～42㎝を測る。南端の壁面に接するＳＰ37は貯蔵穴と推定される長径86㎝、短径65㎝、深さ41㎝の楕円形の土坑である。内部からは台付甕（314）などの土器片が出土している。炉は床面のレベルで炉跡３～５が検出されている。長径50～100㎝、短径50～80㎝の円形あるいは不整形な焼土集中として検出され、構築土を伴う掘り込みなどは確認されていない。出土遺物から、古墳時代前期の遺構と判断される。

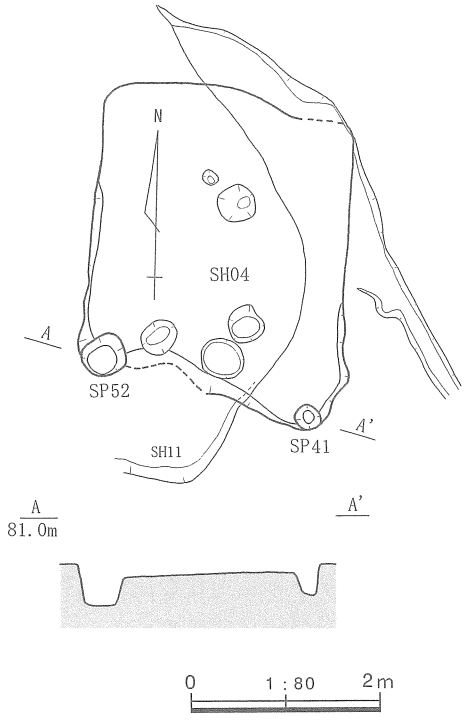
【出土遺物】

出土遺物（第43図）は壺（311～313）、台付甕（314～316）、石皿（317）、砥石（319）、縄文時代石鏃（320～322）である。（311）は風化により調整不明である。（312・313）の底部は風化のため調整不明である。（314）は胴部にハケ目があり内面一部を指でナデ調整している。（315・316）の台部は風化のため調整不明である。（317）は大きな凹痕があり、石質は褐灰色細粒砂岩である。（319）は平面に研磨痕が付き、石質は淡黄褐色細粒凝灰岩である。（320～322）は（320）が黒曜石製、（321）の鋸歯縁凹基鏃が頁岩製、（322）の凹基鏃が凝灰岩製である。遺物は古墳時代前期と思われ、縄文時代の石鏃が混入したと考えられる。

（３）ＳＨ04（第44図）

【遺構】

Ｈ５～６グリッドで検出された竪穴住居で、ＳＨ03・11と重複し、ＳＨ03より古く、ＳＨ11よりも新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸3.1ｍ、短軸2.8ｍを測り、主軸方向はＮ－7°－Ｗである。床面はほぼ平坦であるが、貼床は確認されていない。覆土は明黄褐色土のブロックを含む褐灰色土であった。明確な主柱穴は検出されていないが、南端壁際にあるＳＰ41・52がそれにあたる可能性がある。Ｓ



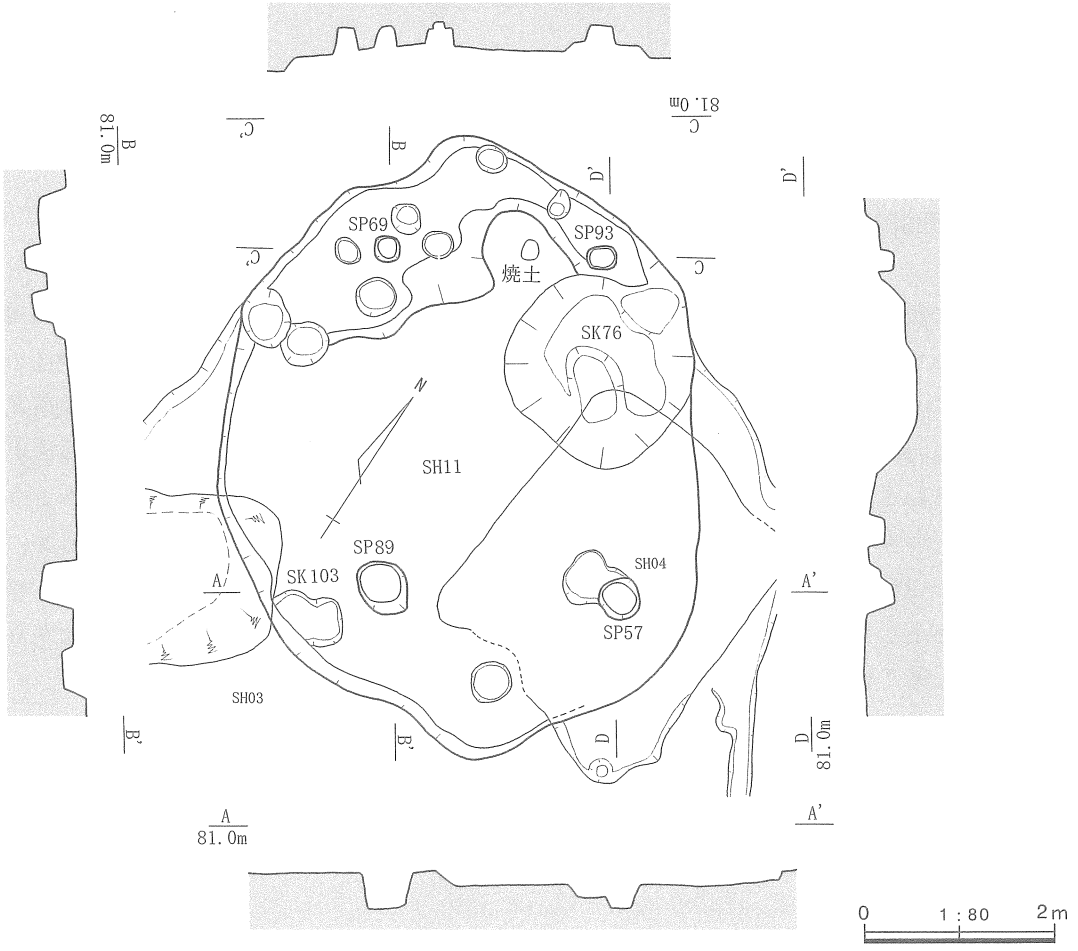

第44図　ＳＨ04平面・断面図

Ｐ41・52は平面形状が不整形な円形を呈し、長軸26～48㎝、深さは22～43㎝を測る小穴である。遺構に伴う炉跡、壁溝、貯蔵穴は未確認である。図示可能な出土遺物がないため、遺構の時期は不明瞭であるが、遺構の形状から古墳時代前期の遺構と推定される。

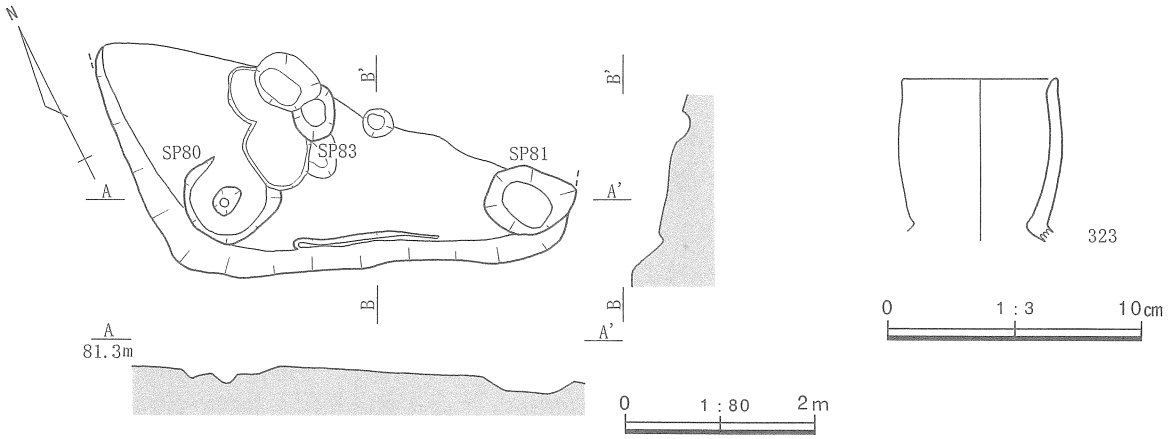
（４）ＳＨ11（第45図）

【遺構】

Ｈ５～６グリッドで検出された竪穴住居である。ＳＨ03・04と重複するが、このうち最も古い遺構である。平面形状はやや不整形ではあるが、長楕円形を呈する。ただし、南東側のＳＨ04と重複する部分は不明瞭であった。遺構の規模は長軸6.7m、短軸4.9mを測り、主軸の方向はＮ－36°－Ｗである。検出面からの床面までの深さは24～32㎝で、平坦に整えられているが、貼床は確認されていない。北側は床面から最大幅160㎝、深さ10㎝程度の溝状の掘方とみられる落ち込みが確認されている。掘方下面では壁際に沿って小穴群がいくつか検出されているが、性格は不明である。また、北側掘方に接




第45図　ＳＨ11平面・断面図




**第46図　ＳＨ06平面・断面図・出土遺物実測図**

して床面を掘り込むＳＫ76が北東壁際で検出されているが、床面構築以前の土坑であることから、これも掘方の一部の可能性がある。遺構覆土はややしまりに欠け、明褐色土のブロックを含む灰白色粘質土であった。主柱穴はＳＰ57・69・89・93が該当するとみられる。柱穴の平面形状は楕円形あるいは不整形な円形で、長径28～64㎝、深さ19～36㎝の規模である。北側主柱穴間で検出された焼土の集中箇所は炉の可能性が高いが、他の炉跡のように硬質な焼土層を形成するほど明瞭なものではない。壁溝や貯蔵穴を確認することはできなかった。帰属時期を判断する出土遺物には恵まれないが、遺構の形状や他遺構との関係から、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構と推定される。

【出土遺物】

出土遺物（第43図318）は球形石製品でＳＰ57から出土している。球形の礫を利用しており、石質は淡褐～暗灰チャートで用途不明である。

### （５）ＳＨ06（第46図）

【遺構】

Ｈ４グリッドで検出された竪穴住居である。ＳＨ01～06・11の竪穴住居群が築かれた尾根の東端に位置し、谷に向かって落ち込む標高81.3～80.7ｍの地点に立地するため、遺構北側の大半は地山の崩落によって失われている。平面形状は明確でないが、隅丸方形と考えられ、残存部分の規模は南北2.4ｍ、東西4.7ｍである。検出面からの深さは最も残りの良い南端部が28㎝を測り、北側は地山の流出により徐々に浅くなっている。南壁の中央には幅10㎝程度の壁溝が設けられるが、全周していたかどうか不明である。南壁に近いＳＰ80・ＳＰ81は対になる位置にあることから、主柱穴の可能性があるが、長径98～104㎝、深さ16～23㎝と柱穴としては浅いため明確なものではない。また、小穴ＳＰ83から（323）の土師器壺口縁が出土している。炉跡・貯蔵穴に相当する施設は検出されなかった。出土遺物から、古墳時代前期の遺構と考えられる。

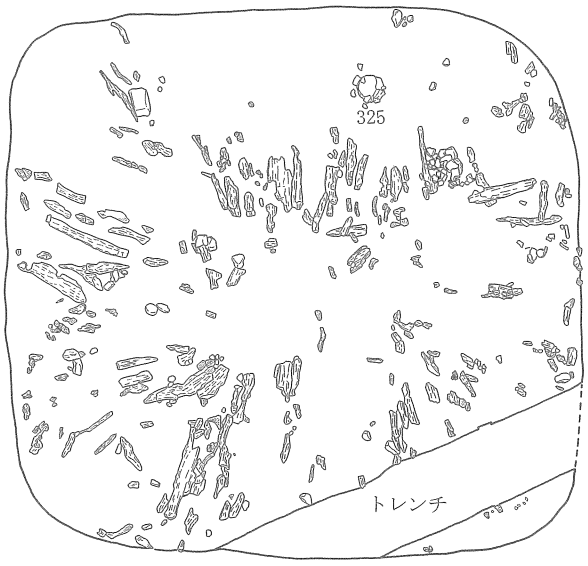
【出土遺物】

出土遺物(第46図323)は壺１点で風化のため調整不明である。口縁端部内面を削るようにして整形し、器形は瓢壺となる。古墳時代前期の廻間Ⅱ式並行段階の土器と思われる。

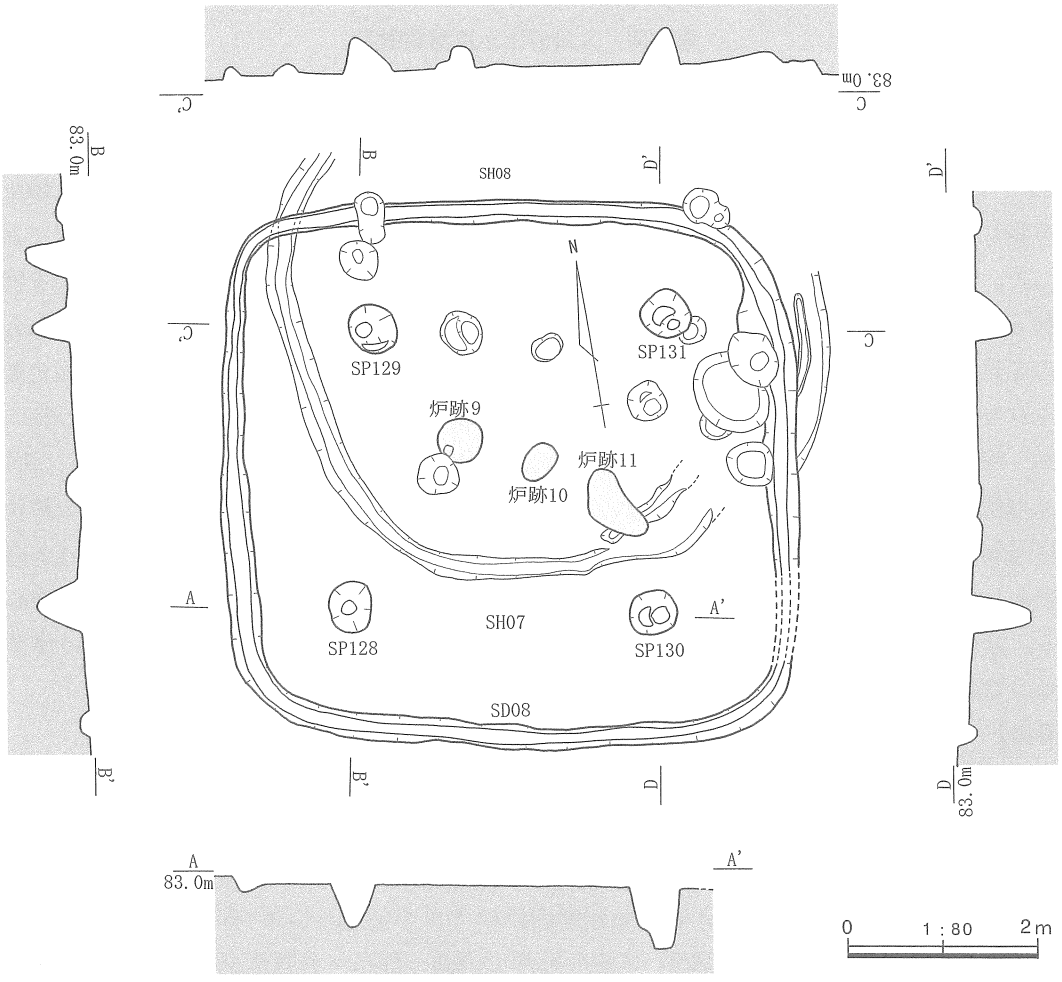
### （６）ＳＨ07（第47～49図）

【遺構】

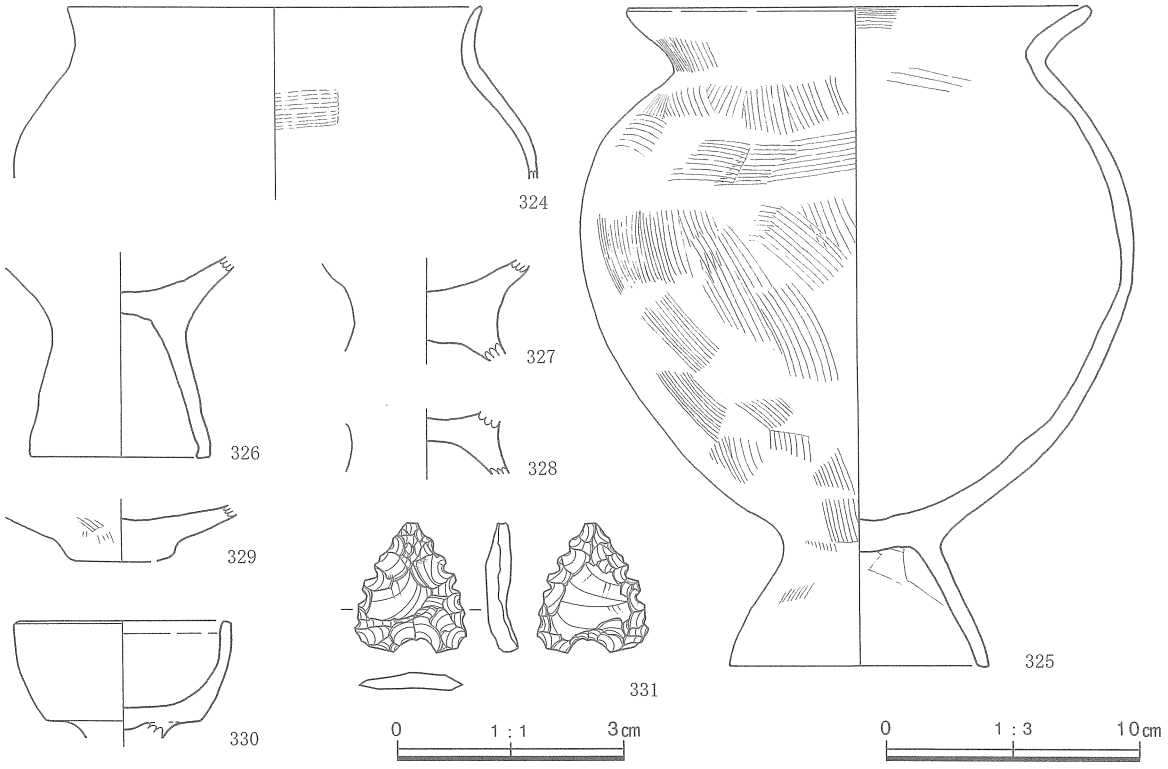
Ｊ2グリッドで検出された竪穴住居で、ＳＨ01～06・11が立地する尾根から谷を挟んで30ｍ程離れた




SH07　炭化物出土状況図




**第47図　ＳＨ07炭化物出土状況、平面・断面図**



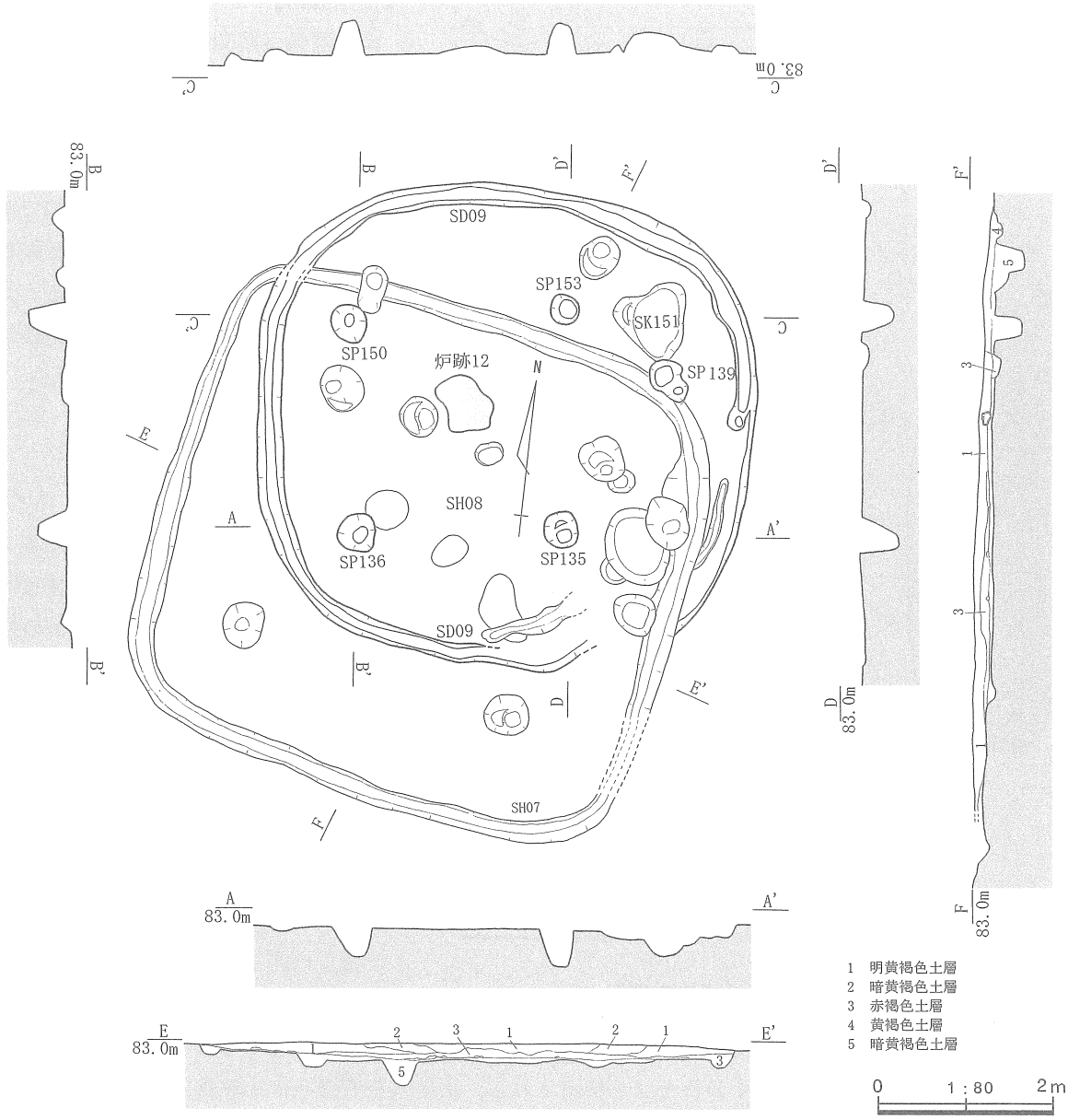

**第48図　ＳＨ07出土遺物実測図**

標高82.7～82.9ｍの調査区東端尾根上に位置する。ＳＨ08と重複するが、ＳＨ07の方が新しい。

遺構は長軸6.1ｍ、短軸5.8ｍの規模で、平面形状はわずかに東西に長い隅丸方形を呈する。主軸方向はＮ－75°－Ｗである。覆土は明黄褐色土、暗黄褐色土を主体とし、床面直上の赤褐色土は焼土及び炭化物を多量に含む。床面直上では炭化材が多量に出土していることから、ＳＨ07は焼失住居であることが判明した。炭化材は住居の周囲から中心に向かって放射状に出土しており、これらは屋根を構築する際の骨材と判断される。床面は平坦に整えられるが、検出面からの深さは深いところでも12㎝と浅い。先行するＳＨ08の覆土である暗黄褐色土上面が床面として捉えられる。幅16～32㎝の壁溝が全周する形で検出されている。主柱穴はＳＰ128・129・130・131が該当し、平面形状が楕円形を呈する柱穴は長径51～55㎝、深さ35～66㎝である。炉は炉跡9～11の３箇所が検出された。炉跡９は長径48㎝、短径44㎝、深さ８㎝の楕円形の範囲で焼土層が形成され、南西端に置石が配置されている。同様に、炉跡10は平面形状が楕円形の長径44㎝、短径28㎝の範囲、炉跡11は平面形状が不整形な長径80㎝、短径40㎝の範囲の焼土集中として検出されている。貯蔵穴と思しき遺構は検出されていない。遺物は覆土内を中心に出土している。ほぼ完形近くに復原できる台付甕（325）が住居北東で出土しているが、住居の焼失時に残されたものであろうか。出土遺物から、遺構は古墳時代前期に属するとみられる。

【出土遺物】

出土遺物（第48図）は台付甕（324～328）、壺（329）、開脚高坏（330）、縄文時代石鏃（331）である。（324）は風化しており調整不明であり、胴部に一部ハケ調整と内面一部を指でナデ調整している。（325）は頸部がくの字になる在地の台付甕である。口縁部から胴部にかけてハケ調整し、台部外面は風化により調整不明である。口縁部内側はハケ調整し胴部内側はナデている。（326～328）は台付甕の台部の破片で、風化により調整不明である。（329）は壺の底部で表面一部にハケ調整があるが、風化により調整不明である。（330）は口唇部を面取りしているが風化により調整不明である。（331）は縄文時代の鋸歯縁凹基石鏃でチャート製である。遺物は古墳時代前期のものと思われ、（331）の石鏃は縄文時代の製品



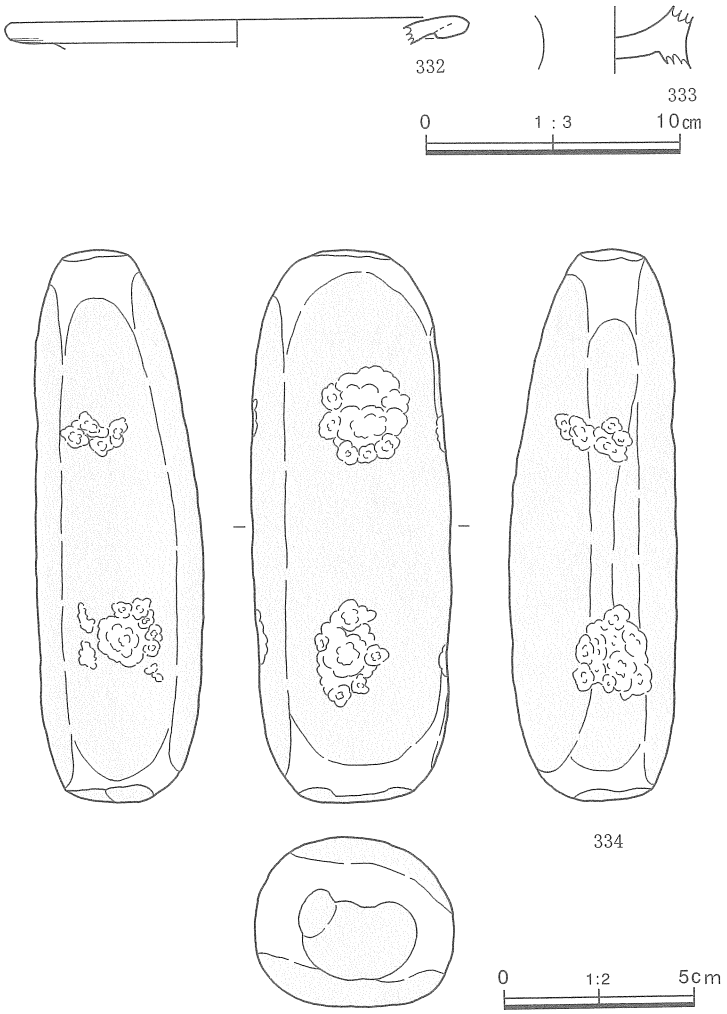

第49図　ＳＨ08平面・断面図

で混入したものである。

（７）ＳＨ08（第49・50図）

【遺構】

Ｊ２グリッドで検出された竪穴住居で、ＳＨ07と重複するが、これよりも古い段階の遺構である。規模は長軸5.8ｍ、短軸5.6ｍを測り、平面形状はわずかに東西方向が長い隅丸方形である。主軸方向はＮ－81°－Ｗである。検出面から床面までの深さは12～20㎝で、貼床は確認されていない。南東部分は不明瞭であったが、ほぼ全周する形で幅20～35㎝の壁溝が巡る。主柱穴はやや西に寄り気味であるが、ＳＰ135・136・150・153が該当するとみられる。平面形状は円形もしくは楕円形で、長径37～45㎝、深さ36～45㎝の規模を測る。炉は主柱穴の中心部分で検出された炉跡12があり、長径64㎝、短径60㎝、深さ10㎝の掘方内に赤褐色粘質土を充填する構造であった。貯蔵穴は明確でないが、北東隅の長径86㎝、短径75㎝、深さ17㎝のＳＫ151がそれにあたる可能性がある。隣接するＳＰ139からは壺口縁（332）が出土している。後述する出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の遺構とみられる。




第50図　ＳＨ08出土遺物実測図

【出土遺物】

出土遺物（第50図）は壺（332）、台付甕（333）、磨石（334）である。（332）は広口壺で内面から口縁にかけて風化により調整不明であるが、折返し口縁部に横ナデが残る。（333）は甕接合部で風化により調整不明である。（334）は敲打痕があり淡褐灰色中粒砂岩製である。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭に属する遺物と思われる。

### （８）ＳＨ09（第51図）

【遺構】

Ｋ２グリッドにあたる調査区東端で検出された竪穴住居で、ＳＨ07・ＳＨ08の東に位置する。標高81.8～82.3ｍの尾根の先端に所在することから、遺構東側は地山の流出によってほとんど失われ、最も高い部分となる西側の壁面周辺のみが検出された。全体形状は明らかでないが、隅丸方形と推定され、残存する西辺の長さは4.8ｍを測る。検出面からの深さは西端で35㎝を測り、床面はほぼ平坦となる。覆土は暗褐色土を主体とし、貼床に伴う床面構築土は確認されていない。最大幅28㎝の壁溝が西壁に沿って検出されたが、本来は全周していたものと考えられる。主柱穴は明確でないが、位置関係からＳＰ73がそのひとつと推定される。炉跡及び貯蔵穴は未確認である。西側壁面に近い部分で遺物が集中して出土している。

壺の頸部（335）と甕の口縁部（336）を図示したが、（336）を中心とした遺物群は床面から２㎝ほど浮いているため、遺構廃絶後に投棄された可能性がある。これら遺物の年代観から、遺構は弥生時代後期後半から古墳時代初頭に属するものとみられる。

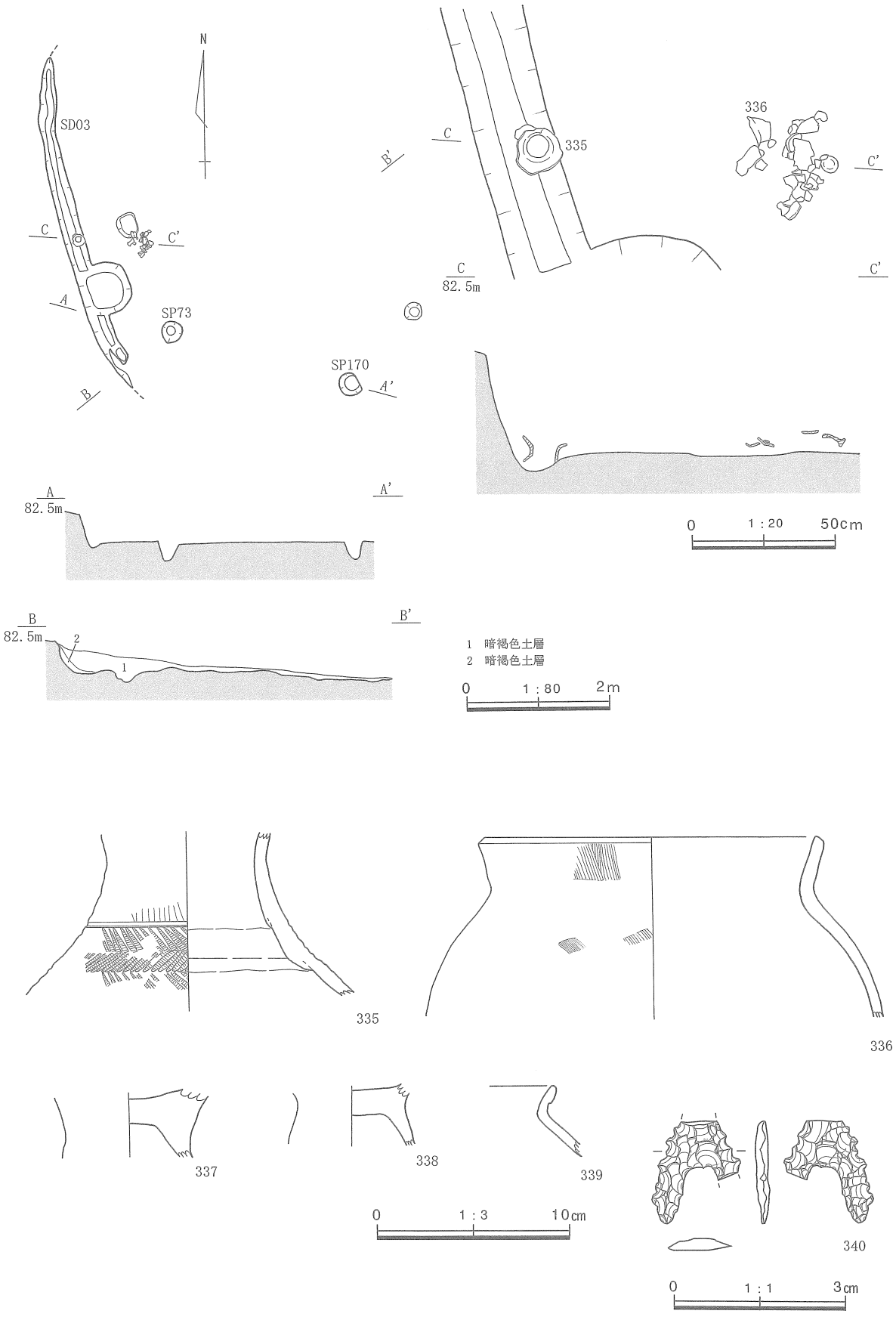
【出土遺物】

出土遺物（第51図）は壺（335）と台付甕（336～339）、縄文時代石鏃（340）である。（335）は口縁部と胴部の境に横位沈線を付け、ハケ原体を刺突している。（336）は口縁部と胴部にハケ調整をしている。（337・338）は台付甕台部で調整不明である。（339）は甕口縁部で調整不明である。（340）は縄文時代の鋸歯縁凹基石鏃である。遺物は石鏃以外が弥生時代後期後半から古墳時代初頭である。

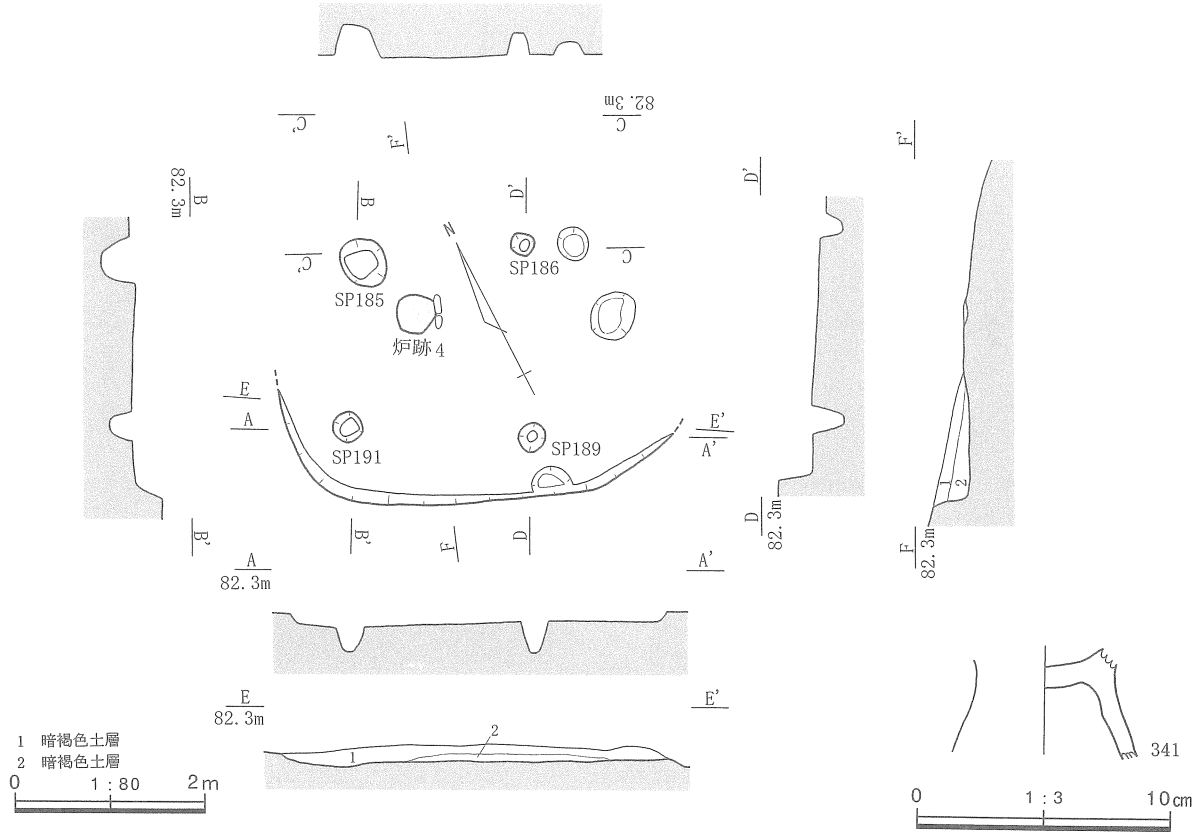
### （９）ＳＨ13（第52図）

【遺構】

Ｂ～Ｃ７グリッドで検出された竪穴住居である。弥生時代～古墳時代前期の住居群は調査区東側の尾根上に立地するが、ＳＨ13のみはＳＨ01～06・11が立地する尾根から約60ｍ離れた標高81.7～82.1ｍの




第51図　ＳＨ09平面・断面図・出土遺物実測図




**第52図　ＳＨ13平面・断面図・出土遺物実測図**

尾根上に営まれる。北東に向かって傾斜する地点にあるため、遺構北半部から東側にかけては地山の流出によって失われている。平面形は南側壁の形状から、隅丸方形と推定され、南辺残存部の長さは4.7ｍを測る。覆土は暗褐色土を主体とし、貼床の痕跡は認められなかった。検出面からの深さは南部の最も残りの良い部分で36㎝を測り、前述のように北辺部にかけては地山の流出により、平面形が定かでなくなる。主柱穴はＳＰ185・186・189・191と推定され、それに基づけば主軸方向はＮ－58°－Ｗである。柱穴の平面形状は円形または楕円形で、長径25～49㎝、深さ22～39㎝の規模である。住居のやや南西寄りにあたる箇所で炉跡4が検出されている。炉は長径40㎝、深さ４㎝の不整形な円形の範囲の掘り込みに赤褐色土が充填されており、東側に長さ10㎝と20㎝程度の置石が２個配置されていた。出土遺物が明らかでないため帰属時期は不明瞭であるが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのいずれかの時期の遺構であろう。

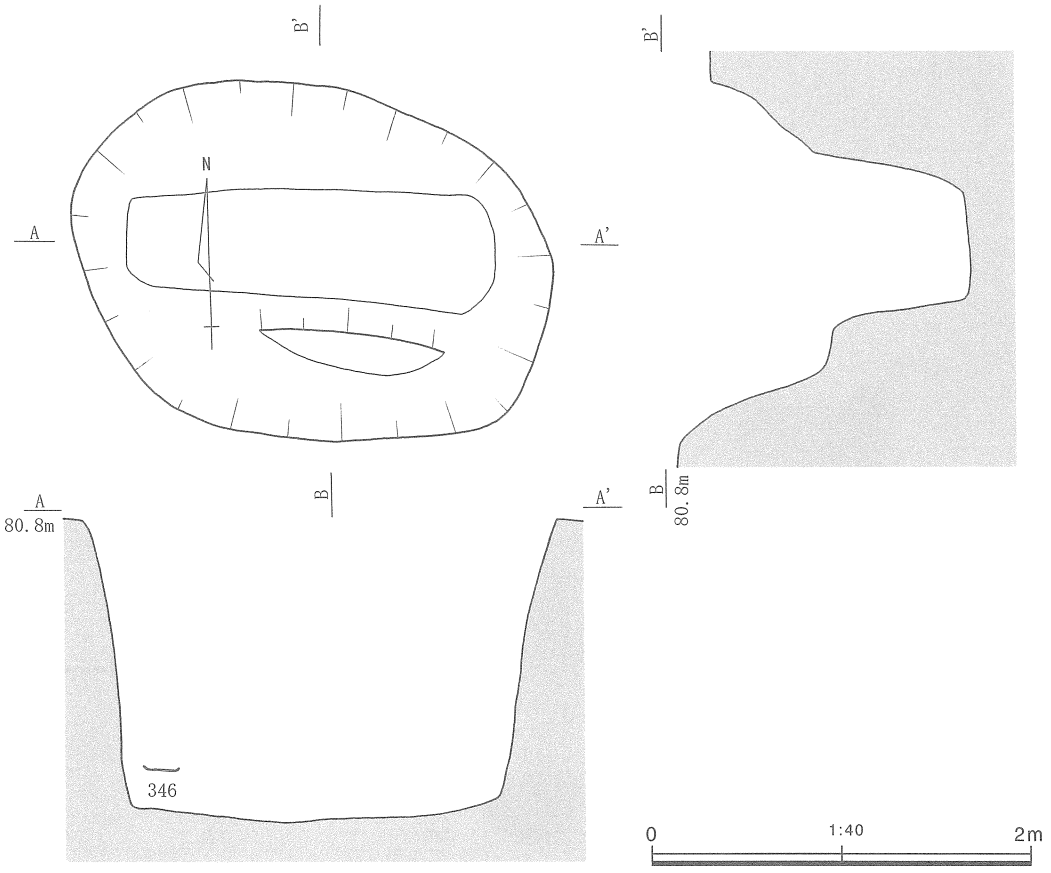
【出土遺物】

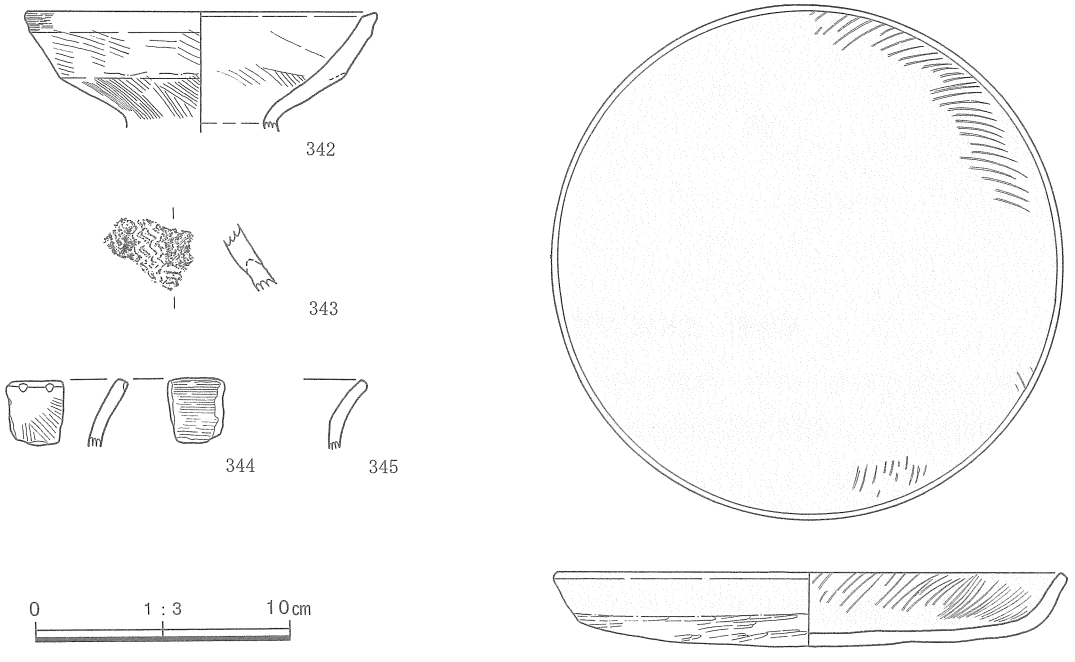
出土遺物（第52図341）は台付甕の脚部であるが、表面がかなり摩滅しているため調整などは不明である。

### （10）ＳＫ160（第53図）

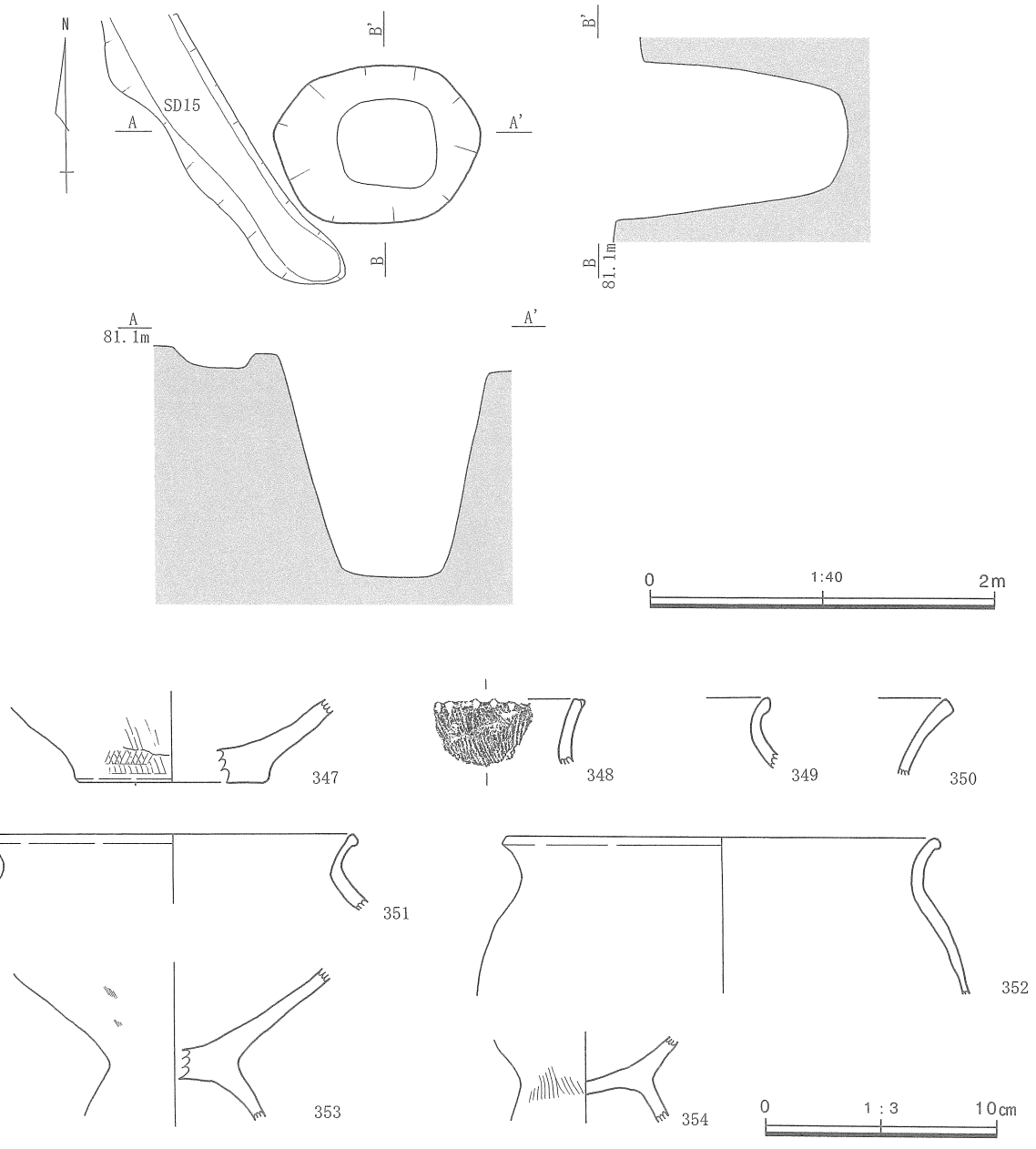
【遺構】

Ｃ７グリッドで検出された土坑で、標高80.5～80.7ｍの地点に立地する。掘方の上端は長径2.5ｍ、短径1.9ｍのやや不整形な長楕円形であるが、下端は長軸2.0ｍ、短軸48～60㎝の長方形を呈し、下端の長軸方向はほぼ東西方向を向いている。検出面からの深さは160㎝を測り、南側には最大幅18㎝のテラスが設けられている。遺構西端では底面から約20㎝浮いた層位で完形の土師器盤(346)が出土している。




第53図　ＳＫ160平面・断面図・出土遺物実測図

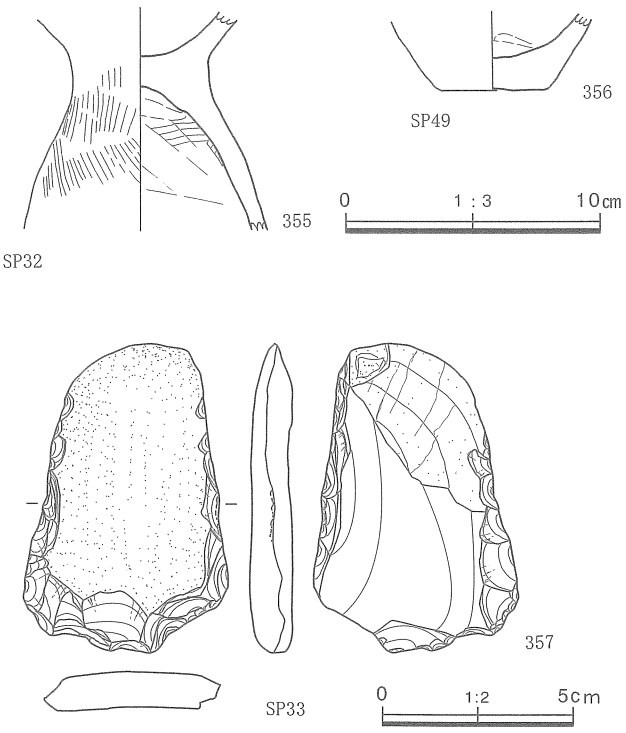



**第54図　ＳＫ165平面・断面図・出土遺物実測図**

長方形を指向した掘方のあり方や、供献されたとみられる土師器盤の出土状況から、ＳＫ160は奈良時代の土坑墓と判断される。周囲に同時代の遺構は見あたらないことから、単独で営まれた可能性が高い。

【出土遺物】

出土遺物（第53図）は壺（342・343）、台付甕（344・345）、古代の土師器盤（346）である。（342）は口縁部内面をハケ調整の後ナデている。口唇部は面取りしてナデ、以下をハケとハケ調整の後ナデている。菊川式の新しい段階と思われる。（343）は頸部に縦位の櫛描き波状文を付けており、弥生時代中期か後期と思われる。（344）は口唇部に沿ってキザミ目を付け、内面と外面にハケ目を施している。（345）は風化のため調整不明である。（346）は８世紀代の土師器盤で内面斜位に放射線状の暗文がある。赤彩されており全面に磨きがかかる。口径20.3㎝、器高2.9㎝である。土師器盤以外の土器は混入品であろう。




第55図　ＳＰ32・ＳＰ49・ＳＰ33出土遺物実測図

### （11）ＳＫ165（第54図）

【遺構】

Ｄ６グリッドで検出された土坑で、標高80.8～81.0mの地点に立地する。縄文時代の遺構ＳＨ14、古代の遺構ＳＫ160の南に隣接し、西側はＳＤ15に近接する。平面形状はやや不整形な楕円形で、長径1.2m、短径0.9m、深さ1.3mを測る。土坑の性格は不明であるが、後述するように覆土中から、土器類が比較的多く出土している。出土遺物の様相から、遺構は弥生時代後期から古墳時代前期初頭の遺構と推定される。

【出土遺物】

出土遺物（第54図）は壺（347）、台付甕（348～354）である。（347）は表面がハケ目調整ののちヘラ削りしており、内面が風化により調整不明である。（348）は口唇部に刻目を入れ、ハケ目を縦位に付け、内面も縦位にハケ目を施している。（349～351）は風化により調整不明である。（352）は口唇部を面取りしているが風化により調整不明である。（353・354）は風化により調整不明である。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期初頭と思われる。

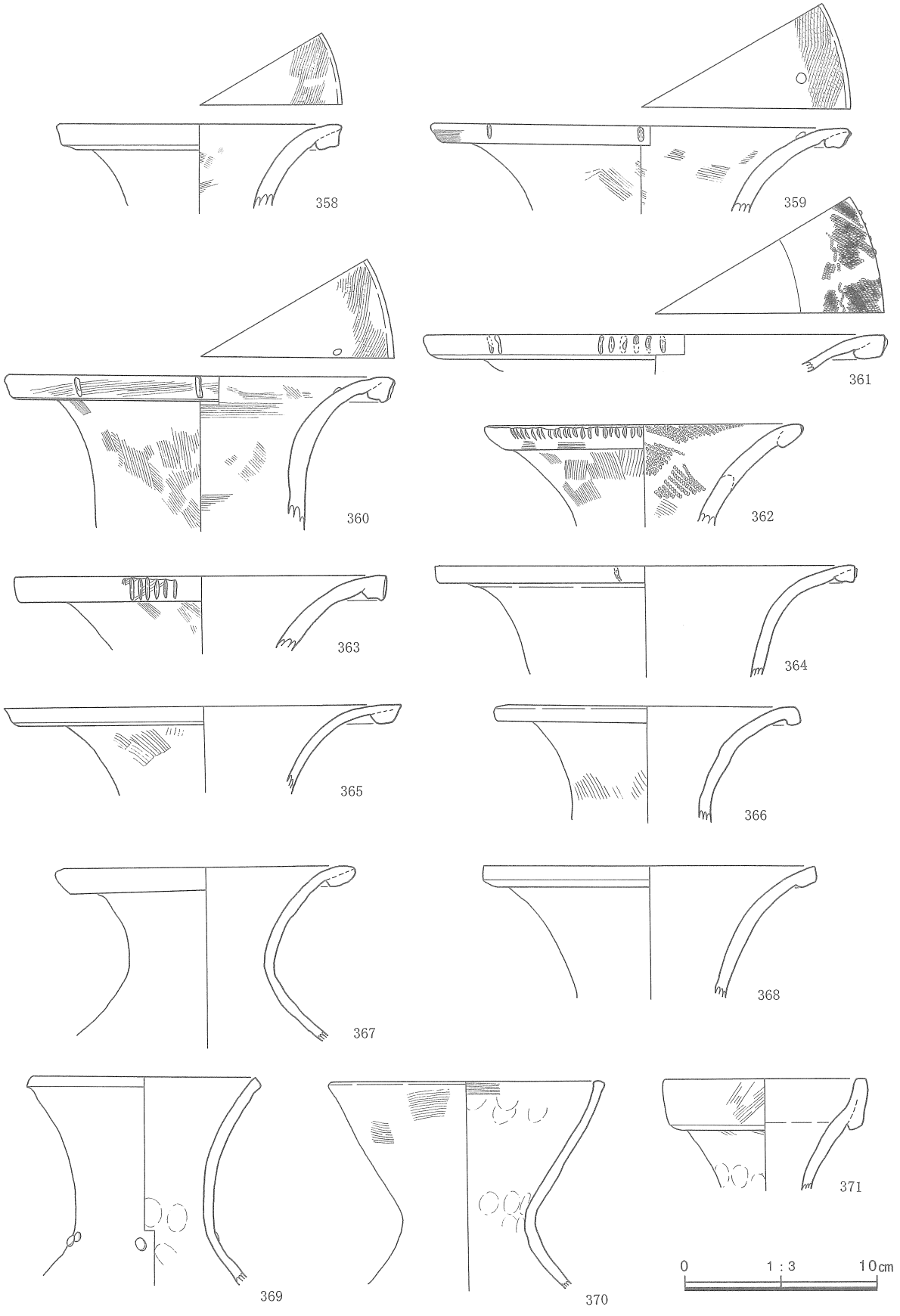
### （12）ＳＰ32・ＳＰ49・ＳＰ33出土遺物（第55図）

ＳＰ32・49・33はＩ２グリッドで検出された小穴である。ＳＰ32からは台付甕（355）が出土しているが、甕台部で外面は縦位と斜位にハケ調整し、内面は板ナデをしている。ＳＰ49からは壺底部（356）が出土しているが、風化により調整不明である。ＳＰ33からは縄文時代の撥形打製石斧（357）が出土しており砂岩製である。

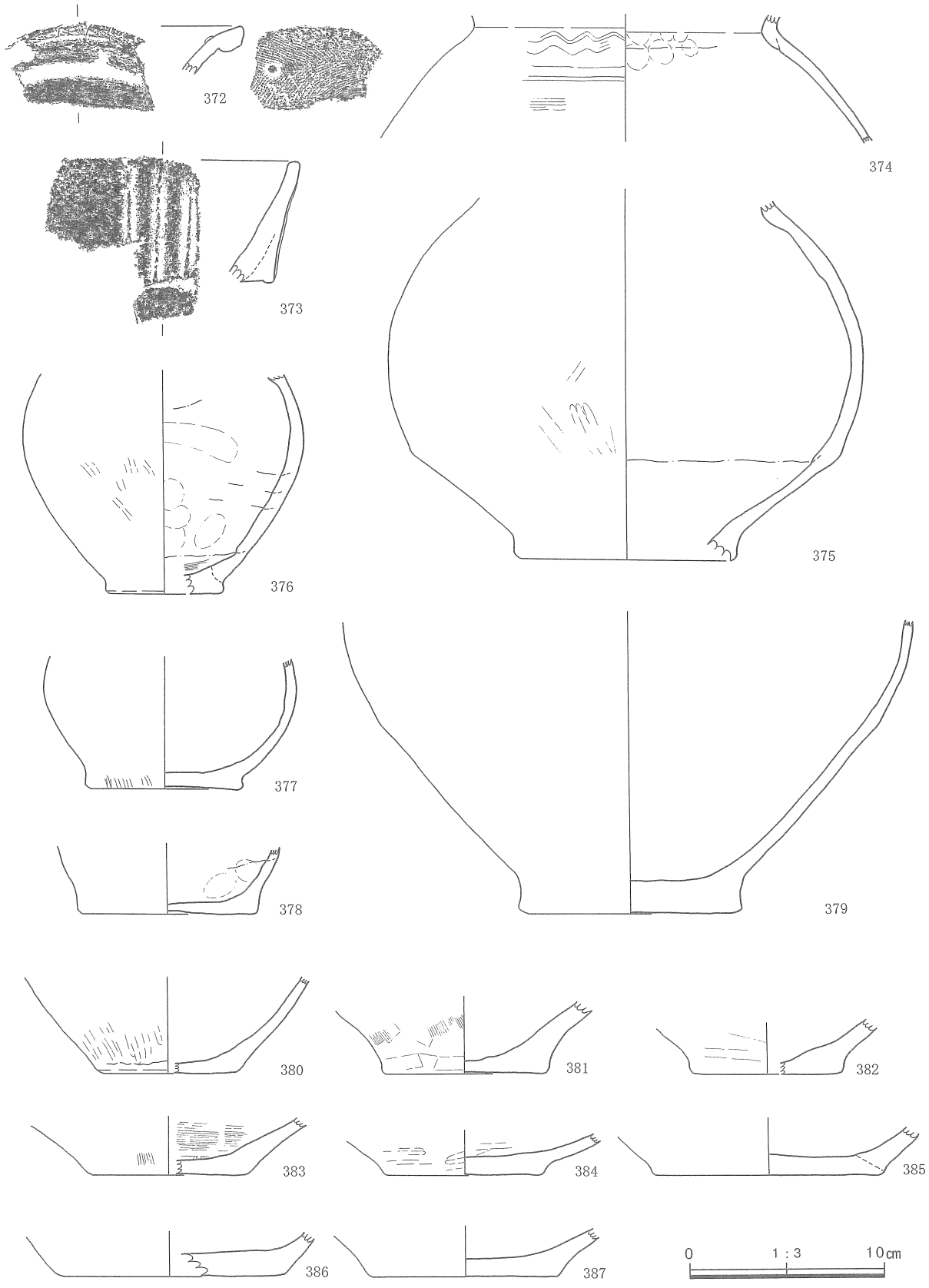
## ３．遺構外出土遺物

### （１）遺構外出土土器（第56図～第59図）

（第56図358～371・第57図372～387）は壺形土器である。（358～371）は菊川式の新しい段階と思われ、弥生時代後期後半から終末、古墳時代前期初頭の時期であろう。（358）は風化しているが折返し口縁に棒状浮文を付ける。口縁内部に条の太さ約１㎜、長さ約2.1cmのＲＬ縄文原体を内面に回転押捺している。外面については風化により調整不明である。（359）は折返し口縁を横ナデしており、口縁部内面に条の太さ約１㎜、長さ約2.1cmのＲＬ縄文原体を付ける。外面は風化しており調整不明であるが、口唇部に棒状浮文が３か所残っており、全部で８か所あったと思われる。口縁部は風化しておりハケ調整が一部残り、黒班のスス状のものが付着している。（360）は折返し口縁にして条の太さ約１㎜、長さ約2.3cmのＲＬ縄文原体を内面に施して、円形浮文を付ける。口唇部は斜位にハケ調整し、縦位の棒状浮文を２か所施している。口縁部は約11本単位のハケ目を縦位に付ける。（361）は風化しているが、折返し口縁の内面に条の太さ約１㎜、長さ約９㎜のＲＬ縄文原体を結節し、さらに条の太さ約１㎜のＬＲの縄文を付けて羽状縄文にしている。表面は風化により調整不明であるが、縦位の棒状浮文を６本１組で貼り付




第56図　遺構外出土遺物実測図８




第57図　遺構外出土遺物実測図９

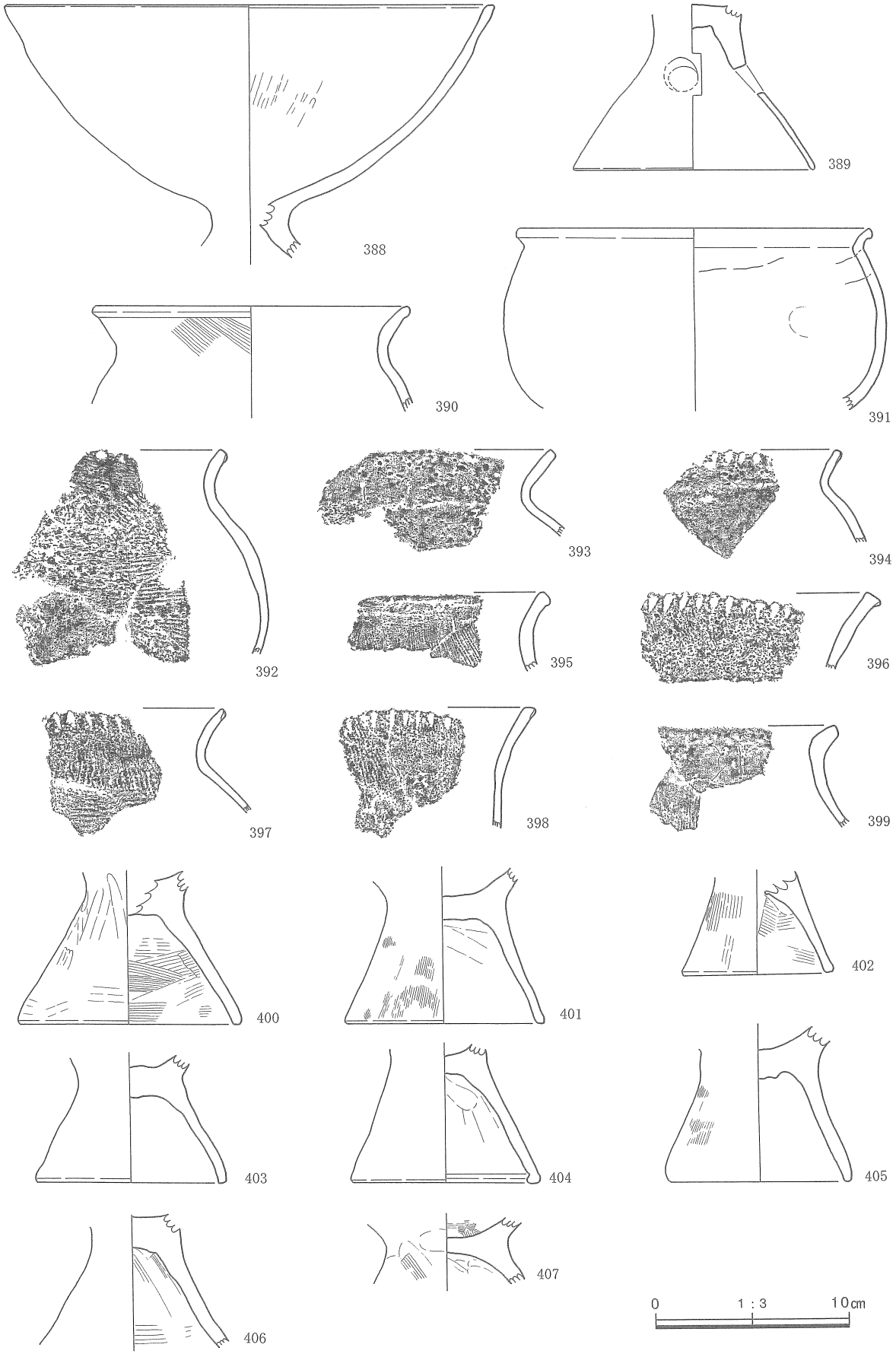
けている。(362) は折返し口縁の内部に条の太さ約２㎜、長さ約2.5㎝のＲＬ縄文を付ける。口唇部横位にハケ調整し、口唇にハケ目原体で刺突を施している。口縁部から胴部にかけて約10本単位の原体でハケ調整をしている。(363) は折返し口縁の内面が風化により調整不明で、口唇部斜位にハケ調整した後、縦位の棒状浮文を付け、浮文の上部にもハケ調整を斜位に施している。口縁部に約６本単位のハケ調整を斜位に付けている。(364) は折返し口縁で風化により外面、内面とも調整不明である。口縁部に棒状浮文を縦位に付けている。(365・366) は折返し口縁で風化により外面､内面とも調整不明であるが、表面に一部にハケ調整が残る。(367・368) は折返し口縁で風化により外面、内面とも調整不明である。(369) は風化により外面、内面とも調整不明であるが、頸部に円形浮文が付いている。(370) は風化により外面、内面とも調整不明であるが、口縁部の一部に斜位のハケ目が残り、内面に指頭痕が付いている。(371) は折返し口縁で風化しているが、外面の口縁部斜位にハケ目痕を施し、頸部に指頭痕が付いている。内面の頸部にも指頭痕が付いている。(372) は折返し口縁で風化により外面の調整不明であるが､内面は条の太さ約１㎜のＲＬとＬＲの原体を回転し羽状縄文を施し、円形浮文を付けている。(373) は折返し口縁で風化により外面と裏面の調整不明であるが、３本単位の縦位棒状浮文が付く、古墳時代前期古段階の大廓式土器の壺である。(374) は頸部に５本単位の櫛描き波状文と横線文を付け、内面頸部に指頭痕が残る伊勢湾岸装飾壺で、古墳時代前期の製品である。

（第57図375～387）は壺の胴部から底部の破片である。風化により外面、内面とも調整不明であるが (375・376) はヘラ磨きがわずかに残る。内面に輪積痕と指頭痕がある。(377) は風化により調整不明であるが、底部付近にハケ目調整がわずかに残る。(378) は風化により調整不明で、底部付近にハケ目調整がわずかに残り､内面に輪積みの指頭痕が付いている。(379) は風化により調整不明である。(380) は風化により調整不明であるが、底部付近をヘラ磨きしている。(381) は板ナデ調整している。(382) は風化により調整不明であるが外面を板ナデしている。内面は不明である。(383) は全面に焼けた跡があり、内面にハケ目と指頭痕が付く、外面にハケ目痕がわずかに残る。(384) は外面に被熱痕がある。底面と内面に板ナデ痕があり、外面にヘラ磨きとナデ痕がある。(385～387) は風化により内面と外面の調整不明である。

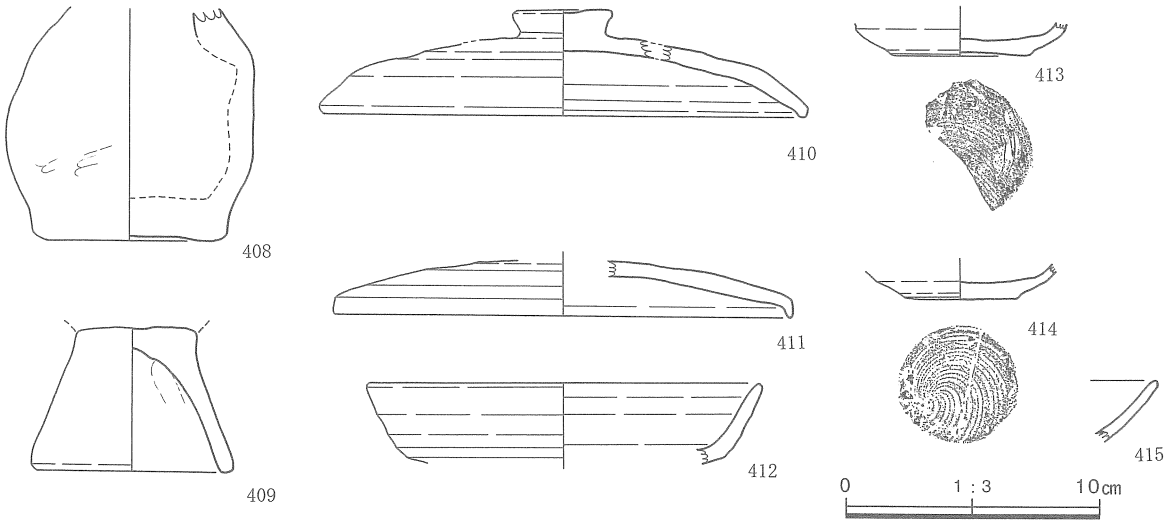
（第58図388・389）は高坏である。(388) は口径が大きく深い高坏で、内面一部に磨き痕が残る。外面は風化により調整不明である。弥生時代後期後葉から古墳時代の本屋敷式土器である。(389) は高坏脚部で円形の穿孔が３か所ある。風化により内面と外面の調整は不明で本屋敷式土器である。

（第58図390～407）は台付甕である。(390) は折返し口縁で内面調整が風化により不明である。外面はハケ調整をしている。(391) は甕口縁から体部で調整は内面、外面とも風化により不明である。(392) は口唇を面取りし刻目を付け､内面が風化により調整不明である。外面は横位にハケ調整を施している。(393) は風化により内面、外面とも調整が不明である。(394) は風化しており口唇部に刻目を施して、内面に横位のハケ調整し、外面口縁部付近に縦位、胴部に横位のハケ調整をしている。(395) は口唇部をナデ、内面をハケ調整し、外面を縦位にハケ調整している。(396) は口唇部に刻目を施しているが、風化により内面、外面とも調整不明である。(397) は口唇部に刺突し調整が不明であるが、胴部に縦位のハケ調整をしている。(398) は口唇を面取りして刻目を付け、内面を横位にハケ調整し、外面を縦位にハケ調整している。(399) は内面と外面の一部ナデ、外面下部を縦位にハケ調整している。

（第58図400～407）は台付甕の台部である。(400) は内面斜位と横位にハケ調整し、外面にヘラ磨き痕が一部に残る。(401) は内面の一部に指ナデ痕が残り、外面に斜位のハケ目痕が残る。(402) は内面、外面ともにハケ目痕が残り、内面天井部に指ナデ痕がある。接合部は10カ所の凹が残りソケット状に接合している。(403) は風化により調整不明であるが、内面天井部に指ナデ痕がある。(404) は風化により不明であるが、内面天井部に指ナデ痕と板ナデ痕がある。(405) は内面にナデ痕があり、外面はハケ




第58図　遺構外出土遺物実測図10




**第59図　遺構外出土遺物実測図11**

調整が一部残る。（406）は風化により不明であるが、内面天井部に指ナデ痕がある。（407）は内面をハケ調整した後ナデ調整している。

（第59図408～415）は小形壺（408）、台付甕（409）、土師器坏蓋（410）、須恵器坏蓋（411）、須恵器坏身（412）、須恵器糸切り碗（413・414）、灰釉陶器碗（415）である。（408）は手捏小形壺で風化により調整不明であるが、一部に磨き痕が残る。弥生時代末から古墳時代前期の製品と思われる。（409）は台付甕の台部で風化により調整不明であり、台部が甕部からはずれたと思われる。（410）は扁平なボタン状紐からナデを施しており、８世紀代の製品と思われる。（411）はナデとヘラ削りを施しており、８世紀代の製品と思われる。（412）は高台部近くをヘラ削りし、口縁部にかけてナデており、８世紀代の製品と思われる。（413・414）は須恵器の糸切り碗である。（415）は内面に灰釉を刷毛塗りしており、Ｋ－90号窯式の新段階併行と考えられ９世紀後半の在地製品と思われる。

### （２）遺構外出土の石器（第60～72図）

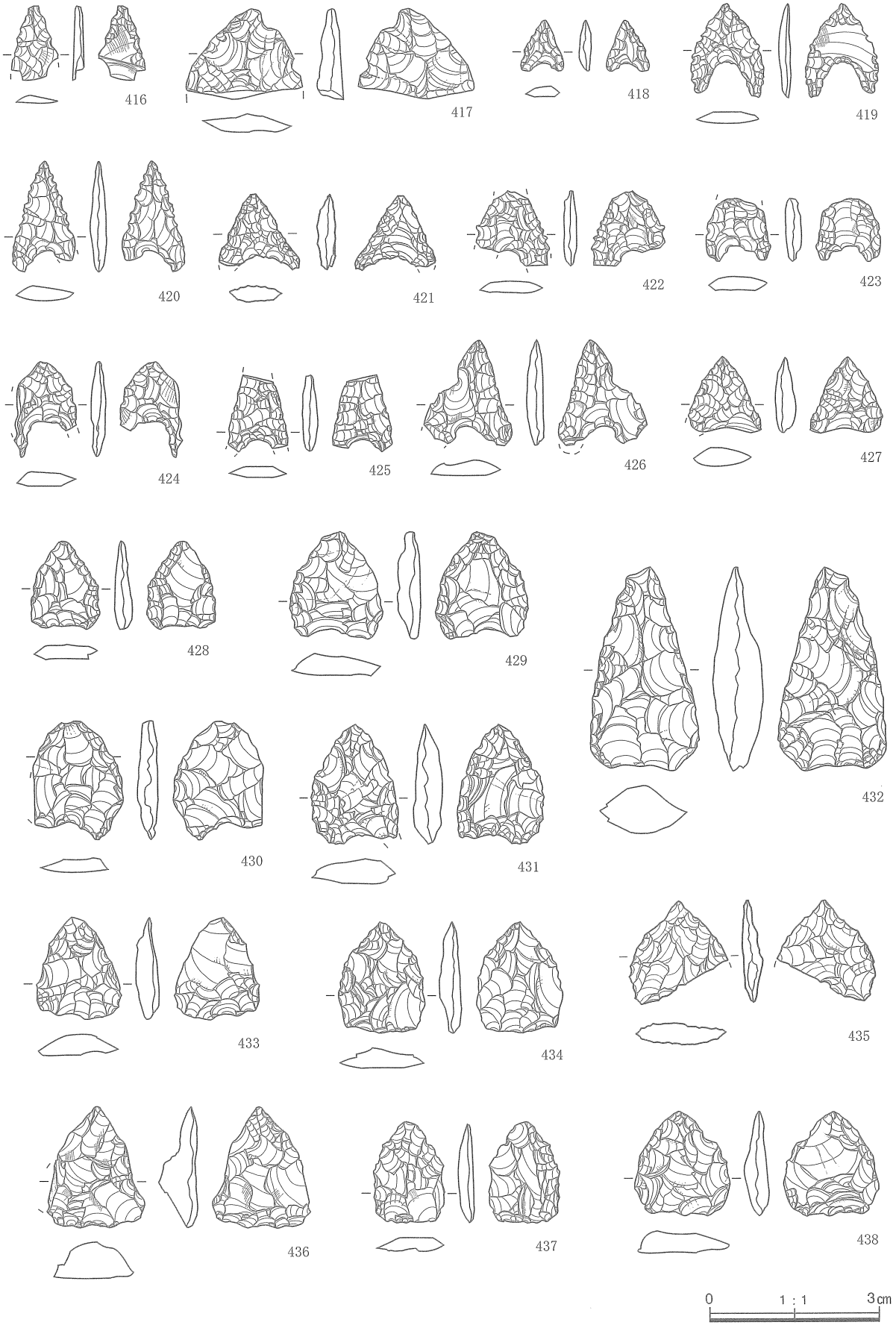
遺構外出土の石器（第60図416～第72図529）は石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、両極石器、両面加工石器、打製石斧、石錘、磨石・敲石、台石・石皿、磨製石斧、砥石、紡錘車、有孔石錘などである。

#### ①石鏃（第60図416～第61図445）

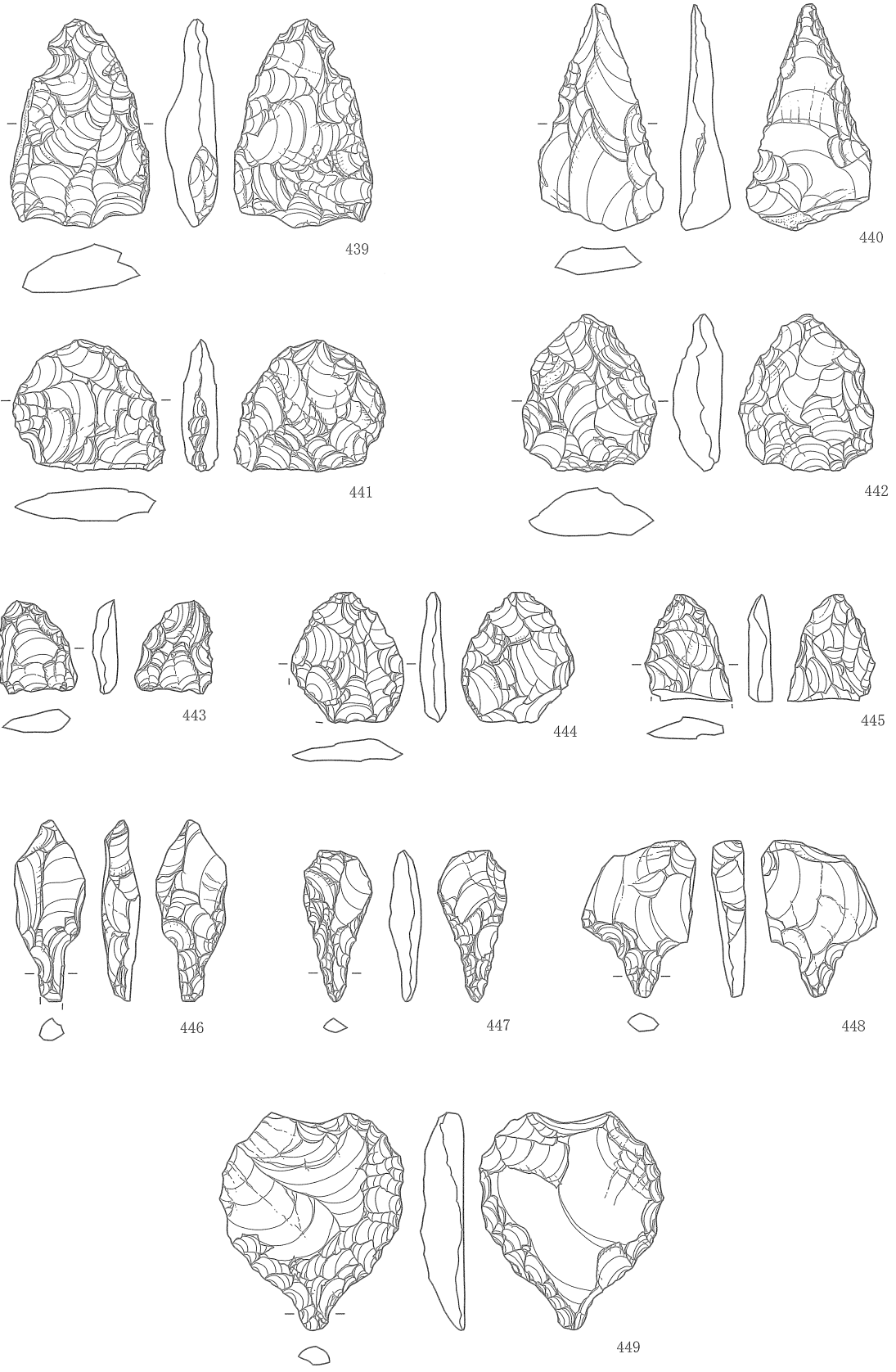
石鏃は有茎石鏃（第60図416）、有茎石鏃未成品（第60図417）、凹基石鏃（第60図418～429・431）、凹基石鏃未成品（第60図430・432）、平基鏃（第60図433～438・第61図439）、石鏃未成品（第61図440～445）などである。凹基石鏃は黒曜石製、チャート製、頁岩製、安山岩製などがあり黒曜石製が多い。長さは（431）が2.13㎝で最も長くチャート製であり、（420）が1.97㎝で安山岩製である。この型式の最も小形石鏃（418）は長さ0.91㎝で黒曜石製である。出土地点はＣ７グリットからの出土が多く５点である。平基鏃はチャート製３点、頁岩製２点、黒曜石製２点である。長さは（439）が3.38㎝で最も長くチャート製であり、この型式の最も小形石鏃は（437）が長さ1.81㎝で黒曜石製である。この型式はＣ７グリットから２点出土している。今後チャート製の凹基石鏃や平基鏃の石材の産地など注意する必要がある。これらの石鏃は縄文時代の製品である。

#### ②石錐（第61図446～449）

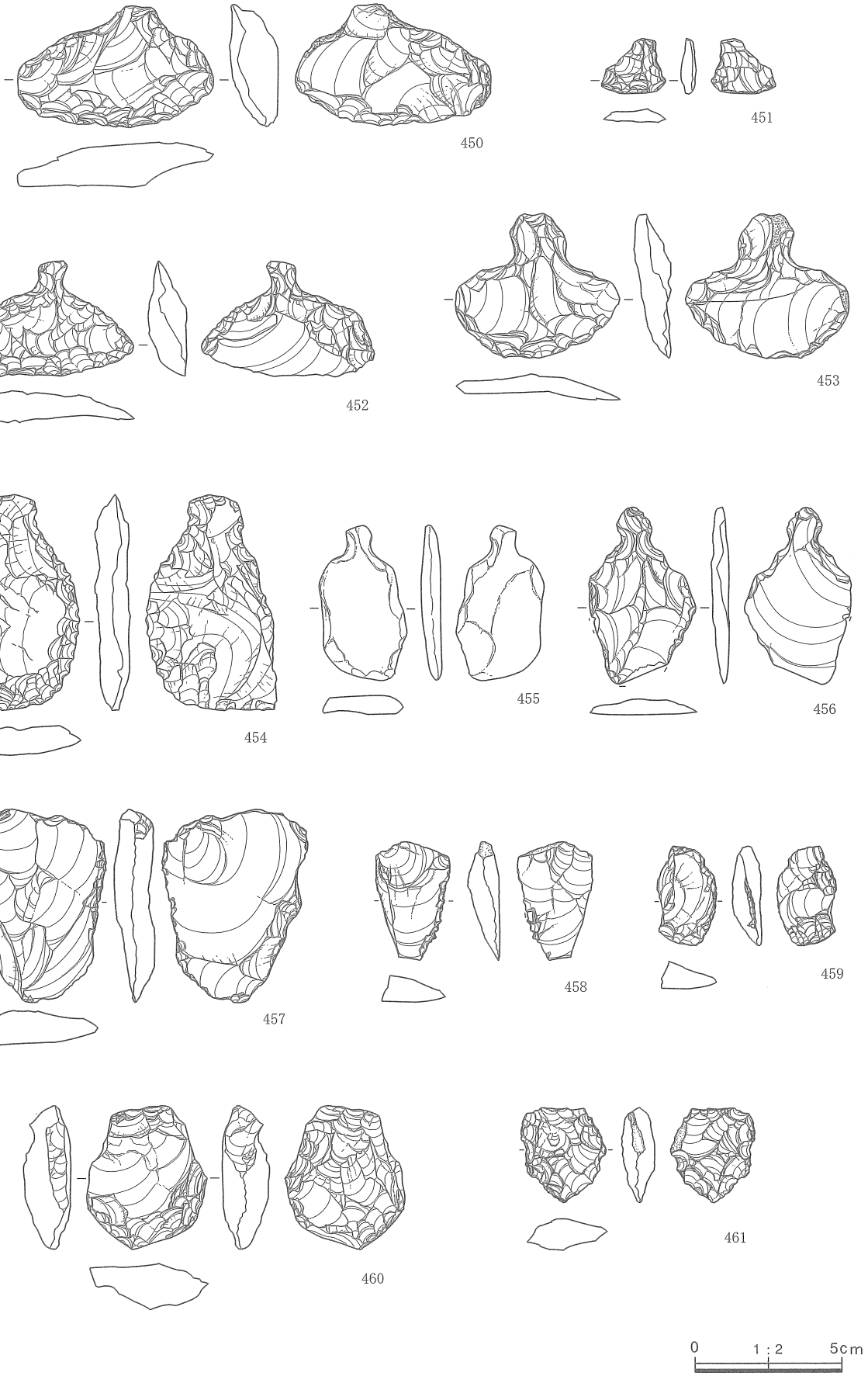
石錐は４点出土しチャート製（第61図446・447）と頁岩製（第61図448・449）である。Ｃ７グリットから２点出土しており縄文時代の製品である。



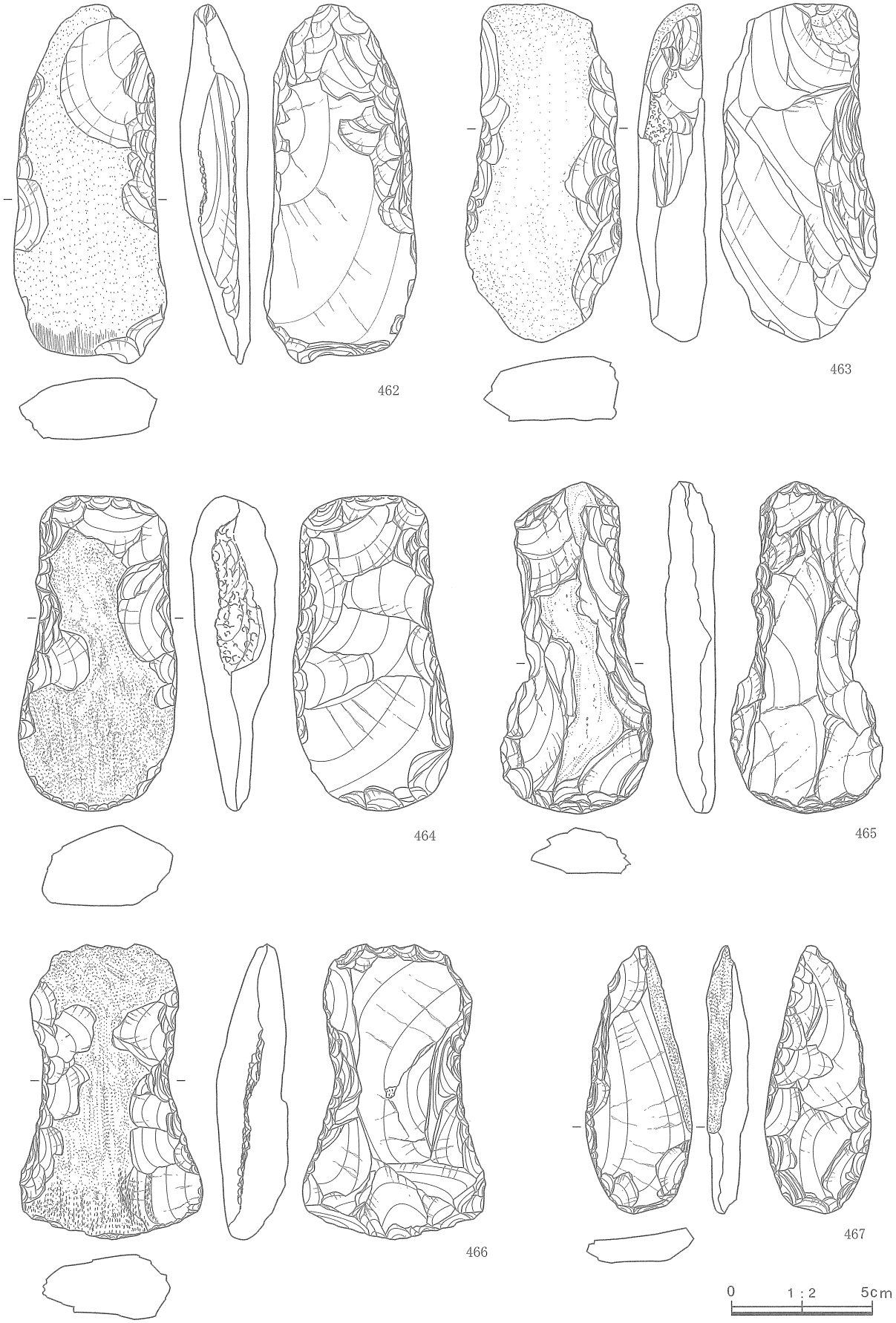

第60図　遺構外出土遺物実測図12



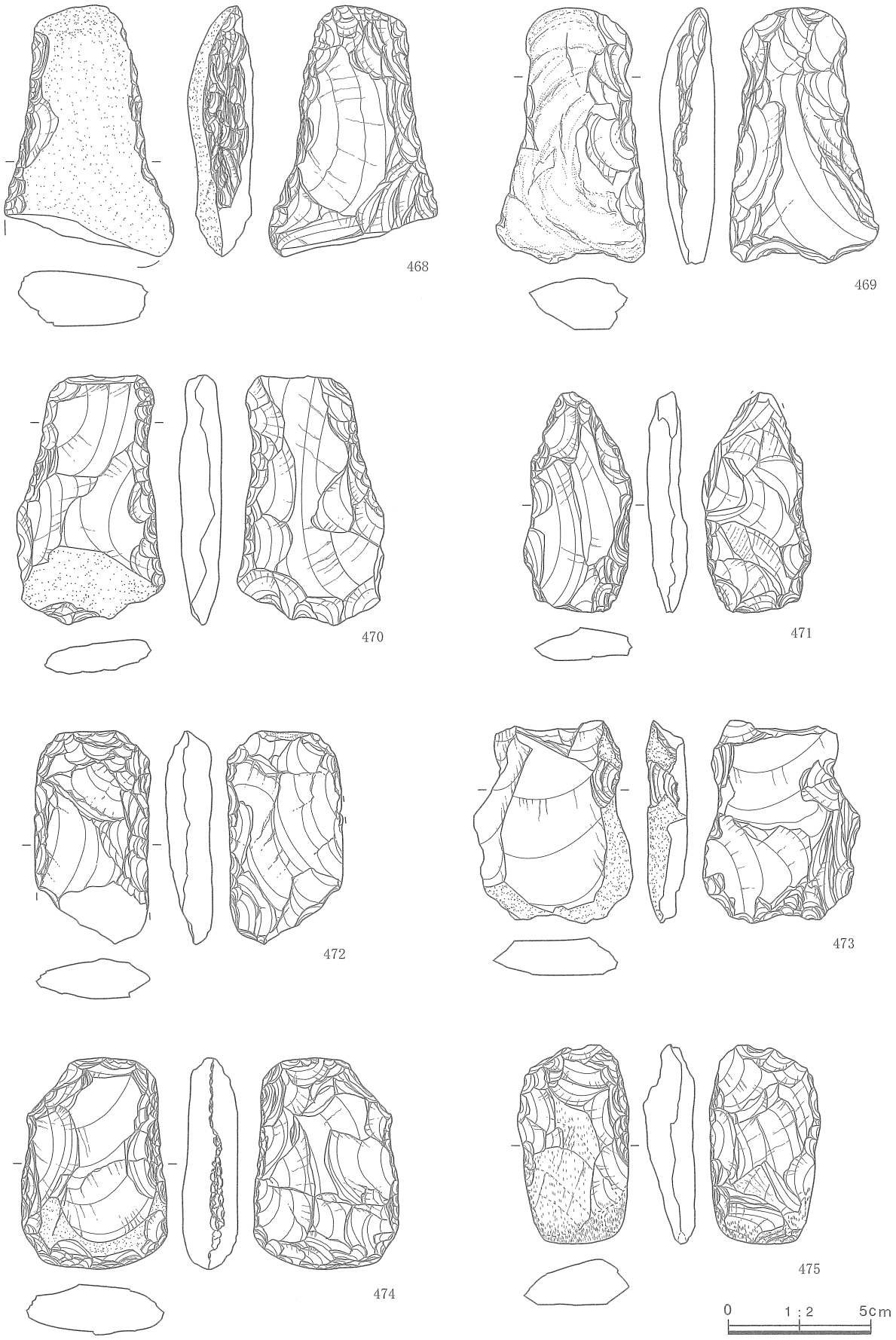

第61図　遺構外出土遺物実測図13



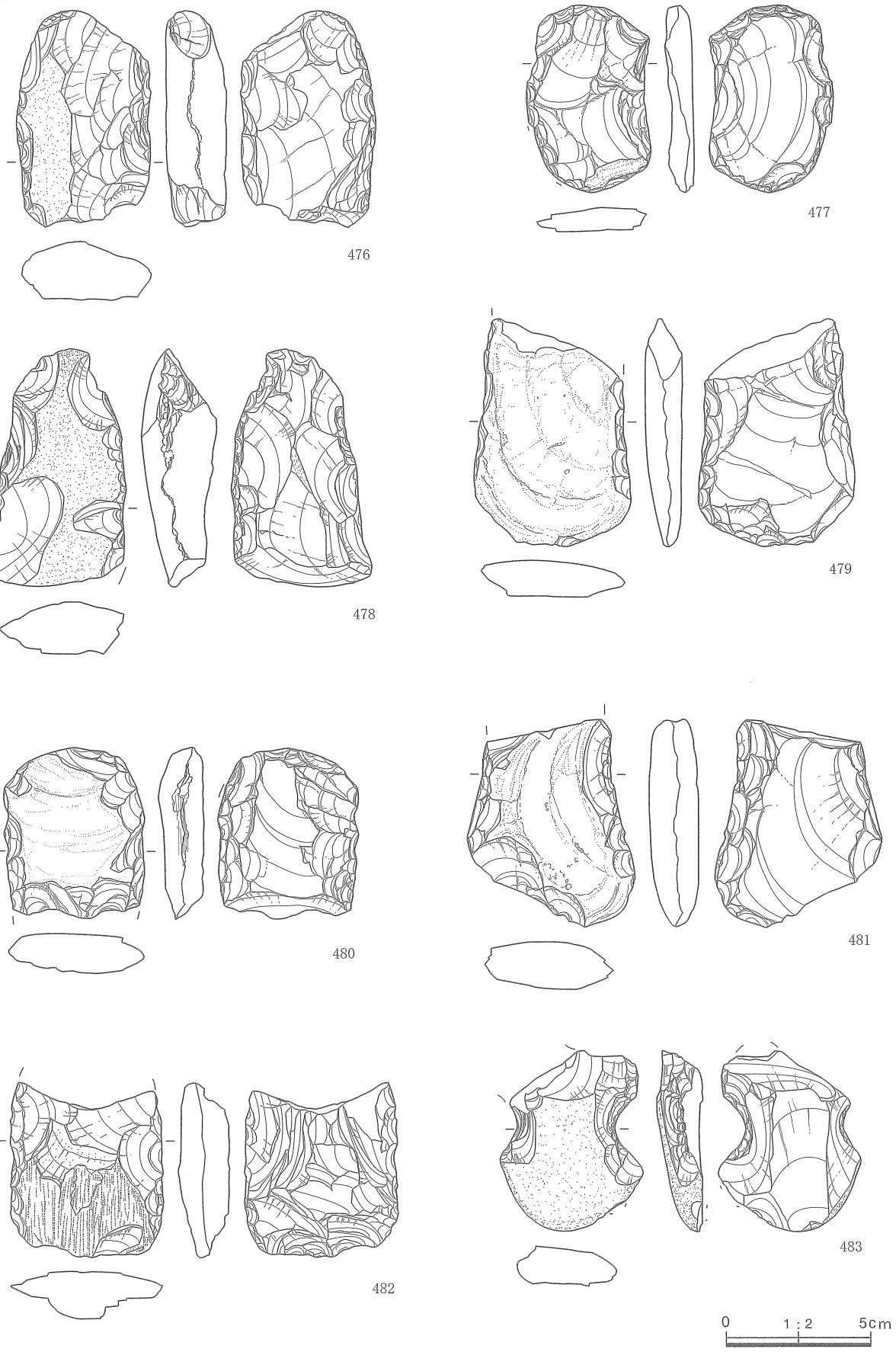

第62図　遺構外出土遺物実測図14




第63図　遺構外出土遺物実測図15

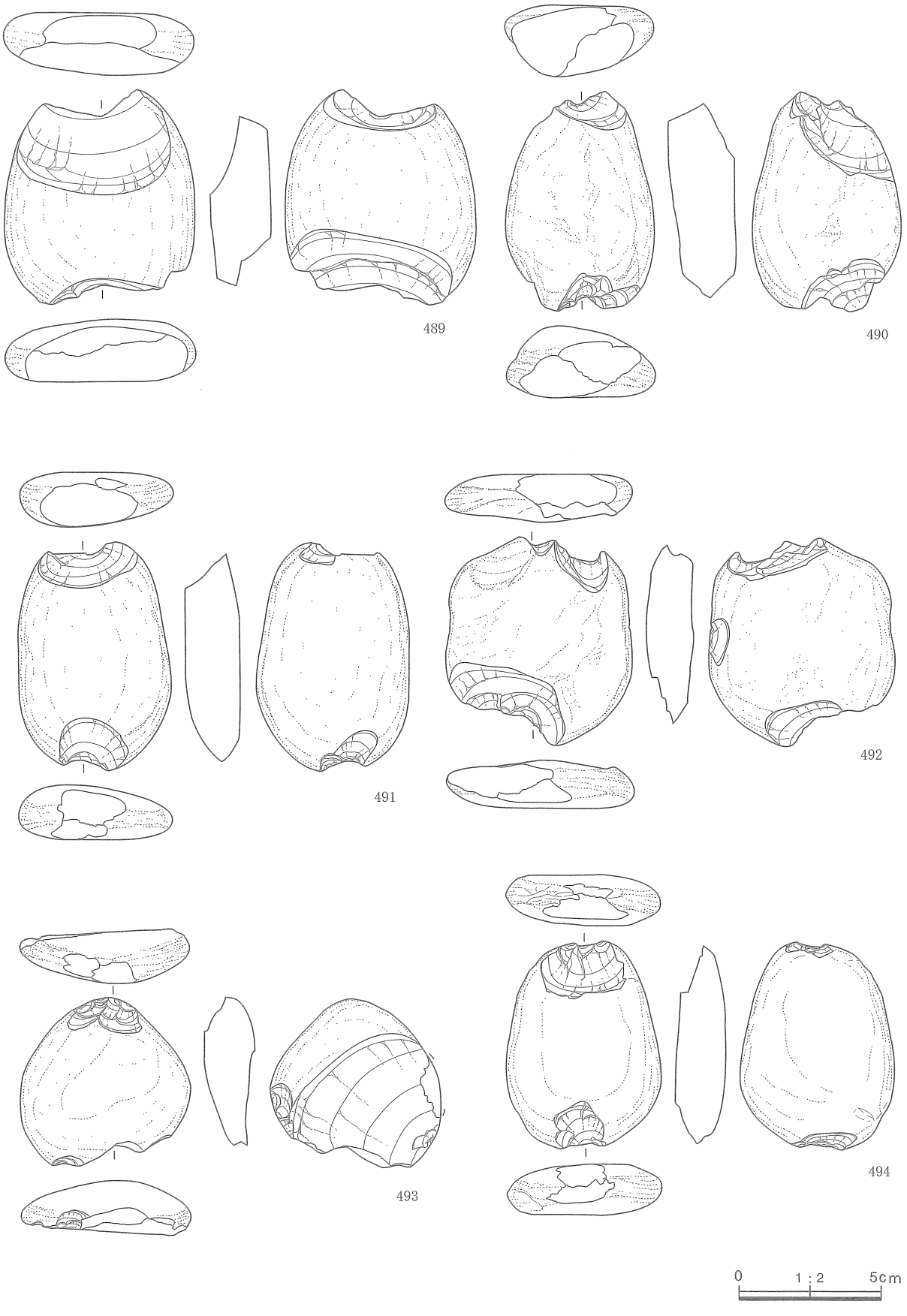



第64図　遺構外出土遺物実測図16

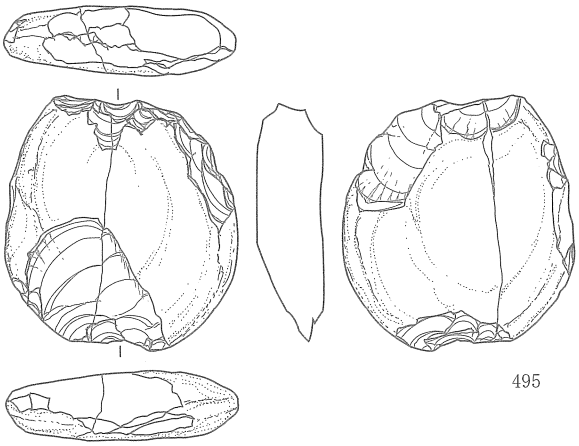


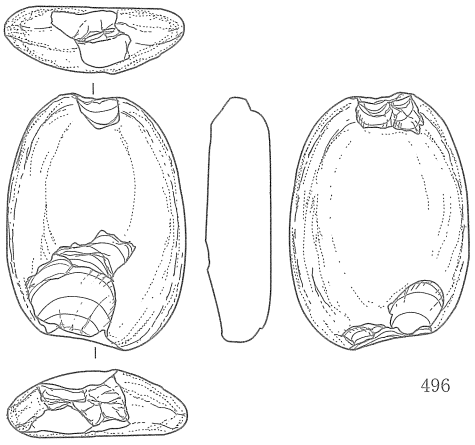

第65図　遺構外出土遺物実測図17

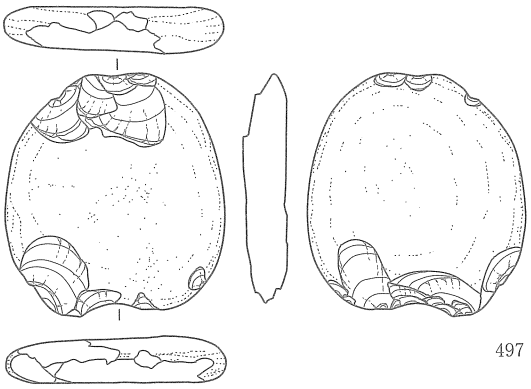
**第66図　遺構外出土遺物実測図18**

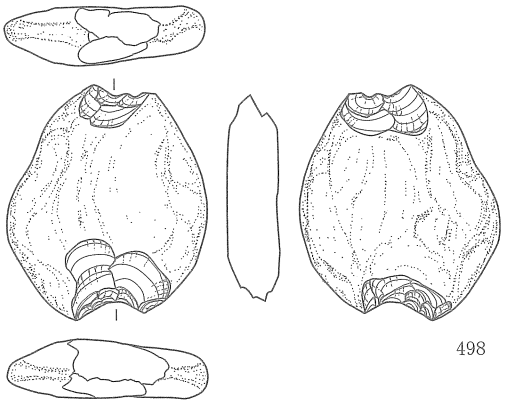


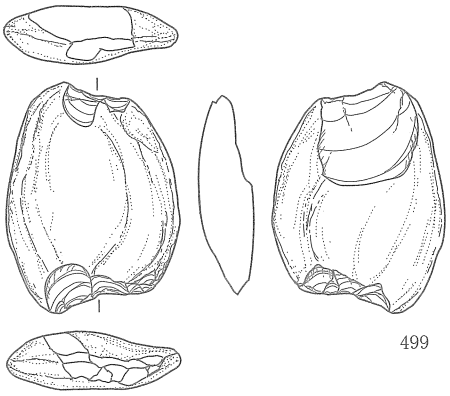

第67図　遺構外出土遺物実測図19

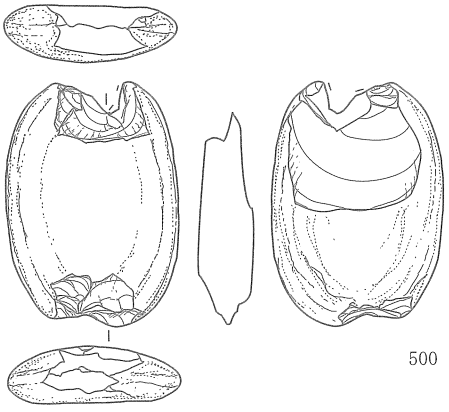


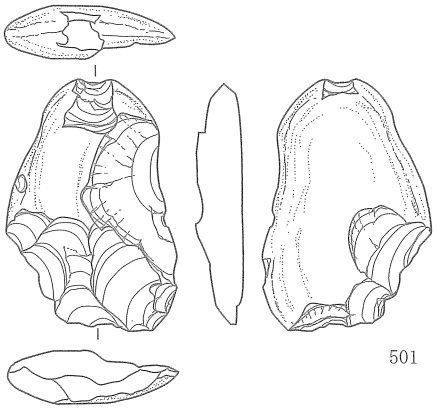



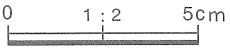



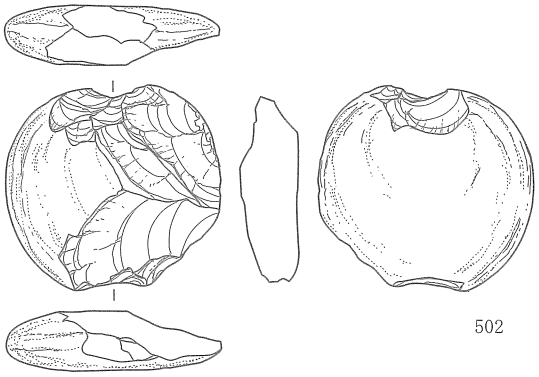



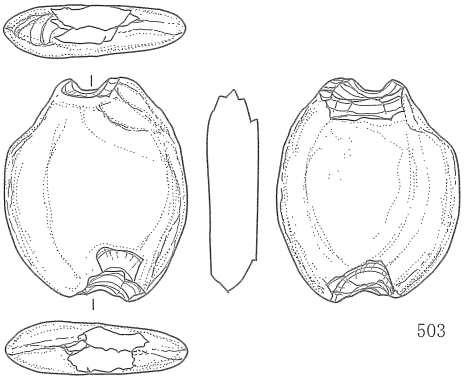



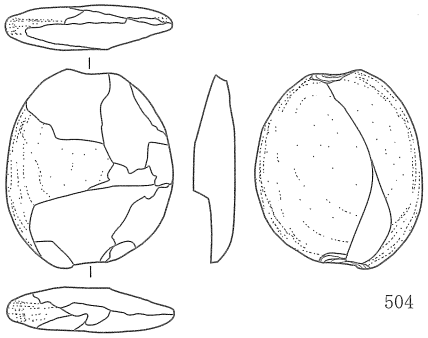



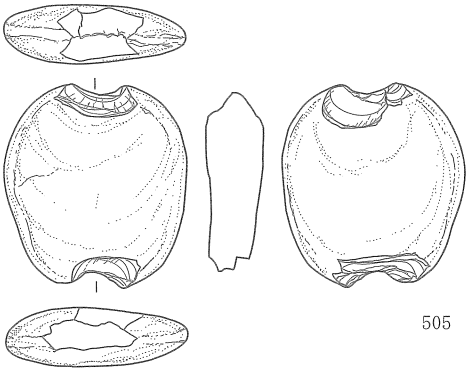



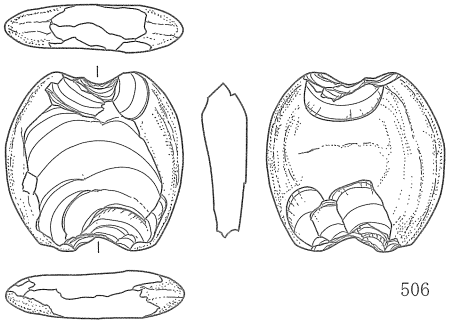

第68図　遺構外出土遺物実測図20

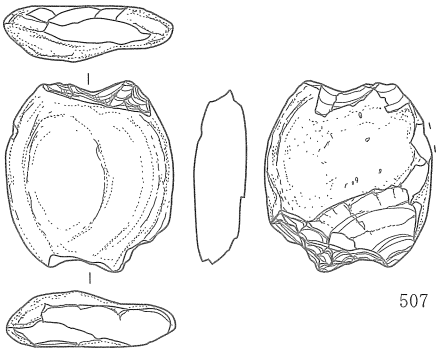

502

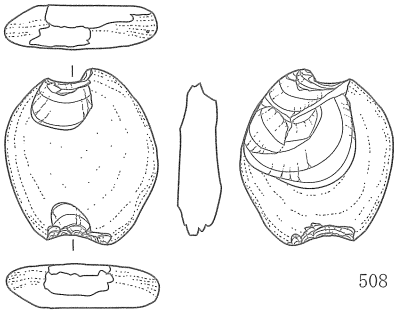

503

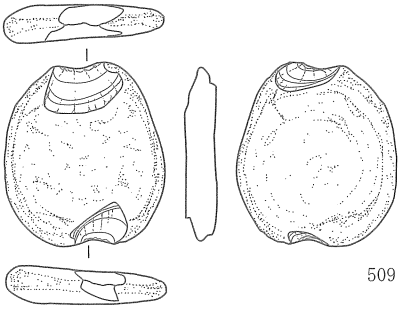

504

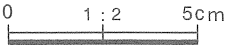

505


506

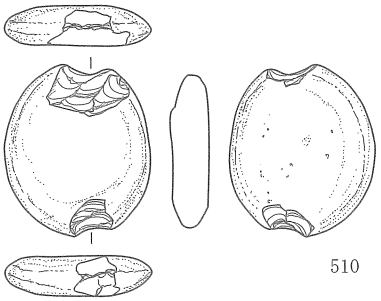

507

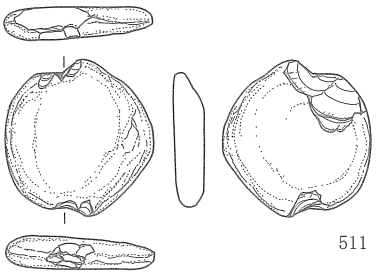

508

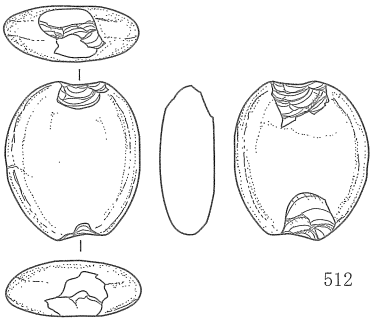

509

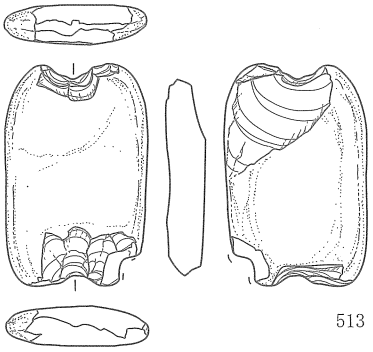


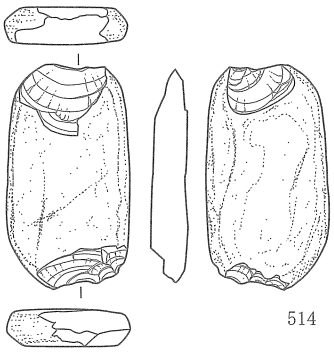

**第69図　遺構外出土遺物実測図21**

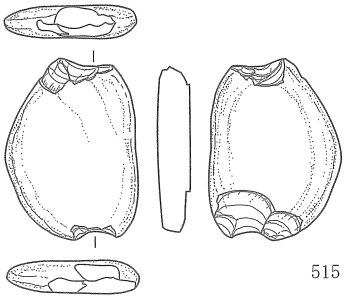


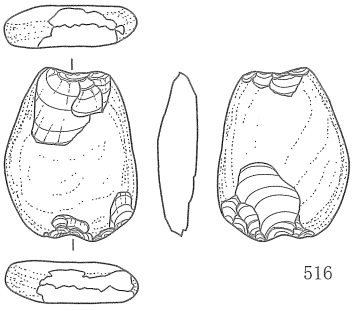



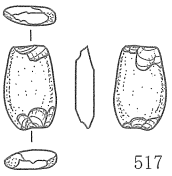



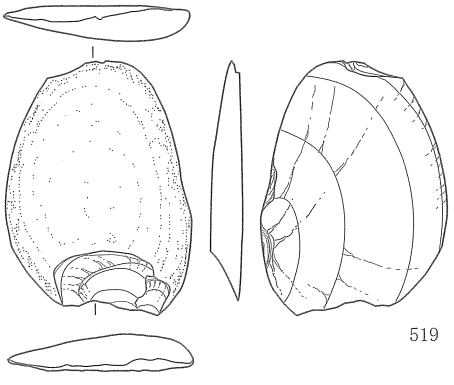



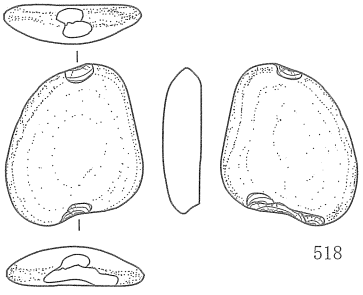



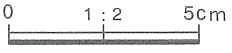



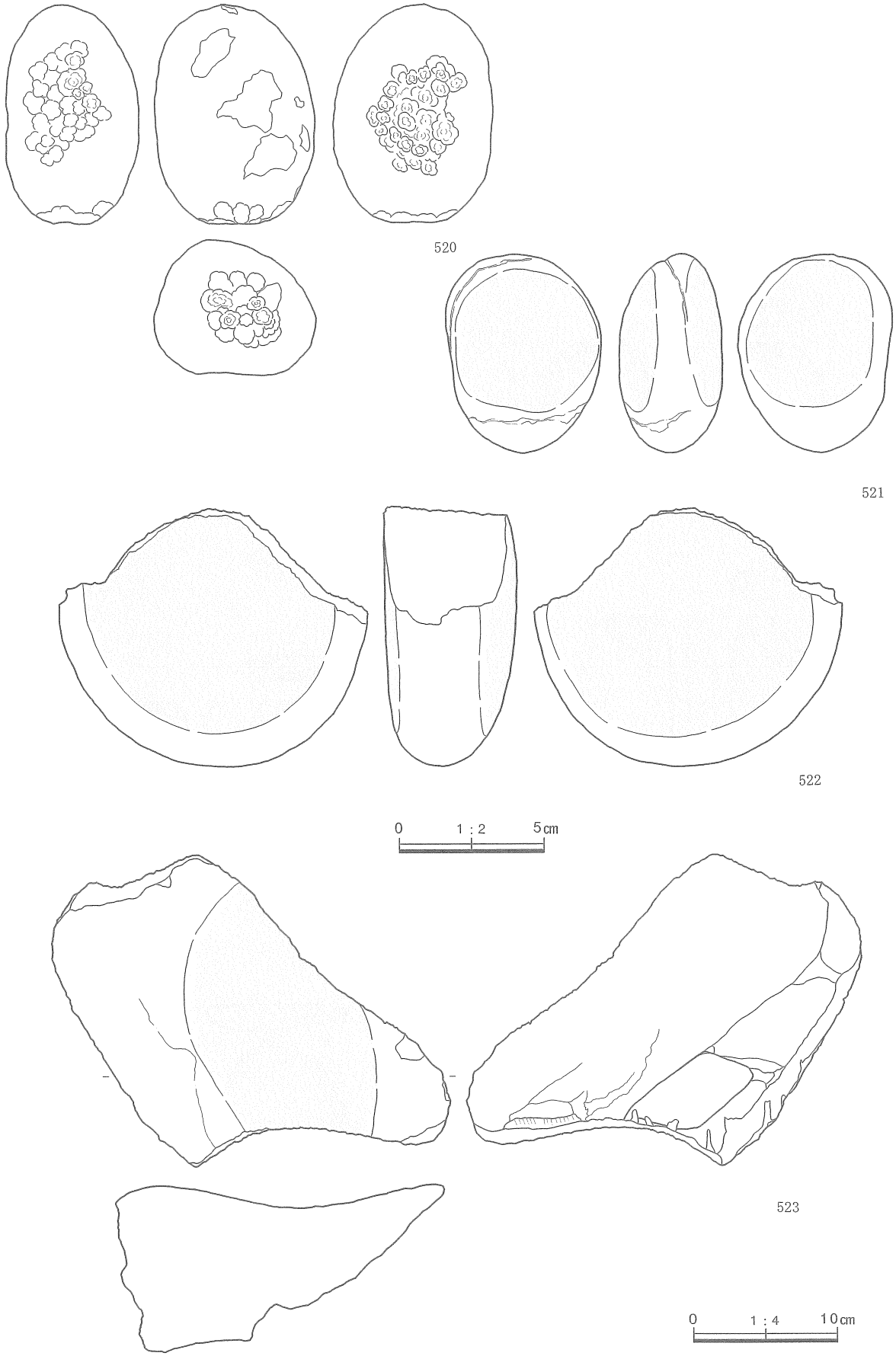



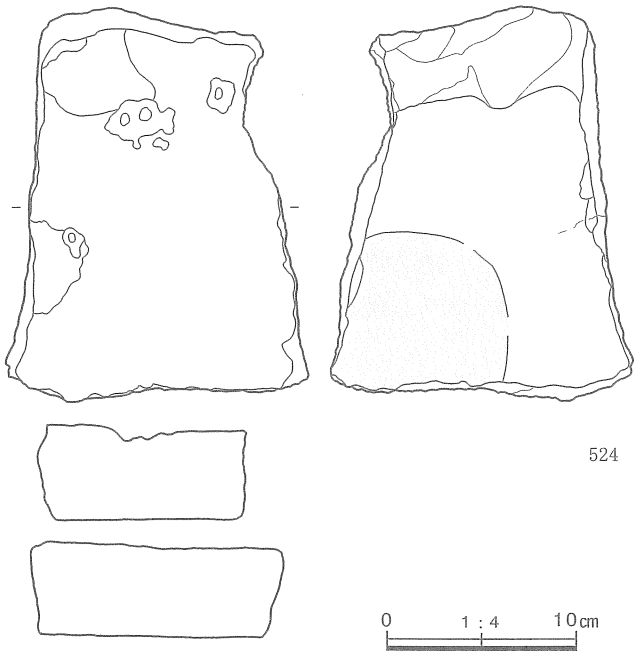



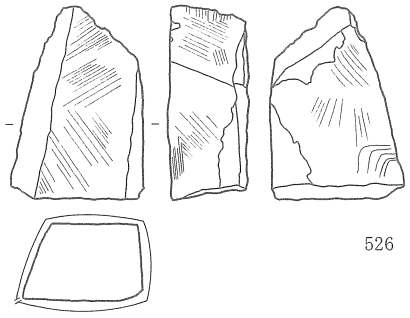



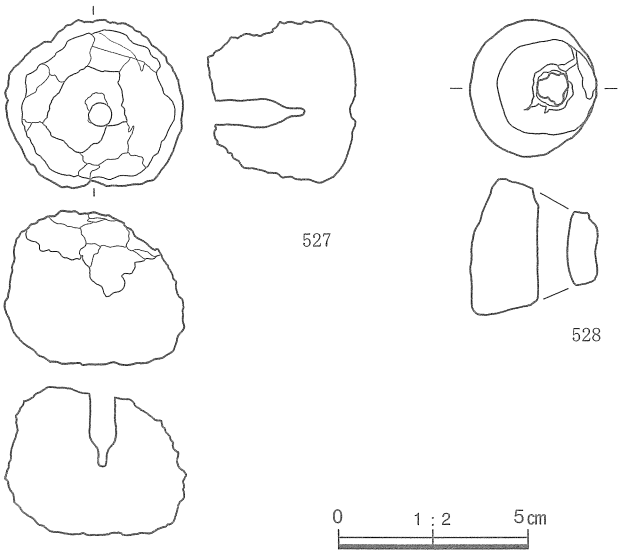

**第70図　遺構外出土遺物実測図22**

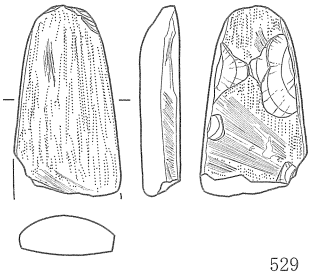



第71図　遺構外出土遺物実測図23






第72図　遺構外出土遺物実測図24

**③石匙（第62図450～456）**

石匙は横形石匙（第62図450～453）と縦形石匙（第62図454～456）が出土している。横形石匙の石質は泥岩製が２点出土している。縦形石匙はチャート製で縄文時代の製品である。

**④スクレイパー（第62図457～459）**

スクレイパーは３点出土している。石質は頁岩製が２点、チャート製が１点である。Ｄ６グリッドから２点出土しており縄文時代の製品である。

**⑤両極石器（第62図460）**は１点出土しチャート製であり、縄文時代の製品である。

**⑥両面加工石器（第62図461）**は１点出土しチャート製であり、縄文時代の製品である。

**⑦打製石斧（第63図462～第66図486）**

打製石斧は25点出土している。短冊形（第63図462～464・第64図472～475・第65図476・477・480・482）、撥形（第63図465・467、第64図468～471、第65図478・479・481、第65図484・485）、分銅形（第65図483、第66図486）などである。分銅形の石質はすべて砂岩質である。出土地点はＧ６グリットからが多く、６点出土している。縄文時代の打製石斧と思われる。

**⑧打欠石錘（第66図487～第70図519）**

打欠石錘は33点出土している。石質は砂岩と泥岩で作っており、（第67図488）が最大であり、（第70図517）が最少である。Ｉ３グリッドから６点出土している。縄文時代の石錘と思われる。

**⑨磨石（第71図520～522）**

磨石は３点出土している。石質は淡黄褐色中粒砂岩と淡黄褐色凝灰質砂岩である。（第71図520）は敲打痕がありハンマー的な使用も考えられる。

**⑩石皿・台石（第71図523、第72図524）**

石皿（523）は破片であるが上面と下面を研磨し窪んでおり、一部に凹痕がある。石質は黄褐色細粒砂岩である。台石（524）は扁平な石を利用しており、石皿に使用した可能性もある。破片であり石質が黄褐色細粒砂岩であり縄文時代の石皿・台石と思われる。

**⑪磨製石斧（第72図529）**

定角式磨製石斧（529）は表面に自然面を残し、裏面を扁平に研磨している。石斧の刃部が破損している。石質は泥岩でＩ４グリッドから出土している。弥生時代末から古墳時代初頭の磨製石斧と思われる。

**⑫砥石（第72図525・526）**

砥石（525）は両端が破損しており、各面をよく使用している。石質は淡褐灰色細砂粒凝灰岩である。（526）は先端も砥石として使用しており、基部で欠損して各面をよく研磨している。石質は黄褐色細粒凝灰岩である。弥生時代末から古墳時代初頭の砥石と思われる。

**⑬紡錘車（第72図527）**

紡錘車は淡黄褐・淡灰珪質凝灰岩製の円礫を利用して中心部に直径６㎜、深さ2.2㎝の円孔を穿っているが貫通していない。何らかの理由により途中で穿孔作業を中止している。外面は自然面を残し人工的な研磨を一切していない。弥生時代末期から古墳時代初頭の製品と思われる。

**⑭有孔石錘（第72図528）**

有孔石錘は淡黄灰色含礫中粒砂岩製で直径１㎝の円孔を穿っている。自然礫の上面を斜位に、底面を平に研磨している。重量は46ｇであり、弥生時代末から古墳時代初頭の製品と思われる。

## 第６表　寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（１）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 1 | G4 | SH05・覆土層 | 中期末 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石・石英・燈色粒子を含む | 口縁部・1.8 下部・1.4 |
| 27 | 2 | H4 | SH05・北側外・暗褐色土層 | 中期終末 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.7 下部・1.0 |
| 27 | 3 | G4 | SH05・覆土層 | 中期末 | 内面・5YR4/2灰褐<br>外面・5YR4/3にぶい赤褐 | 長石を多量に含む | 口縁部・0.3 下部・0.6 |
| 27 | 4 | H5 | SH03・覆土層 | 中期末 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 細砂を含む | 口唇部・1.3 下部・1.3 |
| 27 | 5 | H4 | SH05・覆土層 | 中期末 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.7 下部・1.0 |
| 27 | 6 | H4 | S H05・覆土層 | 中期末 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.6 下部・0.8 |
| 27 | 7 | H4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR6/6燈<br>外面・10YR6/6明黄褐 | 長石・石英を含む | 隆帯部・1.25 下部・0.9 |
| 27 | 8 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR6/4にぶい燈色 | 2～4mm位の小礫を多く含む | 上部・0.85 下部・0.85 |
| 27 | 9 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR6/6明黄褐 | 2～6mmの小礫を含む | 上部・1.0 下部・1.25 |
| 27 | 10 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・10YR6/6明黄褐 | 2～4mm位の小礫を多く含む | 上部・1.0 下部・1.4 |
| 27 | 11 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 9mmの小礫や長石などを含む | 上部・1.2 下部・1.35 |
| 27 | 12 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 2～5mm位の小礫を含む | 上部・1.0 下部・1.4 |
| 27 | 13 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 2～4mm位の小礫を含む | 上部・0.75 下部・1.0 |
| 28 | 14 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 2～4mm位の小礫を多く含む | 上部・1.45 下部・1.15 |
| 28 | 15 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内面・10YR7/6明黄褐<br>外面・7.5YR6/6燈 | 2～4mm位の小礫を多く含む | 上部・1.6 下部・0.9 |
| 28 | 16 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR6/4にぶい燈色 | 2～4mm位の小礫を多く含む | 上部・1.3 下部・1.55 |
| 28 | 17 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR6/4にぶい燈色 | 2～4mm位の小礫を含む | 上部・1.05 下部・0.9 |
| 28 | 18 | G4 | SH05・包含層 | 中期末 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.7 下部・0.6 |
| 28 | 19 | G4 | SH05・覆土層 | 中期中葉の東海系 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石を含む | 上部・0.5 下部・0.5 |
| 28 | 20 | H5 | SH03・覆土層 | 中期末 | 内外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 細砂を含む | 上部・0.6 下部・0.6 |
| 28 | 21 | G4 | SH05・覆土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 2～4mm位の小礫を含む | 上部・1.05 下部・0.8 |
| 28 | 22 | G4 | SH05・覆土層 | 中期末 | 内面・7.5YR5/4にぶい褐<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 底部・0.75 下部・0.5<br>底径・(5.4) |
| 28 | 23 | G4・H4 | SH05・包含層 | 中期末 | 内面・7.5YR5/2灰褐<br>外面・7.5YR6/6燈 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.9 下部・0.85 |
| 28 | 24 | H5 | SH03・覆土層 | 中期末 | 内面・7.5YR3/2黒褐<br>外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 細砂・長石を含む | 上部・0.4 下部・0.6 |
| 28 | 25 | H5 | SH03・覆土層 | 中期末 | 内面・10YR6/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR6/4にぶい燈 | 細砂を含む | 上部・0.7 下部・1.0 |
| 28 | 26 | G4 | SH05・覆土層 | 中期末？ | 内外面・7.5YR4/6褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・0.85 下部・0.9 |
| 29 | 32 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 石英などを含む | 口縁部・0.4 下部・0.35 |
| 29 | 33 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内面・10YR6/6明黄褐<br>外面・5YR6/6燈 | 長石・石英を含む | 上部・0.5 下部・0.6 |
| 29 | 34 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石を含む | 上部・0.5 下部・0.45 |
| 29 | 35 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内外面・7.5YR6/4にぶい燈色 | 長石・石英を含む | 上部・0.55 下部・0.3 |
| 29 | 36 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.3 下部・0.65 |
| 29 | 37 | Y3 | SH12・東西ベルト・覆土層 | 北屋敷 | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・5YR6/6燈 | 石英などを含む | 上部・0.5 下部・0.4 |
| 29 | 38 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内面・5YR5/2灰褐<br>外面・5YR6/8燈 | 石英などを含む | 上部・0.5 下部・0.5 |
| 29 | 39 | Y3 | SH12・覆土層 | 北屋敷 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 長石などを含む | 上部・0.5 下部・0.4 |
| 29 | 40 | Y3 | SH12・SP148・覆土層 | 北屋敷 | 内面・7.5YR4/2灰褐<br>外面・7.5YR6/4にぶい燈 | 長石などを含む | 上部・0.45 下部・0.4 |
| 29 | 41 | Y3 | SH12・SP147・覆土層 | 北屋敷 | 内外面・10YR7/6明黄褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.8 下部・0.45 |
| 29 | 42 | Y3 | SH12・覆土層 | 勝坂 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.65 下部・0.65 |
| 29 | 43 | Y3 | S H12・覆土層 | 中期中葉在地 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石多く含む | 上部・1.05 下部・1.1 |
| 29 | 44 | Y3 | SH12・覆土層 | 中期か？ | 内外面・2.5YR3/4暗赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.6 下部・0.85 |
| 29 | 45 | Y3 | SH12・SP148・覆土層 | 中期 | 内面・7.5YR4/6褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石を多く含む | 上部・0.8 下部・0.47 |
| 29 | 46 | Y3 | SH12・東西ベルト・覆土層 | 中期 | 内面・5YR3/1黒褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石・石英・燈色粒子などを含む | 上部・1.25 底部・1.05<br>底径.（14.2） |
| 32 | 59 | C7 | SH14・SP177・暗褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・10YR6/2灰黄褐<br>外面・10YR5/4にぶい黄褐 | 長石などを含む | 上部・0.7 下部・0.7 |
| 32 | 60 | C7 | SH14・SP177・暗褐色土層 | 中期末 | 内面・5YR4/4にぶい赤褐<br>外面・7.5YR6/6燈 | 2～5mmの小礫や灰色などの小礫を含む | 上部・0.65 下部・0.7 |
| 33 | 61 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 北裏C | 内面・7.5YR4/6褐<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂、長石を含む | 口縁部・1.0 下部・0.8 |
| 33 | 62 | Z3 | 暗黄褐色土層 | 北屋敷 | 内外面・7.5YR4/1褐灰 | 石英などを含む | 口縁部・0.8 下部・0.35 |
| 33 | 63 | | 暗黄褐色土層・古墳主体部（床面40ｃｍ） | 北屋敷 | 内面・10YR4/2灰黄褐<br>外面・10YR3/1黒褐 | 石英などを含む | 口縁部・0.7 下部・0.8 |
| 33 | 64 | I4 | 表土 | 北屋敷 | 内外面・10YR7/6明黄褐 | 石英などを含む | 上部・0.25 下部・0.5 |
| 33 | 65 | | 表採 | 北屋敷 | 内面・7.5YR7/6燈<br>外面・5YR5/4にぶい赤褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・0.6 下部・0.5 |
| 33 | 66 | J3 | 一括 | 北屋敷 | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・5YR5/8明赤褐 | 長石や石英を含む | 上部・0.55 下部・0.5 |

## 寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（２）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 67 | C7 | 暗褐色土層 | 北屋敷 | 内面・5YR5/6明赤褐<br>外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 石英や橙色の砂粒を含む | 上部・0.6 底部・0.7 |
| 33 | 68 | I3 | | 北屋敷 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 細砂を含む。長石をわずかに含む | 上部・0.6 底部・0.8<br>底径・(6.7) |
| 33 | 69 | G6 | 暗褐色土層 | 中期中葉 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・5YR5/3にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.65 下部・0.65 |
| 33 | 70 | G6 | 暗褐色土層 | 中期中葉 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 石英を含む | 上部・0.5 下部・0.4 |
| 33 | 71 | G6 | 暗褐色土層 | 中期中葉 | 内外面・7.5YR4/4褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.65 下部・0.55 |
| 33 | 72 | E7 | 暗黄褐色土層 | 中期中葉 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 4～7mmの小礫や石英を含む | 口縁部・0.5 下部・0.85 |
| 33 | 73 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利IV | 内面・7.5YR4/3褐<br>外面・7.5YR5/6明褐 | 石英や白色粒子を含む | 上部・0.5 下部・0.45 |
| 33 | 74 | | 暗黄褐色土層・古墳主体部（床面40ｃｍ） | 中期末 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/4褐 | 2～5mm位の小礫や長石・石英などを含む | 上部・1.0 下部・0.95 |
| 33 | 75 | I4 | 表土 | 加曽利E | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・7.5YR4/3褐 | 灰色などの砂粒や長石を含む | 上部・0.85 下部・0.75 |
| 33 | 76 | I3 | 表土 | 中期末 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 細砂とわずかな長石を含む | 上部・0.9 下部・1.0 |
| 33 | 77 | I3 | 表土 | 中期末 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 細砂と長石を含む | 上部・0.7 下部・0.7 |
| 33 | 78 | C7 | 暗黄褐色土層 | 勝坂 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 石英を多く含む | 口縁部2.75 下部・0.95 |
| 33 | 79 | D6 | 暗褐色土層 | 勝坂 | 内面・5YR4/4にぶい赤褐<br>外面・7.5YR4/4褐 | 石英を多く含む | 口縁部・1.95 下部・0.95 |
| 33 | 80 | G6 | 暗褐色土層 | 勝坂 | 内外面・10YR7/3にぶい黄燈 | 長石・石英・雲母を含む | 口縁部・2.45 下部・1.15 |
| 33 | 81 | G4 | 表土 | 勝坂 | 内外面・10YR7/3にぶい黄燈 | 長石を含む | 口縁部・0.7 下部・1.25 |
| 33 | 82 | E7 | 暗黄褐色土層 | 勝坂 | 内外面・7.5YR4/6褐 | 密 | 口縁部・0.5 下部・1.05 |
| 33 | 83 | G4 | 表土 | 勝坂 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 2～3mmの小礫や長石などを含む | 口縁部・1.0 下部・1.0 |
| 33 | 84 | I3 | 表土 | 勝坂 | 内外面・7.5YR4/4褐 | 細砂を多く含み長石・石英を含む | 口唇部・3.1 下部・2.0 |
| 33 | 85 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 勝坂 | 内面・7.5YR3/1黒褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 5mm位の小礫や長石・石英を含む | 上部・0.4 下部・1.25 |
| 33 | 86 | Z2 | 覆土層・1号墳4トレンチ延長上 | 勝坂 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 長石を含む・石英を多く含む | 上部・1.4 下部・0.75 |
| 33 | 87 | Y3 | 包含層 | 勝坂 | 内面・5YR4/3にぶい赤褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 石英を多く含む | 上部・0.7 下部・1.7 |
| 33 | 88 | G5 | 耕作土 | 勝坂 | 内面・5YR4/6赤褐<br>外面・5YR3/4暗赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.15 下部・1.2 |
| 33 | 89 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 勝坂 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR3/3暗褐 | 白色や灰色などの砂粒を含む | 上部・0.8 下部・0.85 |
| 33 | 90 | Y3 | 明黄褐色土層 | 勝坂 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を多く含む | 上部・0.8 下部・1.3 |
| 33 | 91 | I4 | 表土 | 勝坂 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・0.7 下部・0.75 |
| 33 | 92 | Z2 | 主体部埋土層・古墳1号墳 | 勝坂 | 内面・5YR4/3にぶい赤褐<br>外面・2.5YR4/4にぶい赤褐 | 長石などを含む | 上部・0.65 下部・0.65 |
| 33 | 93 | C7 | 暗黄褐色土層 | 勝坂 | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 石英などを含む | 上部・0.8 下部・0.85 |
| 33 | 94 | I4 | 表土 | 勝坂 | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・7.5YR4/3褐 | 燈色などの砂粒を含む | 上部・1.1 下部・1.25 |
| 33 | 95 | I4 | 表土 | 勝坂 | 内外面・5YR5/4にぶい赤褐 | 長石・石英・燈色の砂粒などを含む | 上部・1.3 下部・1.95 |
| 33 | 96 | Y3 | 明黄褐色土層 | 勝坂 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR6/6燈 | 白色や灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.7 下部・0.8 |
| 33 | 97 | D8 | 暗褐色土層 | 勝坂式後半 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・0.5 下部・0.6 |
| 33 | 98 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 勝坂 | 内外面・7.5YR4/4褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・1.1 下部・1.0 |
| 33 | 99 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 勝坂 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.7 下部・1.05 |
| 34 | 100 | G7 | 暗褐色土層 | 咲畑 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英や雲母を含む | ? |
| 34 | 101 | G6 | 暗褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・10YR6/3にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/2灰褐 | 石英を含む | 上部・0.5 下部・0.6 |
| 34 | 102 | J3 | 暗褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・7.5YR4/4褐 | 白色粒子を含む | 上部・0.7 下部・0.4 |
| 34 | 103 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 東鎌塚原 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・0.4 下部・0.75 |
| 34 | 104 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/2灰褐 | 白色粒子を含む | 上部・0.6 下部・0.8 |
| 34 | 105 | G6 | 暗褐色土層 | 東鎌塚原？ | 内外面・2.5YR7/4浅黄 | 長石・石英を含む | 上部・0.65 下部・0.5 |
| 34 | 106 | G6 | 暗褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・7.5YR4/4褐<br>外面・4/2灰褐 | 石英を含む | 上部・0.55 下部・0.5 |
| 34 | 107 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・7.5YR4/3褐 | 石英を含む | 上部・0.65 下部・0.65 |
| 34 | 108 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・5YR5/4にぶい赤褐<br>外面・5YR3/4暗赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.65 下部・0.7 |
| 34 | 109 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・5YR4/4にぶい赤褐<br>外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 石英を含む | 上部・0.65 下部・0.75 |
| 34 | 110 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・7.5YR3/4暗褐 | 石英を含む | 上部・0.6 下部・0.7 |
| 34 | 111 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 石英を含む | 上部・0.6 下部・0.7 |
| 34 | 112 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・5YR4/4にぶい赤褐<br>外面・10YR3/4暗褐 | 石英を含む | 上部・0.7 下部・0.7 |
| 34 | 113 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・5YR4/3にぶい赤褐 | 石英を含む | 上部・0.7 下部0.7 |
| 34 | 114 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・5YR4/5にぶい赤褐 | 石英を含む | 上部・0.6 下部・0.65 |
| 34 | 115 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・7.5YR3/4暗褐 | 石英を含む | 上部・0.7 下部・0.65 |

## 寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（３）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | 116 | D6 | 暗褐色土層 | 東鎌塚原 | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 石英などを含む | 上部・0.7 下部・0.65 |
| 34 | 117 | D6 | 暗黄褐色土層 | 東鎌塚原 | 内面・7.5YR4/3褐<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を含む | 上部・0.65 下部・0.6 |
| 34 | 118 | G7 | 暗褐色土層 | 井尻末～曽利Ⅰ | 内面・10YR7/3にぶい黄燈<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.25 下部・1.1 |
| 34 | 119 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利Ⅱ | 内外面・7.5YR4/4褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・2.0 下部・0.55 |
| 34 | 120 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利Ⅱ | 内面・7.5YR6/2灰褐<br>外面・7.5YR8/4浅黄燈 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 口縁部・2.5 下部・1.3 |
| 34 | 121 | D6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内外面・7.5YR4/6褐 | 長石などを含む | 口縁部・1.95 下部・1.1 |
| 34 | 122 | C7 | 暗黄褐色土層 | 曽利Ⅱ頃 | 内面・10YR4/1褐灰<br>外面・10YR4/2灰黄褐 | 石英を多く含む、雲母を含む | 口縁部・0.3 下部・0.65 |
| 34 | 123 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内外面・7.5YR3/4暗褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.15 下部・0.75 |
| 34 | 124 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利Ⅱ | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・10YR5/6黄褐 | 灰色・白色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.15 下部・1.3 |
| 34 | 125 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内面・7.5YR3/1黒褐<br>外面・7.5YR4/6褐 | 石英を含む | 上部・0.7 下部・0.7 |
| 34 | 126 | I4 | 表土 | 曽利Ⅱ | 内外面・7.5YR4/4褐 | 長石を含む | 上部・1.05 下部・0.9 |
| 34 | 127 | C7 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ？ | 内外面・5YR3/4暗赤褐 | 石英を多く含む | 上部・1.0 下部・0.8 |
| 34 | 128 | I4 | 表土 | 曽利Ⅱ | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石などを含む | 上部・1.1 下部・0.75 |
| 34 | 129 | D6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内面・10YR6/4にぶい黄燈<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石や灰色などの砂粒を含む | 上部・1.15 下部・1.1 |
| 34 | 130 | D6 | 暗黄褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内面・7.5YR3/2黒褐<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.05 下部・1.0 |
| 34 | 131 | D6 | 暗黄褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内面・5YR3/6暗赤褐<br>外面・7YR2/3極暗褐 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・1.0 下部・0.85 |
| 34 | 132 | J3 | 表土 | 曽利Ⅱ | 内外面・5YR3/3暗赤褐 | 長石などを含む | 上部・0.9 下部・1.35 |
| 34 | 133 | D6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅱ | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.1 下部・1.15 |
| 34 | 134 | J3 | 一括 | 曽利Ⅲ | 内外面・5YR4/8赤褐 | 3～5mmの小礫や石英を含む | 口縁部・2.15 下部・1.35 |
| 34 | 135 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・5/6明赤褐 | 石英や雲母を含む | 上部・0.8 下部・0.75 |
| 34 | 136 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内外面・7.5YR3/4暗褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・1.8 下部・0.75 |
| 35 | 137 | G4 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内面・7.5YR4/4褐<br>外面・7.5YR4/3褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・1.55 下部・1.05 |
| 35 | 138 | I3 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂と長石を含む | 口唇部・1.2 下部・1.3 |
| 35 | 139 | J3 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内外面・5YR4/6赤褐 | 2～3mmの小礫や白色粒子を含む | 上部・1.0 下部・0.9 |
| 35 | 140 | I4 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・0.75 下部・0.55 |
| 35 | 141 | D8 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・0.45 下部・0.55 |
| 35 | 142 | I4 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内外面・7.5YR7/4にぶい黄燈 | 長石を含む | 口縁部・0.5 下部・0.7 |
| 35 | 143 | Y3 | 明黄褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内面・7.5YR4/2灰褐<br>外面・7.5YR4/6褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.45 下部・1.5 |
| 35 | 144 | F5 | 暗黄褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内外面・7.5YR6/6燈 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・0.7 下部・0.9 |
| 35 | 145 | I3 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 12、3mm大の細砂を含む | 上部・1.1 下部・1.1 |
| 35 | 146 | J3 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内外面・10YR7/6明黄褐 | 長石などを含む | 上部・1.1 下部・1.2 |
| 35 | 147 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内外面・10YR4/6褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.6 下部・0.65 |
| 35 | 148 | I3 | 表土 | 曽利Ⅲ | 内面・10YR7/4にぶい黄褐<br>外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石・石英・細砂を含む | 上部・0.9 隆帯部・1.4 |
| 35 | 149 | G7 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅲ | 内面・5Y R3/2暗赤褐<br>外面・5Y R4/6赤褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・0.9 下部・0.8 |
| 35 | 150 | I3・I4 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR3/4暗赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.7 下部・1.0 |
| 35 | 151 | I3 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内面・5YR3/4暗赤褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 細砂・わずかな長石を含む | 口唇部・0.8 隆帯部・1.4 |
| 35 | 152 | I3 | 表土 | 曽利Ⅳ？ | 内外面・7.5YR6/6燈 | 細砂・長石を含む | 口縁部・1.15 下部・0.8 |
| 35 | 153 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利Ⅳ | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR5/6明褐 | 細砂、長石・石英を含む | 口唇部・1.3 下部・0.8 |
| 35 | 154 | J3 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英などを含む | 上部・0.5 下部・1.0 |
| 35 | 155 | I3 | 覆土層 | 曽利Ⅳ | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 細砂・長石を含む | 口縁部・0.9 下部・1.1 |
| 35 | 156 | I4 |  | 曽利Ⅳ？ | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/4褐 | 長石や2mm位の砂粒などを含む | 上部・0.8 下部・0.65 |
| 35 | 157 | I3 | 表土 | 曽利Ⅳ？ | 内面・10YR6/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 細砂・長石を含む | 隆帯部・1.1 下部・1.1 |
| 35 | 158 | I4 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石や雲母を含む | 上部・1.15 下部・1.0 |
| 35 | 159 | I4 |  | 曽利Ⅳ | 内面・7.5YR7/4暗褐<br>外面・7.5YR5/6明褐 | 長石や石英を含む | 上部・1.1 下部・0.9 |
| 35 | 160 | I3 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 石英・雲母を含む | 上部・0.75 下部・0.7 |
| 35 | 161 | I4 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内面・7.5YR6/6燈<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石や雲母を含む | 上部・0.55 下部・0.6 |
| 35 | 162 | I4 | 表土 | 曽利Ⅳ | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・5YR4/3にぶい赤褐 | 長石や雲母を含む | 上部・0.55 下部・0.55 |
| 36 | 163 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ⅳ | 内外面・5YR4/6赤褐 | 石英を多く含む。雲母を含む | 上部・0.85 下部・1.45 |
| 36 | 164 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利Ⅳ | 表・10YR6/6明黄褐<br>裏・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を多く含む | 上部・1.0 下部・1.0 |

## 寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（４）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 | 165 | G5 | 耕作土 | 曽利IV | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・0.9 下部・0.7 |
| 36 | 166 | G5 | 暗褐色土層 | 曽利IV | 内外面・7.5YR6/4にぶい燈色 | 灰色の砂粒や石英を含む | 上部・0.95 下部・1.0 |
| 36 | 167 | I4 | 表土 | 曽利IV | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石を含む | 上部・0.7 下部・0.6 |
| 36 | 168 | I3 | 表土 | 曽利IV | 内面・7.5YR6/6燈<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂・長石を含む | 上部・1.1 下部・1.1 |
| 36 | 169 | I4 | 表土 | 曽利IV | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 細砂・長石を含む | 隆帯部・1.1 下部・0.9 |
| 36 | 170 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利IV | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂、長石を含む | 上部・0.7 下部・1.1 |
| 36 | 171 | I4 | 表土 | 曽利IV | 内面・7.5YR6/6燈<br>外面・7.5YR4/2灰褐 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・1.1 下部・0.95 |
| 36 | 172 | I4 | 表土 | 曽利IV | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石・雲母などを含む | 上部・1.1 下部・0.7 |
| 36 | 173 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 曽利IV | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 細砂、長石を含む | 上部・0.8 下部・1.1 |
| 36 | 174 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利IV | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂、長石を含む | 隆帯・1.3 |
| 36 | 175 | I4 | 表土 | 曽利IV | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.65 下部・0.7 |
| 36 | 176 | G6 | 暗褐色土層 | 曽利Ｖ | 内外面・7.5YR4/4褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.15 下部・1.0 |
| 36 | 177 | G6 | 暗褐色土層 | 親田式土器・伊那系加曽利E4 | 内面・10YR7/3にぶい黄燈<br>外面・7.5YR4/3褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.75 下部・0.6 |
| 36 | 178 | I4 | 表土 | 加曽利E2 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・0.95 下部・0.85 |
| 36 | 179 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E2 | 内面・7.5YR3/3暗褐<br>外面・5YR4/6明赤褐 | 6mmの小礫や石英や雲母を含む | 上部・0.75 下部・0.85 |
| 36 | 180 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内面・7.5YR4/6褐<br>外面・5YR3/3暗赤褐 | 長石や石英を含む | 上部・0.6 下部・0.5 |
| 36 | 181 | G6 | 暗褐色土層 | 加曽利3？ | 内外面・2.5Y浅黄色 | 白色粒子を含む | 口縁部・0.9 下部・1.2 |
| 36 | 182 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石などを含む | 口縁部・0.7 下部・0.5 |
| 36 | 183 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内外面・7.5YR6/6燈 | 長石や灰色などの砂粒を含む | 口縁部・0.6 下部・0.95 |
| 36 | 184 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内外面・7.5YR6/6燈 | 長石や灰色などの砂粒を含む | 口縁部・0.55 下部・0.8 |
| 36 | 185 | G6 | 耕作土 | 加曽利E3 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 3mmの小礫や石英・雲母を含む | 口縁部・0.9 下部・1.15 |
| 36 | 186 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石や雲母などを含む | 口縁部・1.55 下部・1.0 |
| 36 | 187 | H5 | 暗褐色土層 | 加曽利E3 | 内外面・10YR7/3にぶい黄燈 | 2mm大の細砂を含み長石を含む | 上部・1.0 下部・1.0 |
| 36 | 188 | J3 | 暗褐色土層 | 加曽利E3 | 内外面・7.5YR6/6燈 | 6mm小礫や白色粒子を含む | 上部・1.0 下部・0.55 |
| 36 | 189 | I3 | 表土 | 加曽利E3 | 内面・5YR3/4暗赤褐<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 細砂・長石をわずかに含む | 上部・1.0 下部・0.9 |
| 36 | 190 | I4 | 表土 | 加曽利E3 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石や雲母を含む | 上部・0.9 下部・0.75 |
| 36 | 191 | G6 | 暗褐色土層 | 加曽利E3 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を含む | 上部・0.9 下部・1.0 |
| 36 | 192 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E3～E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・1.2 下部・0.95 |
| 36 | 193 | I4 | 表土 | 加曽利E3かE4 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR5/4にぶい赤褐 | 長石・石英・雲母を含む | 口縁部・0.7 下部・0.95 |
| 36 | 194 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E3～E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.2 下部・1.0 |
| 36 | 195 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内面・2.5YR5/6明赤褐<br>外面・7.5YR4/4褐 | 4mm位の小礫や石英などを含む | 上部・0.95 下部・0.95 |
| 36 | 196 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 長石などを含む | 上部・1.05 下部・1.0 |
| 36 | 197 | E7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内面・5YR5/6明赤褐<br>外面・7.5YR5/6にぶい褐 | 長石などを含む | 上部・1.15 下部・1.15 |
| 36 | 198 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.0 下部・0.95 |
| 37 | 199 | C7 | 暗黄褐色土層・暗褐色土 | 加曽利E3～E4 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 3～7mmの小礫や、長石などを含む | 口縁部・0.85 下部・1.15<br>口径.（28.0） |
| 37 | 200 | C7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 2～3mmの小礫や、雲母や長石を含む | 上部・1.25 下部・1.3 |
| 37 | 201 | D6 | 明黄褐色土層 | 加曽利E3～E4 | 内面・10YR6/6明黄褐<br>外面・7.5YR4/6褐 | 灰色や燈色などの砂粒を含む | 上部・0.65 下部・0.85 |
| 37 | 202 | J3 | 表土 | 加曽利E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 3mmの小礫や長石を含む | 上部・0.6 下部・0.6 |
| 37 | 203 | F5 | 表土 | 加曽利E4 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 長石・石英・雲母を含む | 口縁部・0.65 下部・1.15 |
| 37 | 204 | G4 | 表土 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/4にぶい褐<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 4mm位の小礫や灰色の砂粒や長石を含む | 口縁部・0.65 下部・1.0 |
| 37 | 205 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・5YR5/8明赤褐 | 6mm位の小礫や長石を含む | 口縁部・0.85 下部・0.6 |
| 37 | 206 | G4 | 表土 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/6明赤褐 | 4mm位の小礫や長石を含む | 口縁部・0.7 下部・0.65 |
| 37 | 207 | C7 | 暗褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR4/6褐<br>外面・5YR3/3暗赤褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.7 下部・1.2 |
| 37 | 208 | G6 | 暗褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・2.5Y8/4淡黄色 | 長石・石英を含む | 口縁部・1.0 下部・0.9 |
| 37 | 209 |  | 廃土処理層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・7.5YR6/6燈 | 2～3mmの小礫や長石を含む | 口縁部・0.9 下部・0.7 |
| 37 | 210 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR5/6黄褐 | 長石や5mmの小礫を含む | 口縁部・1.05 下部・0.5 |
| 37 | 211 | E7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 長石などを含む | 口縁部・0.65 下部・1.15 |
| 37 | 212 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・10YR5/3にぶい黄褐<br>外面・10YR7/6明黄褐 | 長石や灰色などの砂粒を含む | 口縁部・1.3 下部・1.15 |
| 37 | 213 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR4/3褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.6 下部・0.7 |

## 寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（５）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 214 | G5 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・10YR7/6明黄褐<br>外面・2.5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英・雲母を含む | 口縁部・0.65 下部・0.8 |
| 37 | 215 | E7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・10YR7/4にぶい黄褐 | 長石や灰色などの砂粒を含む | 上部・1.35 下部・1.3 |
| 37 | 216 | G4 | 表土 | 加曽利E4 | 内外面・5YR6/6燈 | 長石などを含む | 口縁部・0.85 下部・0.65 |
| 37 | 217 | H3 | 表土 | 加曽利E4？ | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を多く含む | 上部・1.05 下部・1.1 |
| 37 | 218 | F5 | 表土 | 加曽利E4 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 灰色の砂粒や石英を含む | 上部・1.2 下部・1.15 |
| 38 | 219 | C7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・5YR4/8赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.15 下部・1.75 |
| 38 | 220 | C7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・5YR4/8赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.4 下部・0.95 |
| 38 | 221 | G6 | 暗褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 灰色や燈色の砂粒や石英を含む | 上部・0.95 下部・1.0 |
| 38 | 222 | E6 | 明黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 2～4mmの小礫や白色粒子を含む | 上部・1.05 下部・0.95 |
| 38 | 223 | G4 | 表土 | 加曽利E4 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石などを含む | 上部・0.8 下部・0.75 |
| 38 | 224 | G6 | 暗褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・5YR4/8赤褐<br>外面・7.5YR3/4暗褐 | 石英を含む | 上部・0.5 下部・0.5 |
| 38 | 225 | D7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・2.5YR5/6明赤褐<br>外面・5YR5/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.0 下部・0.9 |
| 38 | 226 | D6 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・0.9 下部・0.95 |
| 38 | 227 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 灰色の砂粒や長石を含む | 上部・1.15 下部・1.35 |
| 38 | 228 | G4 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・7.5YR4/6褐 | 3mm位の小礫や長石や雲母などを含む | 上部・1.1 下部・1.1 |
| 38 | 229 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E4 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・1.0 下部・0.95 |
| 38 | 230 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 加曽利E3 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂を含む | 上部・1.4 下部・1.6 |
| 38 | 231 | C7 | 暗黄褐色土層 | 加曽利E4 | 内面・7.5YR5/8明褐<br>外面・7.5YR4/4褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.1 下部・0.85 |
| 38 | 232 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 4mmの小礫や石英を含む | 口縁部・0.4 下部・0.4 |
| 38 | 233 | G4 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・7.5YR4/4褐 | 長石を含む | 口縁部・0.9 下部・0.65 |
| 38 | 234 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR5/6明褐 | 白色粒子を含む | 口縁部・0.5 下部・0.65 |
| 38 | 235 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.95 下部・0.55 |
| 38 | 236 | I4 | 表土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石や雲母を含む | 口縁部・0.7 下部・0.6 |
| 38 | 237 | J3 |  | 不明 | 内面・7.5YR5/4にぶい褐<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 白色粒子を含む | 口縁部・0.6 下部・0.6 |
| 38 | 238 | J3 | 明黄褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 白色粒子・石英を含む | 上部・0.6 下部・0.85 |
| 38 | 239 | G6 | 農道 | 不明 | 内面・7.5YR5/4にぶい褐<br>外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 3mmの小礫や長石や雲母を含む | 上部・0.55 下部・0.95 |
| 38 | 240 | I4 | 表土 | 不明 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.8 下部・0.55 |
| 38 | 241 | G4 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR7/6燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.55 下部・0.65 |
| 38 | 242 | D6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・2.5YR6/3にぶい黄 | 2～4mmの小礫や白色粒子を含む | 口縁部・1.0 下部・0.9 |
| 38 | 243 | G7 | 地山直上 | 不明 | 内面・7.5YR4/6褐<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英・雲母を含む | 上部・0.95 下部・0.8 |
| 38 | 244 | E7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.4 下部・0.45 |
| 38 | 245 | G4 | 表土 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・10YR7/3にぶい黄燈 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・1.0 下部・1.3 |
| 38 | 246 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・2.5YR5/8明赤褐 | 長石や燈色の砂粒を含む | 上部・0.65 下部・0.65 |
| 38 | 247 | I3 | 表土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂・長石を含む | 上部・1.0 下部・0.6 |
| 38 | 248 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 不明 | 内面・5Y R3/2暗赤褐<br>外面・5Y R4/4赤褐 | 細砂、長石を含む | 上部・0.7 下部・0.7 |
| 38 | 249 | H5 | 耕作土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 3mm大の細砂とわずかに長石を含む | 上部・0.8 下部・0.8 |
| 38 | 250 | D6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.8 下部・0.7 |
| 38 | 251 | G4 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 2～4mm位の小礫や長石を含む | 上部・0.8 下部・0.9 |
| 38 | 252 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・2.5YR5/6明赤褐<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.5 下部・0.5 |
| 38 | 253 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・7.5YR4/6褐 | 長石を含む | 上部・0.8 下部・0.75 |
| 38 | 254 | J3 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 長石などを含む | 上部・0.9 下部・0.9 |
| 38 | 255 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR4/4にぶい赤褐 | 長石・石英・雲母を含む | 口縁部・1.35 下部・1.0 |
| 38 | 256 | C7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 石英を多く含む | 口縁部・2.1 下部・1.3 |
| 38 | 257 | I3 | 表土 | 不明 | 内外面・7.5YR4/3褐 | 細砂と長石を多く含む | 口唇部・1.1 下部・1.1 |
| 38 | 258 | G4 | 表土 | 不明 | 内面・5YR4/6赤褐<br>外面・5YR5/6明赤褐 | 8mmの小礫や長石や雲母を含む | 口縁部・0.9 下部・0.9 |
| 38 | 259 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 灰色の砂粒や長石・石英を含む | 口縁部・0.65 下部・1.2 |
| 38 | 260 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR5/6明褐 | 長石などを含む | 上部・1.05 下部・1.2 |
| 38 | 261 | C7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR7/6明黄褐 | 5mm位の小礫や、白色粒子を含む | 上部・0.95 下部・1.15 |
| 38 | 262 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石を含む | 上部・0.65 下部・0.85 |

## 寺島大谷遺跡出土縄文土器観察表（６）

| 図番 | 挿図番号 | グリッド | 層位・遺構 | 型式 | 色調 | 胎土 | 器厚(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 263 | D6 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR6/4にぶい黄燈 | 白色粒子を多く含む | 口縁部・1.15 下部・1.55 |
| 38 | 264 | I4 | 表土 | 不明 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 長石や雲母を含む | 口縁部・0.85 下部・0.65 |
| 38 | 265 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 不明 | 内外面・10YR7/3にぶい黄燈 | 細砂、長石を含む | 口唇部1.2 下部・0.8 |
| 38 | 266 | J3 | 表土 | 不明 | 内面・10YR6/6明黄褐<br>外面・7.5YR5/8明褐 | 4mm位の小礫や灰色などの砂粒を含む | 口縁部・0.8 下部・1.0 |
| 39 | 267 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石や雲母を含む | 口縁部・1.25 下部・1.0 |
| 39 | 268 | G5 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・5Y R5/8明赤褐 | 長石・石英を含む | 口縁部・0.85 下部・0.8 |
| 39 | 269 | J3 |  | 不明 | 内面・7.5YR6/4にぶい燈<br>外面・7.5YR4/2灰褐 | 長石・雲母を含む | 口縁部・0.6 下部・1.0 |
| 39 | 270 | I3 | 表土 | 不明 | 内面・10YR7/6明黄褐<br>外面・7.5YR3/4暗褐 | 細砂を含む | 上部・0.9 下部・0.9 |
| 39 | 271 | G7 | 耕作土 | 不明 | 内面・5YR3/4暗赤褐<br>外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 石英を多く含む | 上部・1.0 下部・1.1 |
| 39 | 272 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・2.5YR7/3浅黄 | 4～5mmの小礫や石英を含む | 上部・0.85 下部・0.9 |
| 39 | 273 | G4 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 3mm位の小礫や灰色・黒色の砂粒を含む | 上部・1.0 下部・0.85 |
| 39 | 274 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂を含む | 上部・1.4 下部・1.4 |
| 39 | 275 | C7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR7/6明黄褐 | 2～3mmの小礫や、石英を含む | 上部・1.35 下部・1.15 |
| 39 | 276 | I3 | 表土 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・7.5YR4/4褐 | 細砂・長石を多く含む | 上部・1.1 下部・0.8 |
| 39 | 277 | I4 | 表土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・1.0 下部・1.05 |
| 39 | 278 | G4 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 長石などを含む | 上部・0.8 下部・0.7 |
| 39 | 279 | C7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR6/6燈 | 2～6mmの小礫を含む | 上部・1.5 下部・1.65 |
| 39 | 280 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内外面・5YR5/8明赤褐 | 5mm位の小礫や、長石などを含む | 上部・2.35 下部・1.65 |
| 39 | 281 | D7 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・2.5YR5/6明赤褐<br>外面・5YR5/4にぶい赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・1.05 下部・1.0 |
| 39 | 282 | D6 | 暗黄褐色土層 | 不明 | 内面・5YR4/6赤褐<br>外面5YR3/6暗赤褐 | 石英を多く含む。5mmの小礫を含む | 上部・1.1 下部・1.2 |
| 39 | 283 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 細砂を多く含む | 上部・0.8 底部・1.2 |
| 39 | 284 | J3 | 明黄褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 2～7mm位の小礫や灰色などの砂粒を含む | 上部・0.35 底部・0.8 |
| 39 | 285 | I4 | 表土 | 不明 | 内外面・2.5YR4/6赤褐 | 長石などを含む | 上部・1.0 下部・0.55 |
| 39 | 286 | J3 |  | 不明 | 内面・7.5YR5/4にぶい褐<br>外面・7.5YR5/6明褐 | 6mmの小礫や灰色などの砂粒を含む | 上部・0.8 下部・1.05 |
| 39 | 287 | D6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR5/6明褐 | 2～5mmの小礫や石英を含む | 上部・0.85 底部・1.0 |
| 39 | 288 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR4/3褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 灰色や燈色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.25 底部・1.25<br>底径.（8.6） |
| 39 | 289 | I3 | 表土 | 不明 | 内面・10YR7/4にぶい黄燈<br>外面・5YR4/6赤褐 | 細砂・長石を含む | 上部・0.6 下部・1.4 |
| 39 | 290 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内面・10YR3/1黒褐<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石・石英を含む | 上部・0.95 底部・1.0<br>底径・(7.6) |
| 39 | 291 | J3 | 表土 | 不明 | 内面・5YR4/4にぶい赤褐<br>外面・2.5YR4/6赤褐 | 3～4mmの小礫や長石を含む | 上部・0.65　底部・0.9 |
| 39 | 292 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 長石・石英を含む | 上部・1.2　下部・1.0 |
| 39 | 293 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR5/6明褐<br>外面・2.5YR5/6明赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・0.85　底部・0.95<br>底径（9.5） |
| 39 | 294 | I4 | 表土 | 不明 | 内面・7.5YR7/4にぶい燈<br>外面・5YR4/6赤褐 | 長石・石英などを含む | 上部・0.8　底部・1.0 |
| 39 | 295 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内面・7.5YR3/2黒褐<br>外面・5YR3/6暗赤褐 | 長石・石英・雲母を含む | 上部・1.2　底部・1.0<br>底径（10.6） |
| 39 | 296 | D6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・7.5YR4/4褐<br>外面・5YR4/8赤褐 | 灰色や燈色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.05　底部・1.25 |
| 39 | 297 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR5/4にぶい褐 | 4～5mmの小礫や灰色などの砂粒を含む | 上部・0.75　底部・1.3<br>底径.（10.2） |
| 39 | 298 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・5YR4/6赤褐 | 5mm位の小礫や長石・石英などを含む | 上部・1.2　底部・2.1<br>底径・8.8 |
| 39 | 299 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内外面・10YR7/4にぶい黄燈 | 白色・灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.75　底部・1.45<br>底径.（7.7） |
| 39 | 300 |  | 表採 | 不明 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 灰色などの砂粒を含む | 上部・1.35　底部・1.35<br>底径.（9.1） |
| 39 | 301 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内面・5YR6/2灰褐<br>外面・2.5YR5/6明褐 | 石英を含む | 上部・0.9　下部・0.9 |
| 39 | 302 | G6 | 耕作土 | 不明 | 内外面・5YR5/6明赤褐 | 灰色などの砂粒や石英を含む | 上部・1.1　下部・1.9 |
| 39 | 303 | G6 | 暗褐色土層 | 不明 | 内外面・7.5YR4/2灰褐 | 燈色の砂粒や、長石・石英を含む | 上部・1.25　下部・0.85 |

## 第７表　寺島大谷遺跡出土弥生～古墳時代土器観察表（１）

| 図番号 | 挿図番号 | 器種 | グリッド | 遺構 | 層位 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 304 | 高坏 | H4/5 | SH01 | 床直 | 明赤褐5YR5/6 | 密　灰色の砂粒　橙色の粒子含有 | 約30% | | | (6.1) |
| 41 | 305 | 壺 | H4/5 | SH02竪構 SD01 | 覆土層 | 橙2.5YR6/6 | 密　灰色の小礫　橙色粒子含有 | 口縁部約15% | (12.0) | | (2.9) |
| 41 | 306 | 壺 | | SH01 | | 橙5YR6/6 | 密　径3㎜以下の灰白色 灰色の砂粒含有 | 破片 | | | |
| 41 | 307 | 壺 | | SH01 | | 明黄褐色10YR6/6 | 密　径0.5㎜以下の白と灰色の微粒子含有 | 底部約25% | | (8.4) | (2.7) |
| 41 | 308 | 壺 | | SH01 | | にぶい橙7.5YR7/4 | 密　径3㎜以下の褐色 灰色の砂粒含有 | 底部約20% | | (6.4) | (2.5) |
| 41 | 309 | 台付甕 | | SH01 SP02 | 覆土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　橙色粒子　小豆色粒子　長石　砂粒含有 | 口縁部約8% | (18.4) | | (6.8) |
| 43 | 311 | 壺 | | SH03 | | 橙7.5YR6/6 | 密　径3㎜以下の茶褐色・灰色・灰白色の砂粒含有 | 口縁部約15% | (8.8) | | (4.2) |
| 43 | 312 | 壺 | | SH03 | | にぶい黄褐色10YR5/4 | 密　径5㎜台の礫3㎜台の長石と細砂含有 | 底部約50% | | (6.4) | (2.2) |
| 43 | 313 | 壺 | | SH03 | | 橙5YR6/6 | 密　径2㎜以下の褐色 灰色の砂粒含有 | 底部100% | 4.4 | | (2.1) |
| 43 | 314 | 台付甕 | H5 | SH03 SP37 | 覆土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　灰色の砂粒　橙色粒子含有 | 口縁部約5% 肩部約25% | | | (9.9) |
| 43 | 315 | 台付甕 | H5 | SH03 | 覆土層 | 橙5YR7/6 | 密　小礫多数含有　炭化物付着 | 台部100% | | 10.3 | (6.6) |
| 43 | 316 | 台付甕 | | SH03 | | 橙7.5YR7/6 | 密　径7㎜以下の橙色と径2㎜以下の茶褐色の小礫と粒子含有 | 台部約25% | | (8.6) | (5.4) |
| 46 | 323 | ヒサゴ壺 | H4 | SH06 SP83 | 覆土層 | にぶい黄橙10YR7/3 | 密　白色　灰色の砂粒含有 | 口縁部約50% | (6.2) | | (6.4) |
| 48 | 324 | 台付甕 | J3 | SH07 | | 橙7.5Y7/6 | 密　橙色粒子　砂粒　小礫含有 | 口縁～胴部上半約25% | (16.5) | | (6.8) |
| 48 | 325 | 台付甕 | J2 | SH07 | 覆土層（床面） | にぶい橙7.5YR7/4 | 密　小礫少量　橙色粒子　長石含有 | ほぼ完形口縁部20% | 18.2 | (10.3) | 26.1 |
| 48 | 326 | 台付甕 | J2 | SH07 SP133 | 覆土層 | 橙7.5YR7/6 | 密 | 台部約25% | | (7.2) | (8.0) |
| 48 | 327 | 台付甕 | J3 | SH07 | | 橙5YR7/6 | 密　橙色粒子　小礫含有 | 接合部100% | | | (4.0) |
| 48 | 328 | 台付甕 | | SH07 | | 赤褐色2.5YR4/6 | 密　径3㎜以下の灰白色の砂粒と径1㎜以下の灰色粒子含有 | 接合部100% | | | (2.5) |
| 48 | 329 | 壺 | | SH07 | | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　径3㎜以下の灰色の砂粒を含有 | 底部100% | 4.0 | | (2.2) |
| 48 | 330 | 開脚高坏 | J2 | SH07 | 覆土層 | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　灰色の砂粒含有 | 坏部100% | (8.7) | | (4.6) |
| 50 | 332 | 壺 | | SH08 SP139 | 覆土層 | にぶい黄橙10YR7/3 | 密　白色　灰色の砂粒含有 | 口縁部約15% | (18.4) | | (1.1) |
| 50 | 333 | 台付甕 | | SH08 SP139 | | 橙7.5YR7/6 | 密　径5㎜以下の茶褐色・灰色の小礫・砂粒含有 | 接合部約60% | | | (2.4) |
| 51 | 335 | 壺 | K2 | SH09 | 覆土層 | にぶい橙7.5YR6/4 | 密　灰色の砂粒含有 | 頸部～肩部約80% | | | (8.5) |
| 51 | 336 | 台付甕 | K2 | SH09 | 覆土層 | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　小礫　橙色粒子　小豆色粒子含有 | 口縁～胴部上半約8% | (18.2) | | (9.4) |
| 51 | 337 | 台付甕 | K2 | SH09 SD03 | 覆土層 溝北西の端 | 橙7.5YR6/6 | 密　炭化物の付着 | 接合部100% | | | (3.5) |
| 51 | 338 | 台付甕 | | SH09 | | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径3㎜以下の灰白色 灰色の砂粒含有 | 接合部約50% | | | (3.3) |
| 51 | 339 | 台付甕 | | SH09 | | にぶい黄橙10YR6/4 | 密　径1㎜以下の灰色粒子含有 | 破片 | | | |
| 52 | 341 | 台付甕 | | SH13 | | 橙7.5YR7/6 | 密　径5㎜ほどの灰白色と灰色の礫と白色粒子含有 | 台部約40% | | | (4.3) |
| 53 | 342 | 壺 | C7 | SK160 | 暗褐色土層 | にぶい黄橙10YR6/4 | 密　褐色の小礫 砂粒灰色の砂粒含有 | 頸部～肩部約20% | | | (4.6) |
| 53 | 343 | 壺 | C7 | SK160 | 暗褐色土層 | 橙5YR6/6 | 密　白色　灰色の砂粒含有 | 破片 | | | |
| 53 | 344 | 台付甕 | | SK160 | | 灰褐色5YR4/2 | 密　径1㎜以下の灰色の粒子含有 | 破片 | | | |
| 53 | 345 | 台付甕 | | SK160 | | 橙5YR6/6 | 密　径3㎜以下の灰色・茶褐色・灰白色の砂粒を含有 | 破片 | | | |
| 53 | 346 | 盤 | C7 | SK160 | 覆土層 | 橙7.5YR7/6 | 密 | 完形 | 20.3 | | 2.9 |
| 54 | 347 | 壺 | | SK165 | | にぶい赤褐色5YR4/3 | 密　径8㎜の灰白色の小礫と3㎜以下の赤褐色の砂粒含有 | 底部約15% | | (8.4) | (3.7) |
| 54 | 348 | 台付甕 | D6 | SK165 | 覆土層 | にぶい黄褐色10YR5/4 | 密　砂粒含有 | 破片 | | | |
| 54 | 349 | 台付甕 | | SK165 | | 橙7.5YR6/6 | 密　径1㎜以下の灰色粒子含有 | 破片 | | | |
| 54 | 350 | 台付甕 | | SK165 | | 橙5YR6/6 | 密　径3㎜以下の灰白色 灰色の砂粒含有 | 破片 | | | |
| 54 | 351 | 台付甕 | D6 | SK165 | | 明赤褐色7.5YR5/6 | 密　径2㎜以下の灰白色 灰色の砂粒含有 | 口縁部約20% | (15.8) | | (3.3) |
| 54 | 352 | 台付甕 | D6 | SK165 | 覆土層 | 明赤褐5YR5/6 | 密　小礫多数含有 | 口縁～頸部約20% | (19.1) | | (6.8) |
| 54 | 353 | 台付甕 | | SK165 | | 橙7.5YR7/6 | 密　径3㎜以下の灰白色 白色の砂粒含有 | 接合部約25% | | (6.6) | |
| 54 | 354 | 台付甕 | D6 | SK165 | 覆土層 | 橙5YR6/6 | 密　黒雲母　石英　小礫含有 | 接合部100% | | | (3.8) |
| 55 | 355 | 台付甕 | I2 | SP32 | 覆土層 | にぶい橙7.5YR6/4 | 密　径3㎜以下の灰色 茶褐色の小礫含有 | 台部約75% | | | (8.6) |
| 55 | 356 | 壺 | | SP49 | | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径5㎜以下の黒色 灰色の小礫含有 | 底部100% | 4.4 | | (3.0) |
| 56 | 358 | 壺 | D6 | | 暗黄褐色土層 | 黄褐色10YR5/6 | 密　直径2㎜の茶灰色の砂粒含有 | 口縁部約15% | (15.0) | | (4.4) |
| 56 | 359 | 壺 | F6 | | 暗黄褐色土層 | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　茶　灰　の径2㎜前後の砂粒多数含有 | 口縁部約25% | (22.0) | | (4.5) |
| 56 | 360 | 壺 | D6 | | 明黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　直径2㎜前後の茶　灰色の砂粒多数含有 | 口縁部約25% | (20.4) | | (8.0) |
| 56 | 361 | 壺 | D7 | | 暗黄褐色土層 | 橙5YR6/8 | 密　直径4㎜の茶色小礫　径2㎜の灰白の砂粒含有 | 口縁部約25% | (24.0) | | (1.9) |
| 56 | 362 | 壺 | C7 | | 暗黄褐色土層 | 明黄褐10YR7/6 | 密　砂粒　黒雲母　長石　橙色粒子含有 | 口縁部～頸部約20% | (16.7) | | (5.3) |
| 56 | 363 | 壺 | D6 | | 明黄褐色土層 | 橙5YR6/8 | 密　橙色粒子　白色の砂粒含有 | 口縁部約20% | (19.4) | | (3.8) |
| 56 | 364 | 壺 | F6 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR6/8 | 密　茶　灰の直径2～4㎜の砂粒多数含有 | 口縁部約20% | (22.0) | | (6.0) |
| 56 | 365 | 壺 | D6 | | 暗黄褐色土層 | にぶい橙7.5YR7/6 | 密　茶　白　灰　の径2㎜前後の砂粒多数含有 | 口縁部約25% | (20.8) | | (4.6) |

## 寺島大谷遺跡出土弥生～古墳時代土器観察表（２）

| 図番号 | 挿図番号 | 器種 | グリッド | 遺構 | 層位 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 56 | 366 | 壺 | D6 | | 明黄褐色土層 | 橙2.5YR6/8 | 密　小礫　橙色粒子　砂粒含有 | 口縁部～頸部完形 | 15.1 | | (6.1) |
| 56 | 367 | 壺 | D6 | | 暗黄褐色土層 | 橙5YR7/8 | 密　小礫多数　橙色粒子含有 | 口縁部約50%<br>頸部約5% | 15.7 | | (8.9) |
| 56 | 368 | 壺 | F5 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　茶　白　灰　の径2㎜前後の<br>砂粒多数含有 | 口縁部約25% | (17.4) | | (6.9) |
| 56 | 369 | 壺 | D6 | | 明黄褐色土層 | 橙5YR7/6 | 密　小礫多数　橙色粒子含有 | 口縁部～頸部約30% | (12.2) | | (10.8) |
| 56 | 370 | 壺 | D6/C7 | | 明黄褐色土層<br>暗黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　砂粒多数　橙色粒子 | 口縁部約30%<br>頸部約5% | 14.4 | | (10.9) |
| 56 | 371 | 壺 | E5 | | 暗黄褐色土層 | 明黄褐10YR6/6 | 密　橙色粒子<br>直径2㎜前後の灰色砂粒含有 | 口縁部約20% | (10.6) | | (5.9) |
| 57 | 372 | 壺 | D6 | | 暗黄褐色土層 | 赤橙10R6/8 | 密　橙色粒子　砂粒含有 | 破片 | | | |
| 57 | 373 | 壺 | C6 | | 明黄褐色土層 | 明赤褐2.5YR5/8 | 密　小礫含有 | 破片 | | | |
| 57 | 374 | 壺 | H6 | | 暗褐色土層 | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　灰色の砂粒含有 | 頸部～肩部約25% | | | (6.5) |
| 57 | 375 | 壺 | E5/E7 | | 暗黄褐色土層 | にぶい黄橙10YR6/4 | 密　橙色粒子　灰色白色の砂粒含有 | 底部～体部約20% | | (11.5) | (18.5) |
| 57 | 376 | 壺 | C6<br>D6<br>C7 | | 暗黄褐色土層<br>暗褐色土層<br>明黄褐色土層 | 橙7.5YR6/6 | 密　径5㎜以下の褐色の小礫径3㎜以下<br>の灰色の砂粒含有 | 底部約10%<br>体部約25% | | (5.3) | (11.4) |
| 57 | 377 | 壺 | E5 | | 暗黄褐色土層 | 浅黄橙7.5YR8/6 | 密　灰色の砂粒含有 | 底部100%体部約30% | | 8.2 | 6.8 |
| 57 | 378 | 壺 | D7 | | 暗黄褐色土層 | 橙5YR7/6 | 密　径2㎜以下の灰白色と褐色の砂粒<br>含有 | 底部約50% | | (9.2) | (3.5) |
| 57 | 379 | 壺 | D6/D7 | | 明黄褐色土層 | 明黄褐10YR7/6 | 密　橙色粒子　橙色 灰色の小礫含有 | 底部100%<br>体部中位まで約30% | (11.5) | | (15.2) |
| 57 | 380 | 壺 | E6/D6 | | 明黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　1cm程の褐色の礫 径4㎜以下の灰色<br>と褐色の小礫含有 | 底部約50% | | (6.6) | (5.0) |
| 57 | 381 | 壺 | Z3 | | 黄褐色土層 | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径6㎜以下の長石含有 | 底部100% | 9.6 | | (3.7) |
| 57 | 382 | 壺 | C7 | | 暗黄褐色土層 | 赤褐色2.5YR4/6 | 密　径2㎜以下の黒灰色の砂粒含有 | 底部約25% | | (7.6) | (2.8) |
| 57 | 383 | 壺 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径3㎜以下の茶褐色の砂粒含有 | 底部約40% | | (8.2) | (3.0) |
| 57 | 384 | 壺 | D6 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR6/6 | 密　径1㎜以下の灰白色と褐色の粒子<br>含有 | 底部約90% | | 8.2 | (2.1) |
| 57 | 385 | 壺 | G4 | 表土 | | 橙5YR6/6 | 密　径5㎜以下の褐色の小礫と径2㎜以<br>下の灰色の砂粒含有 | 底部約25% | (12.0) | | (2.5) |
| 57 | 386 | 壺 | G4 | 表土 | | 橙7.5YR7/6 | 密　径5㎜以下の灰白色・褐色の小礫・<br>砂粒含有 | 底部約25% | (11.6) | | (2.3) |
| 57 | 387 | 壺 | C7 | | 暗黄褐色土層 | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径2㎜以下の灰白色・褐色・黒色<br>の砂粒含有 | 底部約50% | | 9.6 | (2.4) |
| 58 | 388 | 高坏 | E5/D6 | | 明黄褐色土層<br>暗黄褐色土層 | 橙5YR6/6 | 密　灰　白の小礫 砂粒含有 | 口縁部～接合部<br>約30% | (25.6) | | (13.2) |
| 58 | 389 | 高坏 | I2 | | 黄褐色土層 | 明黄褐10YR7/6 | 密　灰　白の砂粒多数含有 | 脚部約75% | | (12.6) | (8.6) |
| 58 | 390 | 台付甕 | F4 | | 暗黄褐色土層 | 黄橙7.5YR7/8 | 密　小礫多数　小豆色粒子　砂粒<br>長石含有 | 口縁部約20% | (16.4) | | (5.5) |
| 58 | 391 | 台付甕 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 赤褐色5YR4/6 | 密　径3㎜以下の赤褐色<br>灰色の砂粒含有 | 口縁部約10%<br>体部約20% | (18.2) | | (9.5) |
| 58 | 392 | 台付甕 | E6 | | 明黄褐色土層 | 橙5YR7/6 | 密　小礫多数　長石含有 | 破片 | | | |
| 58 | 393 | 台付甕 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 黄橙7.5YR7/8 | 密　小礫　橙色粒子多数含有 | 破片 | | | |
| 58 | 394 | 台付甕 | D6 | | | 黄橙7.5YR7/8 | 密　砂粒　長石　橙色粒子含有 | 破片 | | | |
| 58 | 394 | 台付甕 | D7 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　小礫多数　橙色粒子含有 | 破片 | | | |
| 58 | 395 | 台付甕 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　砂粒　橙色粒子含有 | 破片 | | | |
| 58 | 396 | 台付甕 | D6 | | | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　小礫多数　橙色粒子含有 | 破片 | | | |
| 58 | 398 | 台付甕 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 橙7.5YR7/6 | 密　小礫多数　橙色粒子含有 | 破片 | | | |
| 58 | 399 | 台付甕 | C6 | | 暗黄褐色土層 | 浅黄橙7.5YR8/6 | 密　小礫　橙色粒子多数含有 | 破片 | | | |
| 58 | 400 | 台付甕 | C6 | | 黄褐色粘土層 | にぶい黄橙10YR5/4 | 密　径2㎜以下の褐色と灰色の砂粒含有 | 台部約30% | | (11.7) | (7.9) |
| 58 | 401 | 台付甕 | D7 | | 暗黄褐色土層 | にぶい橙7.5YR7/4 | 密　径2㎜以下の赤褐色 灰色の砂粒を<br>含有 | 台部約40% | | (10.4) | (8.1) |
| 58 | 402 | 台付甕 | D6 | | 暗黄褐色土層 | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径2㎜以下の白色 灰色の砂粒と白<br>色粒子含有 | 台部約80% | | (7.9) | (5.4) |
| 58 | 403 | 台付甕 | G4 | | 暗黄褐色土層 | 明赤褐色5YR5/6 | 密　径5㎜以下の褐色 灰色の小礫を含<br>有 | 台部約95% | | (9.9) | (6.7) |
| 58 | 404 | 台付甕 | G4 | | 暗黄褐色土層 | 赤褐色5YR4/6 | 密　径8㎜の灰色の小礫と3㎜以下小礫<br>含有 | 台部約90% | | (9.8) | 7.2 |
| 58 | 405 | 台付甕 | F6 | | 暗黄褐色土層 | にぶい黄橙10YR6/4 | 密　径1㎜以下の白色粒子含有 | 台部約95% | | 9.7 | (8.1) |
| 58 | 406 | 台付甕 | C6 | | 明黄褐色土層 | にぶい黄褐色10YR5/3 | 密　径2㎜以下の灰色の砂粒含有 | 台部約40% | | | (7.0) |
| 58 | 407 | 台付甕 | G4 | 表土 | | 橙7.5YR6/6 | 密　径2㎜以下の灰色と褐色の砂粒含有 | 接合部約90% | | | (2.4) |
| 59 | 408 | 小型壺 | D6 | | 明黄褐色土層 | にぶい黄橙10YR6/4 | 密　橙色粒子　灰色白色の砂粒含有 | 約40% | | 7.6 | 9.2 |
| 59 | 409 | 台付甕 | C7 | | 暗黄褐色土層 | にぶい黄橙10YR7/4 | 密　褐色 白色の微粒子含有 | 約40% | 4.7 | (8.0) | 5.7 |
| 59 | 410 | 坏蓋 | C7 | | 覆土層 | 橙5YR7/8 | 密 | 口縁部～体部約10%<br>摘み100% | (19.1) | | (4.0) |
| 59 | 411 | 須恵器・坏蓋 | E2 | 表土 | | 灰白色5Y7/1 | 密　白色粒子含有 | 口縁部約40% | (18.0) | | (2.2) |
| 59 | 412 | 須恵器・坏身 | G6 | 耕作土 | | (内面) 灰白色7.5Y7/1<br>(外面) 灰色5Y6/1 | 密　白色粒子含有 | 口縁部約25% | (15.4) | | 3.2 |
| 59 | 413 | 須恵器・碗 | IJ/K3 | 表土 | | 灰色N6/ | 密　白色粒子含有 | 底部約50% | | (5.6) | 1.4 |
| 59 | 414 | 須恵器・碗 | H5 | | | 灰白色7.5Y7/Ⅰ | 密　白色粒子含有 | 底部100% | | 4.4 | 1.5 |
| 59 | 415 | 灰釉・碗 | B3 | 地山 | | (内面) 浅黄5Y7/3 (外面) 白色2.5Y8/2 | 密　白色粒子含有黒斑状の吹き出しあり | 破片 | | | |

## 第８表　寺島大谷遺跡出土石製品観察表（１）

| 図番 | 挿図番号 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 27 | 凹基鏃 | H4 | 暗褐色土層・SH05 | 1.35 | 1.70 | 0.34 | 0.7 | 黒曜石 |
| 28 | 28 | 凹基鏃 | H4 | 暗褐色土層・SH05 | 1.63 | 1.24 | 0.29 | 0.5 | 黒曜石 |
| 28 | 29 | 凹基鏃未成品 | G4 | 覆土層・SH05 | 1.92 | 1.53 | 0.45 | 1.2 | チャート |
| 28 | 30 | 石皿？ | G4 | 覆土層・SH05？ | 20.0 | 17.3 | 5.2 | 1740 | 淡黄褐色中粒砂岩 |
| 28 | 31 | 磨石 | G4・H4 | 覆土層・SH05 | 10.5 | 7.4 | 4.8 | 513 | 褐灰色中粒砂岩 |
| 30 | 47 | 縦形石匙 | Y3 | 覆土・包含層・SH12 | 11.59 | 7.25 | 1.05 | 75.0 | 泥岩 |
| 30 | 48 | 横形石匙 | Y3 | 覆土層・SH12 | 4.45 | 4.05 | 1.14 | 13.9 | 頁岩 |
| 30 | 49 | スクレイパー | Y3 | 覆土層・SH12 | 6.80 | 4.59 | 1.37 | 31.0 | 頁岩 |
| 30 | 50 | スクレイパー | Y3 | 覆土・包含層・SH12 | 8.94 | 6.09 | 1.21 | 49.7 | 砂岩 |
| 30 | 51 | 打製石斧 | Y3 | 覆土層・SH12・SP143 | 11.51 | 5.99 | 1.24 | 108.2 | 泥岩 |
| 30 | 52 | 打製石斧 | Y3 | 覆土層・SH12 | 8.29 | 4.84 | 1.94 | 89.1 | 砂岩 |
| 30 | 53 | 打製石斧 | Y3 | 覆土層・SH12 | 8.26 | 4.45 | 1.81 | 78.6 | 砂岩 |
| 31 | 54 | 打欠石錘 | Y3 | 包含層・SH12 | 5.70 | 4.24 | 1.37 | 45.2 | 泥岩 |
| 31 | 55 | 打欠石錘 | Y3 | 覆土層・SH12 | 4.79 | 3.83 | 1.75 | 46.1 | 砂岩 |
| 31 | 56 | 打欠石錘 | Y3 | 覆土・包含層・SH12 | 3.95 | 3.25 | 0.99 | 17.2 | 泥岩 |
| 31 | 57 | 磨石 | T3 | 覆土層・SH12 | 8.5 | 5.8 | 6.0 | 372 | 淡黄褐色花崗岩 |
| 31 | 58 | 磨石 | Y3 | 覆土層・SH12 | 7.3 | 9.65 | 4.65 | 497 | 淡黄褐色花崗岩 |
| 41 | 310 | 打欠石錘 | | 覆土層・SH01・SP14 | 7.87 | 4.01 | 1.47 | 65.2 | 泥岩 |
| 43 | 317 | 石皿 | H5 | 覆土層・SH03 | 10.8 | (8.5) | 2.95 | 424 | 褐灰色細粒砂岩 |
| 43 | 318 | 球形石製品 | H5 | 覆土層・SH03・SP57 | 3.1 | 3.2 | 2.95 | 39 | 淡褐～暗灰チャート |
| 43 | 319 | 砥石 | H5 | 覆土層・SH03 | 13.2 | 7.7 | 3.2 | 434 | 淡黄褐色細粒凝灰岩 |
| 43 | 320 | 石鏃断片 | H5 | SH03 | 1.40 | 1.31 | 0.3 | 0.3 | 黒曜石 |
| 43 | 321 | 鋸歯縁凹基鏃 | H5 | SH03 | 1.42 | 1.03 | 0.28 | 0.2 | 頁岩 |
| 43 | 322 | 凹基鏃 | | 覆土層・SH03 | 2.01 | 1.81 | 0.47 | 1.1 | 凝灰岩 |
| 48 | 331 | 凹基鏃 | | SH07 | 1.72 | 1.48 | 0.44 | 0.8 | チャート |
| 50 | 334 | 磨石 | J2 | 覆土層・SH08 | 14.6 | 5.25 | 4.5 | 559 | 淡褐灰色中粒砂岩 |
| 51 | 340 | 凹基鏃 | K2 | 覆土層・SH09 | 1.81 | 1.57 | 0.26 | 0.4 | 頁岩 |
| 55 | 357 | 打製石斧 | I2 | 暗褐色土層・SP33 | 8.18 | 5.45 | 1.21 | 64.6 | 砂岩 |
| 60 | 416 | 有茎鏃 | G6 | | 1.33 | 0.85 | 0.21 | 0.2 | 黒曜石 |
| 60 | 417 | 有茎鏃未成品 | H3 | | 1.62 | 2.08 | 0.48 | 1.3 | チャート |
| 60 | 418 | 凹基鏃 | D6 | 暗褐色土層 | 0.91 | 0.78 | 0.24 | 0.1 | 黒曜石 |
| 60 | 419 | 凹基鏃 | E8 | 耕作土 | 1.68 | 1.31 | 0.23 | 0.3 | 黒曜石 |
| 60 | 420 | 凹基鏃 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.97 | 1.13 | 0.32 | 0.5 | 安山岩 |
| 60 | 421 | 凹基鏃 | C7 | 暗褐色土層 | 1.14 | 1.36 | 0.37 | 0.4 | 黒曜石 |
| 60 | 422 | 凹基鏃 | D6 | 暗黄褐色土層 | 1.34 | 1.31 | 0.24 | 0.3 | 黒曜石 |
| 60 | 423 | 凹基鏃 | H6 | | 1.12 | 1.16 | 0.3 | 0.3 | 黒曜石 |
| 60 | 424 | 凹基鏃 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.70 | 1.12 | 0.27 | 0.4 | 黒曜石 |
| 60 | 425 | 凹基鏃 | E7 | 暗黄褐色土層 | 1.36 | 1.07 | 0.3 | 0.3 | 頁岩 |
| 60 | 426 | 凹基鏃 | E7 | 暗黄褐色土層 | 1.87 | 1.58 | 0.32 | 0.7 | 黒曜石 |
| 60 | 427 | 凹基鏃 | D6 | 暗黄褐色土層 | 1.36 | 1.31 | 0.37 | 0.4 | チャート |
| 60 | 428 | 凹基鏃 | G8 | 耕作土 | 1.58 | 1.23 | 0.34 | 0.5 | 頁岩 |
| 60 | 429 | 凹基鏃 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.91 | 1.66 | 0.43 | 1.3 | チャート |
| 60 | 430 | 凹基鏃未成品 | D6 | 暗褐色土層 | 2.09 | 1.58 | 0.38 | 1.2 | 頁岩 |
| 60 | 431 | 凹基鏃 | C7 | 暗褐色土層 | 2.13 | 1.57 | 0.54 | 1.6 | チャート |
| 60 | 432 | 凹基鏃未成品 | G6 | | 3.62 | 1.95 | 0.92 | 3.9 | 頁岩 |
| 60 | 433 | 平基鏃 | | 表採 | 1.82 | 1.51 | 0.44 | 1.1 | チャート |
| 60 | 434 | 平基鏃 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.97 | 1.54 | 0.42 | 1.0 | 頁岩 |
| 60 | 435 | 平基鏃 | F5 | 地山直上 | 1.83 | 1.75 | 0.38 | 0.7 | 頁岩 |
| 60 | 436 | 平基鏃 | H4 | 耕作土・暗褐色土層 | 2.15 | 1.73 | 0.7 | 1.6 | 黒曜石 |
| 60 | 437 | 平基鏃 | D6 | 暗黄褐色土層 | 1.81 | 1.27 | 0.29 | 0.6 | 黒曜石 |
| 60 | 438 | 平基鏃 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.86 | 1.71 | 0.46 | 1.1 | チャート |
| 61 | 439 | 平基鏃 | E6 | 暗褐色土層 | 3.38 | 2.27 | 0.86 | 6.0 | チャート |
| 61 | 440 | 石鏃未成品 | G5 | 暗褐色土層 | 3.67 | 2.04 | 0.84 | 4.5 | 頁岩 |
| 61 | 441 | 石鏃未成品 | I3 | 表土 | 2.14 | 2.49 | 0.61 | 3.4 | チャート |
| 61 | 442 | 石鏃未成品 | F6 | 暗黄褐色土層 | 2.55 | 2.19 | 0.84 | 4.1 | チャート |
| 61 | 443 | 石鏃未成品 | G5 | 暗褐色土層 | 1.53 | 1.27 | 0.43 | 0.7 | 黒曜石 |
| 61 | 444 | 石鏃未成品 | K2 | 暗褐色土層 | 2.11 | 1.84 | 0.43 | 1.5 | 頁岩 |
| 61 | 445 | 石鏃断片 | C7 | 暗黄褐色土層 | 1.74 | 1.43 | 0.41 | 0.9 | チャート |
| 61 | 446 | 石錐 | C7 | 暗黄褐色土層 | 2.94 | 1.15 | 0.65 | 1.9 | チャート |
| 61 | 447 | 石錐 | F6 | 暗褐色土層・地山直上 | 2.46 | 1.12 | 0.54 | 1.2 | チャート |
| 61 | 448 | 石錐 | C7 | 暗褐色土層・SP175 | 2.54 | 1.88 | 0.56 | 2.0 | 頁岩 |
| 61 | 449 | 石錐 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 3.53 | 2.99 | 0.73 | 6.1 | 頁岩 |
| 62 | 450 | 横形石匙 | G6 | 暗褐色土層 | 4.17 | 6.71 | 1.69 | 40.0 | 凝灰岩 |
| 62 | 451 | 横形石匙 | G5 | 暗褐色土層 | 1.91 | 2.23 | 0.55 | 1.8 | チャート |
| 62 | 452 | 横形石匙 | A2 | 覆土層 | 3.94 | 5.92 | 1.33 | 22.2 | 泥岩 |
| 62 | 453 | 横形石匙 | J3 | 暗褐色土層 | 4.93 | 5.60 | 1.27 | 20.7 | 泥岩 |
| 62 | 454 | 縦形石匙 | J3 | 暗褐色土層 | 7.36 | 4.48 | 1.20 | 39.6 | チャート |
| 62 | 455 | 縦形石匙 | Y3 | 暗黄褐色土層 | 5.29 | 3.01 | 0.69 | 11.2 | 不明 |
| 62 | 456 | 縦形石匙 | Y3 | 明黄褐色土層 | 6.0 | 3.69 | 0.64 | 12.0 | 泥岩 |
| 62 | 457 | スクレイパー | D6 | 暗褐色土層 | 6.22 | 4.69 | 1.30 | 36.3 | 頁岩 |
| 62 | 458 | スクレイパー | D6 | 暗褐色土層 | 4.05 | 2.55 | 1.08 | 10.3 | 頁岩 |

## 寺島大谷遺跡出土石製品観察表（２）

| 図番 | 挿図番号 | 器種 | グリッド | 層位・遺構 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | 459 | スクレイパー | J3 | 耕作土 | 3.40 | 2.05 | 1.0 | 6.3 | チャート |
| 62 | 460 | 両極石器 | Y3 | 明黄褐色土層・28トレンチ | 4.89 | 4.12 | 1.62 | 32.6 | チャート |
| 62 | 461 | 両面加工石器 | I3 | 表土 | 3.25 | 2.90 | 1.15 | 9.4 | チャート |
| 63 | 462 | 打製石斧 | | 7トレンチ | 12.80 | 5.45 | 2.48 | 209.9 | 砂岩 |
| 63 | 463 | 打製石斧 | J3 | 明黄褐色土層 | 12.05 | 5.62 | 2.50 | 191.5 | 砂岩 |
| 63 | 464 | 打製石斧 | | 耕作土 | 11.21 | 5.67 | 3.13 | 209.2 | 砂岩 |
| 63 | 465 | 打製石斧 | D6 | 暗褐色土層 | 11.82 | 5.44 | 1.80 | 118.2 | 泥岩 |
| 63 | 466 | 打製石斧 | G6 | 暗褐色土層 | 10.55 | 6.53 | 2.55 | 180.8 | 砂岩 |
| 63 | 467 | 打製石斧 | G5 | 暗褐色土層 | 9.55 | 3.85 | 1.53 | 54.2 | 砂岩 |
| 64 | 468 | 打製石斧 | G4 | 暗褐色土層 | 8.81 | 5.95 | 2.32 | 119.7 | 泥岩 |
| 64 | 469 | 打製石斧 | Z4 | 明黄褐色土層 | 9.01 | 5.27 | 1.99 | 93.9 | 砂岩 |
| 64 | 470 | 打製石斧 | J3 | 暗褐色土層 | 8.76 | 5.19 | 1.52 | 83.4 | 砂岩 |
| 64 | 471 | 打製石斧 | J3 | | 7.75 | 3.87 | 1.44 | 39.6 | 泥岩 |
| 64 | 472 | 打製石斧 | C6 | 暗黄褐色土層 | 7.49 | 4.10 | 1.65 | 59.7 | 泥岩 |
| 64 | 473 | 打製石斧 | G6 | | 7.12 | 5.56 | 1.46 | 63.2 | 砂岩 |
| 64 | 474 | 打製石斧 | D8 | | 7.74 | 5.11 | 2.0 | 102.3 | 砂岩 |
| 64 | 475 | 打製石斧 | G4 | 暗褐色土層 | 7.0 | 3.93 | 1.82 | 51.0 | 砂岩 |
| 65 | 476 | 打製石斧 | E8 | | 7.51 | 4.72 | 2.13 | 104.8 | 砂岩 |
| 65 | 477 | 打製石斧 | Y3 | 暗黄褐色土層・28トレンチ | 6.52 | 4.35 | 1.0 | 33.4 | 砂岩 |
| 65 | 478 | 打製石斧 | G6 | 暗褐色土層 | 8.26 | 4.88 | 2.66 | 96.3 | 砂岩 |
| 65 | 479 | 打製石斧 | Y3 | 明黄褐色土層 | 7.91 | 5.47 | 1.32 | 71.4 | 砂岩 |
| 65 | 480 | 打製石斧 | D6 | 暗黄褐色土層 | 7.21 | 5.87 | 1.74 | 85.7 | 砂岩 |
| 65 | 481 | 打製石斧 | | 耕作土・5トレンチ | 6.06 | 5.34 | 1.80 | 61.3 | 泥岩 |
| 65 | 482 | 打製石斧 | K3 | 暗褐色土層 | 6.27 | 4.99 | 1.61 | 47.0 | 泥岩 |
| 65 | 483 | 打製石斧 | C7 | 明黄褐色土層 | 5.96 | 4.89 | 1.58 | 60.7 | 砂岩 |
| 66 | 484 | 打製石斧 | G6 | | 9.76 | 6.37 | 2.01 | 128.4 | 砂岩 |
| 66 | 485 | 打製石斧 | G6 | 暗褐色土層 | 10.70 | 6.18 | 2.54 | 176.4 | 砂岩 |
| 66 | 486 | 打製石斧 | G6 | 暗褐色土層 | 8.79 | 6.71 | 2.05 | 123.3 | 泥岩 |
| 66 | 487 | 打欠石錘 | G5 | 表土 | 8.33 | 6.54 | 1.83 | 137.0 | 砂岩 |
| 66 | 488 | 打欠石錘 | G4 | 暗黄褐色土層 | 8.53 | 5.70 | 2.59 | 152.2 | 泥岩 |
| 67 | 489 | 打欠石錘 | G4 | 暗黄褐色土層 | 7.58 | 6.74 | 2.24 | 136.5 | 砂岩 |
| 67 | 490 | 打欠石錘 | H3 | 暗黄褐色土層 | 7.76 | 5.30 | 2.55 | 116.7 | 泥岩 |
| 67 | 491 | 打欠石錘 | K3 | 暗褐色土層 | 8.05 | 5.42 | 1.94 | 122.5 | 砂岩 |
| 67 | 492 | 打欠石錘 | G4 | 暗黄褐色土層 | 7.36 | 6.62 | 1.71 | 105.4 | 砂岩 |
| 67 | 493 | 打欠石錘 | H3 | 表土 | 5.95 | 6.01 | 1.93 | 67.0 | 砂岩 |
| 67 | 494 | 打欠石錘 | I3 | 暗褐色土層 | 7.33 | 5.48 | 1.84 | 106.4 | 砂岩 |
| 68 | 495 | 打欠石錘 | H4 | 耕作土 | 6.76 | 6.17 | 1.89 | 101.3 | 泥岩 |
| 68 | 496 | 打欠石錘 | E8 | 耕作土 | 6.83 | 4.79 | 1.80 | 87.8 | 砂岩 |
| 68 | 497 | 打欠石錘 | H3 | 表土 | 6.44 | 5.82 | 1.26 | 71.7 | 泥岩 |
| 68 | 498 | 打欠石錘 | I4 | 表土 | 62.1 | 53.4 | 1.58 | 68.5 | 砂岩 |
| 68 | 499 | 打欠石錘 | I3 | 表土 | 6.08 | 4.57 | 1.52 | 47.7 | 砂岩 |
| 68 | 500 | 打欠石錘 | G6 | 耕作土 | 6.48 | 4.60 | 1.56 | 61.7 | 泥岩 |
| 68 | 501 | 打欠石錘 | D6 | 暗黄褐色土層 | 6.66 | 4.49 | 1.43 | 45.0 | 泥岩 |
| 69 | 502 | 打欠石錘 | G5 | 暗褐色土層 | 5.47 | 5.72 | 1.62 | 61.6 | 泥岩 |
| 69 | 503 | 打欠石錘 | G6 | 暗褐色土層 | 5.93 | 4.86 | 1.43 | 58.6 | 泥岩 |
| 69 | 504 | 打欠石錘 | G4 | 黄褐色土層 | 5.28 | 4.45 | 1.19 | 29.8 | 泥岩 |
| 69 | 505 | 打欠石錘 | G6 | 耕作土 | 5.40 | 4.86 | 1.58 | 57.0 | 砂岩 |
| 69 | 506 | 打欠石錘 | D7 | 暗黄褐色土層 | 4.74 | 4.72 | 1.29 | 36.6 | 泥岩 |
| 69 | 507 | 打欠石錘 | I3 | 表土 | 5.07 | 4.48 | 1.49 | 43.2 | 泥岩 |
| 69 | 508 | 打欠石錘 | J3 | 明黄褐色土層 | 4.66 | 4.05 | 1.18 | 30.4 | 泥岩 |
| 69 | 509 | 打欠石錘 | I3 | 表土 | 4.87 | 4.27 | 1.03 | 29.8 | 砂岩 |
| 70 | 510 | 打欠石錘 | C7 | 暗褐色土層 | 4.56 | 3.88 | 1.08 | 28.8 | 泥岩 |
| 70 | 511 | 打欠石錘 | G5 | 褐色土層 | 4.15 | 3.96 | 0.90 | 19.9 | 砂岩 |
| 70 | 512 | 打欠石錘 | C7 | 暗褐色土層 | 4.21 | 3.59 | 1.50 | 32.4 | 泥岩 |
| 70 | 513 | 打欠石錘 | D7 | 暗褐色土層 | 5.90 | 3.81 | 1.07 | 33.8 | 泥岩 |
| 70 | 514 | 打欠石錘 | I4 | 表土 | 5.95 | 3.29 | 1.04 | 34.3 | 砂岩 |
| 70 | 515 | 打欠石錘 | C7 | 暗褐色土層 | 4.81 | 3.53 | 0.92 | 23.1 | 砂岩 |
| 70 | 516 | 打欠石錘 | J3 | 暗褐色土層 | 4.60 | 3.50 | 1.15 | 26.5 | 砂岩 |
| 70 | 517 | 打欠石錘 | J3 | 暗褐色土層 | 2.25 | 1.39 | 0.54 | 2.2 | 砂岩 |
| 70 | 518 | 打欠石錘 | I3 | 表土 | 4.31 | 3.63 | 1.08 | 22.0 | 砂岩 |
| 70 | 519 | 打欠石錘 | I4 | 表土 | 6.74 | 4.95 | 0.96 | 37.3 | 砂岩 |
| 71 | 520 | 磨石 | C7 | 暗黄褐色土層 | 7.6 | 5.6 | 4.6 | 254 | 淡黄褐色中粒砂岩 |
| 71 | 521 | 磨石 | D7 | 暗褐色土層 | 6.9 | 5.3 | 3.55 | 179 | 不明　ハンレイ岩？ |
| 71 | 522 | 磨石 | J3 | 明黄褐色土層 | 9.0 | 10.7 | 4.6 | 595 | 淡黄褐色凝灰質砂岩 |
| 71 | 523 | 石皿 | | 調査区外・表採 | (21.5) | (23.0) | 11.5 | 4760 | 黄褐色細粒砂岩 |
| 72 | 524 | 台石 | C7 | 明黄褐色土層 | 20.6 | 16.1 | 4.9 | 2330 | 黄褐色細粒砂岩 |
| 72 | 525 | 砥石 | F5 | 暗黄褐色土層 | 6.2 | 3.2 | 1.6 | 53 | 淡褐灰色細粒凝灰岩 |
| 72 | 526 | 砥石 | G6 | 暗褐色土層・耕作土 | 5.2 | 3.5 | 2.1 | 32 | 黄褐色細粒凝灰岩 |
| 72 | 527 | 紡錘車（未完成） | | 表採 | 4.4 | 4.65 | 3.95 | 79 | 淡黄褐・淡灰珪質凝灰岩 |
| 72 | 528 | 有孔石錘 | | 暗褐色土層？ | 3.6 | 3.4 | 3.6 | 46 | 淡黄灰色含礫中粒砂岩 |
| 72 | 529 | 定角式磨製石斧 | I4 | 表土 | 5.05 | 2.85 | 1.08 | 21.7 | 泥岩 |

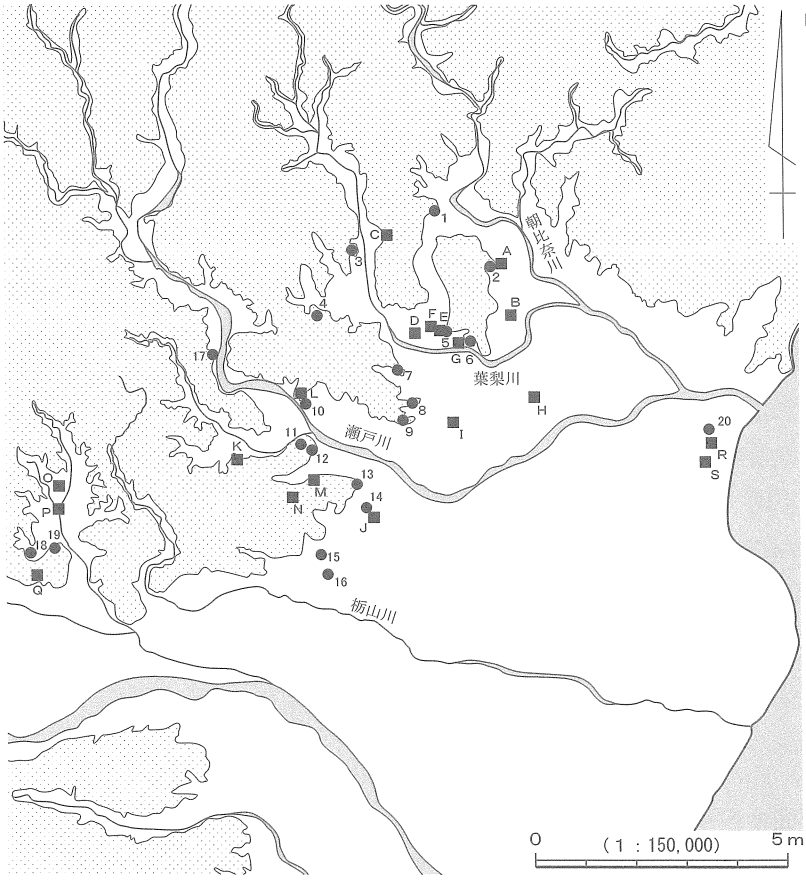
# 第４節　寺島大谷１号墳の調査成果

## １．寺島大谷１号墳周辺の古墳の分布状況

寺島大谷１号墳が所在する志太地域は、古墳時代には現在の平野部は低湿地あるいはラグーンであったと考えられている。志太地域の集落遺跡はその周囲の微高地やラグーンに流れ込む河川近くの微高地などに形成されている。一方、古墳は瀬戸川河口近くの焼津市小深田西古墳群や道場田遺跡（古墳群）以外では、平野の周囲を取り囲む丘陵上に築かれている（第73図）。

志太地域の代表的な古墳は、古墳時代前期から後期まで連続的に小古墳が群集して築造される古墳群として全国的に著名な藤枝市若王子古墳群や釣瓶落古墳群、同じく古墳時代前期から小規模墳が築造される藤枝市南新屋古墳群や秋合古墳群のほか、藤枝市五州岳古墳・五鬼免古墳、島田市城山古墳・鳥羽美古墳などである。

また、志太地域は前方後円墳が少ない地域であり、藤枝市荘館山１・２号墳（後期中葉から後葉）、同高田観音前１号墳（後期前半）の３基しか確認されていない。志太平野を見渡すことができる大井川西岸の東遠江に当たる島田市中原３号墳（後期前半）や同愛宕塚古墳（後期中葉）を含めても、５基しかなく、しかも古墳時代前期・中期に帰属する前方後円墳が確認されていないことも特徴的である。志太地域の前・中期の古墳は20～30m前後の古墳が最大規模である。また、同規模の古墳が志太地域の主要河川流域に存在するなど、志太地域には前期から中核的な首長墓が存在せず、中心地域も特定し難い。志太地域は小首長が複数林立するような状況であったことが窺える。

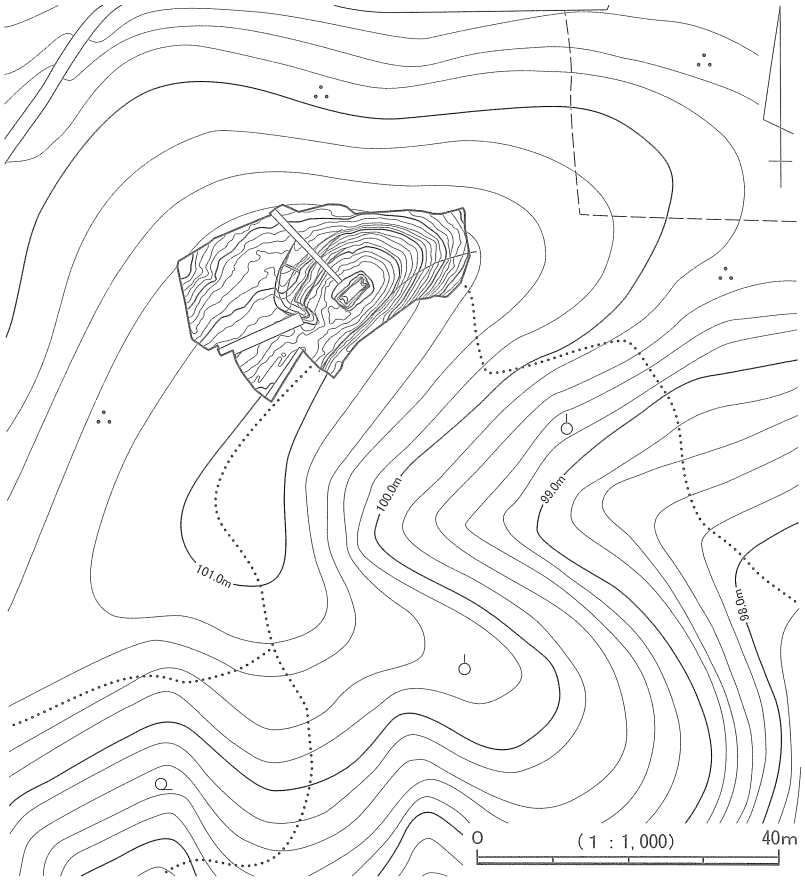



| No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 |
|---|---|---|---|
| A | 仮宿堤ノ坪遺跡 | 1 | 高田観音前古墳群 |
| B | 宮塚遺跡 | 2 | 仮宿沢渡古墳群 |
| C | 中ノ合遺跡 | 3 | 寺家前古墳群 |
| D | 上藪田モミダ遺跡 | 4 | 岩下古墳群 |
| E | 上藪田川の丁遺跡 | 5 | 東浦古墳群・東浦遺跡 |
| F | 鳥内遺跡 | 6 | 女池ヶ谷古墳群 |
| G | 中藪田遺跡 | 7 | 時ヶ谷五鬼免１号墳 |
| H | 水守遺跡 | 8 | 釣瓶落古墳群 |
| I | 郡遺跡 | 9 | 若王子古墳群 |
| J | 秋合遺跡 | 10 | 荘館山古墳群 |
| K | 蛭ヶ谷遺跡 | 11 | 五州岳古墳 |
| L | 白砂谷遺跡 | 12 | 西之宮古墳群 |
| N | 滝川遺跡 | 13 | 秋合古墳群 |
| M | 稲ヶ谷遺跡 | 14 | 南新屋古墳群 |
| O | 山王前遺跡 | 15 | 岩田山古墳群 |
| P | 矢崎遺跡 | 16 | 岩城山８号墳 |
| Q | 田ノ谷遺跡 | 17 | 寺島大谷１号墳 |
| R | 小深田遺跡 | 18 | 鳥羽美古墳 |
| S | 道場田遺跡 | 19 | 城山古墳 |
| | | 20 | 小深田西古墳群 |

第73図　志太地域の主要古墳分布図（古墳時代前期～後期前半）

## ２．古墳の現況（第74図、図版34）

**立地**　寺島大谷１号墳は、ＪＲ藤枝駅の北西約５㎞、瀬戸川中流域西岸の丘陵のうち瀬戸川に向かって東向きに張り出した菩提山から南東に向かって派生する丘陵の小尾根の最高所、標高約102m付近に位置する（第23図参照）。この丘陵の北東約80m、標高85m付近に２号墳が所在する（藤枝市2007）。両古墳が立地する尾根は、南東に向かって流れていた瀬戸川が京塚山により南西に流れを変え、さらに西側に位置する丘陵に遮られて南東に向かって大きく流れを変え、志太平野に向かう場所に位置する。古墳からは北側に広がる助宗地区の平地部分を見渡すことができるとともに、志太平野に向かって広がる平地部も見渡すことができる非常に立地状況の良い場所に位置する。




**第74図　寺島大谷１号墳の立地状況**

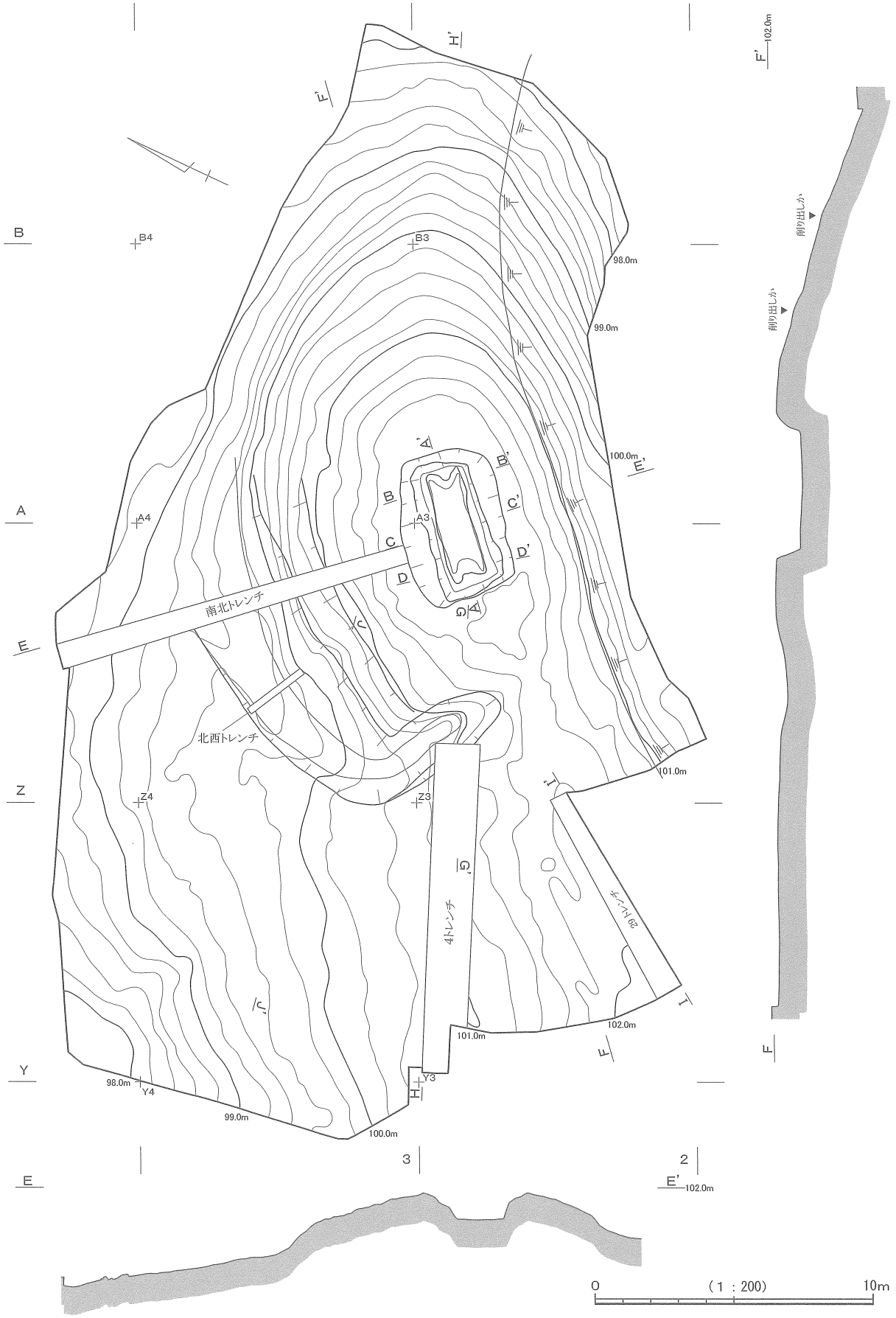
古墳時代の交通路については明確ではないが、現在葉梨川流域の下ノ郷から花倉を抜け助宗に至る道路があり、この道が古くから機能していたとすれば、古墳の位置は瀬戸川を北上するルートと葉梨川流域から北西へ至るルートが合流する地点あたり、交通の要衝であった可能性が高い。ただし、現状では寺島大谷１号墳を含む寺島大谷遺跡は縄文時代、弥生時代後期～古墳時代初頭の遺跡であるものの、この遺跡の北側には弥生時代後期～古墳時代前期の様相が明確な遺跡はなく、遺跡間を結ぶ交通路を考える上では古墳時代前期以前の遺跡が確認されていないことは今後の課題となるが、この寺島大谷1号墳が所在する場所が弥生時代後期には集落として利用されていることから、上記の交通路の想定もあながち間違ってはいないと考える。寺島大谷1号墳は、このルート上の要衝に位置していた可能性が高い。

**現況**　古墳が築造された丘陵の南東側（南斜面）の等高線は直線的であり、かつ標高98mより低い標高から101m付近までほぼ等間隔であるため、101m付近までが崩落した地形であると考えることができる。したがって、南側は大きく自然崩落しており、古墳築造当初の旧状を留めていないと判断する。

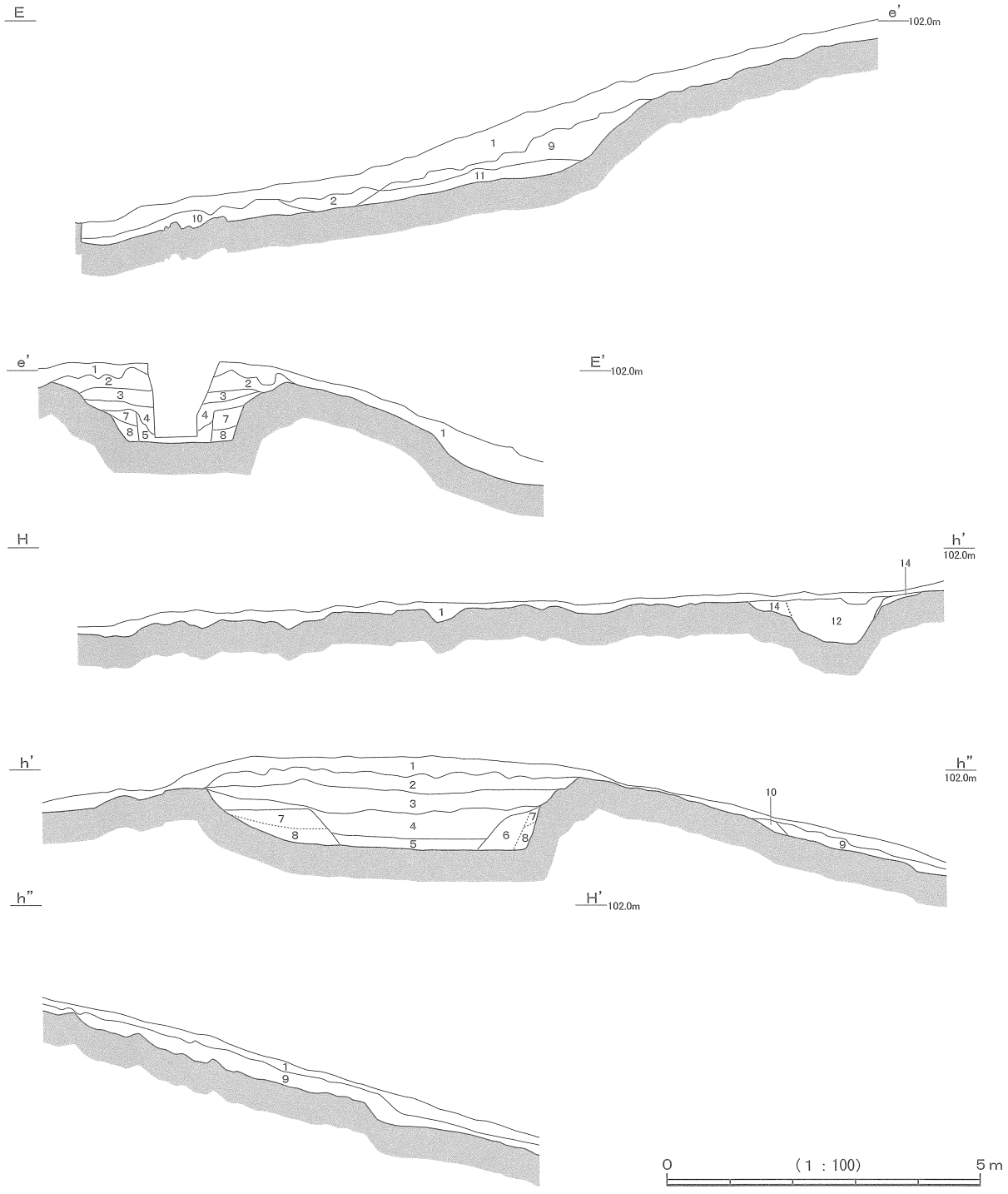
なお、寺島大谷１号墳は、第二東名高速道路建設に伴う確認調査や踏査で２号墳とともに新たに確認された古墳であり、調査前は茶畑として利用されていた。

## ３．墳丘（第75～79図、図版35・36）

**墳丘・周溝の構造**　南側斜面は斜面の崩落により旧状を逸している（第75図）。周溝は墳丘北西側のみ掘削されており、それ以外は尾根の先端を巧みに利用して墳丘を形成する。墳丘の北西側で周溝の掘削が行われているが（第76図Ｈ－ｈ´断面12・14層、第77図Ｇ－Ｇ´断面12～14層）（註１）、丘陵を切断

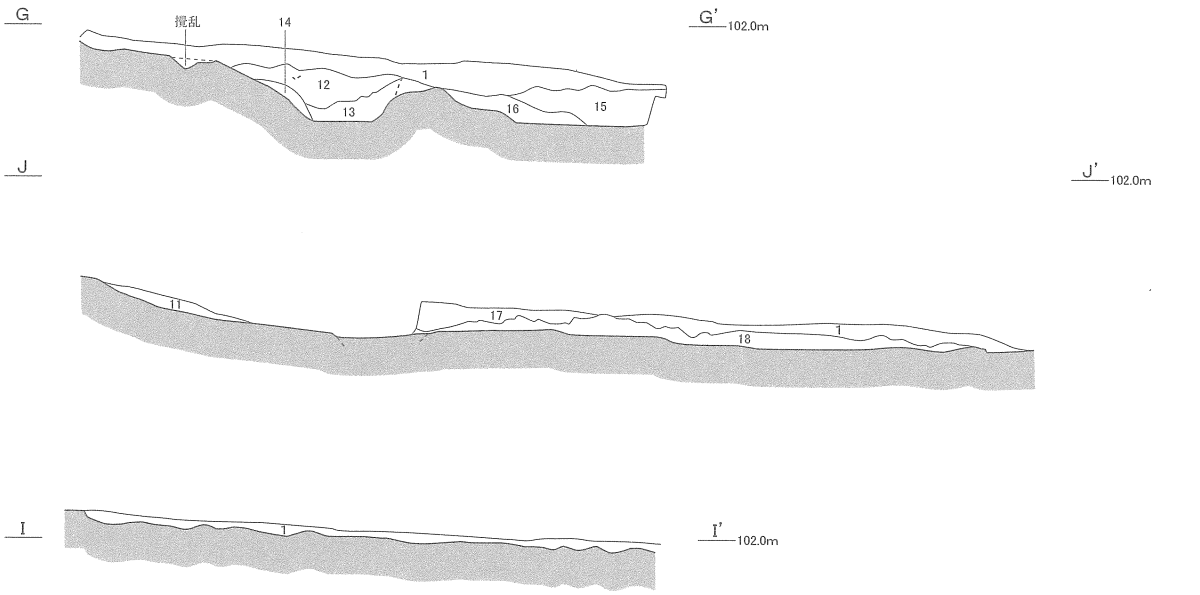



第75図　寺島大谷１号墳墳丘測量図




| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性なし、しまりなし。・・・・表土 |
| 2 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 軟礫を多く含む。 粘性なし・しまりあり。・・・・・・墳丘盛土か墓壙埋土 |
| 3 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 軟礫を含む。粘性あり・しまりあり。・・・・墓壙埋土 |
| 4 | 明黄褐色砂質土(10YR6/8) | 軟礫を多く含む。粘性あり・しまりあり。・・・・墓壙埋土 |
| 5 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 粘性なし・しまりなし。・・・・木棺腐植土 |
| 6 | 青灰色粘土(5BG6/1) | ブロック状に黄褐色土が混じる・・・・木棺小口粘土 |
| 7 | 緑灰色粘土(5G6/1) | ブロック状に黄褐色土を含む・・・・木棺裏込め |
| 8 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 3cm大の軟礫を若干含む。粘性あり・しまりなし。・・・・木棺裏込め |
| 9 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を少し含む。粘性あり・しまりなし。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 10 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 1～2cm大の軟礫を少し含む。粘性強い・しまり強い。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 11 | 黄褐色シルト(2.5Y5/6) | 5～10cm大の軟礫を多量に含む。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 12 | 黄褐色土(10YR5/6) | 1cm大の軟礫を含む。土師器片を含む。炭化物若干含む。粘性なし・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 13 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 1cm大の軟礫を含む。粘性あり・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 14 | 黄褐色土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を含む。粘性なし・しまりあり。・・・・墳丘崩落土 |
| 15 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 粘性なし・しまりあり。・・・・表土？ |
| 16 | 黄褐色土(10YR5/6) | ブロック状に黒褐色土を含む。粘性ややあり・しまりあり。・・・・墳丘崩落土？ |
| 17 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を少し含む。粘性あり・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 18 | 明黄褐色シルト(2.5Y6/8) | 3～10cm大の軟礫を含む。木炭少量含む。粘性あり・しまりあり・・・・竪穴建物覆土 |

**第76図　寺島大谷１号墳墳丘土層図１**




| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘性なし、しまりなし。・・・・表土 |
| 9 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を少し含む。粘性あり・しまりなし。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 10 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 1～2cm大の軟礫を少し含む。粘性強い・しまり強い。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 11 | 黄褐色シルト(2.5Y5/6) | 5～10cm大の軟礫を多量に含む。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 12 | 黄褐色土(10YR5/6) | 1cm大の軟礫を含む。土師器片を含む。炭化物若干含む。粘性なし・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 13 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 1cm大の軟礫を含む。粘性あり・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 14 | 黄褐色土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を含む。粘性なし・しまりあり。・・・・墳丘崩落土 |
| 15 | 暗赤褐色土(5YR3/4) | 粘性なし・しまりあり。・・・・表土？ |
| 16 | 黄褐色土(10YR5/6) | ブロック状に黒褐色土を含む。粘性ややあり・しまりあり。・・・・墳丘崩落土？ |
| 17 | 黄褐色砂質土(10YR5/6) | 3cm大の軟礫を少し含む。粘性あり・しまりあり。・・・・周溝堆積土(覆土) |
| 18 | 明黄褐色シルト(2.5Y6/8) | 3～10cm大の軟礫を含む。木炭少量含む。粘性あり・しまりあり。・・・・竪穴建物覆土 |

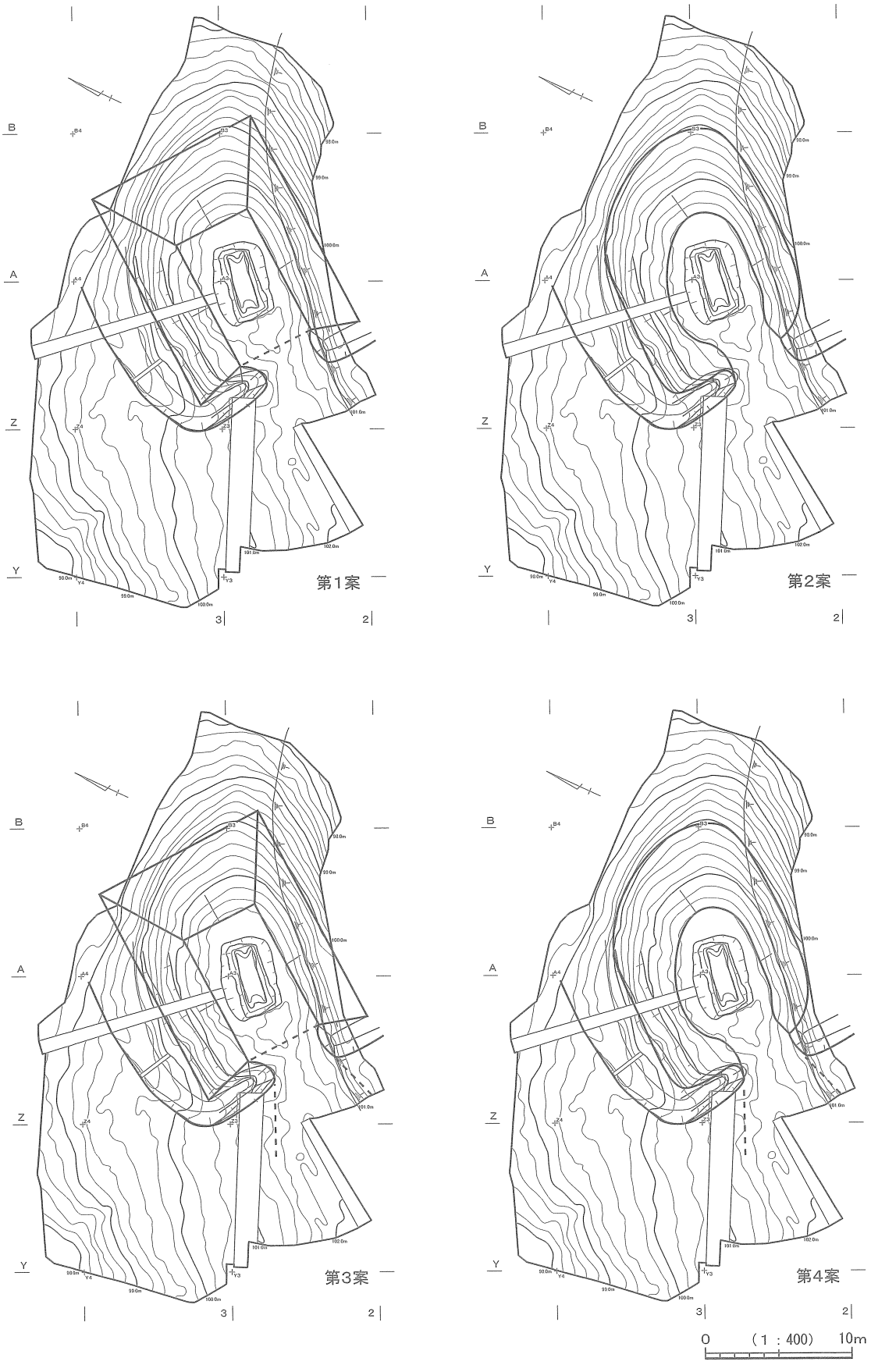
**第77図　寺島大谷１号墳墳丘土層図２**

しておらず、一部分の掘削に留まる（第75図）。この反対側の墳丘南西側は崩落のため、北西側と同様に周溝が形成されたのか明瞭ではないが、北西側周溝の対称位置にあたり周溝が形成されたと想定する場所の等高線が北西側と同様に緩やかに北側に窪む傾向にあることから、北西側同様に南西側にも切り込み状の周溝が形成されていた可能性が高い。したがって、周溝は東西に長い丘陵を、中央を掘り残して南北の両側から掘り込んだものであった可能性が高い。また、この掘り残された部分は古墳（埋葬施設）へ至る通路としての陸橋の役割を果たしたと考えられる。

また、墳丘の最も残存状況の良好な埋葬施設北西側～北側は斜面を削り出すこと（第76図Ｅ－ｅ´断面９層部分の斜面）で墳丘を形成している。北西側は傾斜の変化が観察できるため判別しやすいが、北東側は茶畑の耕作の影響などにより古墳築造当初の削り出しとその後の耕作による変化との区分が困難である。墳丘北西側の周溝の標高を参考にすれば、標高100m付近が墳丘裾であった可能性が高い。この視点で見れば、この標高は土層図(第76図ｈ´－ｈ˝)の10層の部分である。この部分は傾斜が急角度になっており、削り出しが行われた可能性が高いことから、南西側同様標高100m付近を墳丘裾と想定できる。

したがって、当古墳の成形は、丘陵尾根を南北から掘り込み、古墳として区画し、さらに墳丘北側から南東側は削り出しを行って墳丘を形成し、凵字形に周溝を掘削したような状況を造り出していたと考えられる。墳丘裾はおおよそ標高100m付近にあったと想定する。

なお、志太平野からは見えない墳丘北西側の周溝で土器が出土していることから、古墳に伴う祭祀（土器の共献）は墳丘北西側で行われていることが判明する。南側が崩落していることから判断は難しいが、弥生時代後期～古墳時代前期の集落の位置がこの丘陵よりも北側に位置していることから、この集落を意識した祭祀であった可能性もある。




第78図　寺島大谷１号墳墳丘復原案

**墳丘の復原**　墳丘北西側の周溝の掘削は明瞭に行われており、少なくとも、この周溝より北東側が墳丘となる。この場合は長楕円形あるいは長方形の墳丘とすることが可能である（註２）。一方で、この溝（周溝）が丘陵を完全に切断しないことを重視し、この部分を「くびれ部」と見て、調査区南西側にハ字形に開くように丘陵尾根が南西に向かって延びること（第74図）から、この部分までを墳丘とみれば、この溝よりも南西側が前方部で、北東側が後方（円）部と想定することも可能であり、前方後方（円）墳であった可能性も残る。

ただし、試掘調査結果（29トレンチ）では、この部分には埋葬施設は確認できず、また明確な人為的な削り出しが確認できないとの所見があり、溝よりも南西部分が墳丘かどうか明確ではないことや、藤枝市域には前方後円墳が少ないことを考慮すると、調査時の所見である不整形な円墳（楕円形墳）であった可能性があるものの（藤枝市2007）、南西隅角の周溝がＬ字形に掘削していることを評価すれば、長方形墳に近い方墳（第案１）であった可能性が最も高い（第78図）。

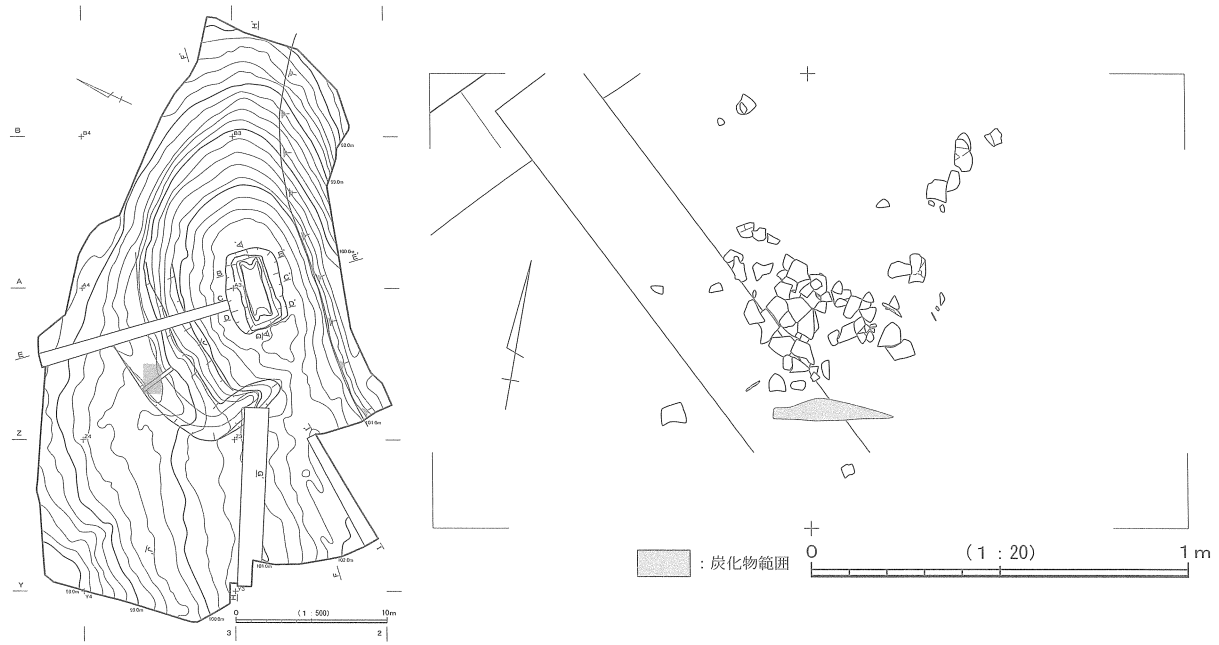
**墳丘の規模**　墳丘規模について等高線の間隔を観察すると、埋葬施設が位置する丘陵先端の等高線は標高100m付近から密になっており、100m付近が傾斜変換点といえる。一方、埋葬施設南側の北西側の等高線の変化箇所とほぼ対応するように南側の等高線が北西側に向かって弧を描くことから、この部分が墳丘の区画部分であった可能性が高い。

したがって、墳丘規模は方墳（長方形墳）の場合は、長辺（北東－南西）で約16m、短辺（北西－南東）で12m以上、東西にやや長い円墳（楕円形墳）の場合は、東西（長軸）16m、南北（短軸）12m以上である。現状での見かけ上の高さは約1.2mである。

なお、可能性のある前方後方（円）墳であった場合、後方（円）部と前方部が１：１とすれば、全長約30m、後方部および前方部幅約12m程度であった可能性がある。この場合の主軸は埋葬施設の方向とほぼ同一となる。

**周溝遺物出土状況**　北西側周溝内より土師器壺などが小破片となって、周溝底面よりもやや浮いた状態で出土した。墳丘上に埋設されていたものが落ち込んだ可能性が高い。

**周溝出土土器**　北西側の周溝部分から、土師器などの破片が出土した（第79図、図版40－１）。これらの形状や胎土の特徴からみると土師器壺と高杯の破片である可能性が高いが、表面・断面の磨滅が著




第79図　寺島大谷１号墳周溝遺物出土状況図

しいため接合が困難であり、さらに部位を特定できる破片も少ない。古墳の時期を特定する可能性が高いが、残念ながらこれらの土器は図示できない。

## ４．埋葬施設（第80～82図、図版37～40）

埋葬施設は墳丘として利用した丘陵頂部の最も高い部分に、地山を掘り込んで形成した墓壙に直接木棺を納める木棺直葬である。主軸（長辺）は東西方向に長い尾根（等高線）に平行しており、Ｎ－48°30′－Ｅである。

**墓壙**　墓壙は、地山を深く掘り込んだ地下式である。平面長方形で、二段墓壙である。墓壙の上段長辺側は墓壙内部に向かって緩傾斜がつけられ、下段はほぼ垂直に掘り込まれる。短辺側の北東側は緩やかに傾斜がつけられ、南西側はほぼ垂直に掘削され、下段上面には８㎝ほどの平坦面が形成されている。後述するように下段上面まで木棺の裏込めである粘土混じりの土砂が充填されていることから、上段は木棺の搬入や埋葬行為を行うために設けられた段（作業面）の可能性が高い。

墓壙の規模は検出上面（上段上場）で長さ5.3m、幅3.5m、下段上面（上場）で長さ5.0m、幅2.1～2.3m、下段底面で長さ4.3m、幅1.8mで、墓壙の深さは検出面から1.2m、下段で0.6mである。

**木棺**　墓壙の内部に長方形に地山の粘土（軟礫）が混じった固く閉まった土砂（第81図Ａ－Ａ′・Ｂ－Ｂ′断面などの７層）が確認できたことから、この土砂の内側が木棺であることが判明する。この土砂は内側がほぼ直立している。また、木棺内から出土した遺物の高さがほぼ水平であることから、底面は水平であったことが判明する。これらから想定できる木棺は組合式箱形木棺である（第80・82図）。推定される木棺の規模は全長4.1m、幅1.3m、高さ0.5m以上である。木棺の側板は５層の位置にあたるが、５層すべてが木棺の腐食の痕跡であるとすれば側板の厚さは最大で約20㎝で、最低でもその約半分の10㎝程度の厚さであったと推測する。

また、両小口部分には木棺の周囲を取り巻く粘土混じりの土砂と同様の土砂が0.2mに亘って確認できることから、箱形木棺の平面形は側辺の内側に小口板が嵌めこまれる、いわゆる「H」形であることが判明する（第81・82図）。粘土の残存状況と短冊形鉄斧の関係から木棺の小口板の厚さは約10㎝程度であったと想定できる。この場合の内法は、長さは最短で約2.6m、最長で約3.2m、幅は約1.3mと想定できる。

なお、墓壙底面には木棺固定のための掘り込みが確認できないことから、底板の上に小口・側板が載るタイプの木棺であることが判明する。この木棺の形状は、木棺が遺存した焼津市小深田西３号墳と同様である（焼津市2003・2004）。

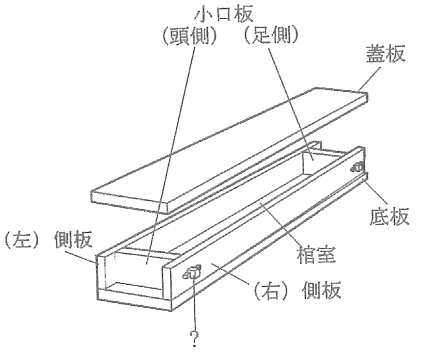
また、後述するように遺物に付着した木材（木棺の可能性が高い）の材質はスギであることから、木棺にはスギ材が用いられた可能性が高い。

**埋葬過程の復原**　埋葬施設の土層の所見から判断できる埋葬過程については下記のとおり復原できる（第82図）。

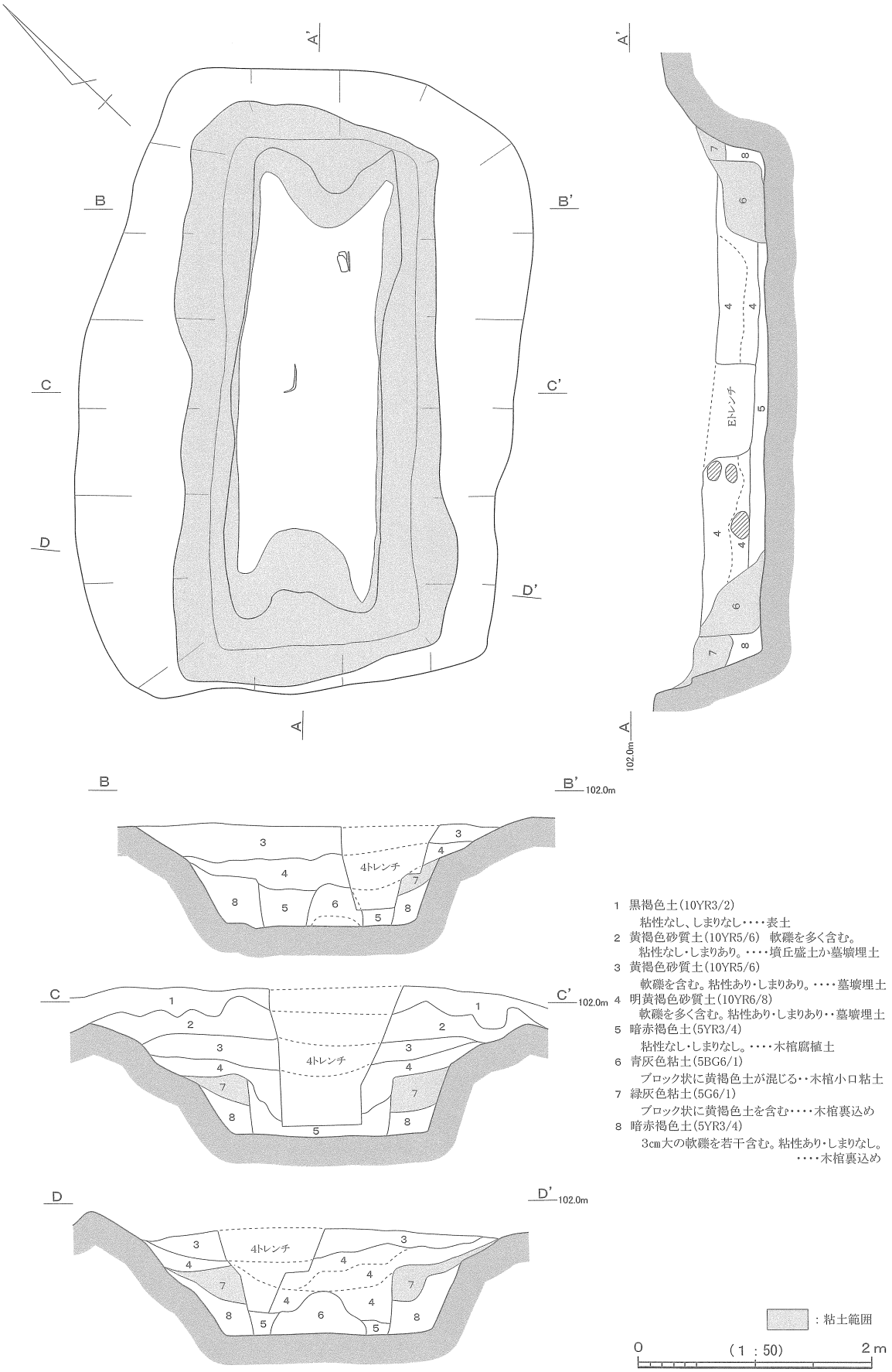
**第１工程**　二段の墓壙を掘削する。

**第２工程**　木棺の底板を据える。

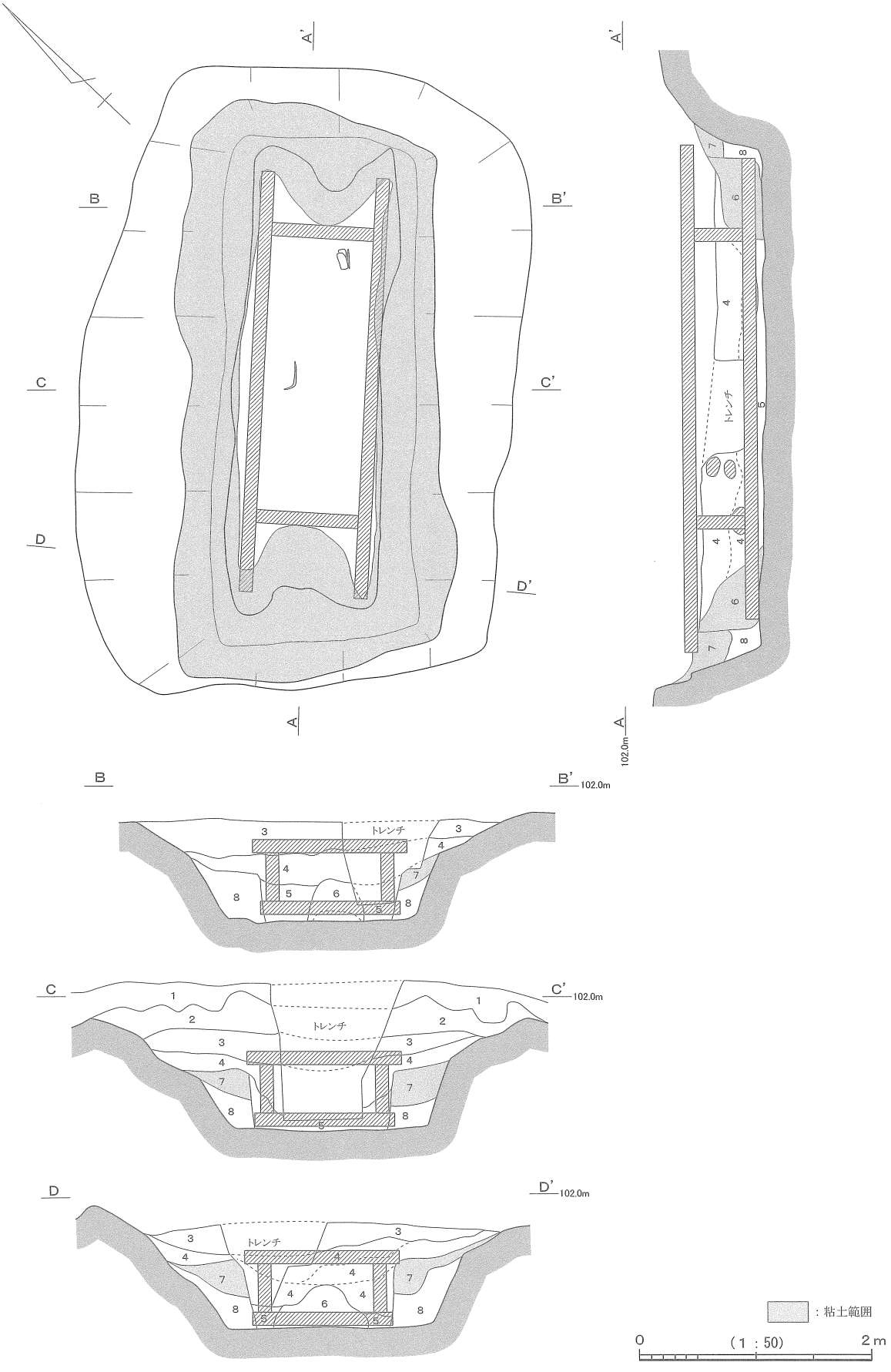
**第３工程**　裏込め（８層）を充填しながら、木棺の側板・小口板を底板の上に立て、粘土（６層）で小口板を固定するとともに裏込め（７層）を行い、墓壙下段を完全に埋め戻す。この段階で墓壙内部に側板とほぼ同じ高さの平坦面（墓壙下段上面）が形成される。




**第80図　想定される木棺の部位名称**
**（岡林2010より）**




**第81図　寺島大谷１号墳埋葬施設実測図**




第82図　寺島大谷１号墳木棺設置状況想定図

**第４工程**　この段階に遺体の埋葬および器物の副葬が行われ、蓋板を被せる。

**第５工程**　第４層～第２層まで中央をやや盛り上げるように墓壙を埋め戻す。第２層が墓壙を完全に埋め戻しており、この２層上面を被覆する土砂が本来は墳丘の盛土であったと推測する。

**第６工程**　墳丘の盛土を行う。平坦面は広くないことから、高い墳丘は考え難い。根拠のない想定であるが、１m程度であった可能性が高いだろう。

## ５．遺物の出土状況（第81図、図版40）

遺物は、棺内床面直上でガラス玉１点、鉄剣１点、鉄斧２点、ヤリガンナ１点が出土した。また、埋葬施設内に堆積した土砂からガラス玉3点が出土した。

まず北東側小口付近で、鉄斧２点（534・535）が重なった状態で出土した。小型の535が下、大型の534が上に重ねられた状態で出土している。後述するがこの２点は布に巻かれた状態あるいは袋に納められた状態で副葬されていた可能性が高い。第84図中央左には、棺床からみた出土状況を図示した。

この鉄斧のすぐ北からヤリガンナ１点（536）が出土した。切先を北東に向けていた可能性が高い。

墓壙中央付近北側から、鉄剣（537）が茎を北東に向け、折り曲げられた切先は北西に向けた状態で納められていた。また、鉄剣の南からガラス小玉（530）が出土した。

これ以外の小玉（531～533）は埋葬施設の土砂を洗浄中に出土したが、玉は鉄剣付近から出土しているだけであることから、この付近に納められていた可能性が高い。

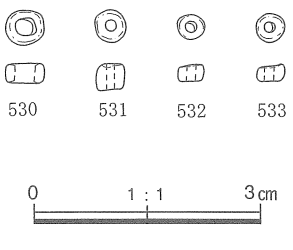
**頭位**　想定される木棺の形状から被葬者の頭位を推測すると、木棺の裏込めである粘土（７層）の間隔が北東側の方がやや広いこと、折り曲げ鉄器が上半身に多いとされていること、通常刀剣類は茎が頭に近い位置に置かれるが、当古墳の場合はこの鉄剣の茎が北東に向けられていることから想定すれば、北東頭位とした可能性が高いと想定する。

この頭位については確定ではないが、鉄剣と玉は木棺のほぼ中央で出土していることから被葬者の腰付近に副葬されたもので、玉は手玉であった可能性が高い。

## ６．出土遺物（第83～86図、第９～11表、図版41～44）

寺島大谷１号墳では棺内から鉄剣１点、鉄斧２点、ヤリガンナ１点、ガラス小玉４点が出土した。

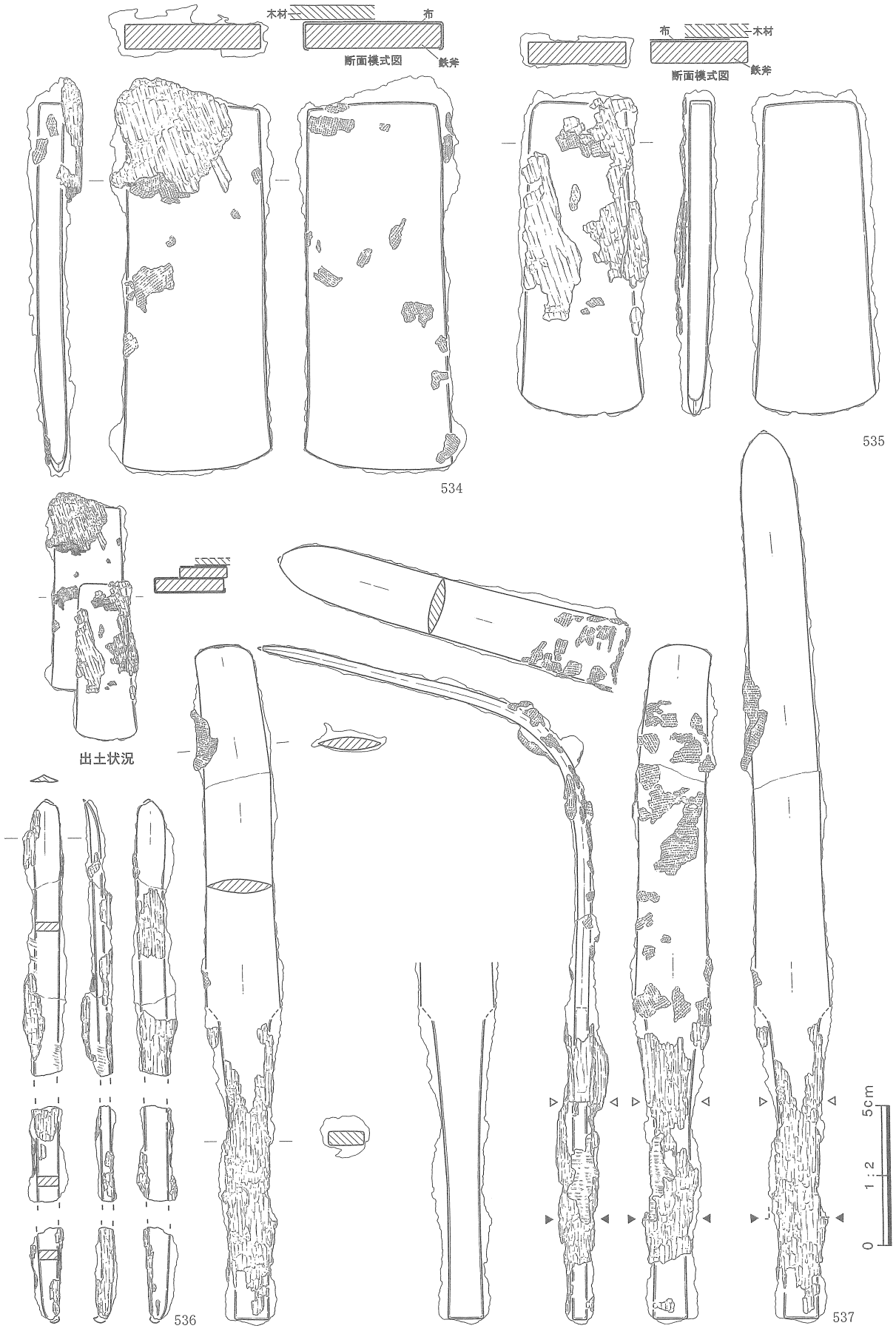
**ガラス小玉（530～533）**　ガラス小玉は１点（530）が鉄剣付近から、３点（531～533）が埋葬施設の覆土から出土した。これらはすべて淡青色（スカイブルー）で、直径3.4～5.2㎜、高さ2.5～3.7㎜である。これらには気泡の動きが確認できる。引き延ばし技法による製作の可能性が高い。




第83図　寺島大谷１号墳
埋葬施設出土玉類

**鉄剣（537）**　鉄剣は身の中央が意図的に折り曲げられたもので、いわゆる「折り曲げられた鉄剣」である。茎尻から約18㎝のところで約75度折り曲げられ、Ｌ字形を呈している。

鉄剣の剣身断面杏仁形で、わずかに両面に鎬が確認できる。剣身には両面に布が付着している。この布は折り曲げられた部分付近では両面に跨って付着していること、茎には木質が残るのに対し剣身には木質は確認できないことから、剥き身の状態で布に巻かれて副葬されたことが分かる。また、この布は木柄の上部に付着していることから、鉄剣が木柄に装着された状態で剣身に布が巻かれ、その布の一部が柄縁付近に及んだと解釈したい。なお、布は折り曲げられた後に巻かれたか、折り曲げる前に巻かれていたかについては明らかにすることができない。




第84図　寺島大谷１号墳埋葬施設出土鉄製品

関はＸ線写真（図版42）でも判読が難しく、直角関の可能性も残るが撫関の可能性が高い。茎は関部分が太く、茎中央付近まで幅を狭めた後は、その幅で茎尻まで伸びるもので、茎尻は一文字尻である。茎には木柄が残存しており、中央に糸巻きの痕跡が確認できる。これによりこの鉄剣は剣装具を装着したまま折り曲げられた可能性が高いことが判明する（註３）。木柄は図に白三角（△）で示した部分から関までは木材の残存状況が異なるため、なんらかの別の装具が取り付けられていた可能性がある。鹿角の可能性があるが、その痕跡は確認できないため、木材による柄縁装具である可能性が高い。また、糸巻きは図に点線で示した箇所で終了し、この終了する部分（▲部分）の木材にＬ字形の切り欠きが確認できることから、ここで木材が外側に張り出していたことがわかる。この点線から下が柄頭、その上が柄間であることが判明し、さらに△から関付近までが柄縁であることが判明する。なお、Ｘ線写真でも茎の目釘の痕跡は判別し難い。

折り曲げられた状態での茎尻からの長さは24.2㎝で、湾曲した部分から切先までの長さ11.3㎝である。折り曲げられた箇所を製作当時に復原した全長は31.8㎝である。剣身の残存長20.4㎝、最大幅2.65㎝、厚さ５㎜、茎長11.3㎝、中央付近幅1.2㎝、茎尻幅1.2㎝である。

なお、柄の木材については材質分析を実施し、アカガシ亜属であることが判明した（附編1参照）。

**鉄斧（534・535）**　鉄斧２点は短冊形鉄斧（板状鉄斧）で、大きさが異なる。また、出土時点では２点が重ねられた状態で出土したため、図には副葬時の重ねられた状態も示した（なお、図示した状態はこの面が木棺に接していた面である）。

534は、短冊形鉄斧で、平面長台形で切先形がやや撥形に広がる形状を示す。斧先は片刃である（図版43参照）。全長13.2㎝、柄側幅4.7㎝、厚さ９㎜、刃部側幅5.3㎝、厚さ７㎜である。刃部側幅の柄側に対する割合は、約1.1倍である。

535は短冊形鉄斧で、平面長台形で切先側がやや撥形に広がる形状を示す。斧先は片刃である。全長11.2㎝、柄側幅3.5㎝、厚さ7.5㎜、刃部側幅4.3㎝、厚さ５㎜である。刃部側幅の柄側に対する割合は、約1.2倍である。

なお、両鉄斧にはそれぞれ片面に木材が、また534は両面に布が、535は片面に布が付着する。この木材と布の残存状況を観察すると、鉄斧表面に付着する布は鉄斧と木材の間に確認できること、斧の両面・側面、刃部にも確認できることから鉄斧には布が巻かれていた（袋に入れられた）状態で副葬されていたことが判明する。また、出土状況に示したように534・535に付着した木材の木目は同方向で特徴も一致していること、布を巻きつけた状態で柄に装着したとは考え難いことを考慮すると、木柄ではなく木棺材の可能性が高いと判断した。したがって、鉄斧534・535は木材が残存する面が棺底に接していた面であること、柄には装着されず534が535の上に載せられた状態で布で巻かれたか、袋に入れられた状態で副葬されていた可能性が高い。また、柄が装着されず、布に巻かれた状態であることは、実用的な鉄斧というよりは、宝器的な鉄素材として扱われた可能性を想定させる。

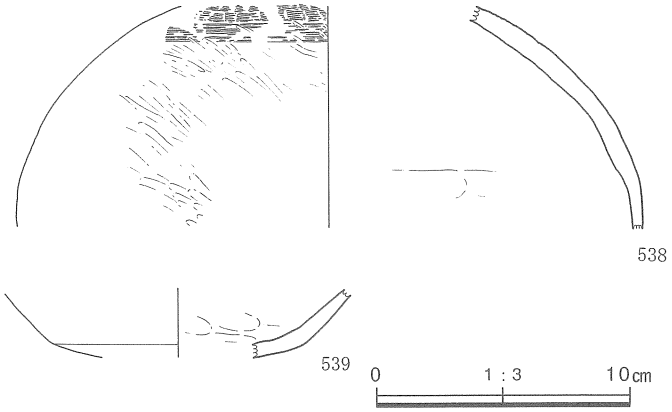
なお、この木材については材質分析を実施し、スギであることが判明した（附編１参照）。

**ヤリガンナ(536)**　鉄斧付近から１点が出土した。切先は北東を向いていた可能性が高い。３片となっており接合できないが、ほぼ完存していると考える。茎尻・先端が欠損している。刃部から茎は同じ幅で、茎尻は急激に幅を狭める。刃部は裏面に裏剥きが行われている。側面は刃部先端部分が湾曲するもので、古瀬分類Ⅱ類に当たる（古瀬1991）。残存長は16.5㎝で、刃部の長さ2.5㎝以上、幅９㎜、厚さ２～３㎜、茎は幅９㎜、厚さ3.5㎜である。

木柄は刃部先端から約３㎝のところまで装着され、糸巻きで固定されている。刃部の部分にも木材が残存しているが、裏面には確認できないことから斧同様、木棺材の可能性が高い。この想定が正しければ、ヤリガンナは刃を下に向けて副葬されていた可能性が高い。

ヤリガンナの側面には布が付着している。ヤリガンナは鉄斧に近接して出土しており、鉄斧に近い部分に布が付着していること、切先と残存する木材の間には布が確認できないことを考え合わせると、この布は鉄斧を包んでいた布で、ヤリガンナはその外側に単独で副葬され、接していた布が付着した可能性が高い。

なお、この木材については材質分析を実施し、スギであることが判明した（附編１参照）。

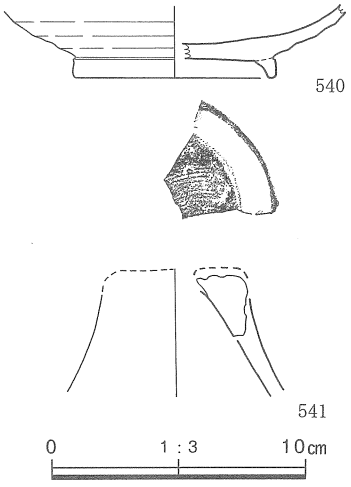



第85図　寺島大谷１号墳周辺表土出土土器実測図

**墳丘周辺表土出土土器**　墳丘周辺の表土中から弥生土器あるいは土師器の壺、高坏か、灰釉陶器碗、鞴羽口と思われる破片が出土した。

壺（538）は、Ｚ３グリッドの表土（古墳覆土）出土である。球胴の胴部の肩部に櫛描波状文、その下位に櫛描横線文を巡らせ、胴部は丁寧なミガキ調整を施す。本来は球胴の二重口縁壺であった可能性が高い。高坏の可能性のある土器（539）は土師器の有稜高坏の坏の稜部である可能性がある。内外表面の磨滅が著しく、正確な形状を復原することは困難である。

上記の土器は時期を特定することは難しい。また、寺島大谷１号墳周辺には寺島大谷遺跡が広がり、弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物も出土していることから、それに伴う遺物の可能性もあり、これらの遺物の評価については慎重に行わなければならない。ただし、球胴二重口縁壺や高坏と想定される土器の存在から、少なくとも志太地域の弥生時代後期の土器様式とは異なっており、弥生時代の場合には搬入品、古墳時代の場合には、伊勢湾岸系土器様式の影響を受けた土器として位置づけられる可能性が高い。




第86図
古墳に伴わない遺物実測図

**古墳に伴わない遺物**　古墳に直接伴わない遺物として灰釉陶器と鞴羽口？がある。

灰釉陶器（540）は、碗の底部片である。底部には糸切痕が明瞭に残る。高台は三角高台である。東遠系灰釉陶器であり、折戸53号窯式併行期、10世紀後半に位置づけられようか。

鞴羽口の可能性のある遺物（541）は先端付近の破片の可能性が高い。丘陵頂部から鞴羽口が単独で出土することはあり得ないと考えられるため、はたして鞴羽口かあるいは全く別の遺物かの判断は難しい。

註

1　藤枝市域の丘陵上に造営された古墳時代前期～後期前半の竪穴系埋葬施設を有する古墳は丘尾を切断して周溝（溝）を形成しているものが多いが、寺島大谷１号墳は尾根を完全には切断していなかったことが判明する。釣瓶落古墳群では鞍状に細くなった部分を両側から掘り込むことで周溝に変えているものが確認できることから、寺島大谷１号墳もこのような掘り込みがあった可能性も残る。

2　藤枝市域の古墳時代前期・中期の古墳では円墳（若王子古墳群、時ヶ谷五鬼免１号墳など）、方墳（東浦古墳群、女池ヶ谷古墳群など）ともに確認されており、地域的な傾向から墳形は特定できない。

3　鉄剣折り曲げ後に木柄を装着したとすれば、布についても折り曲げ後に巻かれたと判断できる。

## 第９表　寺島大谷１号墳埋葬施設出土玉類観察表

| 番号 | 出土位置 | 材質 | 直径（㎜） | 高さ（㎜） | 孔径（㎜） | 重量（ｇ） | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 530 | 棺内床面直上 | ガラス | 5.2 | 2.6 | 2.4 | 0.07 | 淡青色（スカイブルー） | |
| 531 | 棺内（洗浄土） | ガラス | 4.1 | 3.7 | 1 | 0.09 | 淡青色（スカイブルー） | |
| 532 | 棺内（洗浄土） | ガラス | 3.4 | 2.6 | 1.2 | 0.04 | 淡青色（スカイブルー） | |
| 533 | 棺内（洗浄土） | ガラス | 3.6 | 2.5 | 1.4 | 0.04 | 淡青色（スカイブルー） | |

## 第10表　寺島大谷１号墳出土鉄製品観察表

| 図番 | 挿図番号 | 種別 | 全長（cm） | 柄側幅（cm） | 厚さ（cm） | 刃部側幅（cm） | 復元長（cm） | 残存長（cm） | 茎長（cm） | 茎部幅（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 84 | 534 | 短冊形鉄斧 | 13.2 | 4.7 | 0.9 | 5.3 | － | － | － | － | |
| 84 | 535 | 短冊形鉄斧 | 11.2 | 3.5 | 0.75 | 4.3 | － | － | － | － | |
| 84 | 536 | ヤリガンナ | － | － | 0.35 | － | － | 16.5 | － | 0.9 | |
| 84 | 537 | 鉄剣 | － | － | 0.5 | － | 31.8 | 20.4 | 11.3 | － | 折り曲げ鉄剣 |

## 第11表　寺島大谷１号墳出土土器等観察表

| 図番 | 挿図番号 | 器種 | グリッド | 遺構 | 層位 | 色調 | 胎土 | 残存率 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 85 | 538 | 壺 | Z－3 | 古墳 | 覆土層 | 内面・2.5Y4/1黄灰<br>外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 径1.1mm大の赤茶色の粒を含む | 20% | － | － | － |
| 85 | 539 | 高坏 | Y－3 | 古墳 | 暗黄褐色土層 | 7.5YR6/4にぶい燈 | 径1.1mm大の長石・石英を多く含む。<br>雲母を少量含む | 10% | － | － | － |
| 86 | 540 | 灰釉陶器碗 | Z－3 | 1号墳・4トレンチ延長上 | 覆土層 | 7.5YR7/1灰白色 | 白色粒子を含む | 底部25% | － | (7.5) | － |
| 86 | 541 | 鞴羽口？ | A－3 | 古墳裾 | 明黄褐色土層 | 内面・10YR6/4にぶい黄燈<br>外面・7.5YR7/4にぶい燈 | 径1mm以下の長石・石英を少量含む | 25% | － | － | － |

# 第４章　まとめ

## 第１節　助宗古窯群の須恵器・灰釉陶器について

今回の助宗古窯群清水下地区の発掘区内には残念ながら窯跡が存在していない。灰層は２層あり上部の灰層からは出土遺物が無く、下部灰層に出土遺物が混入している。窯跡は未発掘部の北側から北東斜面部に存在すると思われ、出土遺物から概ね３時期の窯体の存在が予測できる。他の出土遺物は窯本体と関係なく発掘区外の周辺遺構から流れ込んだと考えられる。この資料整理段階で平野吾郎、井上喜久男両氏にご教示いただいている。井上喜久男氏からは灰層が２層あったことから筆者の考えている第１期と第２期の須恵器の生産が略同時期の可能性もあり、ＮＮ－32号窯式併行であるとのご教示をいただいた。筆者は灰原が２層であったが須恵器の技法から３時期の窯の灰原遺物として分けている。第１期は８世紀中頃の須恵器生産窯、第２期が８世紀後半から９世紀初頭の須恵器生産窯、第３期がＫ－14号窯式併行の須恵器窯で灰釉模倣須恵器を生産した９世紀前半の窯である。したがって、第１期窯跡と第２期窯跡の生産はある程度連続しており、第２期窯跡と第３期窯跡もある程度連続して生産されたと思われる。発掘区内から出土した古墳時代の須恵器、Ｏ－53号窯式併行の灰釉陶器、Ｈ－72号窯式併行の灰釉陶器、山茶碗などの遺物は発掘区外の丘陵上部の遺構からの流れ込みと考えられる。

ここでは、出土遺物の注目点や特徴を概略する。出土須恵器類（第14図72～92、第15図93～97）は坏身高台の底部を糸切りした後、高台を削り出した「削り出し高台をもつ坏身」で御子ヶ谷遺跡の坏身６類の６Ａ、６Ｂ、６Ｃに相当する（藤枝市1981）。この坏身６類は御子ヶ谷遺跡で遺構上面より多く出土したことが記載されている。この坏身６類の一部は本遺跡の地区の窯で生産して御子ヶ谷遺跡に供給した可能性がある。また、静岡市内荒遺跡の有台坏Ｂ類も削り出し高台でよく似ており、本遺跡の地区の窯で生産した可能性がある。

助宗古窯群清水下地区の８世紀末から９世紀初頭の須恵器類は藤枝市御子ヶ谷遺跡報告書の須恵器蓋３Ｂ、坏身３Ｂ２、蓋４Ｂ、坏身４Ｂ２などと関係があり、この地区の窯から一部製品を供給していたと考えられる。また、静岡市内荒遺跡などにも近似する須恵器類の出土品があり、本遺跡の須恵器類を一部供給していると思われる。（第15図98～110）の壺Ｇタイプは御子ヶ谷遺跡や細谷Ｂｂ窯灰原からも出土している。本遺跡の壺Ｇタイプも藤枝市御子ヶ谷遺跡に供給した可能性がある。ただし、細谷Ｂｂ窯灰原出土壺Ｇタイプは本遺跡の壺Ｇタイプに比較して頸部が長く、幅が広い傾向にあり、壺Ｇタイプも時期差や器形差があることがわかる。

獣足壺片（第15図116）は県内で磐田市御殿二之宮遺跡、袋井市坂尻遺跡、御子ヶ谷遺跡などから出土している。今回、助宗古窯群清水下地区で獣足壺を焼成したことが明らかになり、御子ヶ谷遺跡に供給する目的で獣足壺を焼成したと思われる。獣足壺が官衙関係の遺跡から出土する点も重要である。

瓦塔（第20図202）は丸瓦列や軒丸瓦の表現が省略されており、８世紀後半から９世紀初頭のものと思われ、周辺地域の寺院からの発注により焼成したものと考えられる。島田市竹林寺廃寺跡の瓦塔に比べて技法や表現に手抜きが目立っている。志太地区内の寺院に供給したと思われる。

（第16図136～141、第17図142・144）はＫ－14号窯式併行の灰釉模倣須恵器である。これらの資料の高台は二重高台（136～138）で体部が無釉厚手である。（140～142・144）は三日月高台や三角高台で、体部内や外面にノタ目を残し、須恵器の成形技法や焼成で灰釉器形を模倣している段階の資料であり注目される。この段階の資料を山田成洋、平野吾郎両氏は「灰釉模倣須恵器」と呼んでいる。また、井上喜久男氏は「灰釉陶器の器形から来ている須恵器」と呼んでＫ－14号窯式併行とする。そして、新しい

「白養生産技術」が東端の駿河地域の従来からの須恵器工房に伝わり、従来の須恵器生産から新たな白養生産への技術や工房の移行を考える上で重要な資料との指摘を受けている。この遺物について筆者は別の機会に再度論じたい。

工房跡ＳＨ01（第11図・第12図17～23）は約５ｍ程の平面台形の小屋状遺構で、わずかな平坦地形を利用しながら整地や掘削などをして作られたと思われる。工房内にはピット４基、炉跡３か所、溝２条、土坑や焼土がある。工房の屋内では水溜や陶土溜めの土坑や、北側や南西にロクロ成形する空間、成形した器を日陰干しする空間、薪置き場の空間などさまざまな空間利用が考えられる。出土遺物（第12図17～23）は蓋類の破片に偏っており、製品選別した後の廃棄品の一部と思われる。工房跡は島田市南原瓦窯工房跡、同市旗指古窯第22号窯工房跡などがある。また、製品の原料である粘土に関していえば、「附編２」で報告する胎土分析では、（資料番号７）の須恵器片の胎土が地元の瀬戸川層群や大井川層群採取ではない可能性が指摘された。分析結果が正しければ、粘土を遠方の他地域から搬入したことになる。今後、胎土分析資料を増やす中で検討すべき問題である。

## 第２節　寺島大谷遺跡の縄文時代の住居跡と土製品について

寺島大谷遺跡の縄文時代住居跡はＳＨ05、ＳＨ12、ＳＨ14の３棟であった。やせ尾根に１棟単位の住居跡がそれぞれ分散している。各住居跡の時期はＳＨ05が加曽利Ｅ４式期で中期最終末、ＳＨ12が勝坂式期で中期中葉、ＳＨ14が中期後半である。それぞれの住居跡が１棟単独で時期を異にして存在している。したがって、発掘区内で見る限り集落をなしていない。しかし、島田市内の縄文中期中葉から後葉の住居跡の状況を見ると、東鎌塚原遺跡を代表する牧の原台地に立地し集落形成する住居跡群と、市内大津地域の尾川平遺跡や波田遺跡第１号住居跡に代表されるような、周辺地形からみても峻険で集落が存在しそうにない遺跡がある。こうした点は住居跡が集落を形成する場合と、狩猟用など他の目的の単独小屋などの可能性があり、これ等を区別する必要があろう。住居跡の立地と合わせて使用目的の違いも検討する必要がある。集落の成立に関わる問題は、今後周辺地区の調査結果を踏まえて再度検討するべきであろう。土器は中期中葉から後期初頭まで出土しているが、特に注目したい点は（第34図101～117）の東鎌塚原式土器の出土である。東鎌塚原式土器は藤枝市天ヶ谷遺跡からも出土している。

また、遺構外から（第39図303）の土製貝輪形腕輪（貝輪形土製品）が出土している。谷藤保彦氏のご教示により明らかになった。近年、北関東などで類例が増加しているようだが、発掘調査員に土製貝輪形腕輪（貝輪形土製品）への認識があまり無い。土製貝輪形腕輪（貝輪形土製品）への理解が進むと類例が増加すると思われる。この出土品は中期末の製品であろう。

## 第３節　寺島大谷遺跡の弥生～古墳時代の集落について

寺島大谷遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての時期の竪穴住居を10棟検出した。出土遺物と新旧関係から、ＳＨ08、ＳＨ09、ＳＨ11の３棟が弥生時代後期から古墳時代初頭（１期）、ＳＨ01、ＳＨ02、ＳＨ03、ＳＨ04、ＳＨ06、ＳＨ07の６棟が古墳時代前期（２期）に属する遺構と判断され、大きく２時期に分けることが可能と思われる。ＳＨ13については時期決定できる土器が無く不明瞭であるが、いずれかの時期に属する住居とみられる。

両期住居の形態的な差異としては、１期の住居がＳＨ11のように平面形状が楕円形に近いものや、ＳＨ08・ＳＨ09のように隅丸方形でも角がやや緩い形状のものとなるのに対し、２期の住居は比較的隅角がしっかりとした方形に近い形状となる傾向が挙げられる。

各時期の位置関係をみると、１期の住居は東尾根先端にＳＨ08とＳＨ09が近接し、谷を挟んだＳＨ11が約27m離れた別尾根の先端近くに立地する。一方、２期の住居跡は重複するＳＨ03及びＳＨ04と近接してＳＨ01があり、そこから南東に約10m離れてＳＨ06、さらに東に約20m離れたＳＨ07が所在する。これら住居は時期を違えつつも重複していることから、いずれの時期の住居もやせ尾根上の制約された平坦部に選地されたことがわかる。１期集落は尾根の先端を選ぶよう住居を建てたのに対し、２期になると住居の増加とともに、１期集落よりも尾根上に広く展開する傾向があるが、両期集落ともに主軸方向に規則性を認めることはできないため、地形に合わせる形で住居が建てられたと考えられる。今回の調査によって判明した遺構から、寺島大谷遺跡周辺の低位丘陵上では、２棟程度の単位の住居が尾根上に散在する形態の小規模集落が営まれたものと推定される。

寺島大谷遺跡周辺に展開する当該期の集落域の様相は未だ明らかではないが、当遺跡よりも平野部に近い瀬戸川中流域周辺には、瀬戸川東岸の白砂谷遺跡・荘館山遺跡、瀬戸川西岸の稲ヶ谷遺跡・滝川遺跡・萩ヶ谷遺跡など、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての丘陵上集落が点在している。こうした事例からわかるように、弥生後期後半を中心とした時期の集落の再編に伴う形で、丘陵上集落が志太平野縁辺の丘陵部に広く形成されることが指摘されている（篠原2010）。丘陵上集落は隣接する低地部の水田経営によって支えられた可能性もあるが、今回の調査では生産域と集落域との関連は明確にすることはできなかった。集落域と墓域との関連も明らかではないなど、課題が未だ残されていることは否めないが、寺島大谷遺跡にみる小規模集落域の様相は当該期の丘陵上集落の構造の知る上で貴重な資料を追加したといえよう。

## 第４節　寺島大谷１号墳について

### １．墳形と規模

寺島大谷１号墳は、丘陵尾根頂部を南北両側から周溝を掘り込むとともに、巧みに削り出し、墳丘を形成している。周溝は東西方向に細長い尾根の鞍部を両側から掘り込んで中央を掘り残して陸橋とする構造である。南西側周溝の形状からすれば、方墳の可能性が最も高い。規模は長辺16m、短辺12m前後に復原することができる。

### ２．埋葬施設

埋葬施設は二段墓壙内に納められた木棺直葬である。木棺はＨ字形組合式箱形木棺であり、側板・小口板が底板の上に組み合わされる形式である。

志太地域の前期古墳は長大な割竹形木棺を採用する古墳が多い中で箱形木棺を採用する点、小深田西３号墳などと同形状である点などからは、地域の弥生時代以来の伝統的な木棺形式を採用したと考えられる。この点から考えれば、割竹形木棺を採用する古墳よりも時期的に若干遡るか、あるいは他が畿内地域の影響で採用したと考えられる割竹形木棺を採用せず、地域の伝統を重視した箱形木棺に順守したあるいは畿内王権から割竹形木棺の情報がなかったとも言えようか。

### ３．出土遺物

古墳に伴う遺物は、埋葬施設内出土のガラス小玉４点、折り曲げ鉄剣１点、短冊形鉄斧２点、ヤリガンナ１点と周溝出土の図示不能の土師器である。

折り曲げ鉄器は古墳時代前期では静岡県内で島田市城山古墳のヤリガンナに続いて２例目の出土であり、注目できる。また、折り曲げ鉄器は北部九州～山陰、瀬戸内地域に多く確認されるもので、畿内に少ない遺物であることから、その地域との関連が注目できるとともに、静岡県内出土の古墳時代前期の折り曲げ鉄器２点が志太地域に確認できることは、志太地域の集団がその地域と鉄製品を用いた祭祀を

共有していた可能性も考えられる。

また、短冊形鉄斧は磐田市松林山古墳や浜松市赤門上古墳、藤枝市若王子１号墳につづいて４例目、全国的にみても100例前後と少ない遺物であり、この点でも重要である。短冊形鉄斧を副葬する古墳は規模が大きいものが多いが、寺島大谷１号墳は20ｍに満たない古墳であり、この点ではやや特殊な古墳であったといえる。短冊形鉄斧と折り曲げ鉄器が副葬された古墳は、岡山県用木１号墳と京都府西山２号墳のみであり、これらの古墳も30ｍ未満と小規模である。副葬品からみれば、折り曲げ鉄剣は北部九州から山陰瀬戸内地域との関係、短冊形鉄斧は畿内王権との関係により入手したと想定でき、寺島大谷１号墳の被葬者は幅広い交流を担う小首長であった可能性が高い。

**４．築造時期**

時期を特定するのは非常に困難であるが、先学の研究により、折り曲げ鉄器が古墳時代前期後半以降東日本に拡散すること（田中2003）、折り曲げ鉄剣・短冊形鉄斧ともに古墳時代前期で副葬が衰退すること（広瀬1992，和田1987，大賀2002）を根拠とすれば、古墳時代前期後半～末葉に位置づけられよう。また、上述したように割竹形木棺ではなく箱形木棺が採用された点を割竹形木棺より古い要素とすれば、割竹形木棺を採用した古墳よりも若干古く遡らせて考えることができ、前期後半でも古い時期に位置づけられる可能性がある。志太地域の丘陵上に築造された古墳の中では初現的な古墳とすることができよう。

**謝辞**

発掘調査、資料整理にあたっては、阿部昭典、伊藤通玄、井上喜久男、河合修、菊池吉修、北山峰生、佐藤雅一、佐野五十三、佐野隆、篠ヶ谷路人、篠原和大、白澤崇、鈴木一有、鈴木敏中、関根慎二、滝沢誠、辰巳和弘、谷藤保彦、田村隆太郎、寺崎祐助、戸田哲也、永井義博、贄田明、樋口誠司、平野吾郎、松井一明、森下章司、綿田弘実、大正大学、國學院大学の各氏、各機関から御教示、御協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

参考文献

論文他

飯塚晴夫・蔵本俊明　2007「第３章　53　寺島大谷１号墳」『藤枝市史』資料編１　考古　藤枝市

飯塚晴夫・蔵本俊明　2007「第２章　22　寺島大谷遺跡」『藤枝市史』資料編１考古　藤枝市

磯部武男　1992「第１章　20　天ヶ谷遺跡」『藤枝市史・資料編１』藤枝市教育委員会

魚津知克　2004「短冊形鉄斧副葬と前期古墳」『大阪歴史学会考古部会例会資料』大阪歴史学会考古部会

内田真雄　2001「鉄製農工具」『寺戸大塚古墳の研究Ⅰ　前方部副葬品篇』向日市埋蔵文化財センター

大賀克彦　2002「凡例　古墳時代の時期区分」『小羽山古墳群』福井県清水町教育委員会

大賀克彦　2008「成塚向山１号墳出土の玉類」『成塚向山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団

河合　修　2001「青灰色のうつわ　～榛原郡金谷町横岡字釜谷の灰釉系陶器について～」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第８号　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

菊地芳朗　2008「成塚向山１号墳出土鉄製品からみた東日本の前期古墳」『成塚向山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団

佐々木隆彦　1988「折り曲げた副葬鉄器」『九州歴史資料館研究論集』23号　九州歴史資料館

篠原和大　2010「第１編第２章第３節地域社会の変化と集落の動き」『藤枝市史』通史編上　原始・古代・中世　藤枝市

澁谷昌彦　1982「旗指古窯陶器生産の年代について」『静岡県考古学研究』№13　静岡県考古学会

澁谷昌彦　1989「旗指古窯６地点を中心とする工房の復原」『静岡県の窯業遺跡　本文編』静岡県教育委員会

澁谷昌彦　2007「藤枝市助宗古窯跡群の灰釉陶器生産と遠江・駿河の編年」『静岡県考古学研究』№39　静岡県考古学会

澁谷昌彦　2008「東鎌塚原式土器」『静岡県考古学研究』№40　静岡県考古学会
柴垣勇夫　1992「助宗窯跡群」『藤枝市史・資料編1』　藤枝市教育委員会
清家　章　2002「折り曲げ鉄器の副葬とその意義」『待兼山論叢』36号　大阪大学文学会
滝沢　誠　2003「志太平野における古墳時代前・中期の小型墳」『焼津市史研究』4　焼津市
田中　謙　2003「笠置峠古墳の鉄製品について」『前期古墳の副葬品と地域間関係』　愛媛大学考古学研究室
永井邦仁　2006「東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋文センター研究紀要』第７号
永房　熙　1989「第Ⅲ章第３節　2．藤枝市」『静岡県の窯業遺跡』静岡県教育委員会
長谷川達　2001「剣を折る・鏡を割る」『北近畿の考古学』　両丹考古学研究会・但馬考古学研究会
平野吾郎　1992「第５章第２節　6．瓦塔」『静岡県史』資料編３考古３　静岡県
広瀬和雄　1992「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』近畿編　山川出版社
古瀬清秀　1991「農工具」『古墳時代の研究』８巻　雄山閣
松井一明　1998「静岡県における方形周溝墓の主体部について－木棺を中心として－」『静岡県考古学研究』30号　静岡県考古学会
村上恭通　2003「鉄製品の使用目的と材質」『前期古墳の副葬品と地域間関係』　愛媛大学考古学研究室
門田誠一　2006「古墳出土の折り曲げられた鉄剣について」『文学部論集』90号　佛教大学文学部
山口和夫　2004「第2部第１章第２節　古墳時代の土器」『焼津市史』資料編１　考古　焼津市
和田晴吾　1987「古墳時代の時期区分をめぐって」『考古学研究』34巻２号　考古学研究会
八木勝行・磯部武男　1981「第Ⅴ章まとめ」『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―奈良・平安時代編―志太郡衙跡（御子ヶ谷遺跡・秋合遺跡）』　藤枝市教育委員会
八木勝行　1992「須恵器の編年」『静岡県史』資料編３　考古３　静岡県
山田成洋　1988「第２章第１節　Ｃ．須恵器」『内荒遺跡』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

発掘調査報告書
御殿・二之宮遺跡調査会　1995『御殿・二之宮遺跡』第６次発掘調査報告書
㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所　2007『古瀬戸遺跡・粟ヶ沢遺跡』
㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所　2010『駿河山遺跡Ⅱ（第１分冊）・（第２分冊）』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　1999「24．弥生から古墳時代の集落と古式古墳―寺島遺跡―」『静岡県埋蔵文化財調査研究所　年報ＸＶ（平成10年度事業概要）』
島田市教育委員会　1980『竹林寺廃寺跡』
島田市教育委員会　1981『城山古墳発掘調査（第三次調査）概報』
島田市教育委員会　1983『旗指古窯跡』
藤枝市教育委員会他　1981『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　―奈良・平安時代編―　志太郡衙跡（御子ヶ谷遺跡・秋合遺跡』
藤枝市教育委員会　1988『東浦遺跡発掘調査報告書』
藤枝市教育委員会　1990『女池ヶ谷古墳群発掘調査報告書』
藤枝市　2007『藤枝市史』資料編１　考古
藤枝市　2010『藤枝市史』通史編上　原始・古代・中世
袋井市教育委員会　1985『坂尻遺跡』
焼津市　2003『焼津市史』資料編１　考古
焼津市　2004『焼津市史』通史編上巻

# 附編１　寺島大谷１号墳出土金属製遺物にともなう木質部の樹種について

西尾　太加二

## １　はじめに

寺島大谷１号墳の主体部から剣、斧、ヤリガンナなどの鉄製の副葬品が出土した。これらの金属製遺物には柄などの部位に木質部が良好に遺存しているものが確認された。そのため、木質部から小片を採取してプレパラート標本を作製し、生物顕微鏡で検鏡することで３個体、３部位の樹種同定を行った。

古墳などから出土する鉄製品や青銅製品には木材や布などの有機質遺物が錆着した状態で断片的に遺存することがある。有機質遺物は地下水位以下に埋没した遺跡から出土することが一般的で、乾燥や湿潤を繰り返す丘陵上に位置する遺跡から出土することは少ない。古墳などの埋没環境では、有機質を腐らせる微生物（木材腐朽菌）が活動するための十分な酸素と水が供給されるため、有機質は土壌中で分解され消滅してしまう。しかし、今回のように金属部分に密着した木材は、微生物に分解される前に錆などの鉱物質のものが沈着し、硬質化することで形状が保たれることがある。

## ２　試料および方法

木質部は写真１～３に示すように金属部に錆着した状態で遺存している。試料の採取はダイヤモンドカッターを取り付けた精密加工機で切り出すようなかたちで行う。採取箇所は黒線枠の部分である。

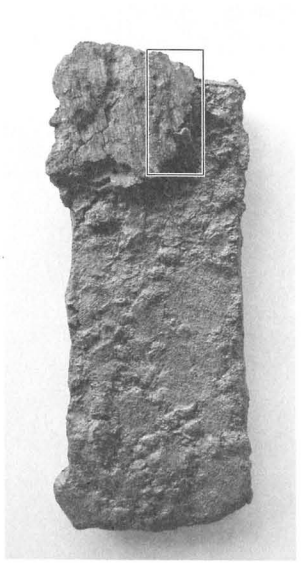


写真１　斧

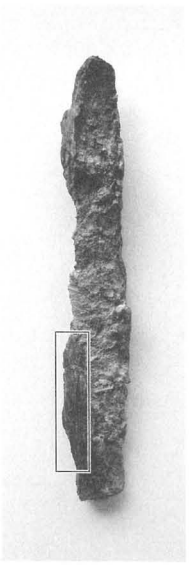


写真２　ヤリガンナ

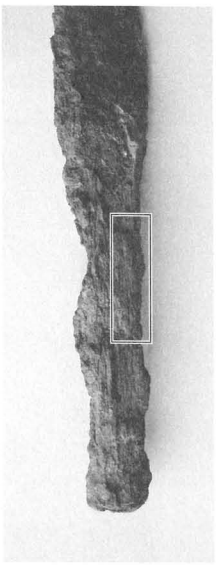


写真３　剣

プレパラート標本の作製は研磨法で行った。研磨法とは、試料小片を透明なエポキシ樹脂に埋め込んだ後、透過光で検鏡できる厚さまでサンドペーパーやアルミパウダーを使って研磨する方法である。

樹種同定は、木材の３断面を生物顕微鏡によって40～400倍で観察し、現生標本および文献資料と比較しながら行った。なお、作製した標本は当研究所清水整理事務所保存処理室で保管している。

顕微鏡観察によって判明した樹種は、針葉樹材のスギ、広葉樹材のアカガシ亜属の２種である。また、同定に利用した材の解剖学的特徴を下記に示し、各木材の細胞組織の顕微鏡写真を掲載する。

*スギ　Cryptomeria japonica (Linn.f.) D.Don.*　スギ科　斧・ヤリガンナ

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞の３種類の構成要素からなる。

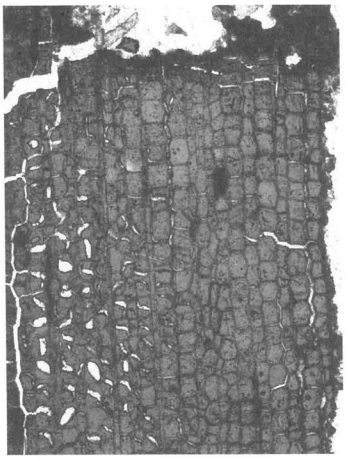
早材から晩材への移行はやや急で晩材部の幅がやや広く、年輪は明瞭である。樹脂細胞は晩材部付近にやや接線方向に連なって散在する。樹脂細胞の内容物は暗褐色を呈することが多く、水平壁は平滑で薄いものが多い。分野壁孔は楕円形の大型で、開孔部がほぼ水平に開いた厚いレンズ状をしたスギ型で１分野に通常２個存在する。放射組織は単列で、細胞高は１～10である。

スギは県内で最も多く出土する材で、様々な遺物に利用されるが、大井川以西では出土量が激減する。

**アカガシ亜属　*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*　ブナ科　剣**

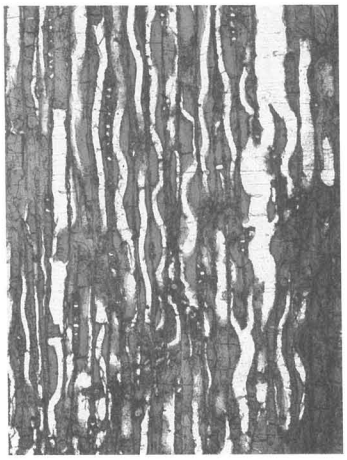
50～200μmの丸い道管が年輪界に関係なく途中から始まり途中で終わるような放射孔材。道管は単穿孔で、木部柔細胞は１～３細胞幅で独立帯状柔細胞をつくる。道管と放射組織との壁孔は大型で柵状。放射組織には単列同性のものと広放射組織の２種類がある。

材はきわめて堅硬で弾性強く強靭である。鋤、鍬、竪杵、斧柄などの農工具に多用される。

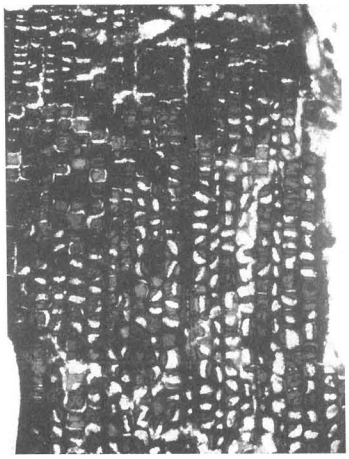


斧　スギ　木口　×70

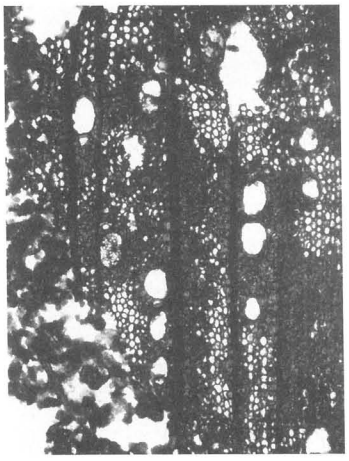
斧　スギ　柾目　×140



ヤリガンナ　スギ　板目　×70



ヤリガンナ　スギ　木口　×70



剣　アカガシ亜属　木口　×70

剣　アカガシ亜属　柾目　×70

## 3　まとめ

判明した樹種により、遺物の器種や機能性をある程度推定することが可能である。なぜなら、古来人々は、目的とする用途に適した木材を選択し利用してきたからである。斧とヤリガンナに付着する木質部の樹種はスギである。軽軟なスギ材を工具の柄に用いることは上記の理由から不自然であると考える。木棺の木材が付着したと考える方が自然である。剣の柄にはアカガシ亜属が用いられている。アカガシの材は堅硬で木理通直、緻密で割裂性があり、弾性強く強靭であり、剣の柄の材としては適材適所である。

参考文献
島地　謙・伊東隆夫　1982『図説木材組織』地球社
鈴木三男　2002『日本人と木の文化』八坂書房

# 附編２　助宗古窯群出土須恵器および灰釉陶器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

藤枝市に所在する助宗古窯群は、赤石山地南端部付近を流れる瀬戸川が形成した狭小な沖積低地を取り囲む丘陵斜面上に分布する窯跡群である。これまでの発掘調査により、助宗古窯群では、８世紀から９世紀を中心に、12世紀までにわたる須恵器、灰釉陶器、山茶碗が生産されていたことが明らかとなり、奈良・平安時代の須恵器生産地としては駿河地方最大の窯跡群とされている。また、助宗古窯群で焼成された須恵器は、駿河国を中心に供給されたと考えられており、静岡市や富士市、沼津市の古代集落遺跡から出土しているとされている。

本報告では、助宗古窯群のなかでも清水下地区とされる窯跡群の発掘調査によって出土した須恵器および灰釉陶器の材質（すなわち胎土）特性を、岩石学的手法（薄片作製鑑定）および化学的手法（蛍光X線分析）を用いることにより明らかにし、助宗古窯群の性格に関わる基礎資料を作成する。なお、本報告では調査区内のトレンチ断面より採取された粘土についても薄片作製鑑定およびX線解析による粘土鉱物の同定を行い、助宗古窯群出土土器の胎土の基礎資料とする。

## １．試料

試料は、助宗古窯群の清水下地区の発掘調査により出土した遺物および粘土である。清水下地区は、瀬戸川の左岸側に形成された沖積低地から、細谷地区と呼ばれる窯跡群が分布する丘陵を隔てて東側の奥に形成された鹿鳴渡川の狭小な沖積低地の周縁の丘陵斜面に分布する窯跡群である。助宗古窯群全体の分布からみると南東端に位置するといえる。

試料は、灰釉陶器１点と須恵器14点およびトレンチより採取された粘土２点の合計17点である。番号１～17が付されており、番号１は灰釉陶器、番号２～15は須恵器、番号16、17は粘土とされている。各試料の器種や部位については、試料を一覧にした表１に示すが、須恵器は坏身と蓋を中心とした構成となっている。特に坏身の試料は、底部が試料とされ、「削り出し高台」、「貼り付け高台」、「無高台」といった分類がされている。粘土試料２点は、調査区西部の丘陵斜面末端付近に設定された第５トレンチより採取された灰色を呈するシルト質の粘土であり、番号16は粘土①、番号17は粘土②という試料名が付されている。

今回の分析では、粘土試料も含めた全17点を薄片作製鑑定の対象とし、ま

**表１　分析試料一覧**

| 番号 | 遺物番号 | 種別 | 器種 | 部位 | グリッド | 層位・遺構 | 薄片 | 粘土 | X線 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | P93 | 灰釉陶器 | 椀 | 底部 | D-2 | 旧耕作土 | ○ | | |
| 2 | P96 | 須恵器 | 坏身 | 底部（削り出し高台） | C-2 | 旧耕作土 | ○ | | |
| 3 | P96 | 須恵器 | 甕 | 体部 | C-2 | 旧耕作土 | ○ | | |
| 4 | P101 | 須恵器 | 坏身 | 底部（削り出し高台） | C-2 | 撹乱・SX01 | ○ | | ◎ |
| 5 | P101 | 須恵器 | 蓋 | 頂部 | C-2 | 撹乱・SX01 | ○ | | |
| 6 | P102 | 須恵器 | 坏身 | 底部（貼り付け高台） | E-2 | 旧耕作土 | ○ | | ◎ |
| 7 | P193 | 須恵器 | 壺 | 頸部 | C-2 | SX03 | ○ | | ◎ |
| 8 | P220 | 須恵器 | 坏身 | 口縁部 | B-2 | | ○ | | |
| 9 | P220 | 須恵器 | 坏身 | 底部（無高台） | B-2 | | ○ | | |
| 10 | P221 | 須恵器 | 坏身 | 底部（無高台） | B-2 | | ○ | | |
| 11 | P221 | 須恵器 | 壺 | 体部 | B-2 | | ○ | | |
| 12 | P222 | 須恵器 | 蓋 | 体部 | B-2 | | ○ | | ◎ |
| 13 | P222 | 須恵器 | 蓋 | 体部 | B-2 | | ○ | | |
| 14 | P222 | 須恵器 | 坏身 | 底部（貼り付け高台） | B-2 | | ○ | | ◎ |
| 15 | P222 | 須恵器 | 坏身 | 底部（貼り付け高台） | B-2 | | ○ | | |
| 16 | 粘土① | 粘土 | | | | 第5トレンチ内 | ○ | ○ | |
| 17 | 粘土② | 粘土 | | | | 第5トレンチ内 | ○ | ○ | |

薄片：薄片作製観察　粘土：粘土鉱物分析　X線：蛍光X線分析

た、粘土試料２点については、Ｘ線回折分析を用いた粘土鉱物の同定を行う。さらに、蛍光Ｘ線分析には発掘調査所見により選択された番号４、６、７、12、14の５点の須恵器試料を対象とする。

## ２．分析方法

### （１）薄片作製鑑定

ここでは、松田ほか（1999）の方法を用いる。この方法は、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べるものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか（1999）の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5㎜間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の３次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

また、須恵器や陶器では、焼成温度が高いために、薄片下で鉱物の晶出や溶融などの加熱変化を認めることができる。ここでは、五十嵐（2007）の加熱変化の基準による焼成温度の推定も行う。

### （２）粘土鉱物分析

粘土鉱物組成は和田(1966)に従った。以下に分析行程を記す。試料約10ｇを500㎖ビーカーに秤とり、蒸留水を適当量加えた後、30％過酸化水素水10㎖を加えて混合する。時計皿で蓋をして約１時間放置した後、砂浴上にのせて加熱し、試料から黒色味が完全に抜けるまで過酸化水素水を10㎖ずつ滴下し、有機物を分解する。さらに加熱を続け、過剰の過酸化水素水を分解除去した後、DCB抽出液を加え、75℃まで加熱する。約２ｇのハイドロサルファイトナトリウム（$Na_2S_2O_4$）を加えて攪拌し、15分間放置した後、遠心分離を行い、上済み液を捨てる（脱鉄処理）。蒸留水で２回洗浄した後、蒸留水を加えて超音波処理を実施し、分散させた後、1000㎖沈底瓶に移す。液温20℃の状態で16時間静置した後、水面下20㎝深にサイフォンを挿入し、粘土画分（2㎛＞）の懸濁液を採取する（粘土懸濁液）。

懸濁液の一定量を２本の遠沈管に採取し、１Ｎ酢酸ナトリウム－酢酸緩衝液（pH5.0）を加え、内容物を攪拌した後、上澄み液を遠沈除去する。この操作を２回繰り返す。遠沈管の１本に１Ｎ酢酸マグネシウム溶液（pH7.0）を加え（Mg飽和試料）、もう１本の遠沈管に１Ｎ酢酸カリウム溶液（pH7.0）を加え（Ｋ飽和試料）、遠沈洗浄する。この操作を更に２回繰り返し、最後に水を加えて過剰の塩溶液を除く。遠沈管の内容物に水を加えて懸濁状態とし、その懸濁物をスライドガラス上に採取し、ガラス全面に拡げ、風乾する。

これら試料をＸ線解析装置によって以下の条件で測定する。なお、Mg飽和試料についてはEG（エチレングリコール）処理、Ｋ飽和試料については300℃と550℃加熱処理を施し、再度測定を実施する。

| | |
|---|---|
| 装置：理学電気製MultiFlex | Divergency Slit：１° |
| Target：Cu（Kα） | Scattering Slit：１° |
| Monochrometer：Graphite湾曲 | Recieving Slit：0.3㎜ |

Voltage：40kV　　Scanning Speed：2°/min
Current：40mA　　Scanning Mode：連続法
Detector：SC　　Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps　　Scanning Range： 2 ～30°

**（３）蛍光X線分析**

波長分散型蛍光X線装置を用いたガラスビード法による定量分析を行う。

ａ）測定元素

測定元素は$SiO_2$、$TiO_2$、$Al_2O_3$、$Fe_2O_3$、MnO、MgO、CaO、$Na_2O$、$K_2O$、$P_2O_5$の10元素およびLOIとRb、Sr、Zr、Baの微量４元素である。

ｂ）装置

理学電機工業社製RIX1000（FP法のグループ定量プログラム）

ｃ）試料調製

試料を振動ミル（平工製作所製TI100；10mℓ容タングステンカーバイト容器）で微粉砕し、105℃で４時間乾燥する。この微粉砕試料についてガラスビートを以下の条件で作成する。なお、胎土表面に塗彩または釉薬が確認される試料については、これらを除去し、試料として供する。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー（3491A1）

溶剤及び希釈率；融剤（ホウ酸リチウム）5.000g：試料0.500g

剥離剤；LiI（溶融中１回投入）

溶融温度；1200℃　約７分

ｄ）測定条件

Ｘ線管；　Cr（50Kv－50mA）

スペクトル；　全元素K$\alpha$

分光結晶；　LiF，PET，TAP，Ge

検出器；　F-PC，SC

計数時間；　PeaK40sec，Back20sec

## ３．結果

**（１）薄片作製鑑定**

結果を表２、図１・２に示す。以下に、鉱物片・岩石片組成、焼成温度、粒径組成、砕屑物の割合の順に述べる。

ａ）鉱物片・岩石片組成

番号１の灰釉陶器は、鉱物片はほとんど石英のみであり、岩石片は少量のチャートと微量の多結晶石英を伴うという組成である。須恵器試料では、番号７を除く13点がほぼ同様の組成を示す。鉱物片では石英が多く、少量の斜長石を伴うという組成であり、岩石片では少量のチャートと微量の多結晶石英からなる組成である。ただし、番号14と15には、鉱物片に微量のカリ長石が含まれている。また、番号13と14には極めて微量ながらも頁岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、花崗岩類などの各岩石片や火山ガラスが含まれている。

番号７は、鉱物片では石英が比較的多く、少量の斜長石を伴う組成を示すことで他の試料と類似するが、岩石片では極めて微量の多結晶石英が含まれるのみであり、チャートが含まれずに、比較的多量の火山ガラスが含まれることで他の試料と大きく異なっている。なお、火山ガラスは、スポンジ状に発泡した塊状の軽石型の形態が多く、平板状のバブル型も微量含まれる。

## 表２　薄片観察結果（１）

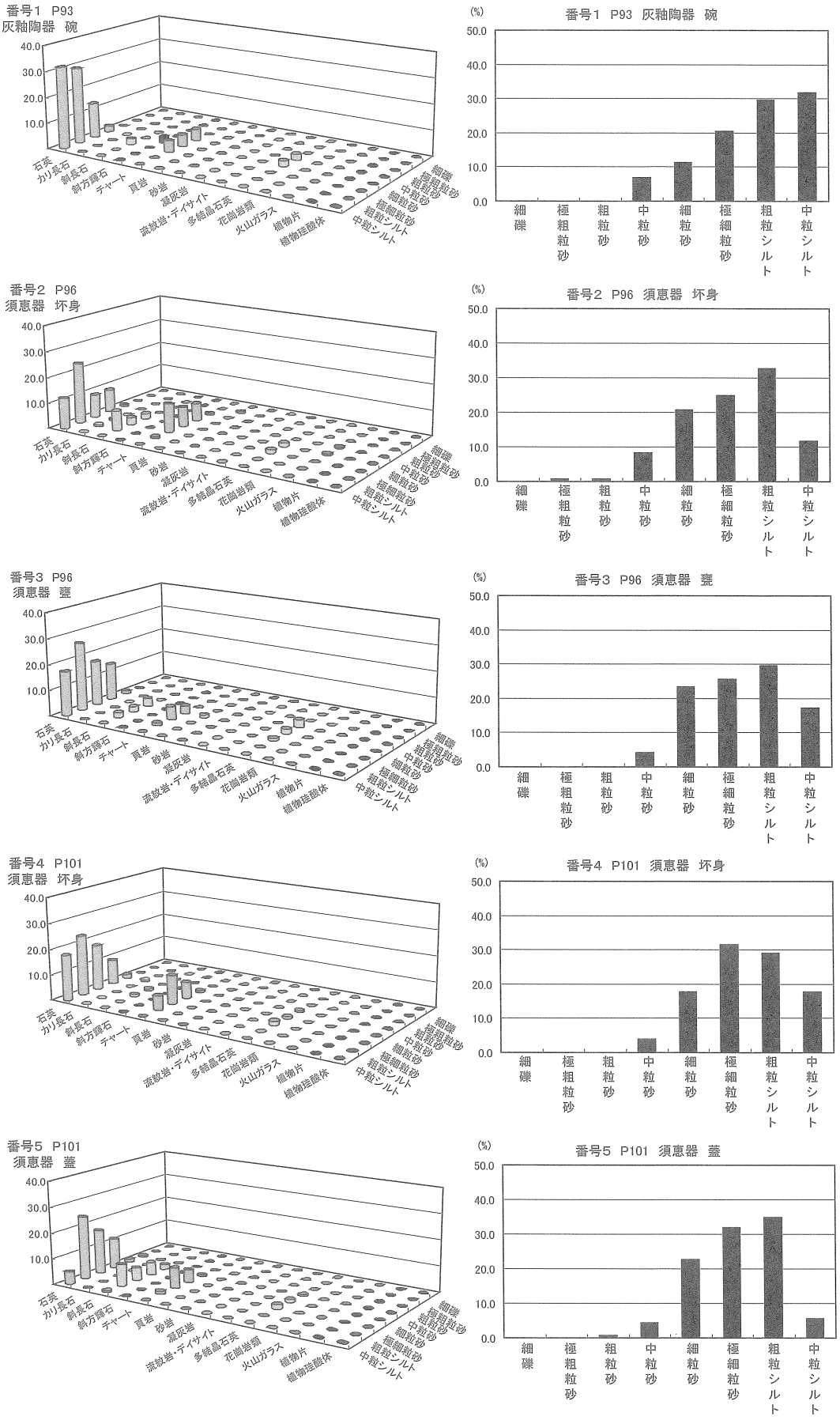
| 番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 焼成温度℃ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 火山ガラス | 植物片 | 植物珪酸体 | | |
| 1 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1200± |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | 3 | |
| | | 細粒砂 | 1 | | | 1 | | | 2 | | | | | 1 | | | | | 5 | |
| | | 極細粒砂 | 6 | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | 9 | |
| | | 粗粒シルト | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | |
| | | 中粒シルト | 14 | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 521 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 151 | |
| 2 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150－ |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | 1 | | | | | | 10 | | | | | | | 1 | | | 12 | |
| | | 細粒砂 | 13 | | 3 | | | | 11 | | | | | 2 | | 1 | | | 30 | |
| | | 極細粒砂 | 13 | 1 | 4 | | | | 16 | | | | | 2 | | | | | 36 | |
| | | 粗粒シルト | 34 | 1 | 11 | | | | 1 | | | | | | | | | | 47 | |
| | | 中粒シルト | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 600 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | |
| 3 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | 3 | | | | | 4 | |
| | | 細粒砂 | 14 | | 3 | | | | 3 | 1 | | | | 2 | | | | | 23 | |
| | | 極細粒砂 | 17 | | 2 | | | | 5 | | | | | 1 | | | | | 25 | |
| | | 粗粒シルト | 26 | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | 29 | |
| | | 中粒シルト | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 751 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| 4 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | 2 | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 5 | |
| | | 細粒砂 | 12 | | 1 | | | | 8 | | | | | 1 | | | | | 22 | |
| | | 極細粒砂 | 22 | | 1 | | | | 14 | | | | | 2 | | | | | 39 | |
| | | 粗粒シルト | 29 | | | | | | 7 | | | | | | | | | | 36 | |
| | | 中粒シルト | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | 22 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 841 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 | |
| 5 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1200± |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | 2 | | 3 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 7 | |
| | | 細粒砂 | 19 | | 8 | | | | 8 | | | | | 2 | | | | | 37 | |
| | | 極細粒砂 | 28 | | 8 | | | | 13 | | | | | 3 | | | | | 52 | |
| | | 粗粒シルト | 40 | | 14 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | 57 | |
| | | 中粒シルト | 8 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 9 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 695 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| 6 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1200± |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | 4 | | 3 | | | | 2 | | | | | | | | | | 9 | |
| | | 細粒砂 | 27 | | 5 | | | | 10 | | | | | 4 | | | | | 46 | |
| | | 極細粒砂 | 21 | | 3 | | | | 9 | 1 | | | | 1 | | | | | 35 | |
| | | 粗粒シルト | 44 | | 9 | | | | | | | | | | | | | 2 | 55 | |
| | | 中粒シルト | 14 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 15 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 696 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | |

## 表２　薄片観察結果（２）

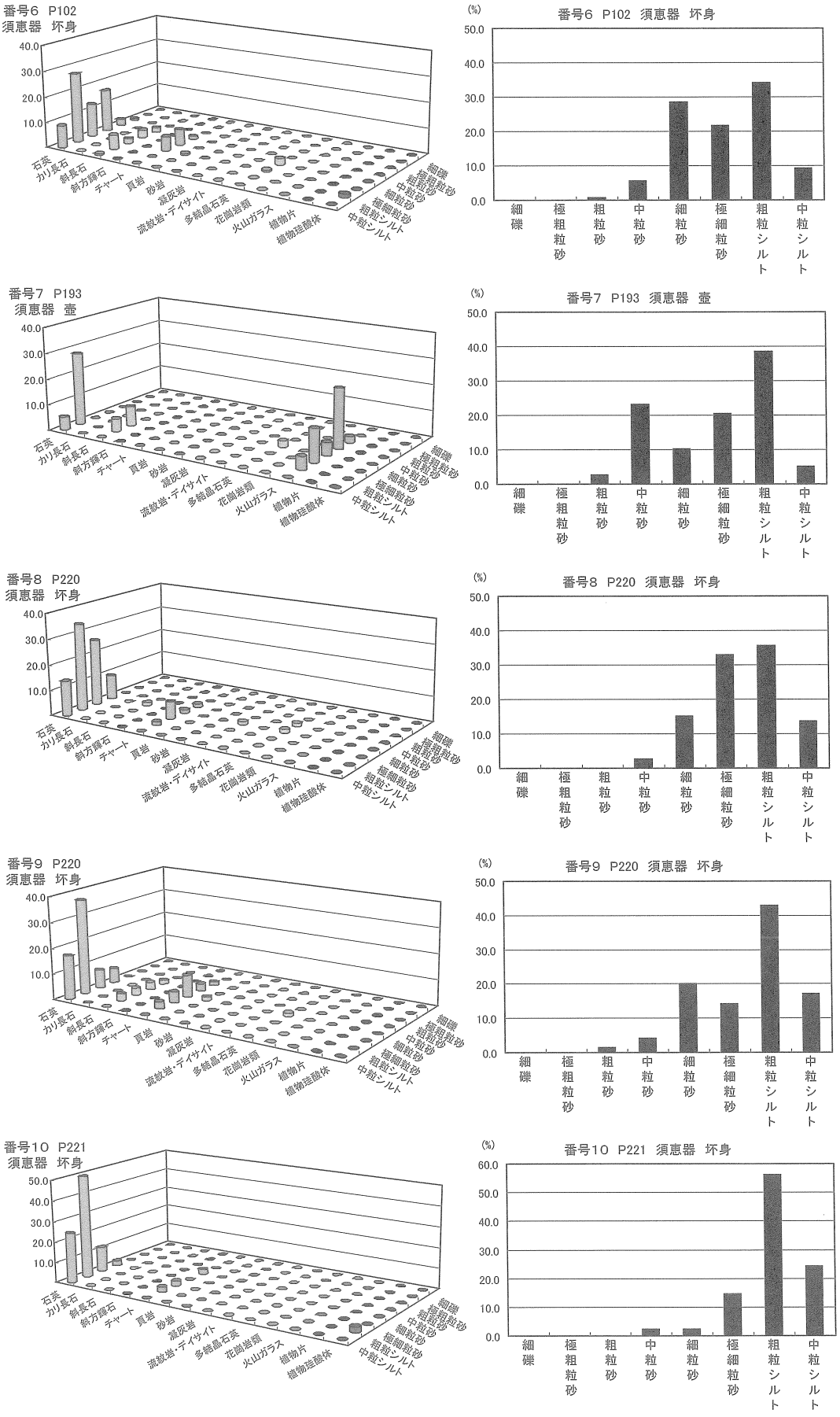
| 番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 焼成温度℃ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 火山ガラス | 植物片 | 植物珪酸体 | | |
| 7 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1200± |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | 9 | |
| | | 細粒砂 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 2 | | | 4 | |
| | | 極細粒砂 | | | 3 | | | | | | | | | | | 5 | | | 8 | |
| | | 粗粒シルト | 11 | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | | 15 | |
| | | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 397 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 | |
| 8 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1200± |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 2 | |
| | | 細粒砂 | 7 | | 1 | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | 11 | |
| | | 極細粒砂 | 19 | | | | | | 5 | | | | | | | | | | 24 | |
| | | 粗粒シルト | 25 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 26 | |
| | | 中粒シルト | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 621 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 | |
| 9 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | 3 | |
| | | 細粒砂 | 4 | | 2 | | | | 6 | 1 | | | | 1 | | | | | 14 | |
| | | 極細粒砂 | 5 | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | 10 | |
| | | 粗粒シルト | 26 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | 30 | |
| | | 中粒シルト | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 486 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 | |
| 10 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 細粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 極細粒砂 | 5 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 6 | |
| | | 粗粒シルト | 21 | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 23 | |
| | | 中粒シルト | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 467 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | |
| 11 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | |
| | | 細粒砂 | 2 | | 4 | | | | 2 | | | | | | | | | | 8 | |
| | | 極細粒砂 | 5 | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | 7 | |
| | | 粗粒シルト | 28 | | 4 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | 35 | |
| | | 中粒シルト | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 486 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 | |
| 12 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 細粒砂 | 5 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | 9 | |
| | | 極細粒砂 | 8 | | 2 | | | | 12 | | | | | 1 | | | | | 23 | |
| | | 粗粒シルト | 37 | | 4 | | | | 5 | | | | | | | | | 2 | 48 | |
| | | 中粒シルト | 18 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 19 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 610 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 57 | |

## 表２　薄片観察結果（３）

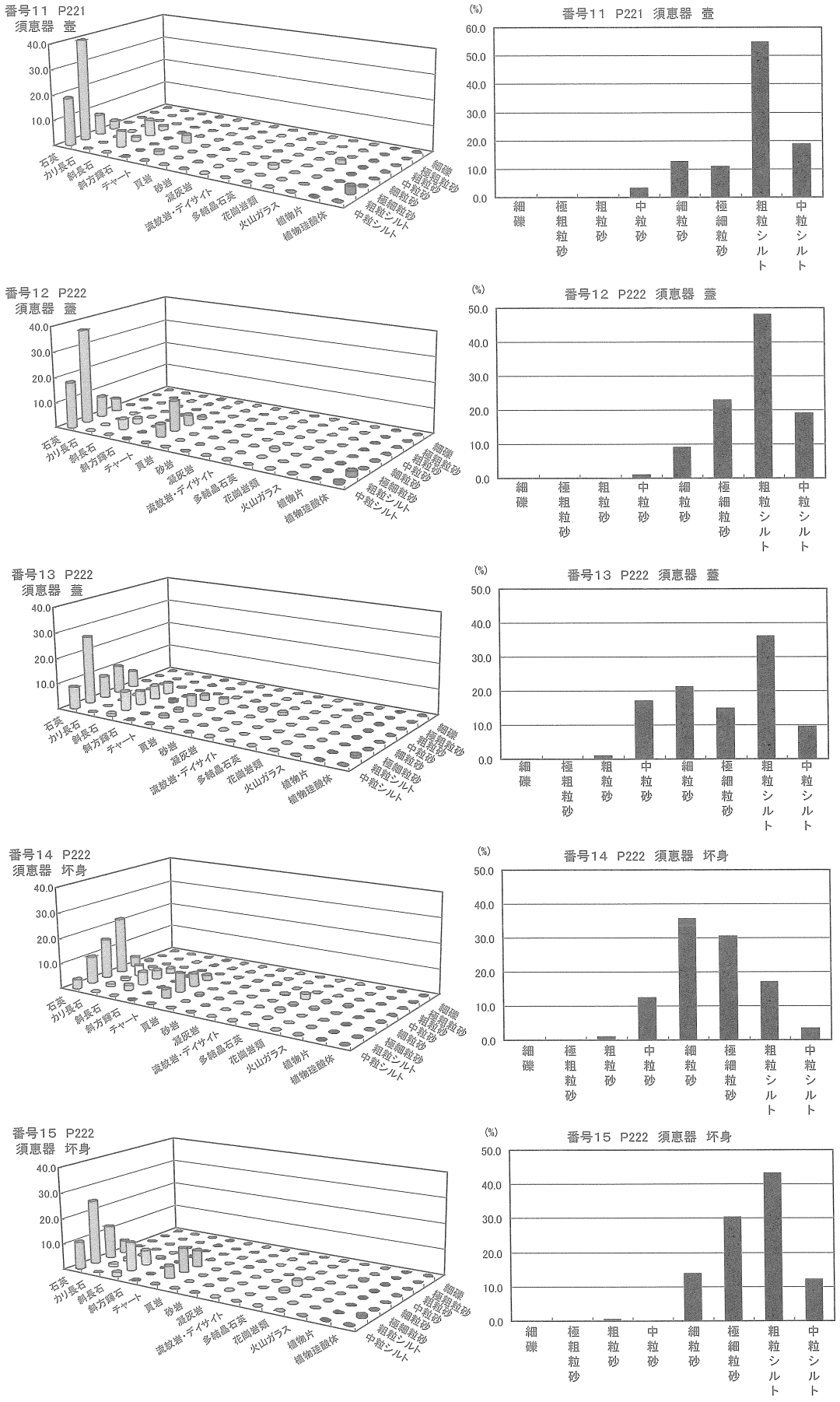
| 番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 焼成温度℃ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | 岩石片 | | | | | | | その他 | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 火山ガラス | 植物片 | 植物珪酸体 | | |
| 13 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150～1200 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | 6 | | 4 | | | | 2 | 2 | | 1 | 1 | | | | | | 16 | |
| | | 細粒砂 | 10 | | 5 | 1 | | | 4 | | | | | | | | | | 20 | |
| | | 極細粒砂 | 8 | | 5 | | | | 1 | | | | | | | | | | 14 | |
| | | 粗粒シルト | 25 | | 7 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 34 | |
| | | 中粒シルト | 8 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 9 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 447 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | |
| 14 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150－ |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 2 | |
| | | 中粒砂 | 8 | 2 | 4 | | | | 4 | | | | 1 | 4 | 1 | 1 | | | 25 | |
| | | 細粒砂 | 44 | 8 | 7 | | | | 10 | | | | | 1 | 1 | | | | 71 | |
| | | 極細粒砂 | 31 | 2 | 10 | | | | 15 | 1 | | | | 2 | | | | | 61 | |
| | | 粗粒シルト | 21 | 2 | 4 | | | | 7 | | | | | | | | | | 34 | |
| | | 中粒シルト | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 773 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 | |
| 15 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1150－ |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 細粒砂 | 9 | | 1 | | | | 12 | | | | | 4 | | | | | 26 | |
| | | 極細粒砂 | 24 | 2 | 11 | | | | 18 | | | | | 2 | | | | | 57 | |
| | | 粗粒シルト | 47 | 2 | 21 | | | | 9 | | | | | | | | | 2 | 81 | |
| | | 中粒シルト | 20 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 23 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 958 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 36 | |
| 16 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | － |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 2 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | |
| | | 中粒砂 | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | 3 | |
| | | 細粒砂 | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 3 | |
| | | 極細粒砂 | 6 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 8 | |
| | | 粗粒シルト | 25 | 1 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | 29 | |
| | | 中粒シルト | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1470 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 65 | |
| 17 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | － |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | 4 | 4 | | | | | | | | 8 | |
| | | 粗粒砂 | | 1 | | | | | | 6 | 3 | | | | | | 2 | | 12 | |
| | | 中粒砂 | 3 | 1 | | | | | 1 | 4 | 1 | | | 1 | | | | | 11 | |
| | | 細粒砂 | 11 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | 1 | | 15 | |
| | | 極細粒砂 | 12 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 16 | |
| | | 粗粒シルト | 28 | | 3 | | | | 1 | | | | | | | | | | 32 | |
| | | 中粒シルト | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1524 | |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 59 | |



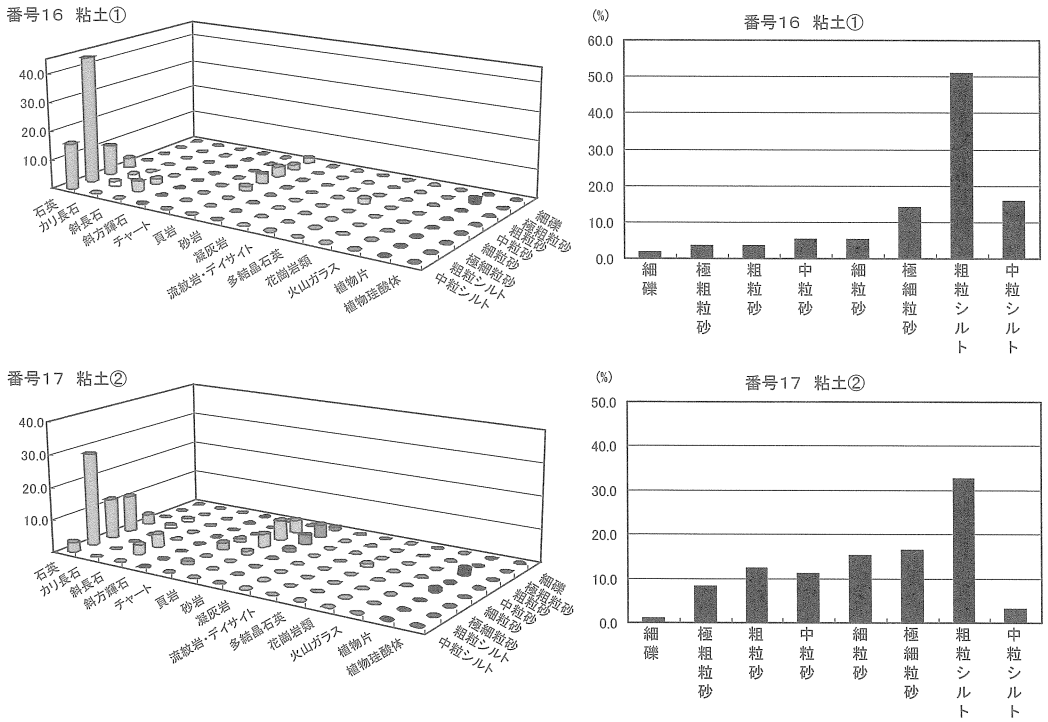

第１図　各粒度階における鉱物・岩石出土頻度(％)および粒径組成（１）




第１図　各粒度階における鉱物・岩石出土頻度(％)および粒径組成（２）




第１図　各粒度階における鉱物・岩石出土頻度(％)および粒径組成（３）




**第１図　各粒度階における鉱物・岩石出土頻度(%)および粒径組成（４）**

粘土試料は、鉱物片では２点ともに石英が多く、少量の斜長石と微量のカリ長石を含むことでほぼ同様の組成と言える。一方、岩石片では、番号16では少量の頁岩と極めて微量の多結晶石英からなる組成を示すが、番号17では少量の頁岩と砂岩および微量のチャートからなる組成を示す。

ｂ）焼成温度

陶器および須恵器試料の顕微鏡下の観察では、試料によって、以下の鉱物の加熱変化が認められた。

１）斜長石のリム（結晶の周縁部）にムライトが生成している。

２）長石類は溶融しているが、ムライトの晶出は極めて微細であり、またはほとんど確認できない。

３）長石類は溶融していないかまたは微弱に溶融している程度。

これらの現象は、それぞれ順に1200℃±、1150～1200℃、1150℃－という焼成温度を示している。各試料の焼成温度は、表２に併記する。灰釉陶器は1200℃±であるが、須恵器試料では1150～1200℃に推定された試料が最も多く、14点中７点を占める。次いで1200℃±の試料が４点あり、1150℃－の試料も３点あった。

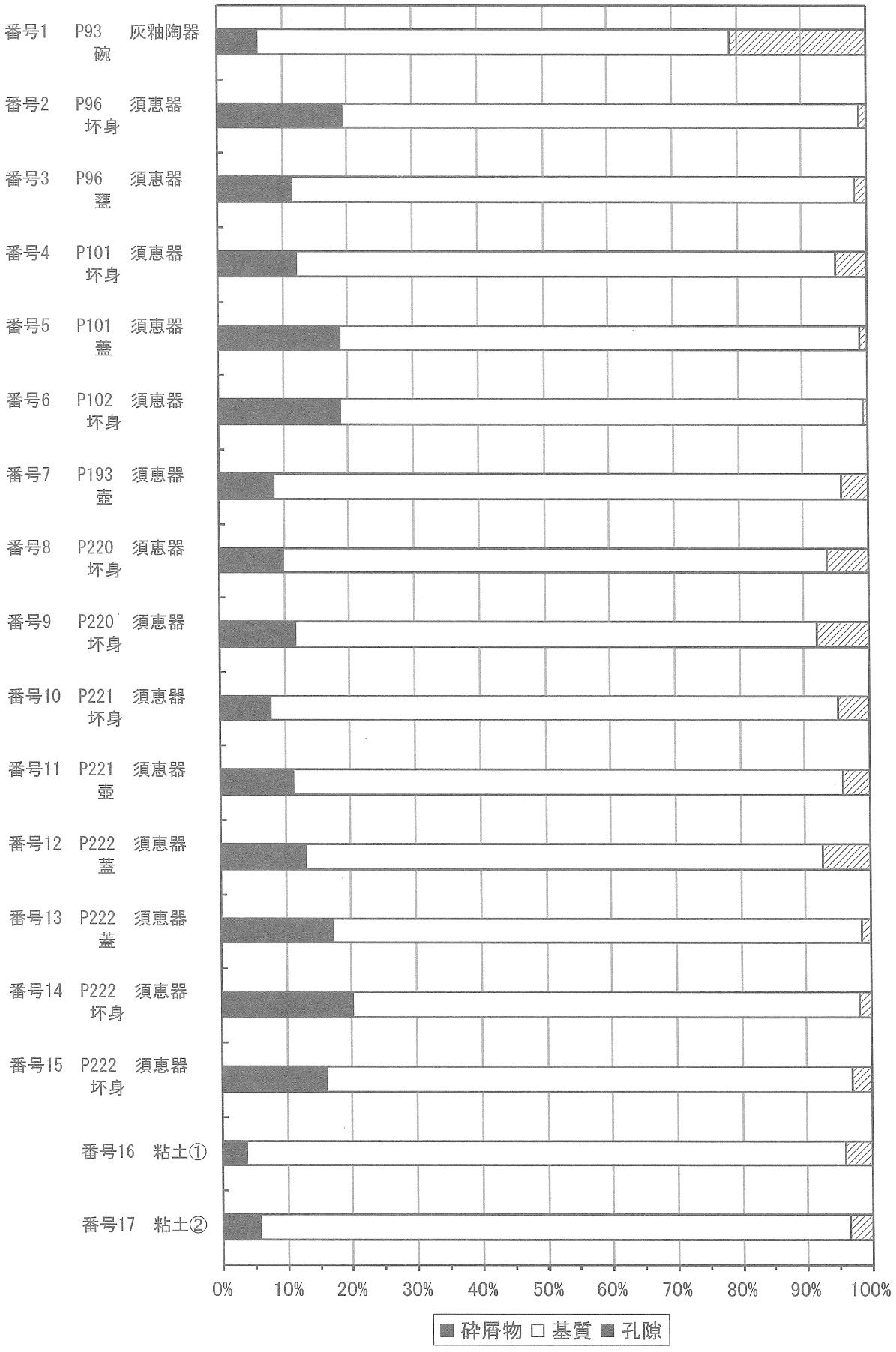
ｃ）粒径組成

灰釉陶器は中粒シルトをモードとするが、須恵器試料は粗粒シルトをモードとする試料が多い。14点の須恵器試料のうち、粗粒シルトをモードとする試料は、番号４と番号14以外の12点に及ぶ。ただし、これら12点のうち、番号６と13では、細粒砂に第二のピークが認められ、番号７には中粒砂に第二のピークが認められる。番号４は極細粒砂をモードとし、番号14は細粒砂をモードとする。

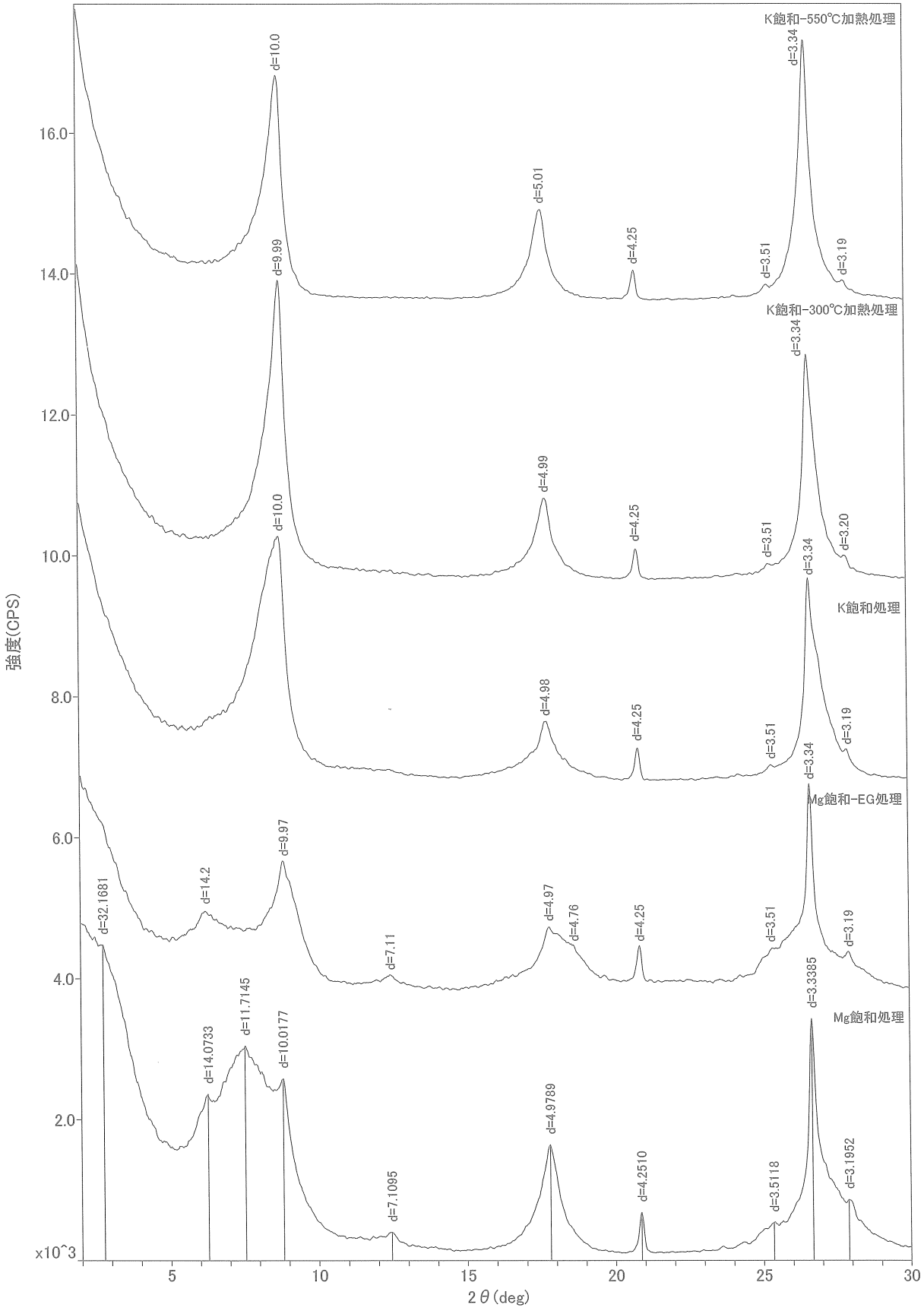
粘土試料は、２点ともに粗粒シルトをモードとする。

ｄ）砕屑物の割合

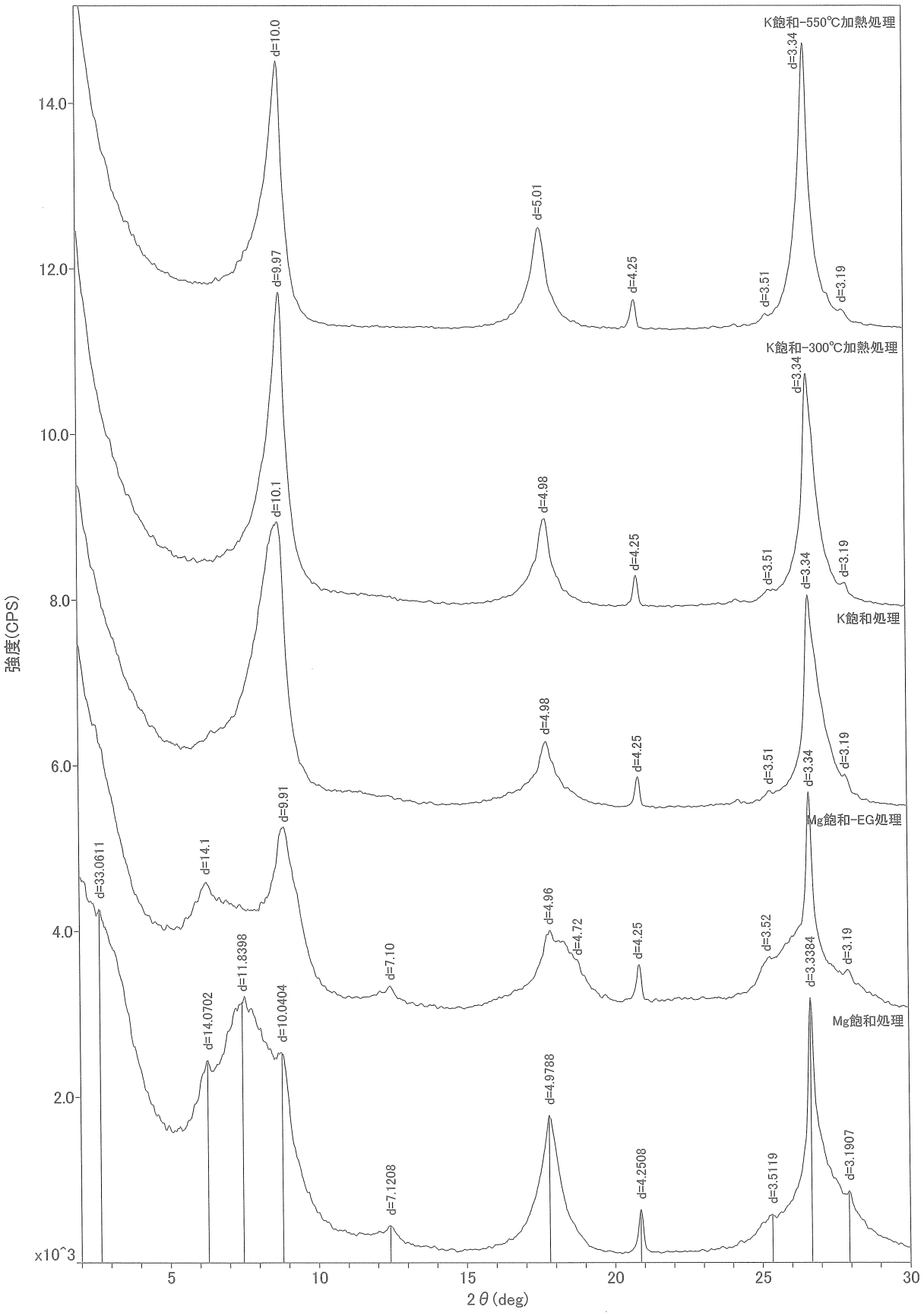
砕屑物、基質、孔隙の割合における砕屑物の割合を試料間で比べてみると、５％以上15%未満の試料と15%以上の試料とに二分される。灰釉陶器は前者であるが、須恵器試料も前者が多く、14点中８点を占める。粘土試料２点も前者である。なお、灰釉陶器では、孔隙の割合が20%以上あり、それが数%程度しかない須恵器との違いが指摘される。




第２図　砕屑物・基質・孔隙の割合




第３図　粘土鉱物のＸ線解析パターンの変化（番号16　粘土①）




第４図　粘土鉱物のＸ線解析パターンの変化（番号17　粘土②）

### （２）粘土鉱物分析

各種の処理を行った粘土鉱物のX線解析パターンを図３・４に示す。２点の粘土試料は、ともに同様な解析パターンを示した。

まず、Mg飽和処理（Mg-RT）において認められる10Å、5.0Å、3.34Å付近のピークはいずれの処理においても確認されることから雲母鉱物が同定される。また、Mg-RTにおいて認められる14Å付近のピークがMg飽和-EG処理（Mg-EG）によって膨潤性を示さないことや、K飽和処理（K-RT）ではMg-RTにおいて認められた14Å、７Åのピークが認められず、かつ10Å付近のピーク強度が増大しており、収縮によるピークシフトと判断されることからバーミキュライトの存在が指摘される。

さらに、Mg-RTでは32Å近傍に混合層鉱物の長周期反射と見られる反射が認められている。Mg-EGでは膨潤性鉱物の明確なピークは確認されてはいないものの、Mg-RTに見られる12Å付近のピークが認められないこと、およびK-RTでは10Å以上に明瞭なピークが見られていないことから、雲母/スメクタイト混合層鉱物による反射と見るのが妥当である。なお、4.25Å、3.34Å付近のピークは石英、3.20Å付近のピークは斜長石による。

以上のことから、２点の粘土試料の粘土鉱物組成は同様であり、雲母鉱物、バーミキュライトのほか、雲母/スメクタイト混合層鉱物によって構成されると判断される。

### （３）蛍光X線分析

結果を表３に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した（図５）。

ａ）化学組成中で最も主要な元素（$SiO_2$，$Al_2O_3$）

ｂ）粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素であるCaO、$Na_2O$、$K_2O$の３者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合（$Na_2O$＋K2O）/（CaO＋$Na_2O$＋$K_2O$）を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合$K_2O$/（$Na_2O$＋$K_2O$）を縦軸とする。

ｃ）輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、$TiO_2$、$Fe_2O_3$、MgOを選択し、$Fe_2O_3$を分母とした$TiO_2$、MgOの割合を見る。

ｄ）各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-SrとZr-Baとする。

また、これらの散布図では、器種ごとにそれぞれ異なる記号で示した。

作成した５つの散布図を概観すると、散布図によって互いに近接する組成を示す試料の組み合わせは異なっており、５点の試料の中で、どれが同質でどれが異質かという判断は難しい。おそらく、ここで作成した散布図各図における値の範囲は、助宗古窯群内で生産される須恵器の材質のバラツキの範囲内に入ってしまうためと考えられる。

**表３　蛍光Ｘ線分析結果**

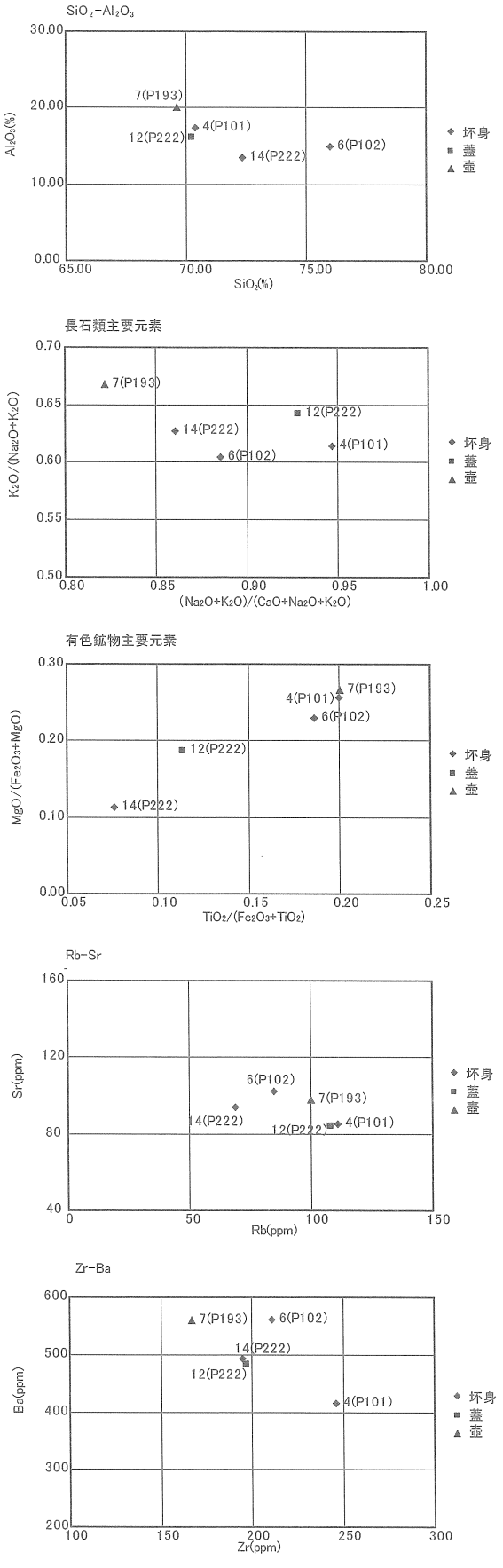
| 番号 | 遺物番号 | 種別 | 器種 | 主要元素 | | | | | | | | | | | | 微量元素 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | SiO2 (%) | TiO2 (%) | Al2O3 (%) | Fe2O3 (%) | MnO (%) | MgO (%) | CaO (%) | Na2O (%) | K2O (%) | P2O5 (%) | Ig. loss (%) | 合計 (%) | Rb (ppm) | Sr (ppm) | Zr (ppm) | Ba (ppm) |
| 4 | P101 | 須恵器 | 坏身 | 70.38 | 0.84 | 17.39 | 3.36 | 0.03 | 1.16 | 0.24 | 1.66 | 2.64 | 0.03 | 2.27 | 100.00 | 111 | 85 | 246 | 415 |
| 6 | P102 | 須恵器 | 坏身 | 76.00 | 0.64 | 14.93 | 2.79 | 0.01 | 0.83 | 0.44 | 1.35 | 2.06 | 0.04 | 0.91 | 100.00 | 85 | 102 | 211 | 561 |
| 7 | P193 | 須恵器 | 壺 | 69.63 | 0.74 | 20.07 | 2.95 | 0.02 | 1.07 | 0.64 | 0.98 | 1.97 | 0.06 | 1.87 | 100.00 | 100 | 98 | 167 | 560 |
| 12 | P222 | 須恵器 | 蓋 | 70.24 | 0.74 | 16.21 | 5.76 | 0.06 | 1.33 | 0.31 | 1.43 | 2.57 | 0.05 | 1.30 | 100.00 | 108 | 84 | 197 | 483 |
| 14 | P222 | 須恵器 | 坏身 | 72.36 | 0.57 | 13.45 | 6.91 | 0.03 | 0.88 | 0.49 | 1.13 | 1.90 | 0.08 | 2.20 | 100.00 | 69 | 94 | 195 | 493 |

## 4. 考察

### （１）胎土について

窯の立地条件は、たいていの場合、原材料の入手が容易なことすなわち原材料となる粘土の分布地周辺であることが多いから、今回の試料の原材料となった粘土も窯跡周辺に分布する堆積物に由来する可能性が高い。今回の分析では、窯跡の検出された丘陵斜面の表層に堆積する粘土層も試料として分析を行ったが、薄片作製鑑定による鉱物・岩石片組成において、特に岩石片の組成が陶器および須恵器試料とは異なる結果となった。粘土試料に認められた岩石片組成は、粘土試料採取地の位置する丘陵を構成している地質に由来する。杉山・下川（1981）および杉山ほか（2010）による地質記載から、その地質は、新第三紀中新世の堆積岩を主体とする大井川層群であるとされている。杉山ほか（1982）によれば、大井川層群を構成する岩石は、主として砂岩と泥岩であり、後述する瀬戸川層群に由来する石灰岩やチャートなどが異地性角礫岩塊として含まれている。番号16の頁岩を主とする組成や、番号17の頁岩と砂岩を主とし、チャートを交える組成は、このような大井川層群の地質が反映されている。

これに対して、陶器および須恵器試料の岩石片組成は、チャートを主体とする組成であった。チャート以外の岩石片がほとんど含まれない試料も多いことから、焼成時の高温により、チャート以外の岩石片が溶融し消失してしまった可能性もあるが、長石の溶融がほとんど認められなかった比較的低温焼成の番号14でもチャートを主体として他の岩石片は微量という組成を示すことから、おそらく、焼成前の素地土の段階でも、岩石片組成はチャートを主体とする組成であったと考えられる。上述したように大井川層群はチャートを主体とするような地質ではないことから、今回の試料である陶器や須恵器の原材料となった粘土の採取地は、大井川層群の分布する丘陵上およびその周縁域にはない可能性がある。杉山・下川（1981）および杉山ほか（2010）によれば、助宗新橋付近から上流の瀬戸川両岸に広がる丘陵および山地は、古第三紀から新第三紀中新世にかけて形成された堆積岩を主とする瀬戸川層群により構成されている。特に、助宗新橋付近の両岸の丘陵・山




第５図　胎土化学組成散布図

地には、瀬戸川層群の中でも中部を構成する滝沢累層の分布域となっており、この滝沢累層を構成する主な岩石の一つにチャートが認められている。滝沢累層には、チャートのほかに、頁岩や石灰岩さらには玄武岩溶岩や中性～酸性の火成岩・火砕岩が含まれている（杉山・下川，1981）。上述した番号14に認められた岩石組成は、滝沢累層の地質とよく整合していると考えられる。したがって、今回の試料である陶器や須恵器の原材料となった粘土の採取地は、発掘調査の行われた清水下地区周辺ではなく、１㎞ほど北西方の助宗新橋付近の瀬戸川両岸に分布する丘陵・山地内あるいは周縁部に推定される。

番号７の胎土については、チャートも含まれず、また砂岩や頁岩も認められなかったことから、その原材料となった粘土の採取地は、大井川層群および瀬戸川層群の分布域内ではない可能性があると考えられる。しかし、上述のいずれの地質記載をみても、瀬戸川流域の丘陵・山地は、助宗付近より上流側では瀬戸川層群、下流側では大井川層群により構成されており、両地質の分布域ではないということになると、番号７の原材料は、瀬戸川流域以外の地域から持ち込まれて来たことになる。わざわざ遠方から土のみを搬入する理由は不明であるが、番号７の壺には何らかの特殊な事情のあったことが示唆される。また、粒径組成においても中粒砂に第二のピークがあるなど、他の試料には認められない特徴を有しており、その特殊な事情が示唆される。なお、番号７の胎土に比較的多く含まれる火山ガラスは、テフラの降下堆積物に由来するものであり、現時点ではその地域性を推定することはできない。

今後の助宗古窯群の調査により、今回と同様の方法による胎土分析事例や周辺の堆積物の分析事例を蓄積することができれば、今回のほとんどの試料の原材料採取地や番号７の原材料採取地について、より具体的な地域を推定することが可能になるかも知れない。

胎土の蛍光Ｘ線分析では、試料間の化学組成のバラツキが明らかとなったが、試料間の近似性や異質性は明らかにはならなかった。これは、岩石組成で異質とした番号７についても同様であり、現時点では、他の試料との間で化学組成の違いを特徴として捉えることはできない。おそらく、複数の粘土を使い分けたり、混合したりという状況が想定され、その結果、清水下地区内の窯においても、その胎土には化学組成のばらつきが生じたと考えることができる。

**（２）胎土と器種との関係について**

今回の分析では、上述した鉱物・岩石組成と化学組成のほかにも粒径組成や砕屑物の割合さらには焼成温度といった胎土に関する複数の特性を示したが、これら各種の特性と器種との対応からは相関性を見出すことはできない。ただし、器種と胎土との間の相関性の有無については、今後の分析事例の蓄積とその検討が必要であると考えられる。

引用文献

五十嵐俊雄，2007，土師器・須恵器等に関する焼成温度推定手法の開発.徳永重元博士献呈論集,パリノ・サーヴェイ株式会社，281-297.

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高，1999，瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的によるー．日本文化財科学会第16回大会発表要旨集，120-121.

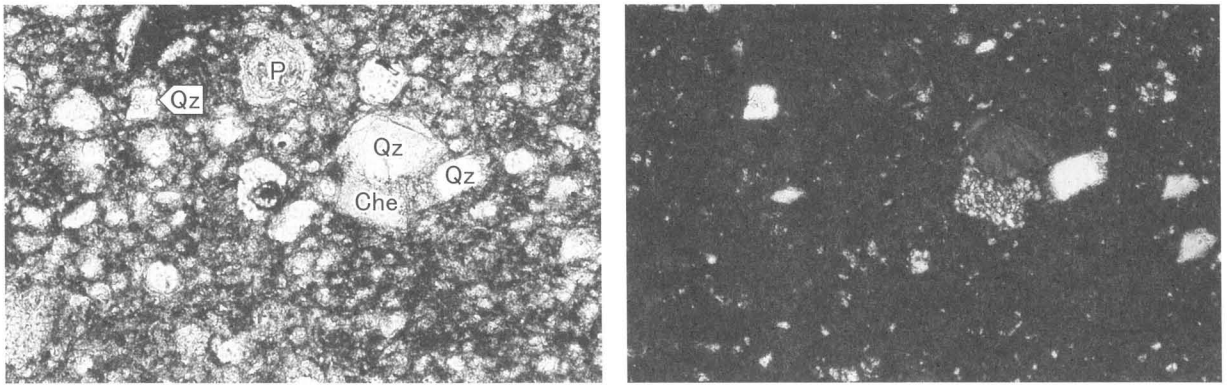
杉山雄一・下川浩一，1981，静岡県中部に分布する古第三系瀬戸川層群の古地理学的研究.地質学雑誌，87，439-456.

杉山雄一・下川浩一・坂本　亨・秦　光男，1982，静岡地域の地質.地域地質研究報告（５万分の１図幅），地質調査所，82p.

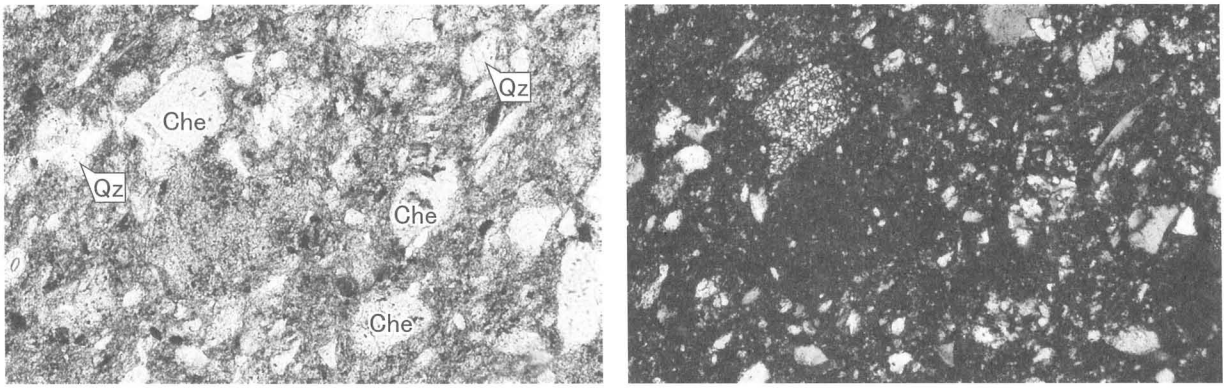
杉山雄一・水野清秀・狩野謙一・村松　武・松田時彦・石塚　治・及川輝樹・高田　亮・荒井晃作・岡村行信・実松健造・高橋正明・尾山洋一・駒澤正夫，2010，20万分の１地質図幅　静岡及び御前崎（第２版），産業技術総合研究所地質調査総合センター.

和田光史，1966，粘土鉱物の同定および定量法．土肥誌，37，9-17.

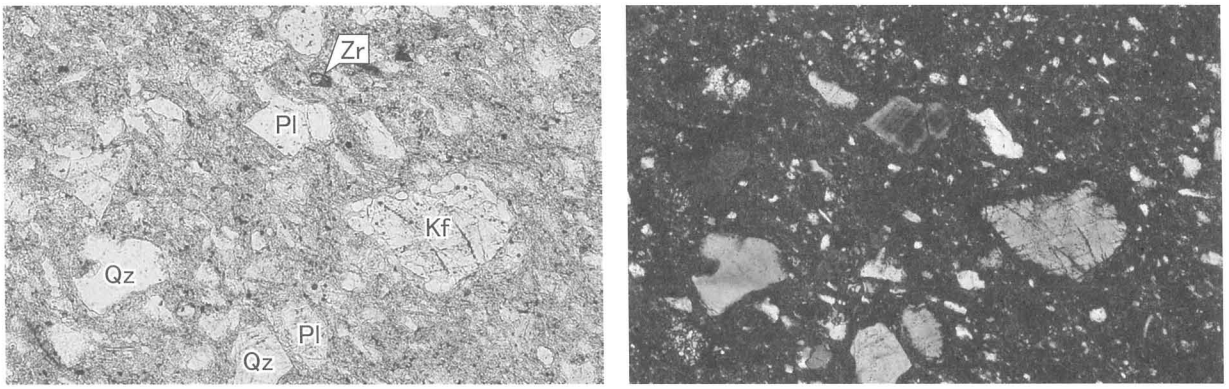
図版１　胎土薄片（１）



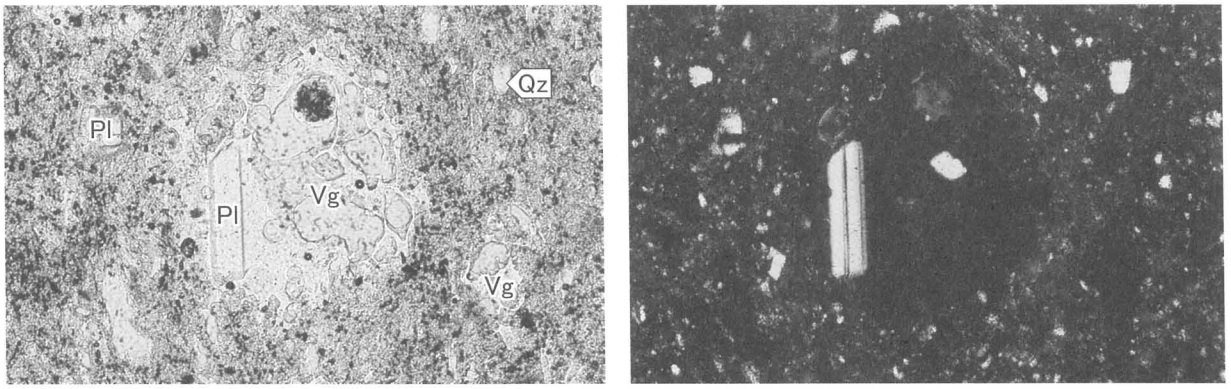

１．番号１(P93　灰釉陶器　碗　底部　D－２　旧耕作土)




２．番号２(P96　須恵器　坏身　底部(削り出し高台) C－２　旧耕作土)




３．番号5(P101　須恵器　蓋　頂部　C－２　撹乱・SX01)

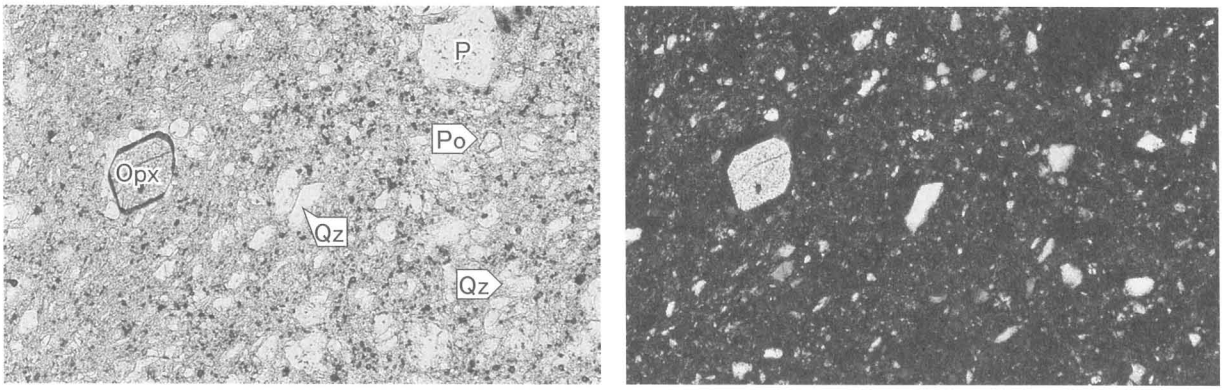



４．番号7(P193　須恵器　壺　頸部　C－２　SX03)

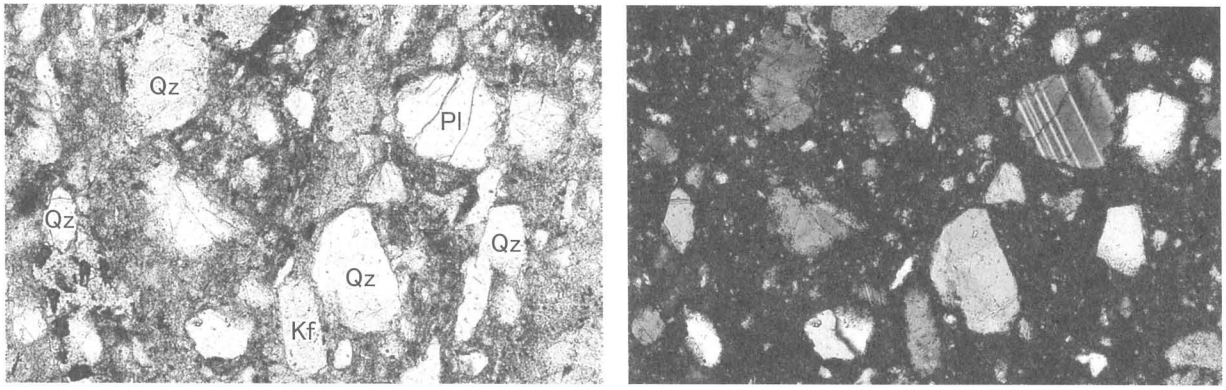
0.2mm

Qz：石英．Kf：カリ長石．Pl：斜長石．Zr：ジルコン．Che：チャート．Vg：火山ガラス．P：孔隙．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

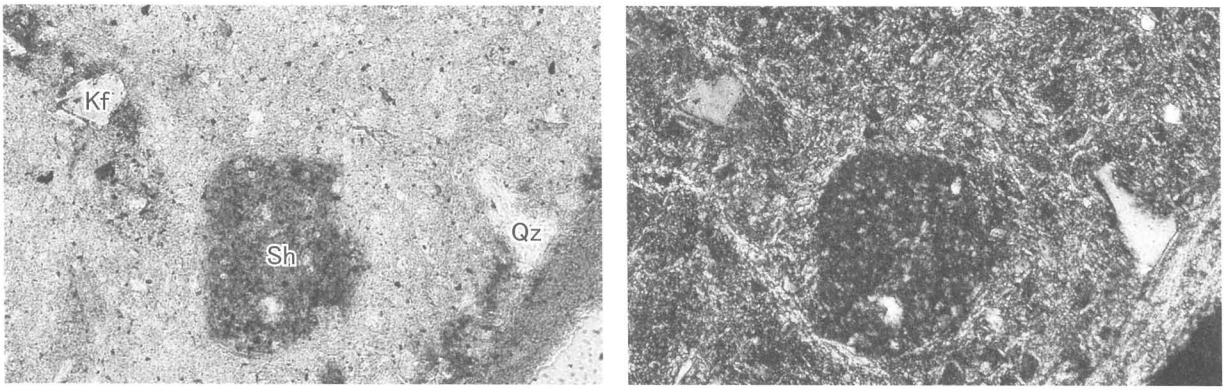
図版２　胎土薄片（２）



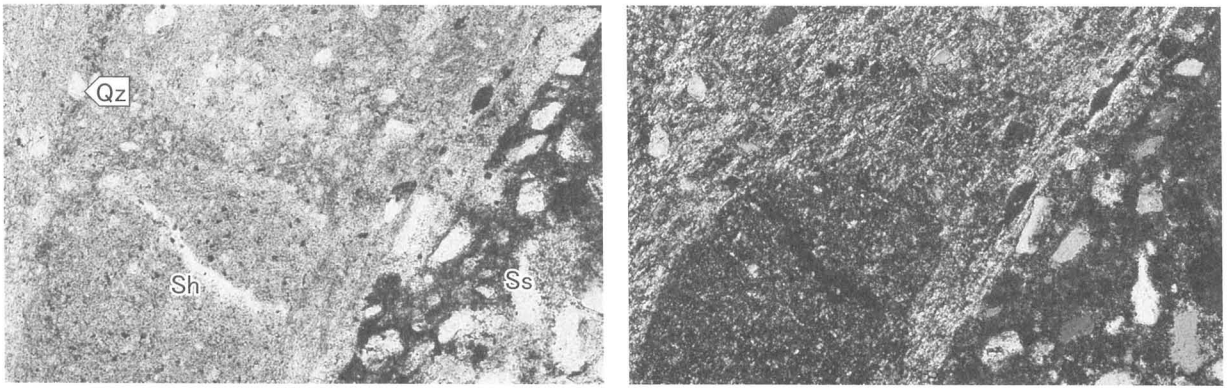

５．番号10（P221　須恵器　坏身　底部(無高台)　B－2）




６．番号14（P222　須恵器　坏身　底部（貼り付け高台）B－2）




７．番号16（粘土①　第５トレンチ内）




８．番号17（粘土②　第５トレンチ内）

0.2mm

Qz：石英．Kf：カリ長石．Pl：斜長石．Opx：斜方輝石．Sh：頁岩．Ss:砂岩．Po：植物珪酸体．P：孔隙．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

# 写　真　図　版

# 助宗古窯群・寺島大谷遺跡　カラー図版１

1. 助宗古窯群全景

2. 寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳全景

# カラー図版２　寺島大谷１号墳

寺島大谷１号墳主体部全景（東から）

1. 助宗古窯群ＳＸ01出土遺物

2. 寺島大谷遺跡遺構外出土遺物

# カラー図版４　寺島大谷１号墳

寺島大谷１号墳出土鉄製品

# 助宗古窯群　図版１

1. 助宗古窯群遠景（南西から）

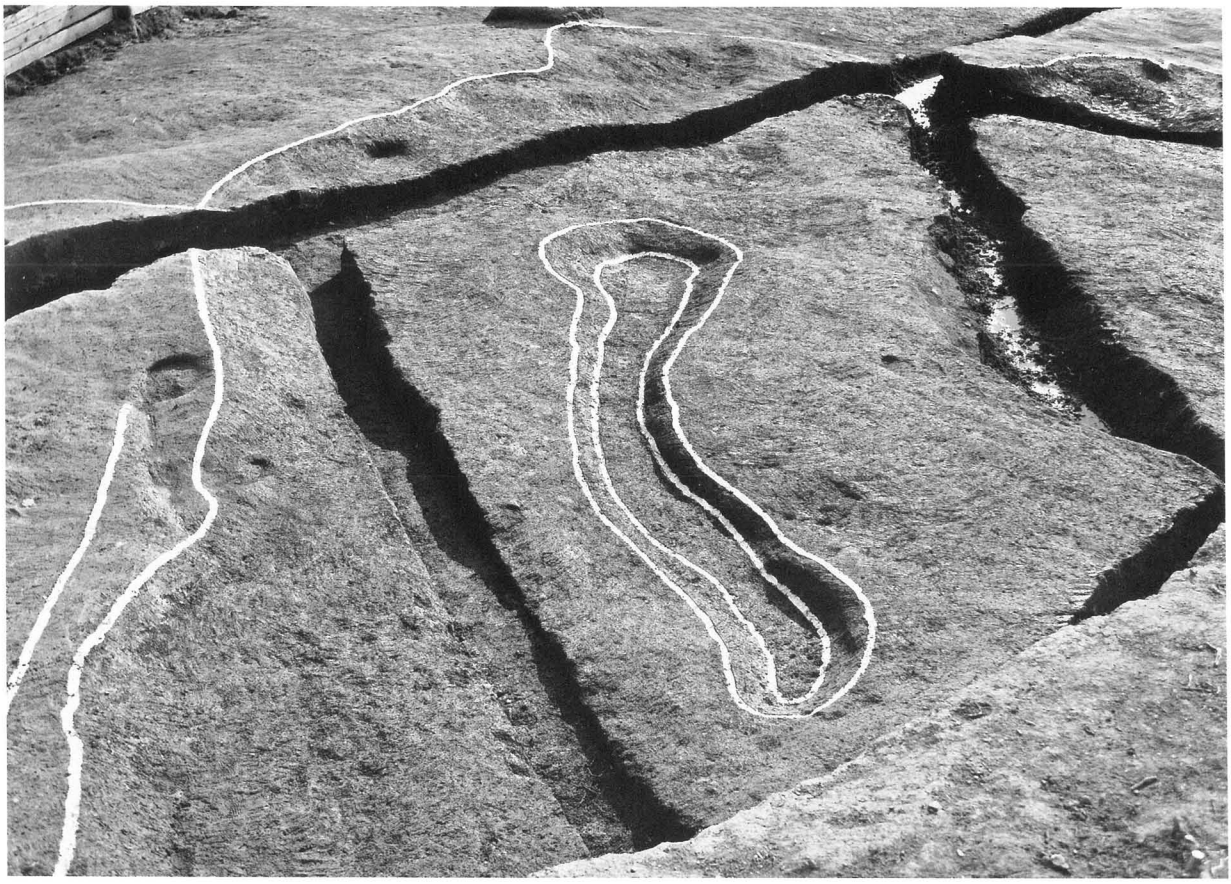
2. 調査区全景トレンチ完掘状況

# 図版 2　助宗古窯群

1. 調査区全景（南東から）

2. 調査区全景（北東から）

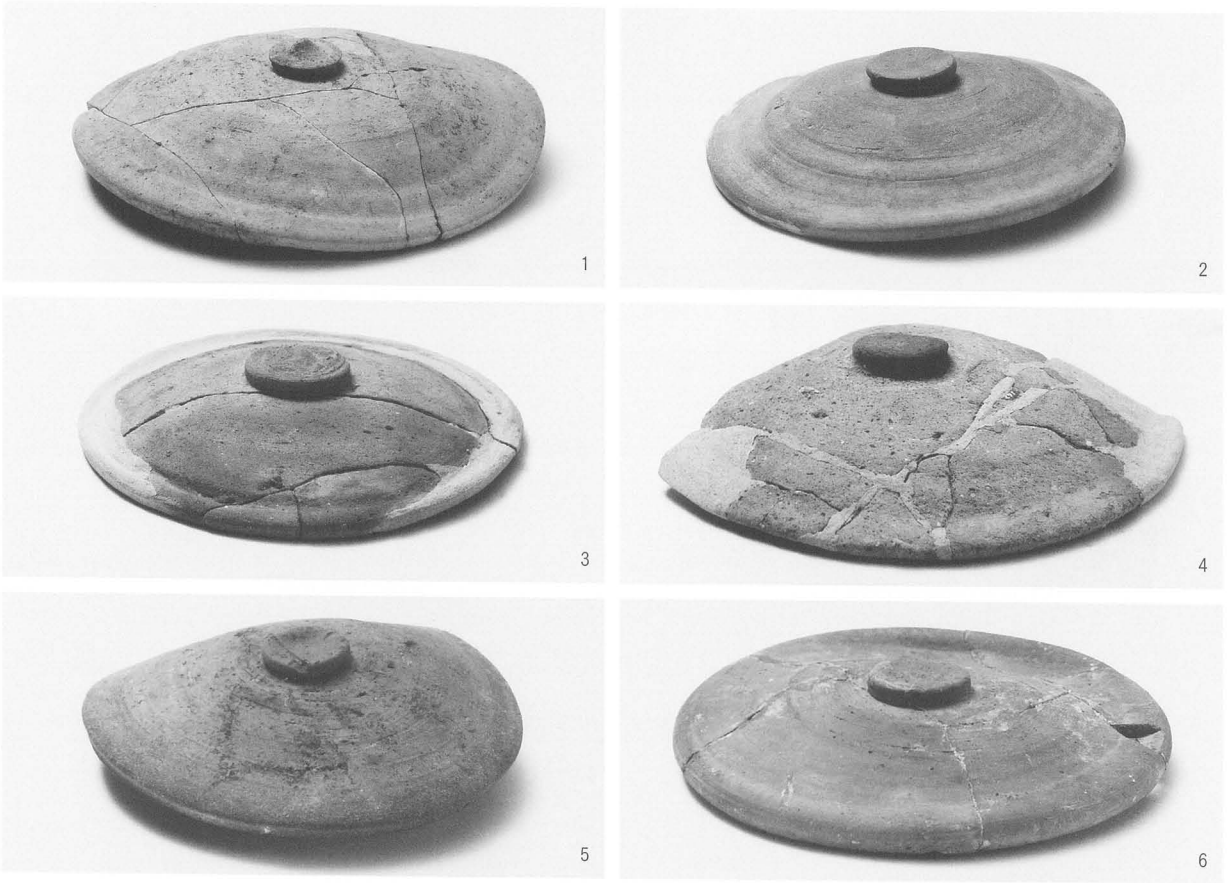
1. ＳＨ01検出状況



2. ＳＸ04検出状況

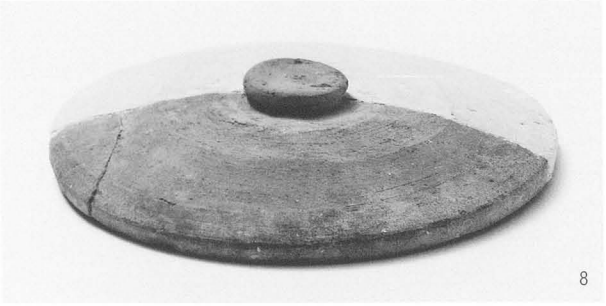
# 図版 4　助宗古窯群

1. ＳＸ01遺物出土状況




2. ＳＸ01出土遺物

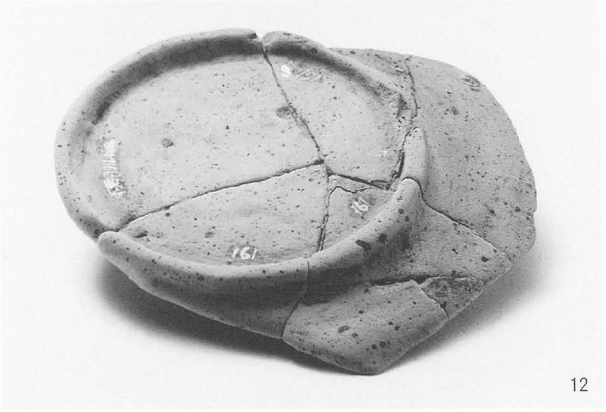
7

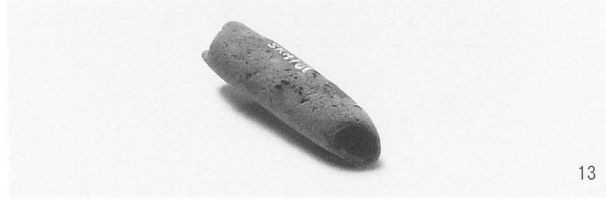

8

9

10

11

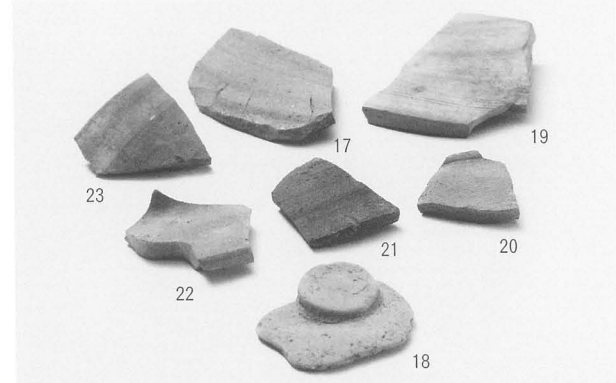

12


13

1. ＳＸ01出土遺物

14

15



16

2. ＳＨ01出土遺物

3. ＳＸ03出土遺物

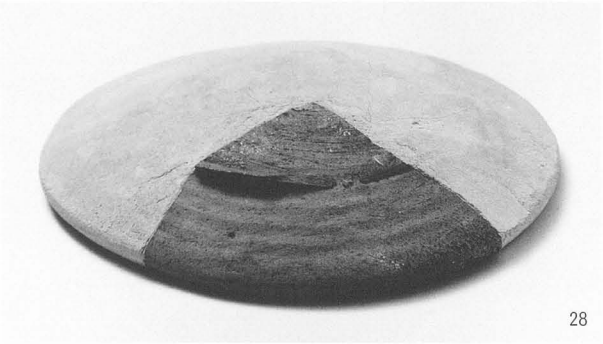
# 図版 6　助宗古窯群

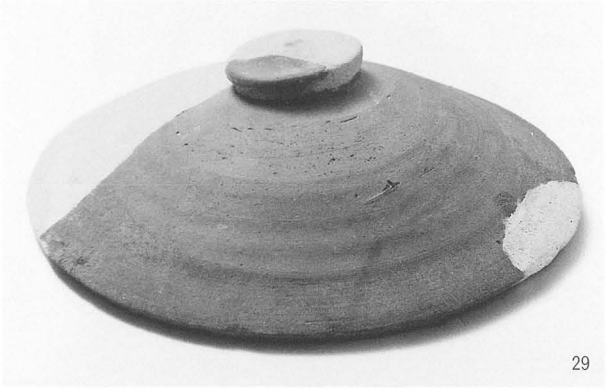
24

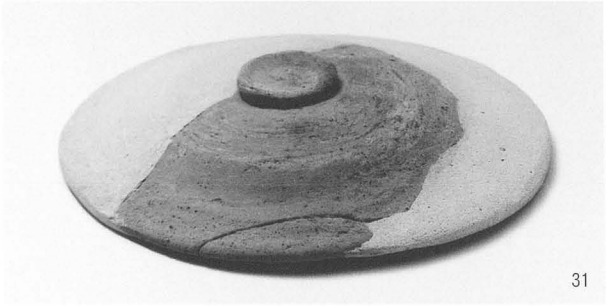
26

25

27


28


29


31

32

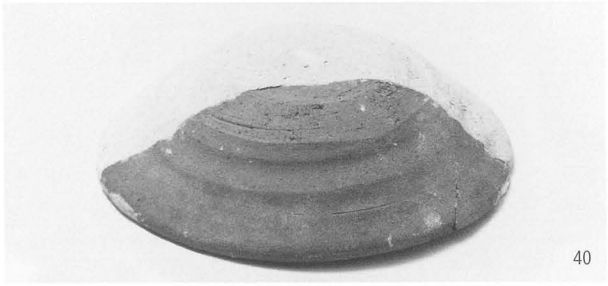
33

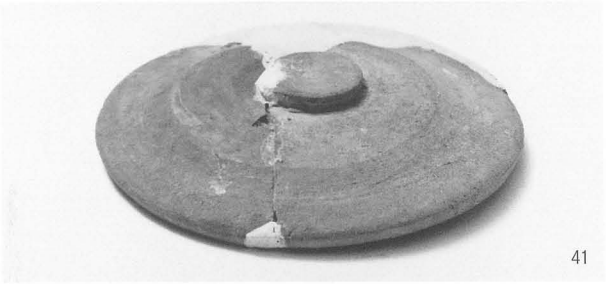
34

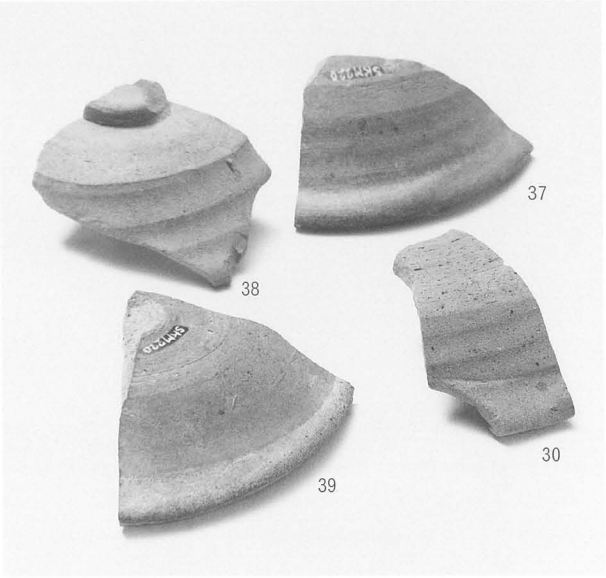
43

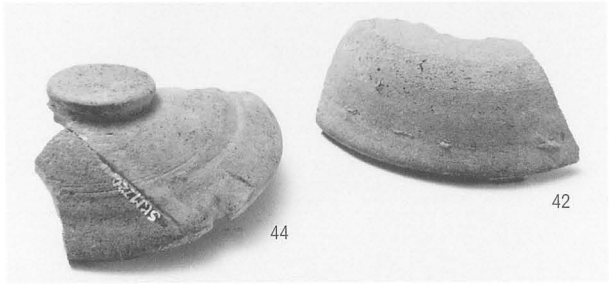
灰原出土遺物 1

35


40


41


37
38
39
30


44
42

45

67

58

60

64

66

灰原出土遺物 2

# 図版 8　助宗古窯群

灰原出土遺物 3 （内面）

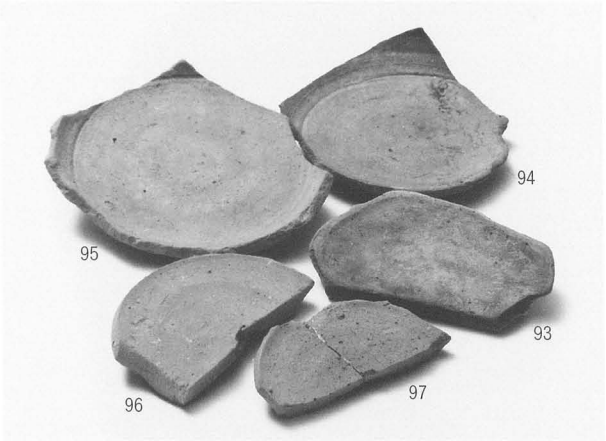
灰原出土遺物 3 （外面）

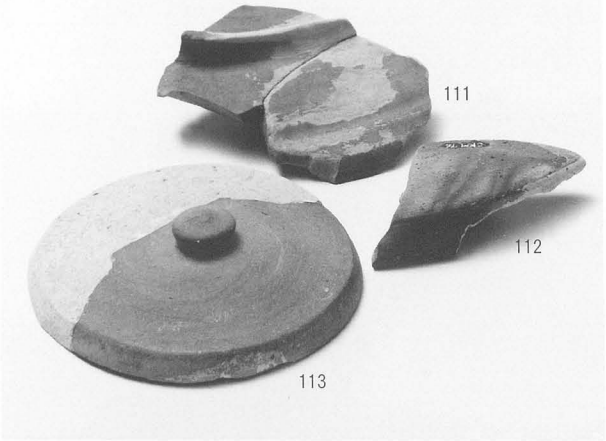
65

68

80
72
75
83

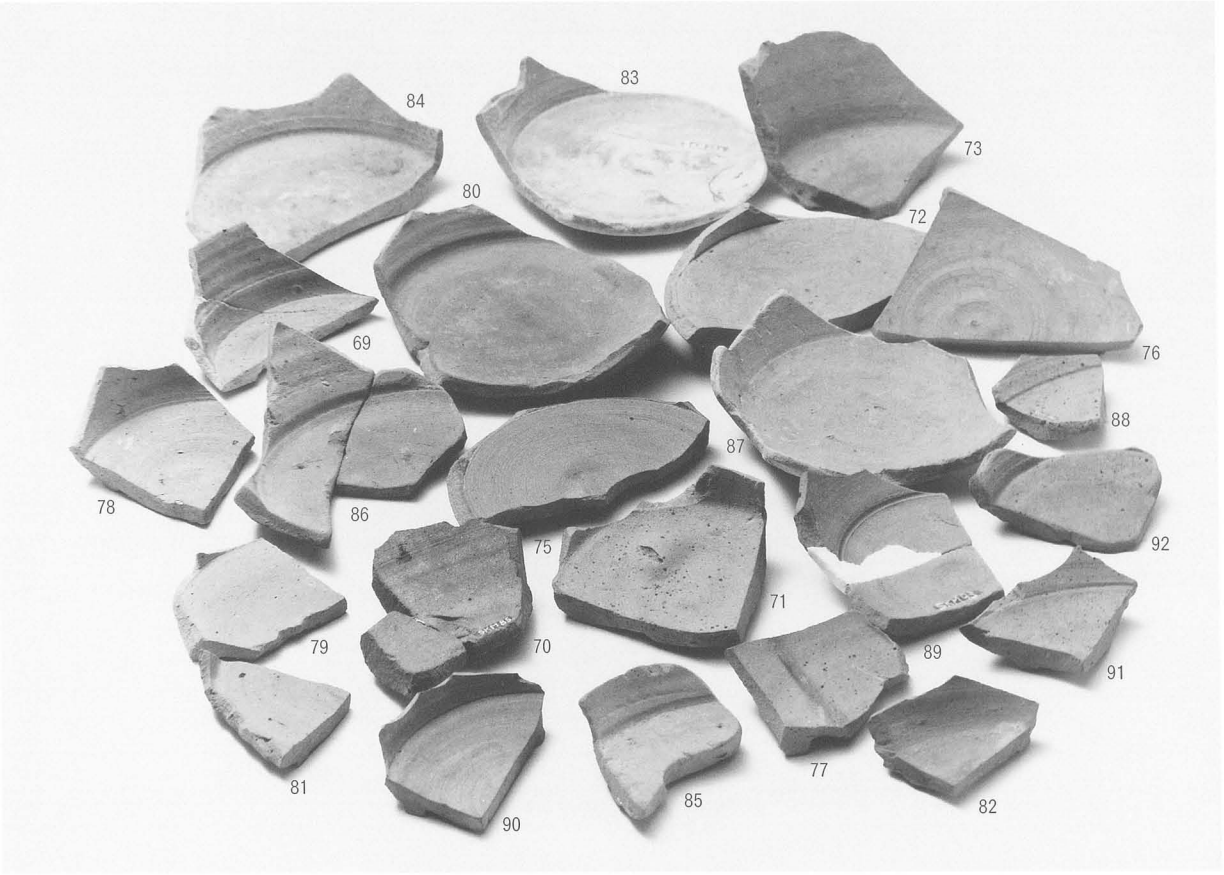
74


94
95
93
96
97


111
112
113

灰原出土遺物 4

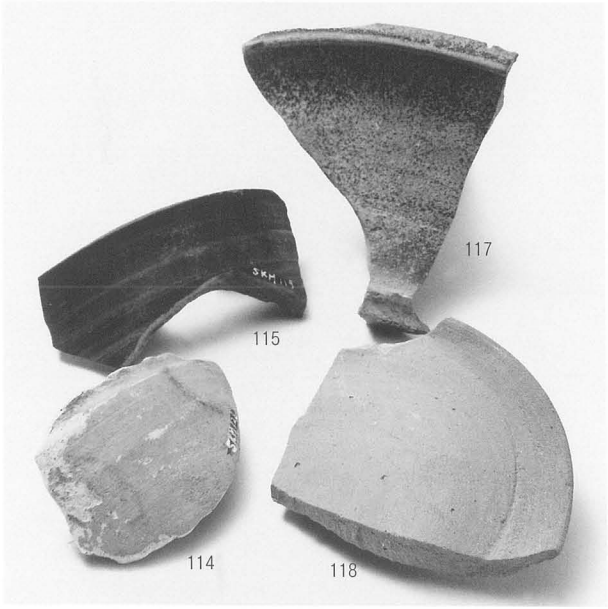
# 図版10　助宗古窯群




灰原出土遺物５（内面）

灰原出土遺物５（外面）

98
103
106
102
109
99
105
101
110
104
108
100
107


117
115
114
118

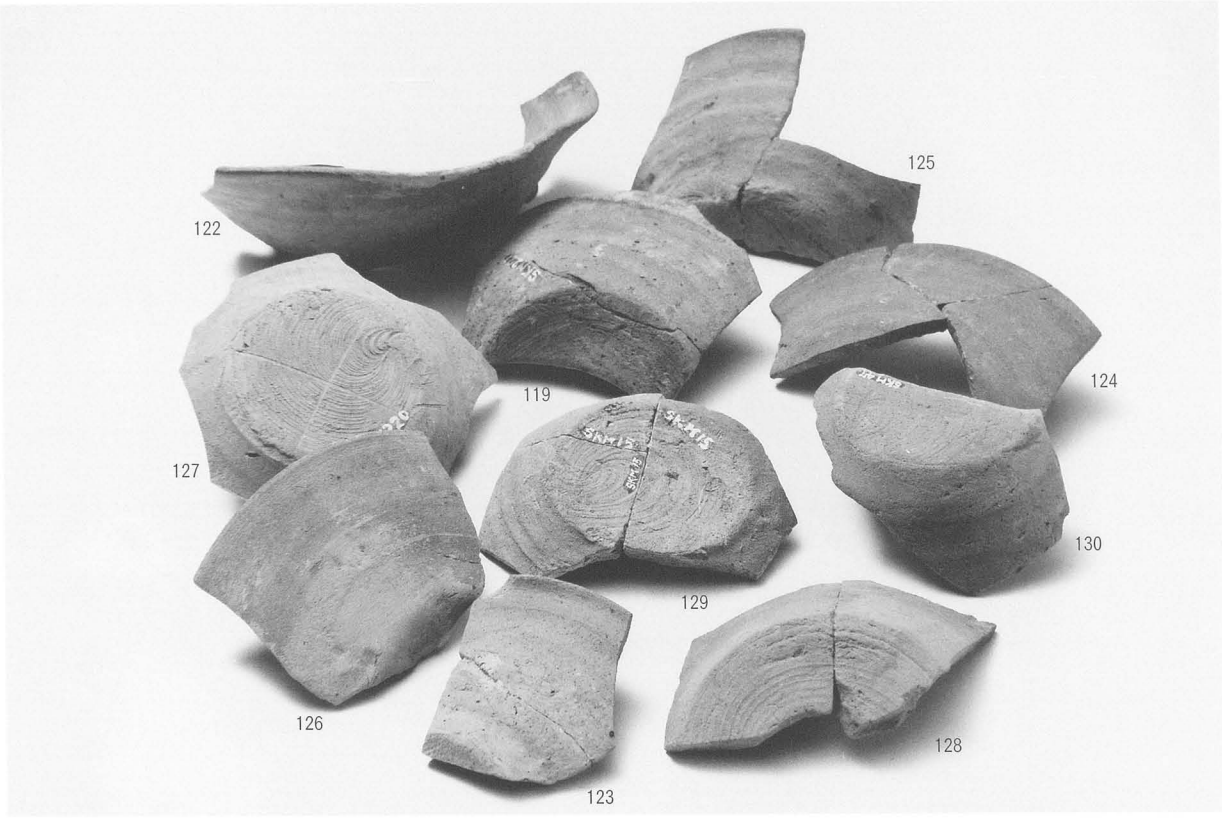
116

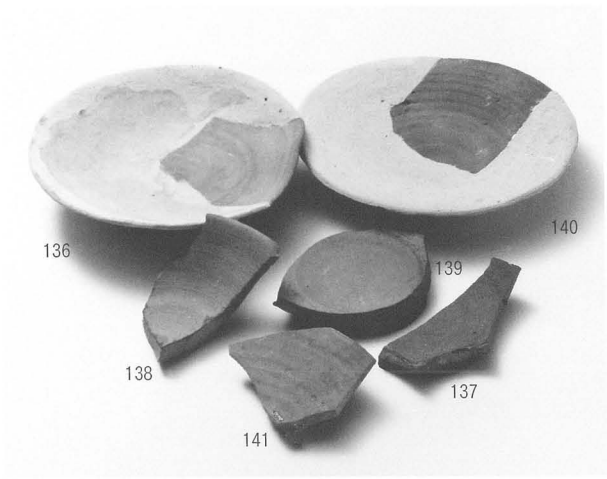
121

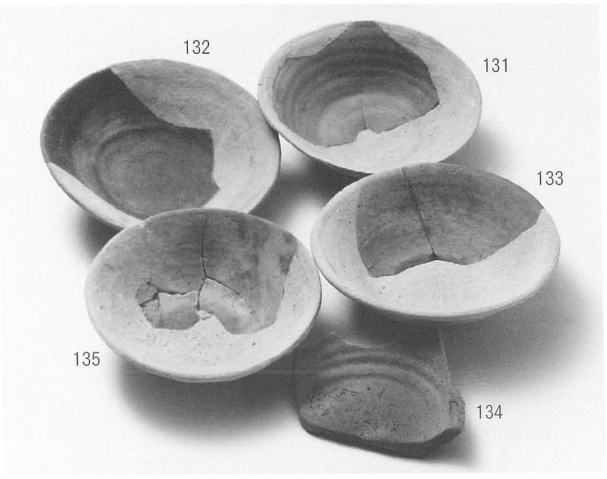
202

灰原出土遺物 6

# 図版12　助宗古窯群

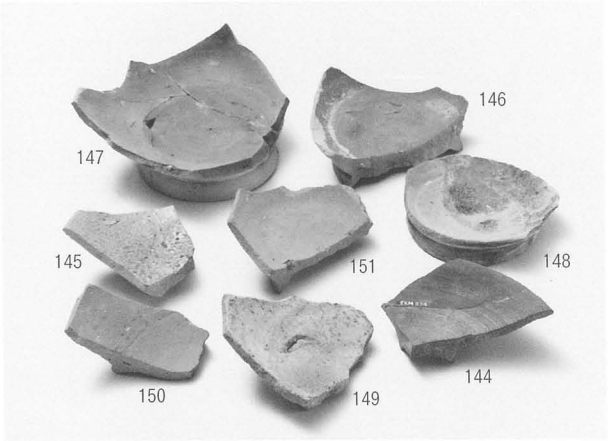


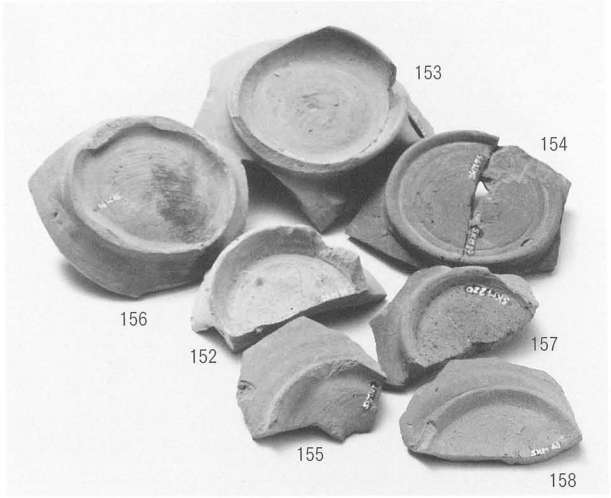



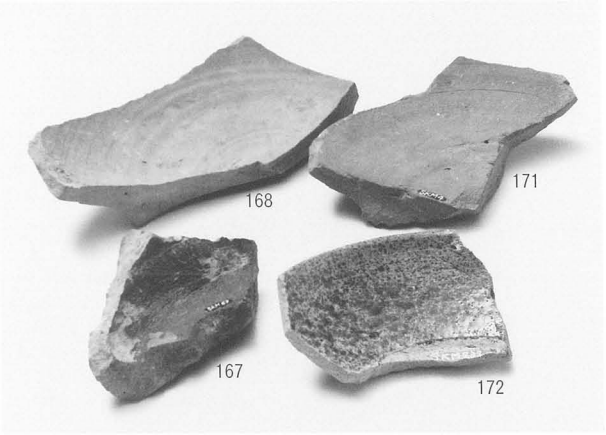
灰原出土遺物 7

142
143

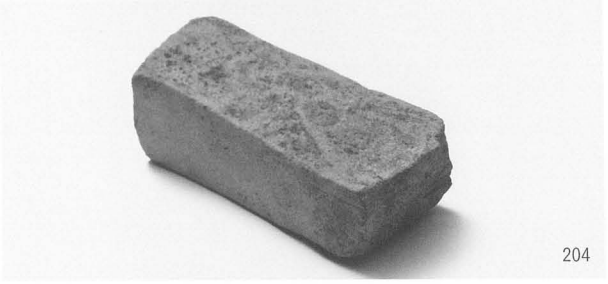

146
147
145
151
148
144
150
149


153
154
156
152
157
155
158

159
161
163
166
164
165
160
162


168
171
167
172

170
169


204

203

灰原出土遺物 8

# 図版14　寺島大谷遺跡

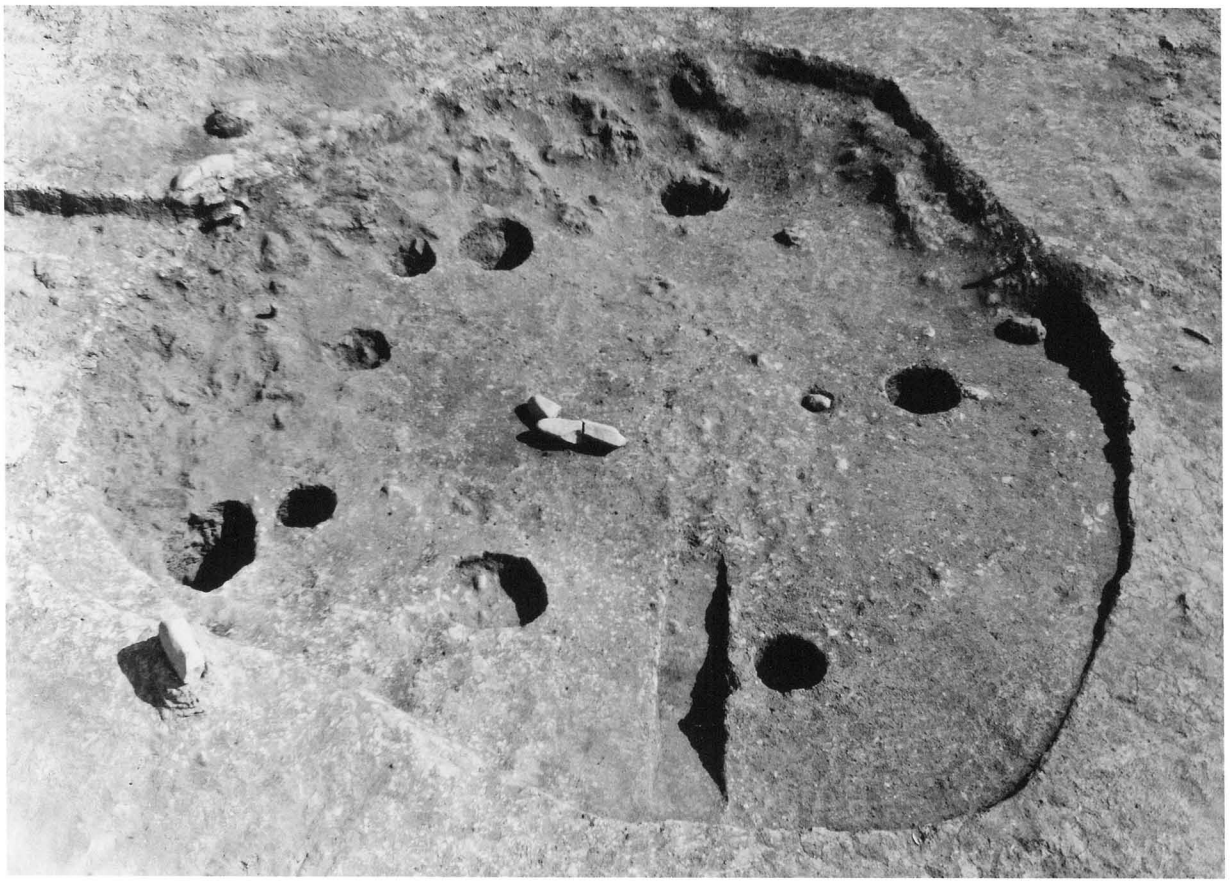
1. 遠景

2. 調査区対象地区丘陵部遠景

1. ＳＨ05完掘状況（南東から）

2. ＳＨ05完掘状況（北から）

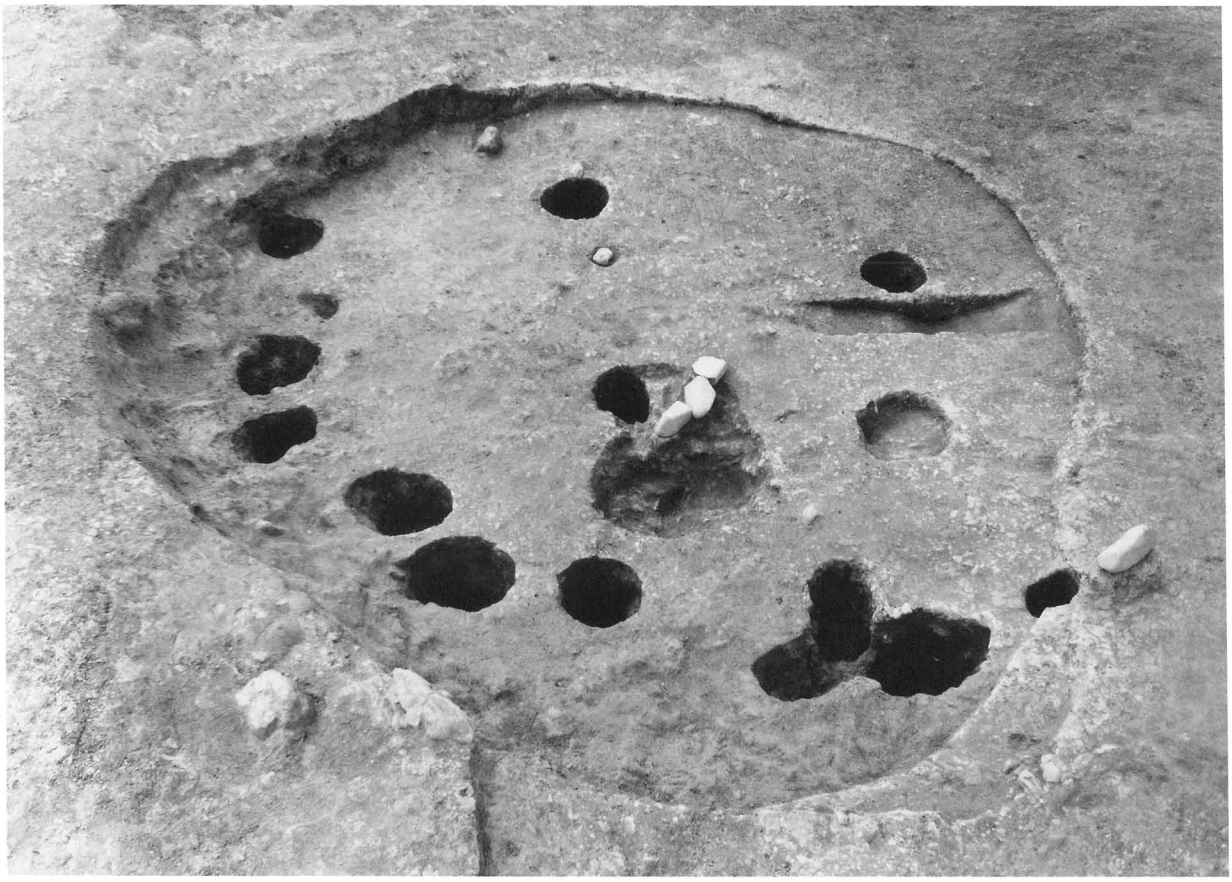
# 図版16　寺島大谷遺跡



1. ＳＨ12完掘状況（北から）

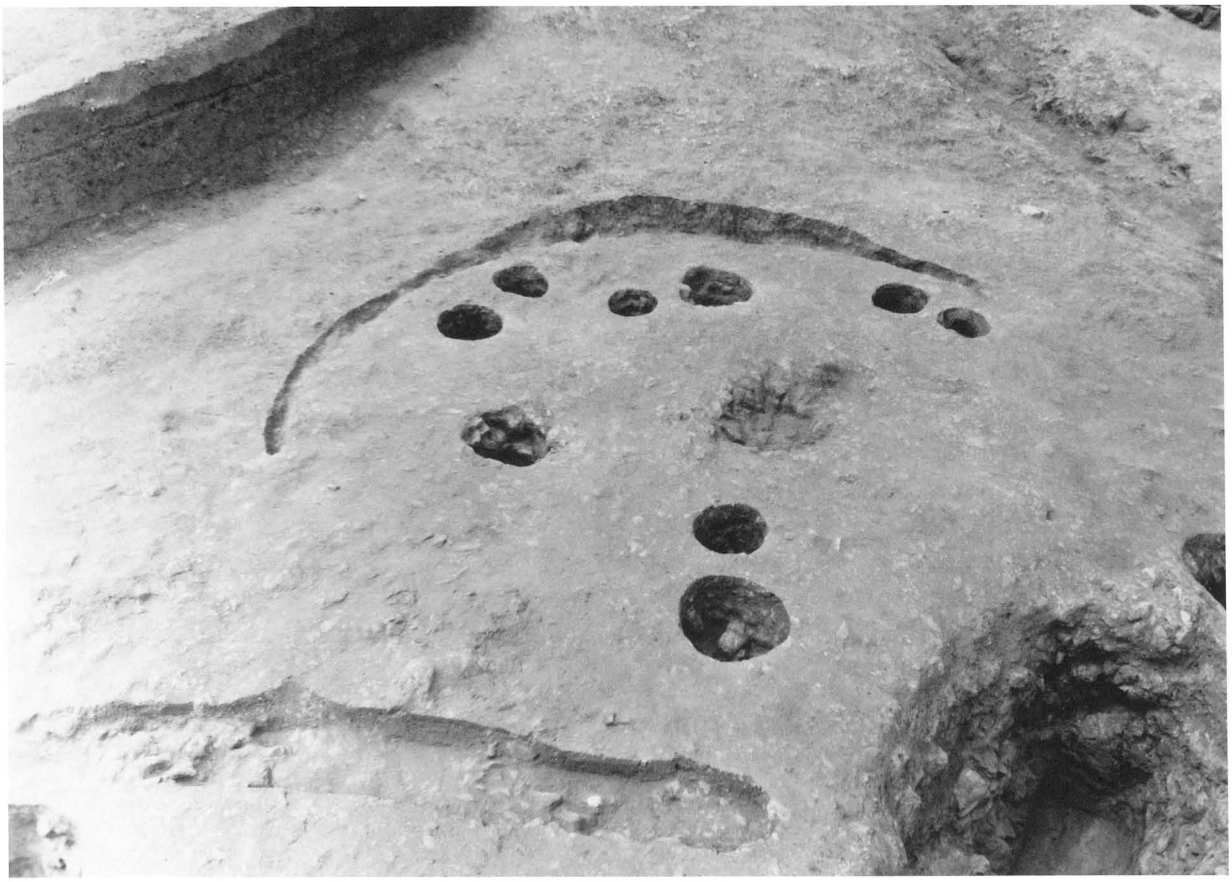
2. ＳＨ12石器・礫・石錘出土状況（南から）

1. ＳＨ12炭化材検出状況（北から）



2. ＳＨ12完掘状況（東から）

# 図版18　寺島大谷遺跡



1. ＳＨ14完掘状況（北東から）

2. ＳＨ01壁溝ＳＤ10検出状況（東から）

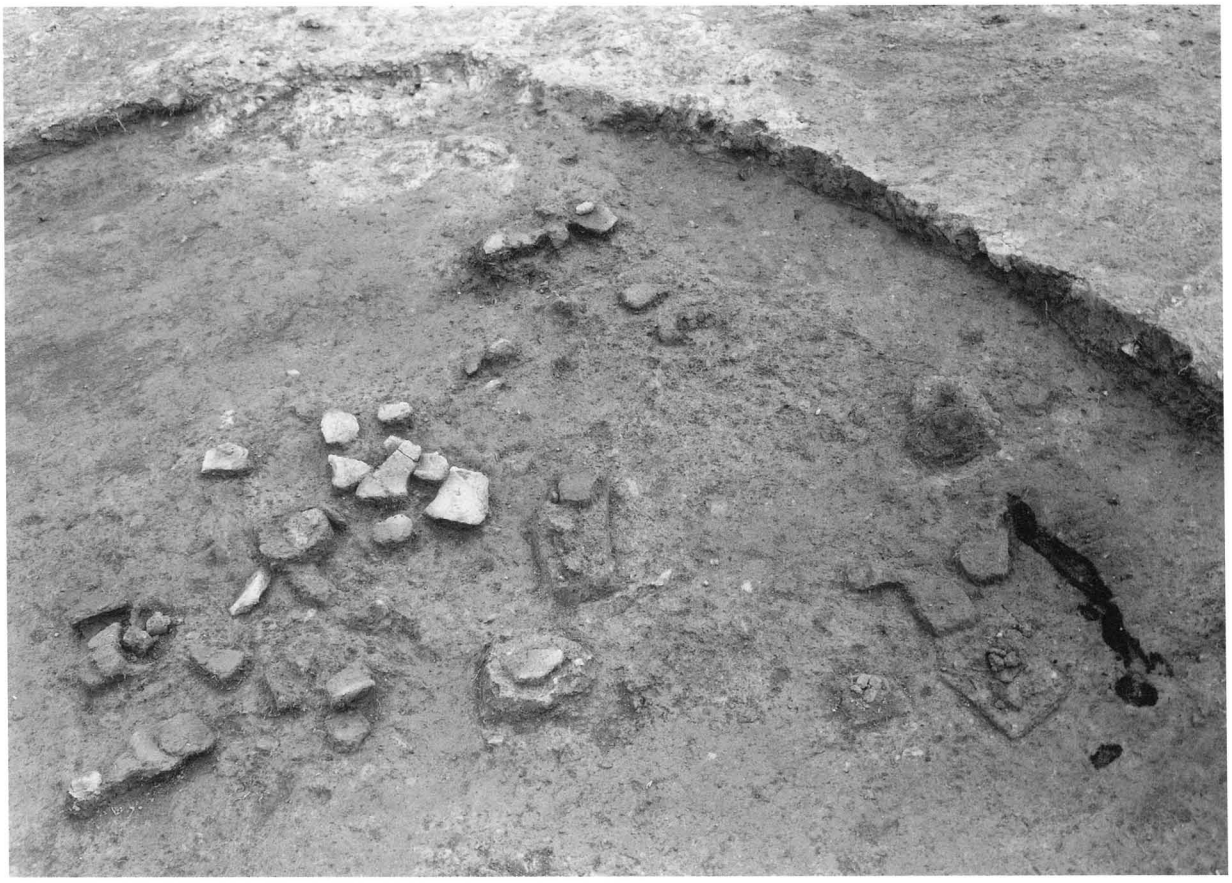
1. ＳＨ01・02遺物出土状況（南から）

2. ＳＨ01・02完掘状況（西から）

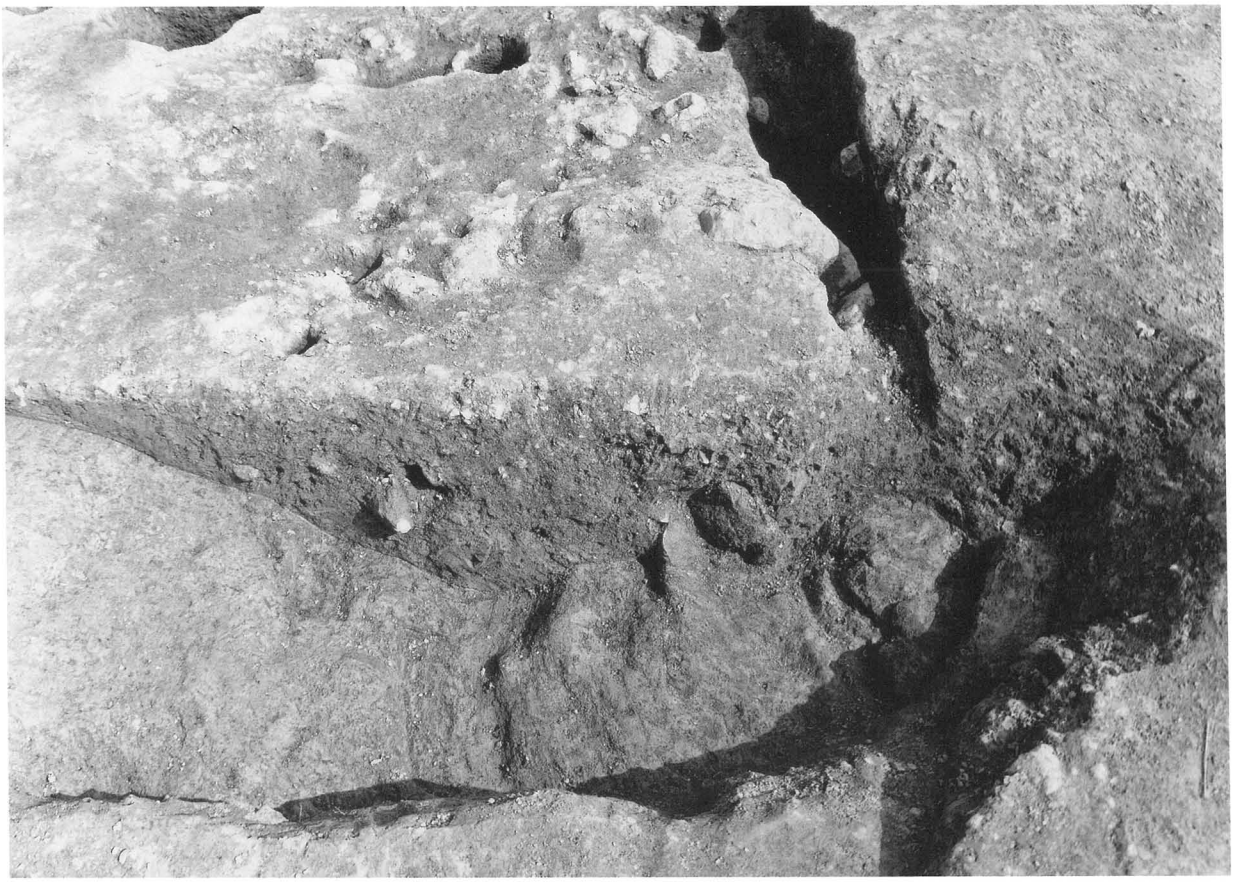
# 図版20　寺島大谷遺跡

1. ＳＨ01・02・03完掘状況（南から）

2. ＳＨ01～05・11完掘状況遠景（南から）

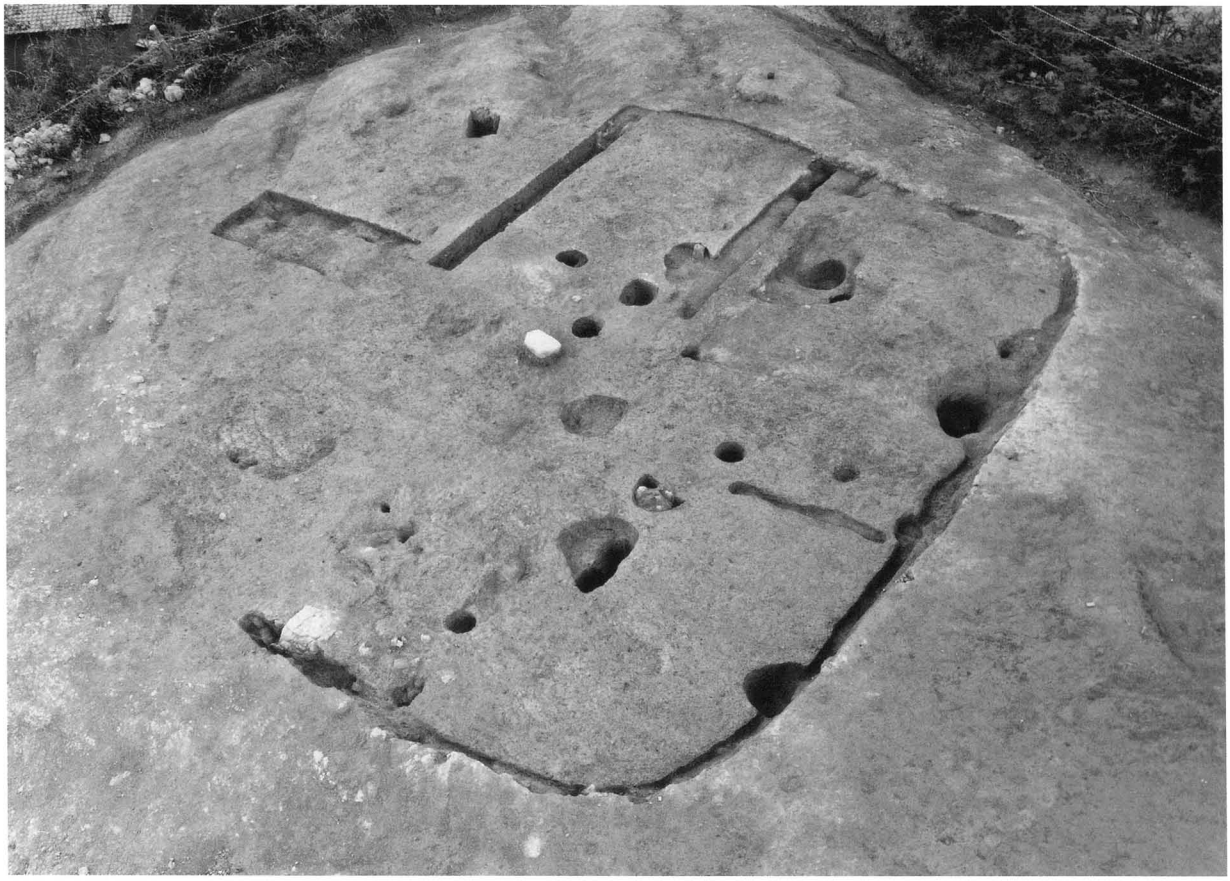


1. ＳＨ03南東隅土器出土状況（西から）



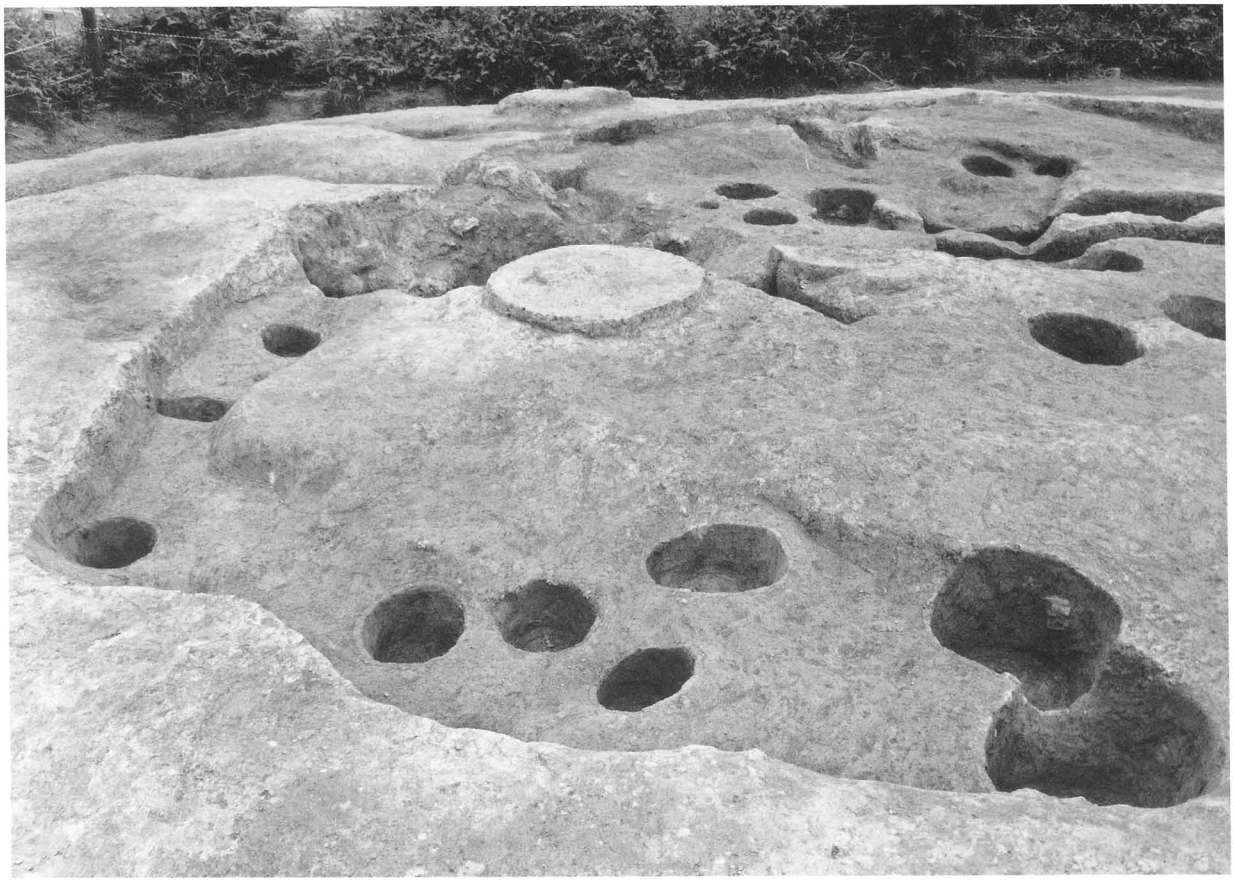
2. ＳＨ03内ＳＫ75半截状況（北から）

# 図版22　寺島大谷遺跡



1. ＳＨ03検出状況（南から）

2. ＳＨ03・04・11完掘状況（南から）

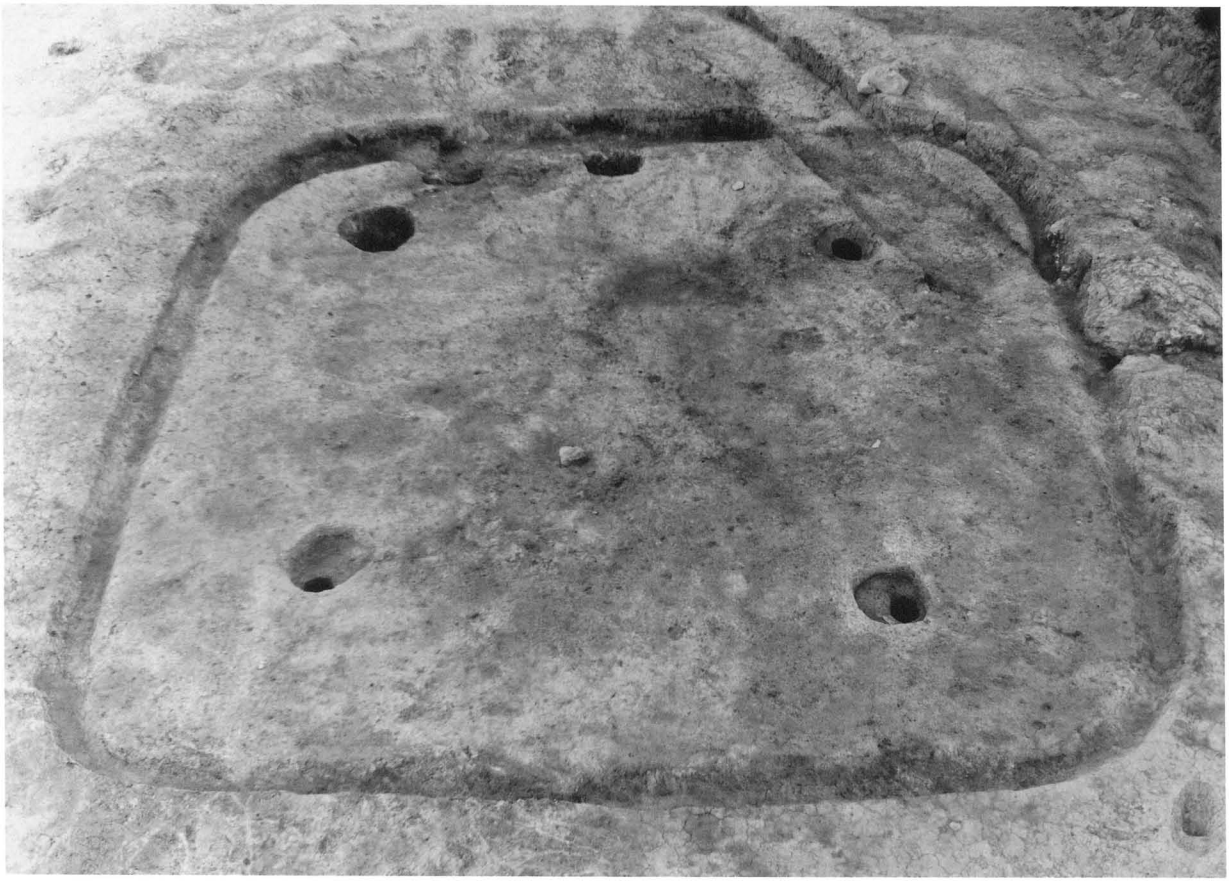


1. ＳＨ11ピット検出状況（西から）

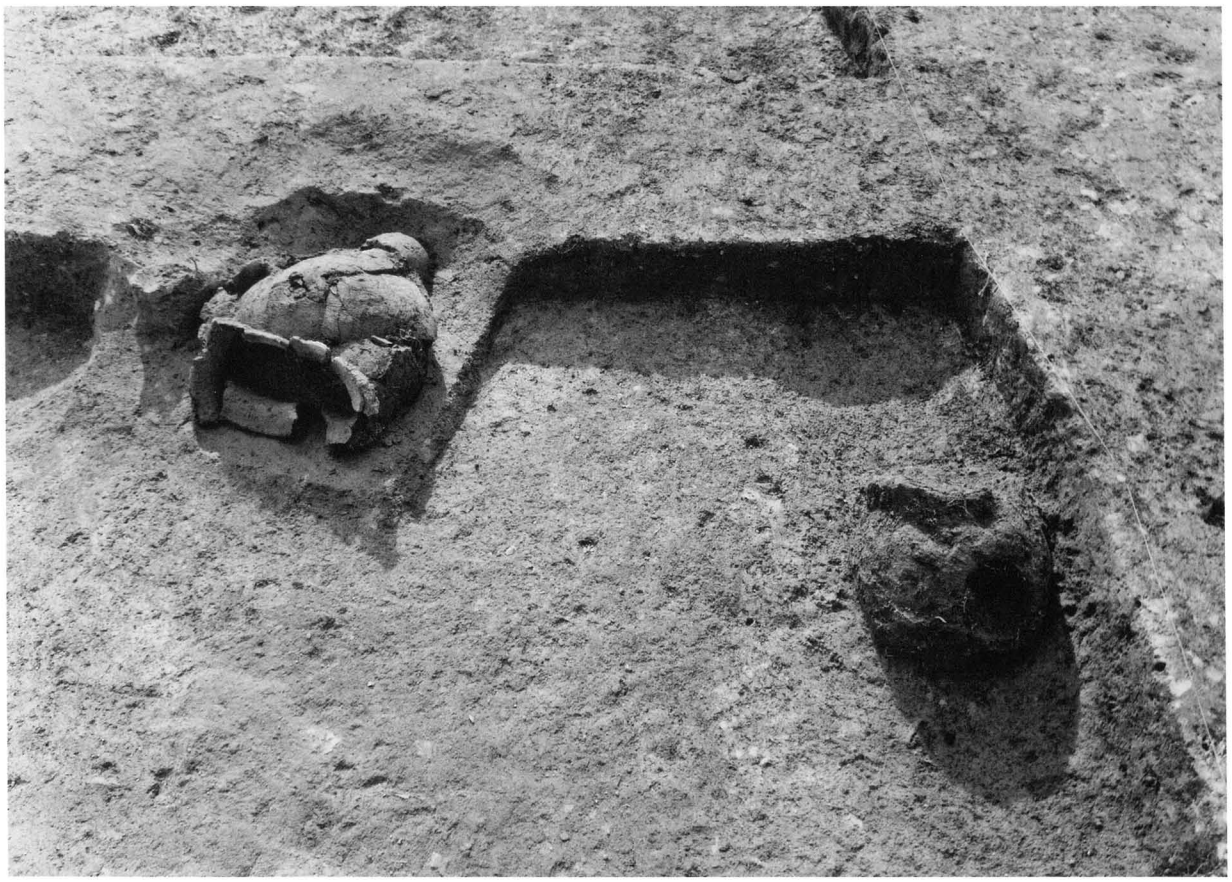
2. ＳＨ06完掘状況（南から）

# 図版24　寺島大谷遺跡

1. ＳＨ07炭化材検出状況（西から）



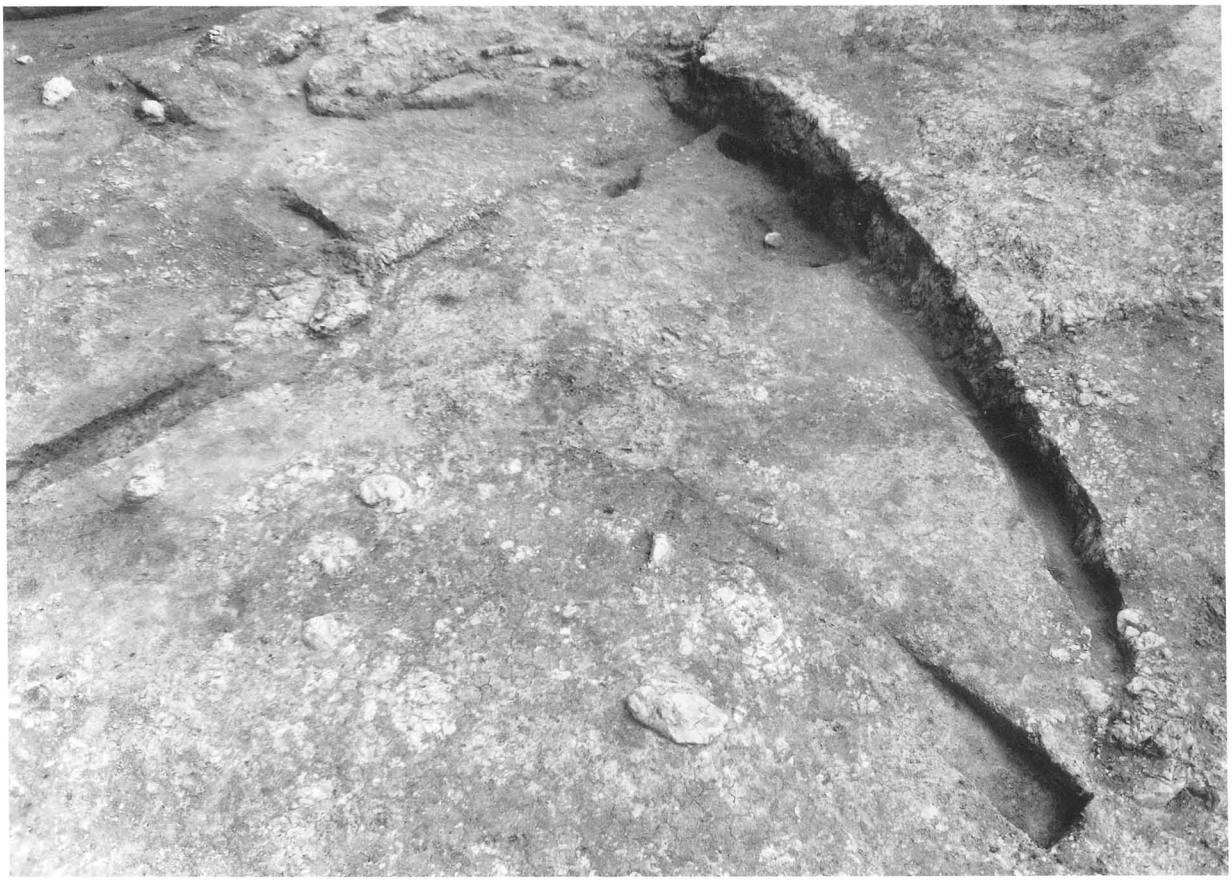
2. ＳＨ07完掘状況（西から）



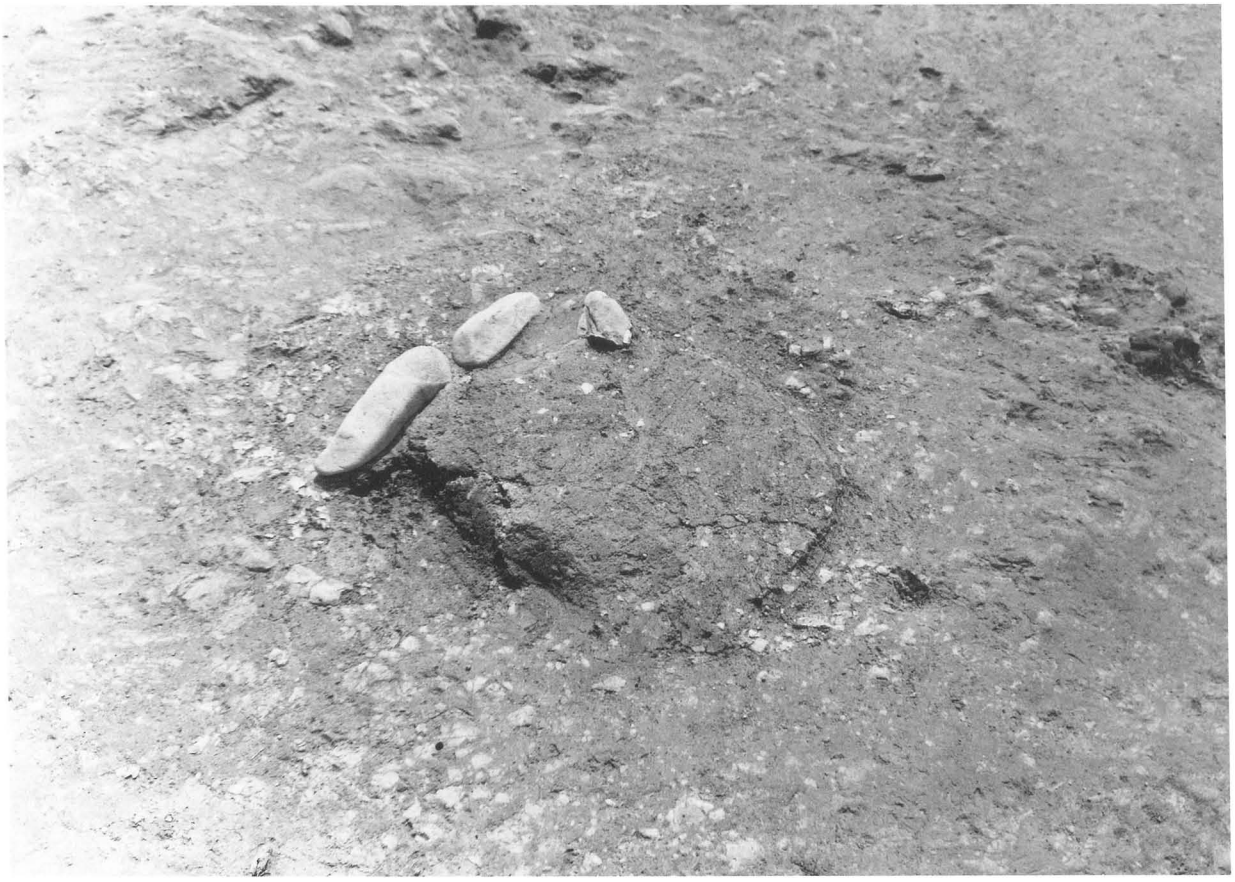
1. ＳＨ07土器出土状況（西から）

2. ＳＨ07・08完掘状況（北東から）

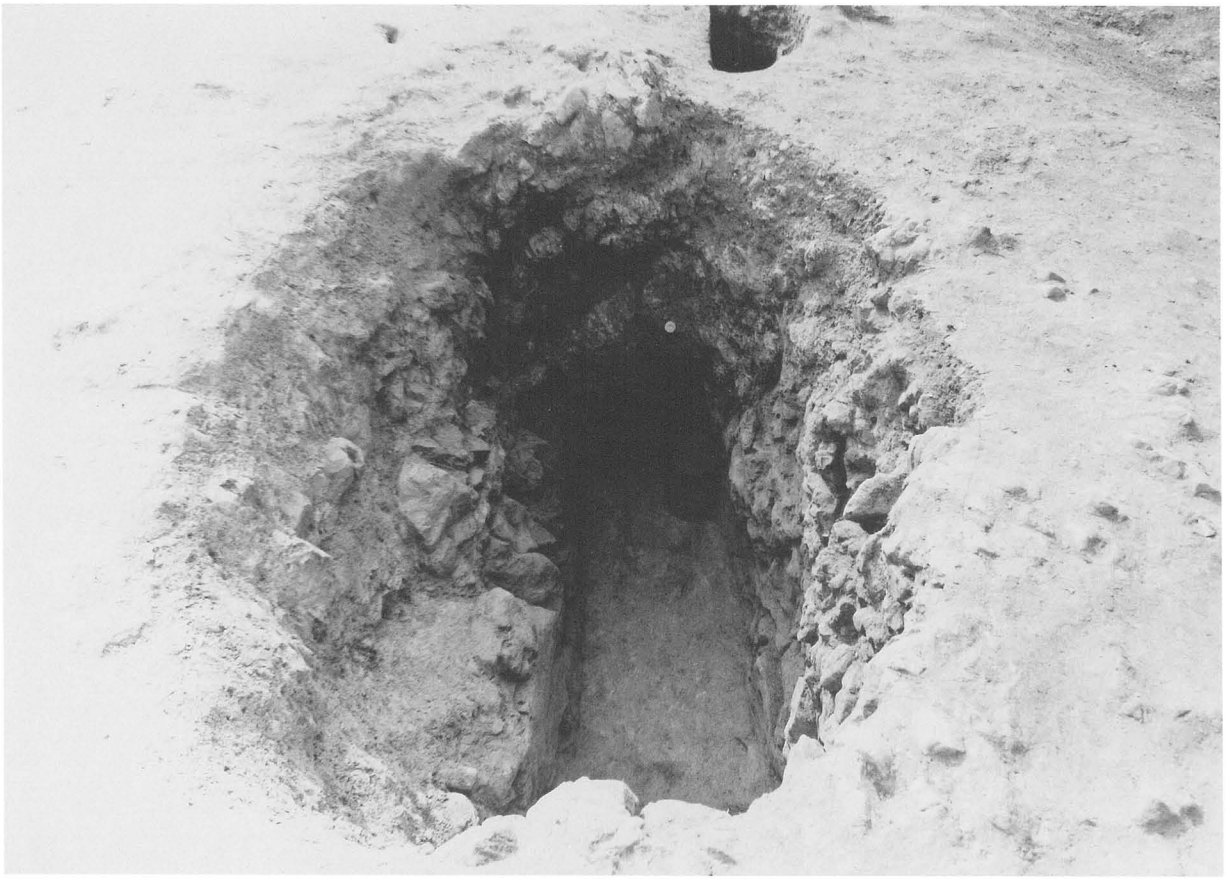
# 図版26　寺島大谷遺跡



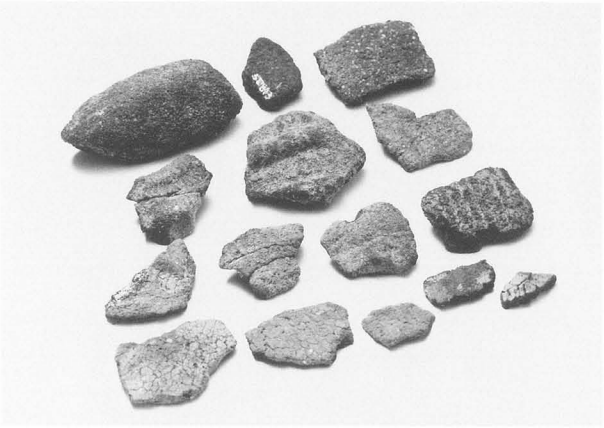
1. ＳＨ09完掘状況（北から）



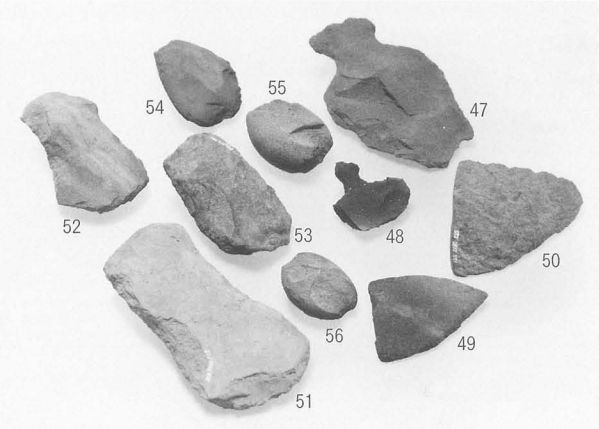
2. ＳＨ13炉跡検出状況（北東から）



1. ＳＫ160土器出土状況（北東から）



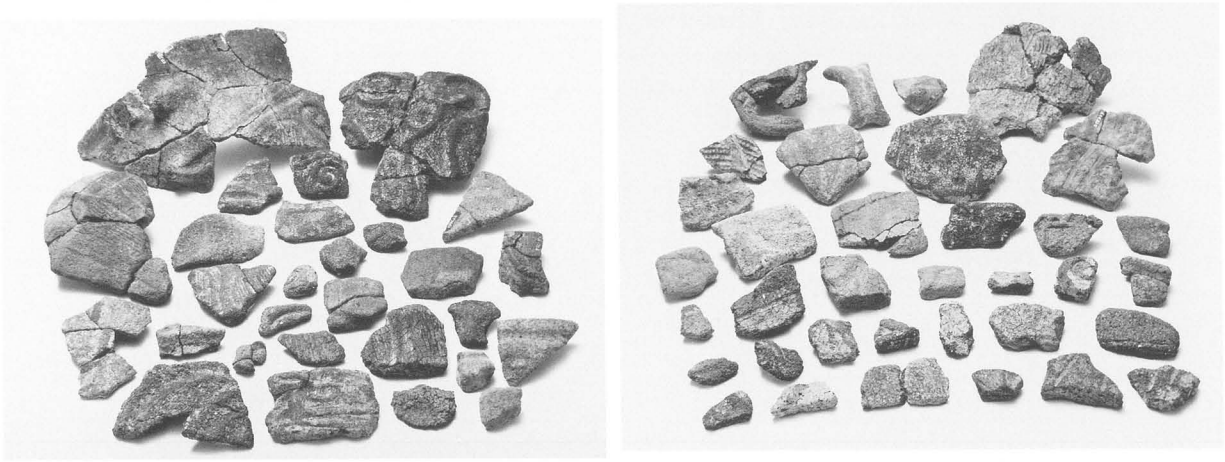
2. ＳＨ05出土遺物

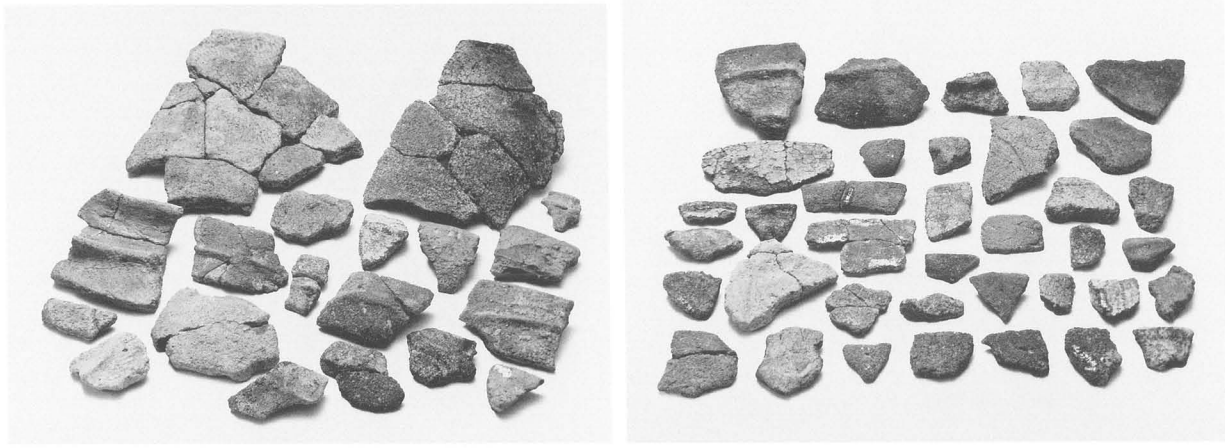


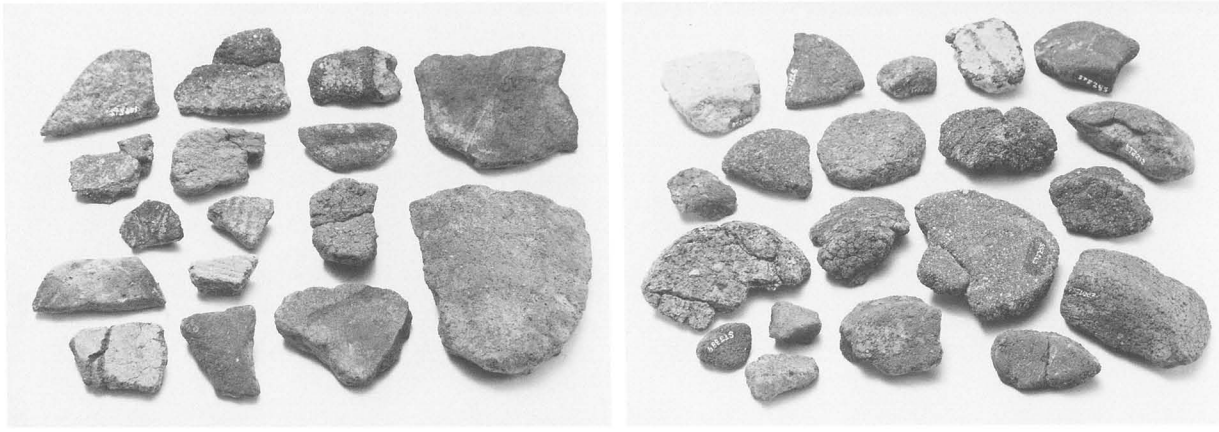

3. ＳＨ12出土遺物

# 図版28　寺島大谷遺跡

1. ＳＨ01・遺構外出土縄文土器

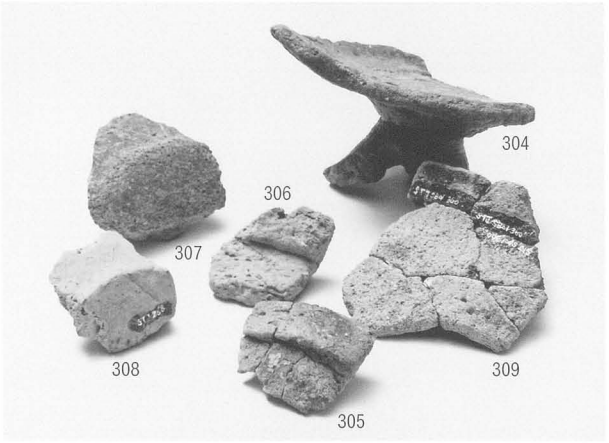




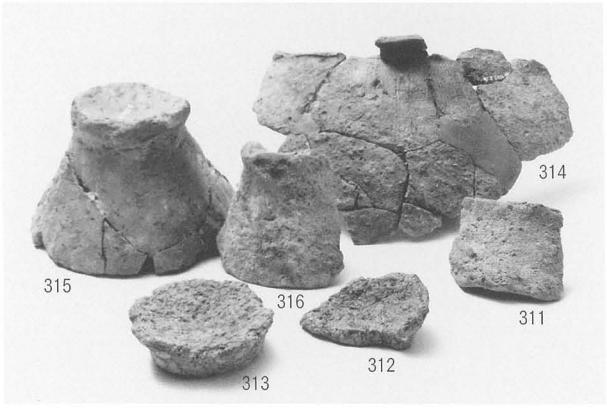


2. 遺構外出土縄文土器

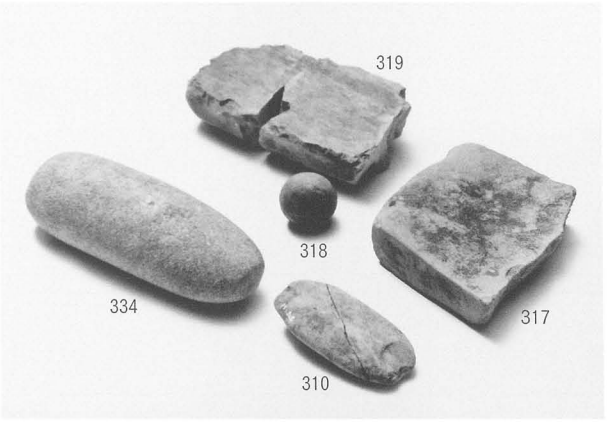
1. 遺構外出土縄文土器



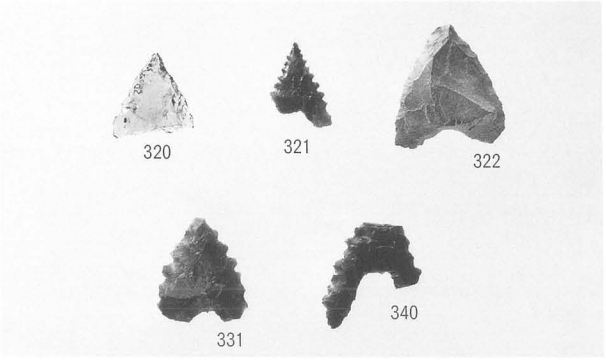

2. ＳＨ01出土土器




3. ＳＨ03出土土器




4. ＳＨ01・ＳＨ03出土石器



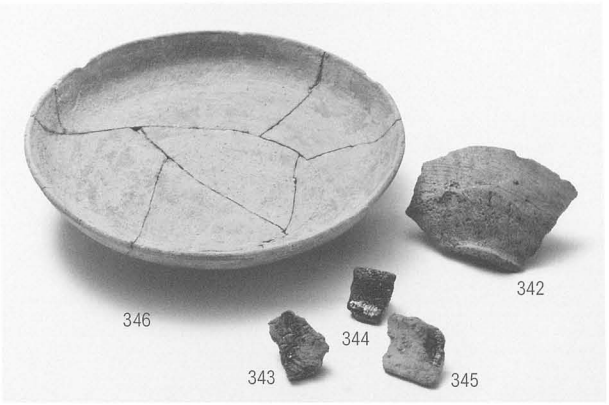

5. ＳＨ03・07・09出土石鏃

6. ＳＨ07出土土器

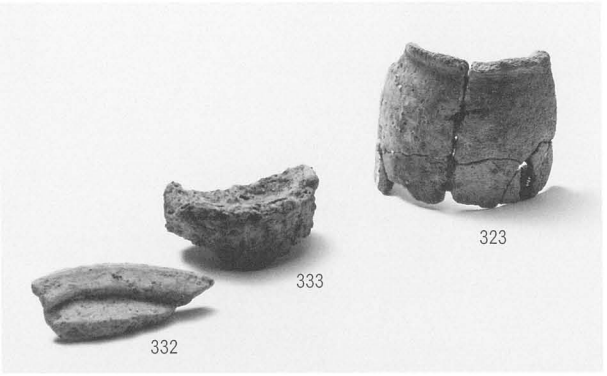
# 図版30　寺島大谷遺跡

1. ＳＨ07出土土器

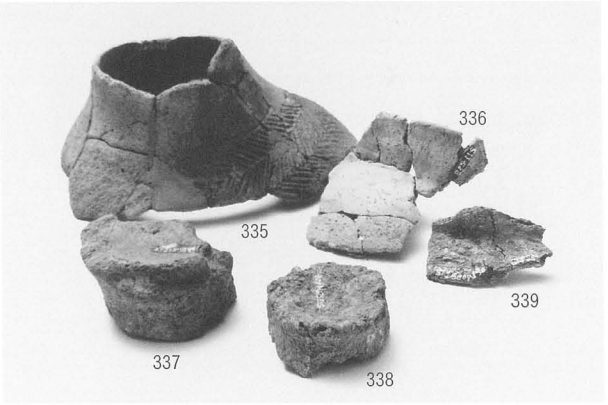
4. ＳＨ13出土土器



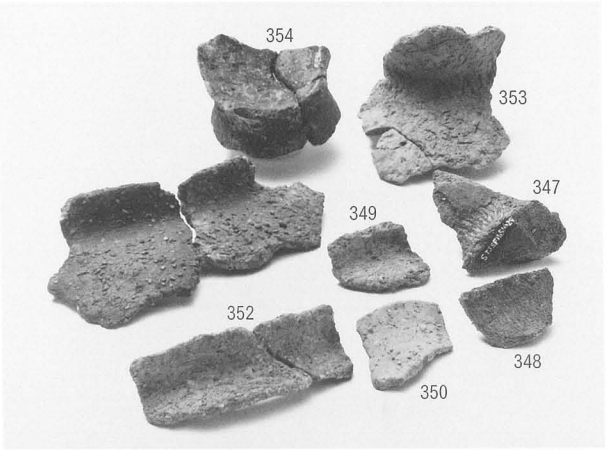

5. ＳＫ160出土土器



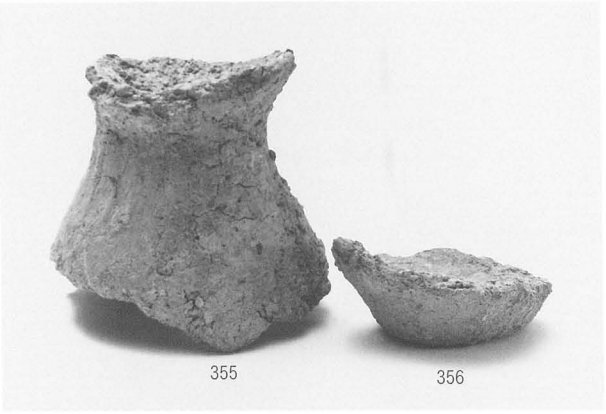

2. ＳＨ08出土土器




3. ＳＨ09出土土器



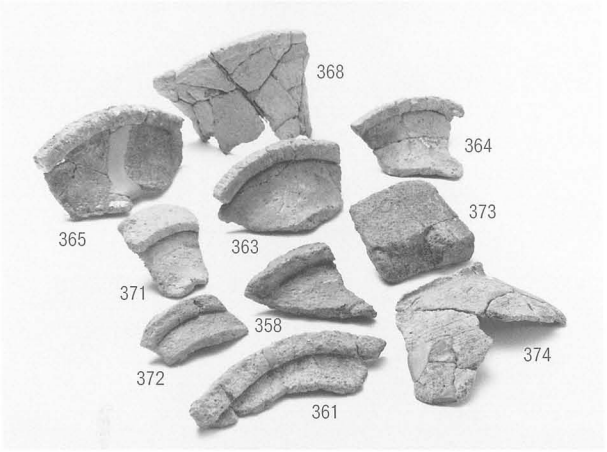

6. ＳＫ165出土土器

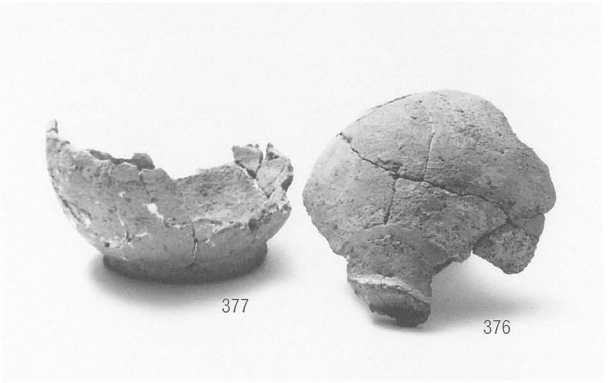



7. ＳＰ32・ＳＰ49出土土器

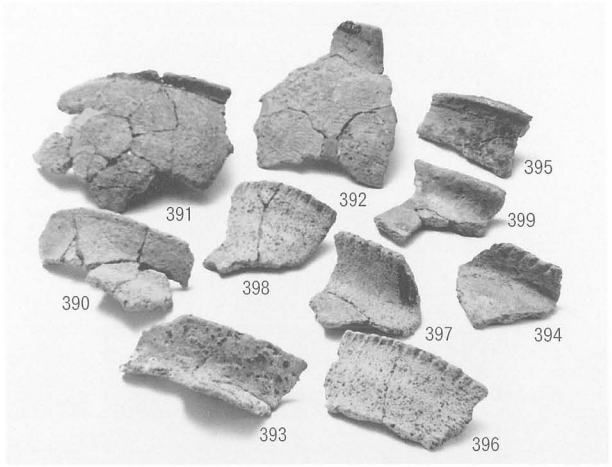
366
359
362

369
370
360
367

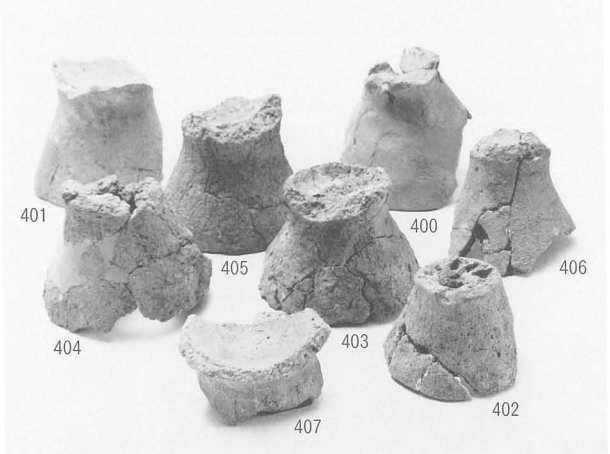

368
364
365
373
363
371
358
374
372
361


377
376

375


395
391
392
399
390
398
397
394
393
396

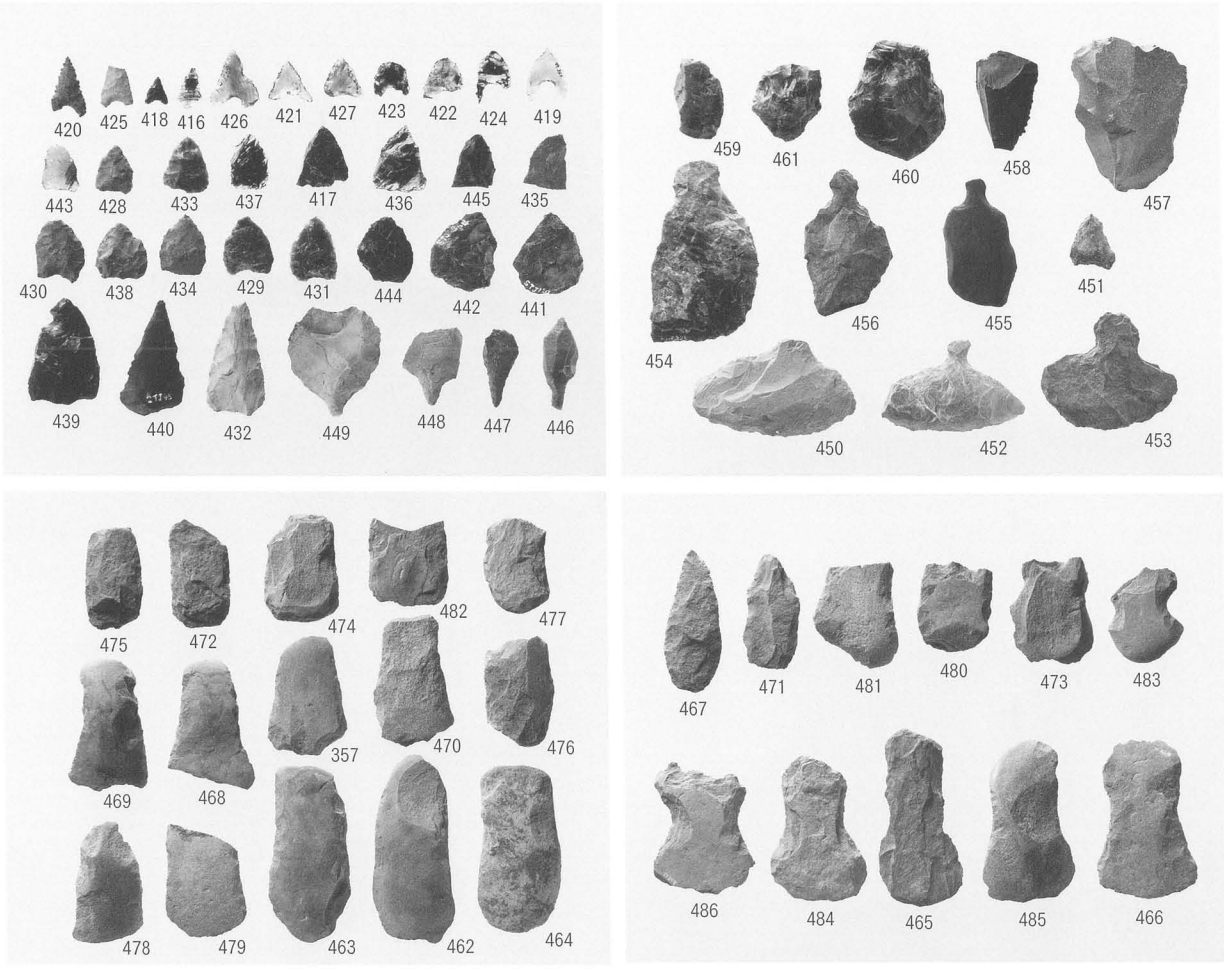
379


401
400
405
406
404
403
402
407

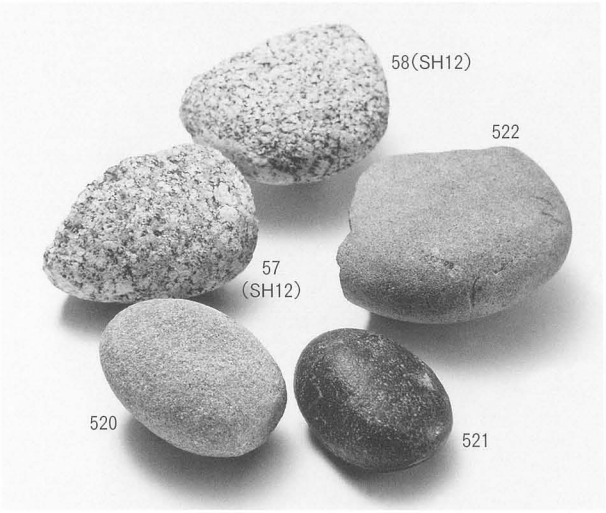
遺構外出土土器

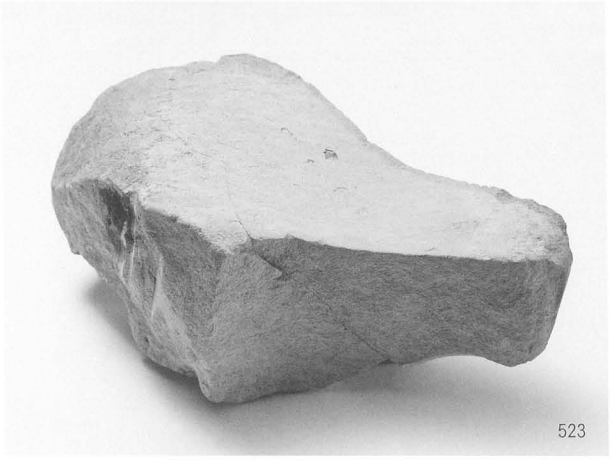
# 図版32　寺島大谷遺跡

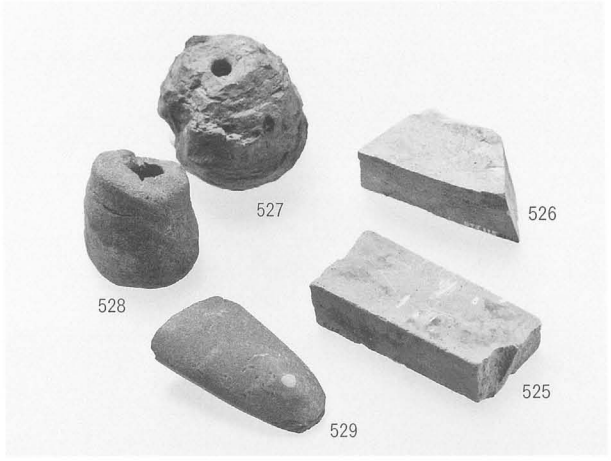
1. 遺構外出土土器




2. 遺構外出土石器



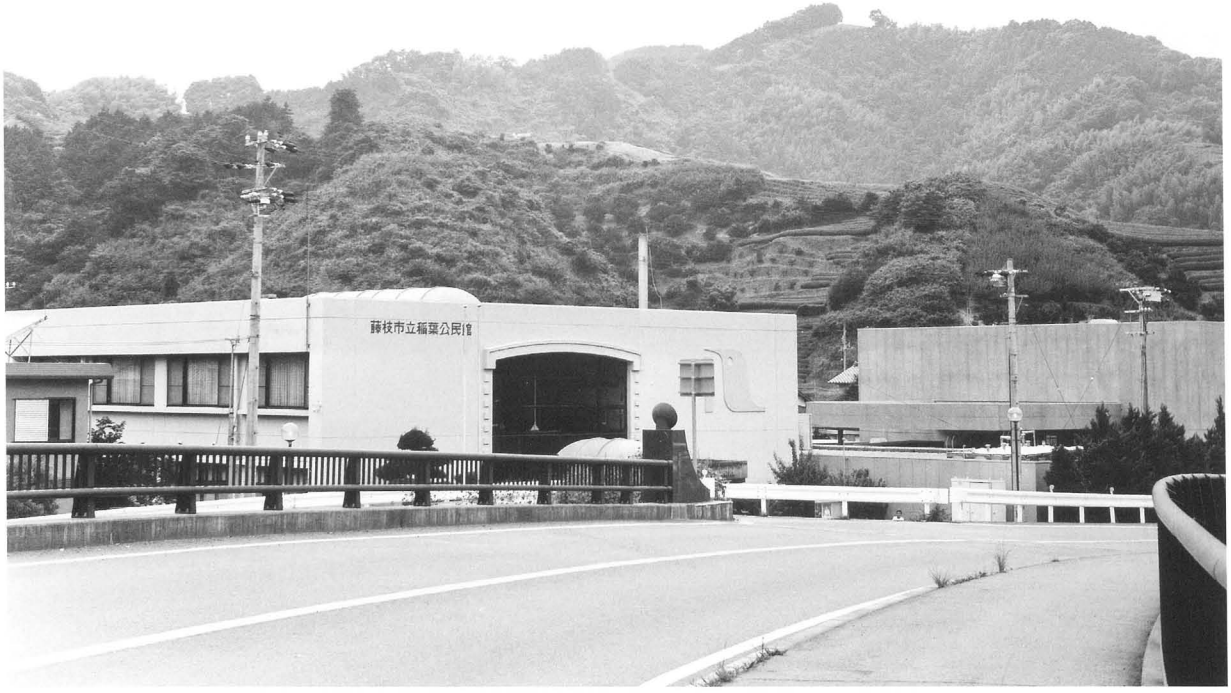


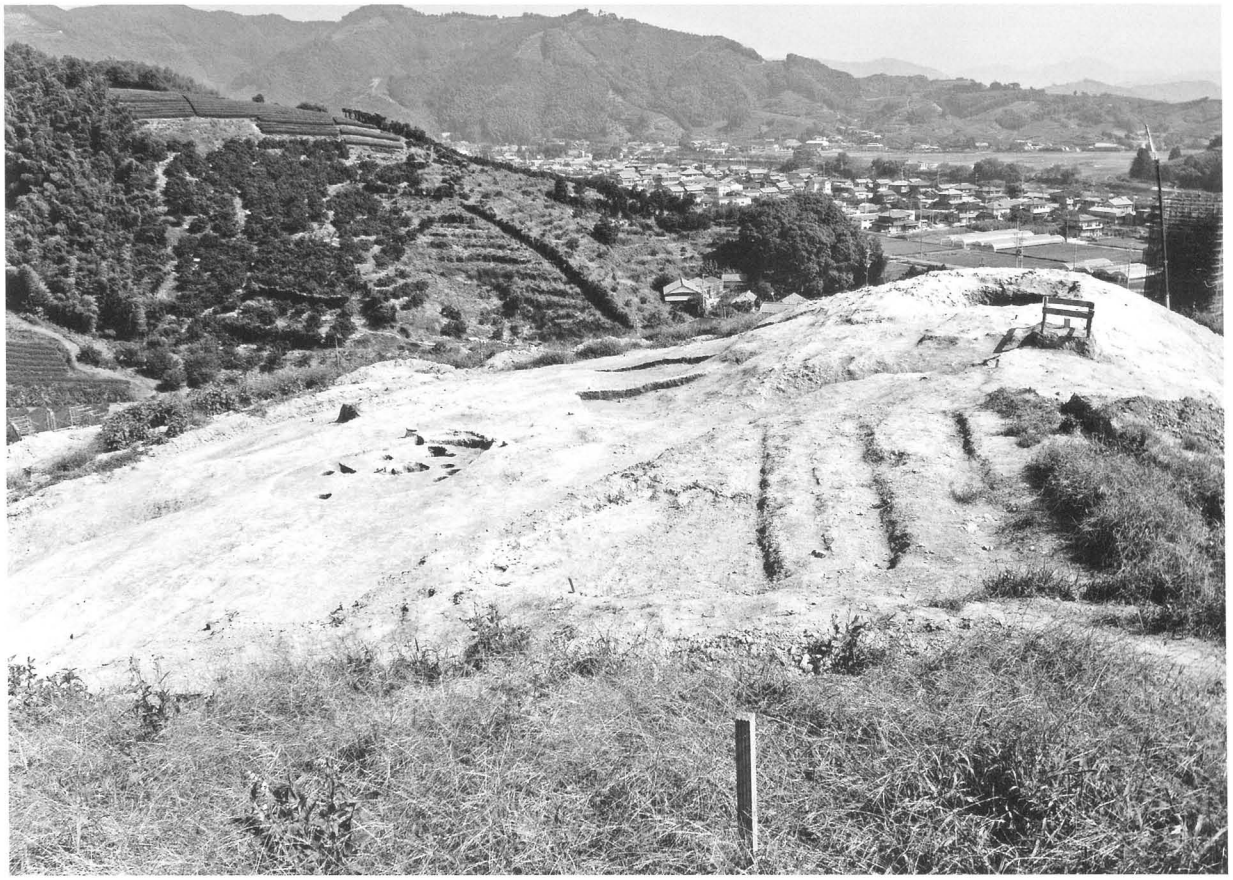

1. S H12・遺構外出土石器

# 図版34　寺島大谷１号墳

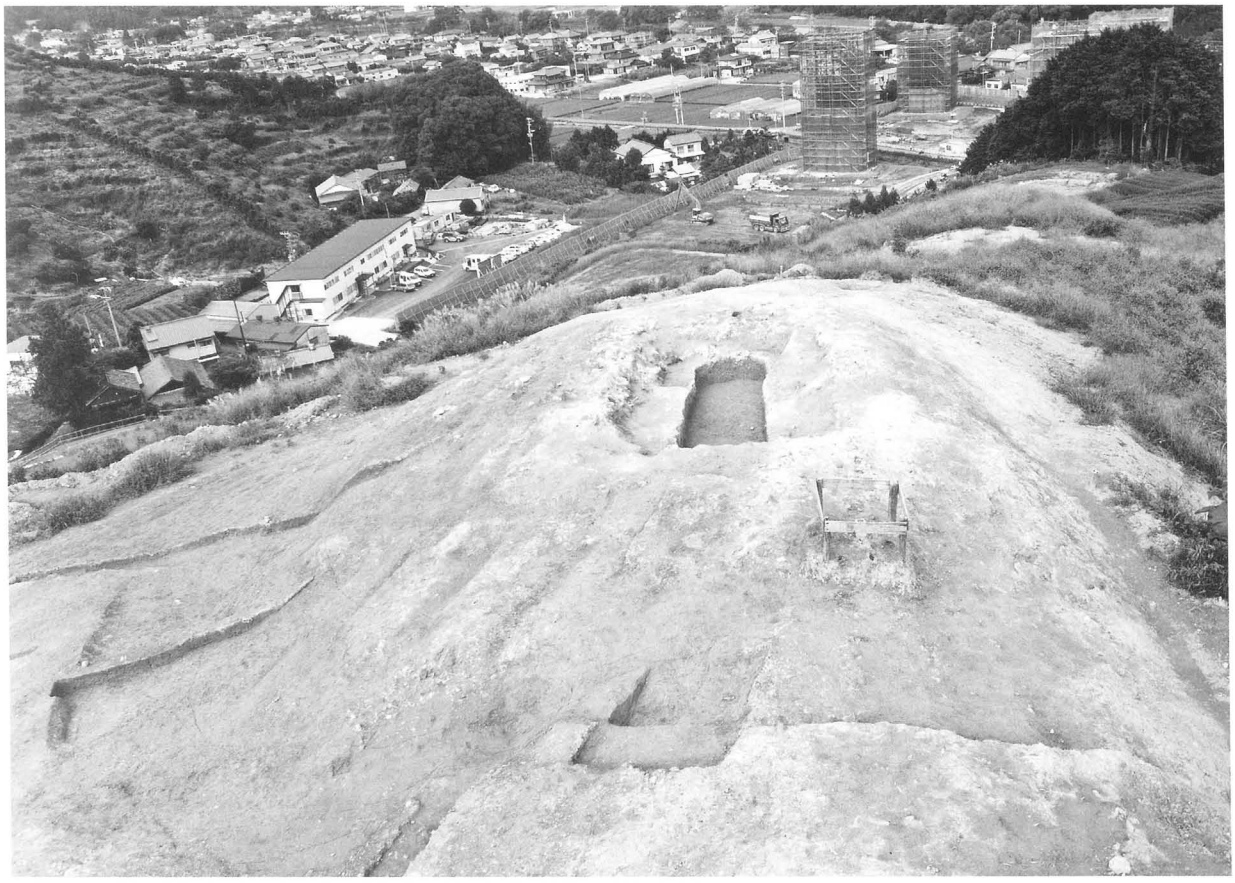
1. 寺島大谷１号墳遠景（北から）




2. 寺島大谷１号墳遠景（南東から）



1. 完掘状況全景



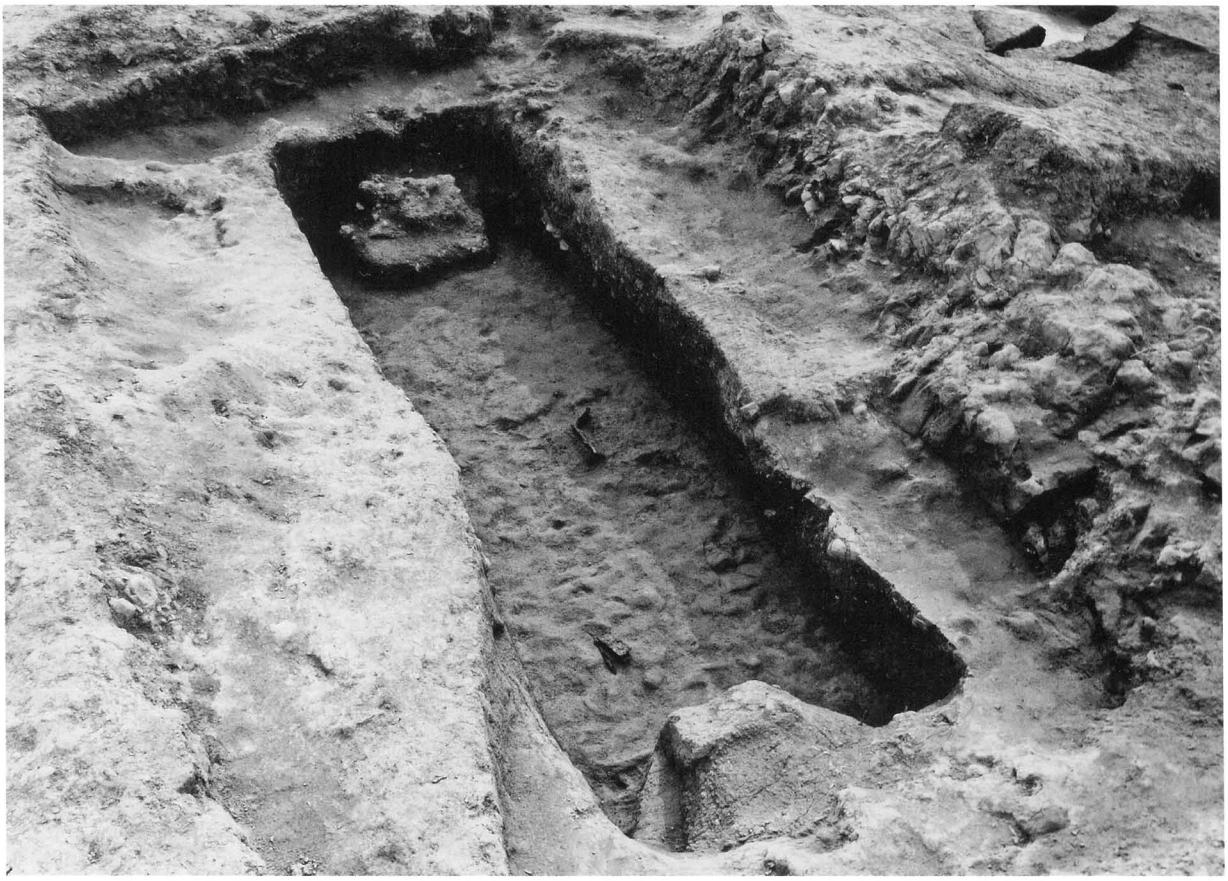
2. 完掘状況全景

# 図版36　寺島大谷１号墳

1. 周溝土層堆積状況
（Ｇ－Ｇ´断面、北西から）

2. 周溝土層堆積状況
（Ｅ－ｅ断面、南西から）

3. 周溝土層堆積状況
北西トレンチ（南西から）



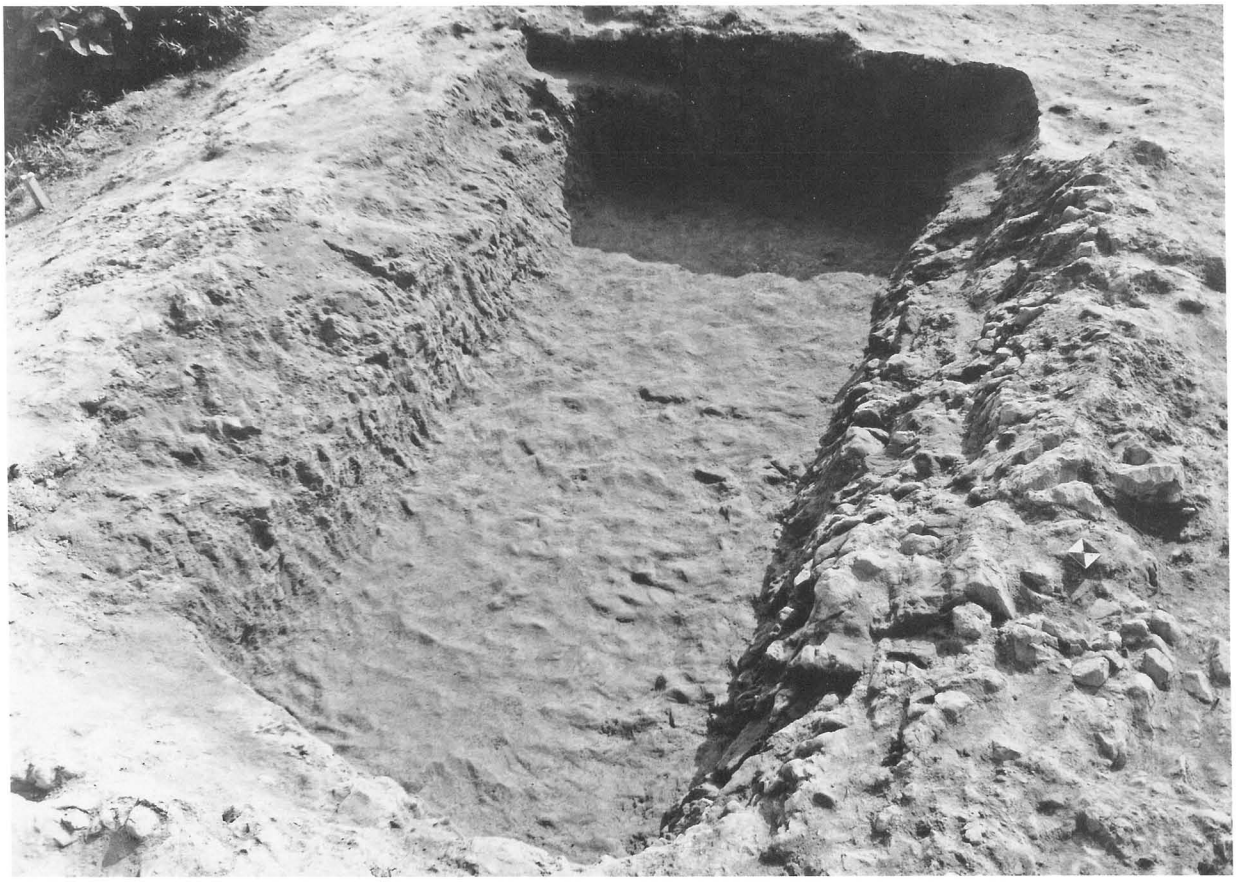
1. 埋葬施設棺内完掘状況（北東から）

2. 埋葬施設棺内東側小口部分裏込め粘土出土状況（南西から）

3. 埋葬施設棺内西側小口部分裏込め粘土出土状況（北から）

# 図版38　寺島大谷１号墳

1. 木棺内完掘状況および遺物出土状況（北東から）



2. 埋葬施設墓壙完掘状況（北から）

1. 埋葬施設上部土層（盛土、北東から）

2. 埋葬施設棺内土層（北東から）

3. 埋葬施設棺内の土層（Ａ－Ａ′土層西側、北東から）

4. 埋葬施設棺内の土層（Ａ－Ａ′土層東側、南東から）

5. 埋葬施設棺内の土層（Ｃ－Ｃ′土層、南西から）

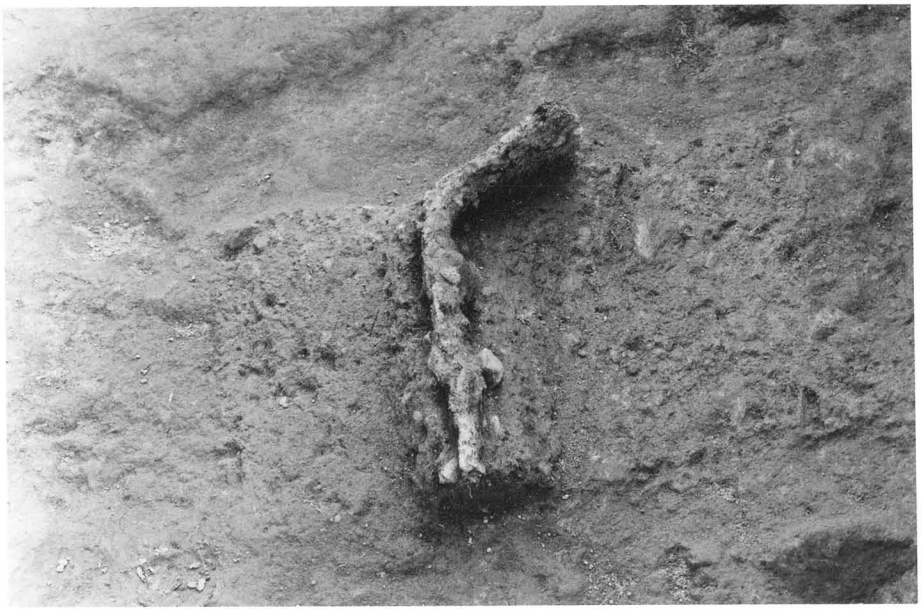
6. 埋葬施設棺内の土層（Ｂ－Ｂ′土層、南西から）

7. 埋葬施設墓壙内の土層（Ｃ－Ｃ′・Ｄ－Ｄ′土層、北東から）

8. 埋葬施設墓壙内の土層（Ｂ－Ｂ′土層、南西から）

# 図版40　寺島大谷１号墳

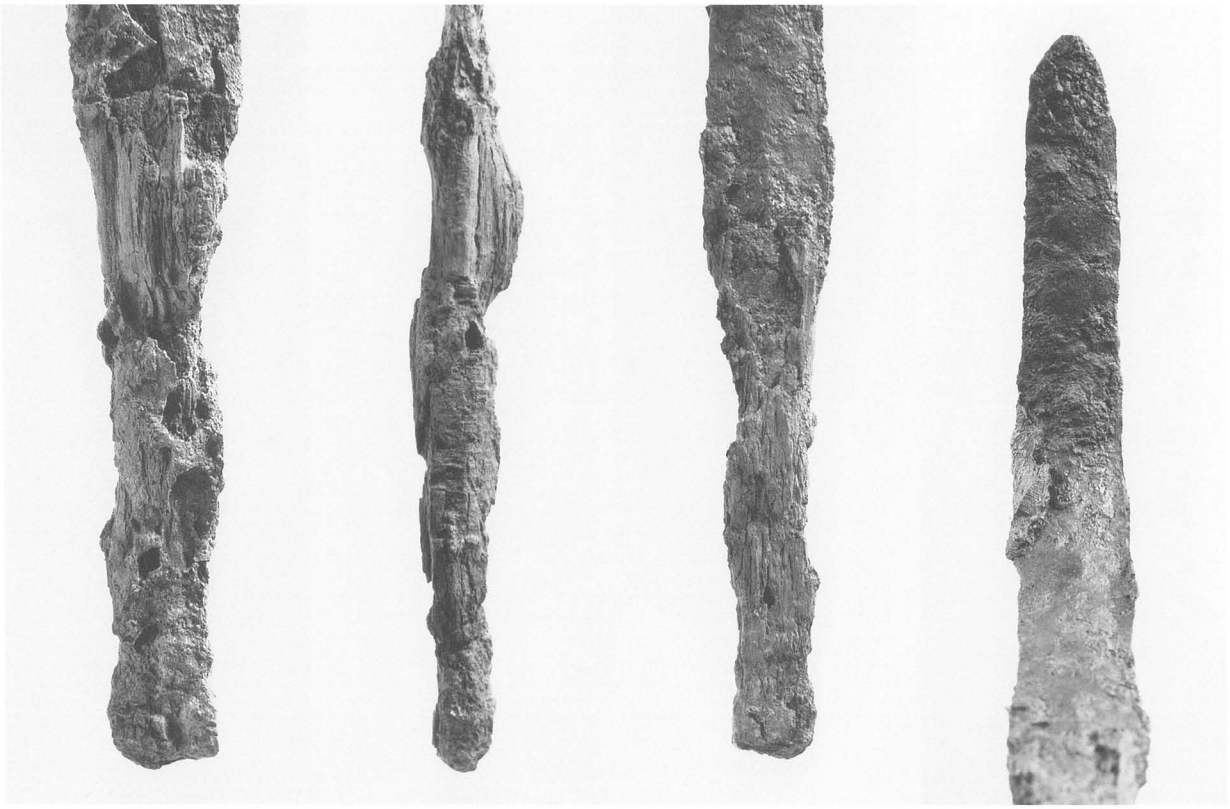
1. 周溝遺物出土状況
（北西から）



2. 木棺内鉄剣出土状況
（北東から）

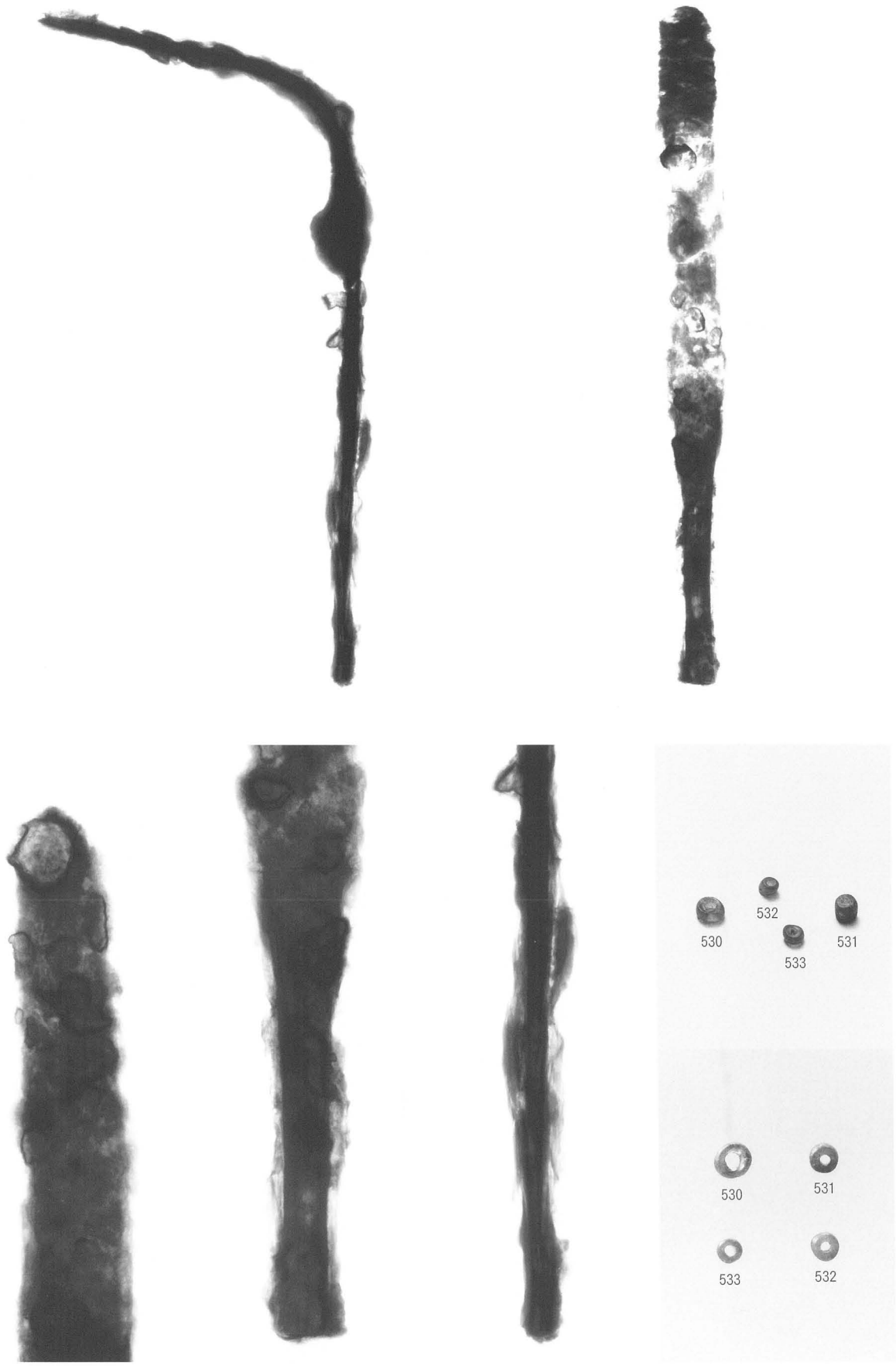
3. 木棺内鉄斧・ヤリガンナ
出土状況（南から）

537



木棺内出土鉄剣

# 図版42　寺島大谷１号墳

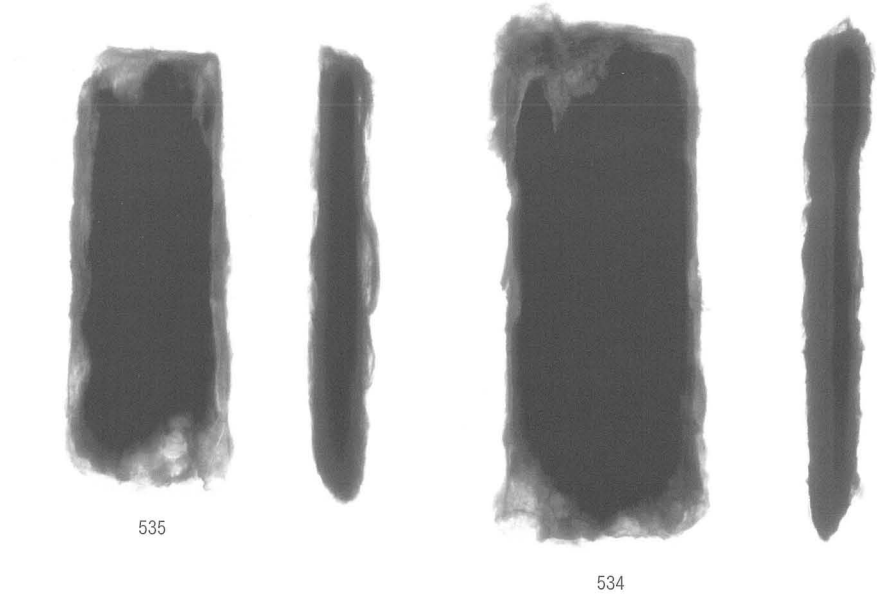



1. 木棺内出土鉄剣Ｘ線写真

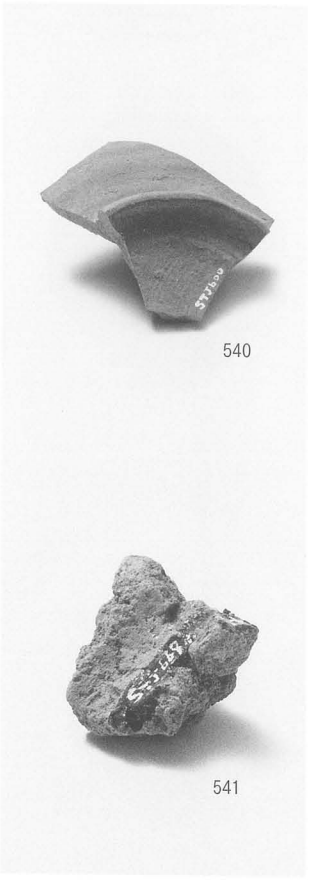
2. 木棺内出土玉類

# 寺島大谷１号墳　図版43

1. 木棺内出土鉄斧

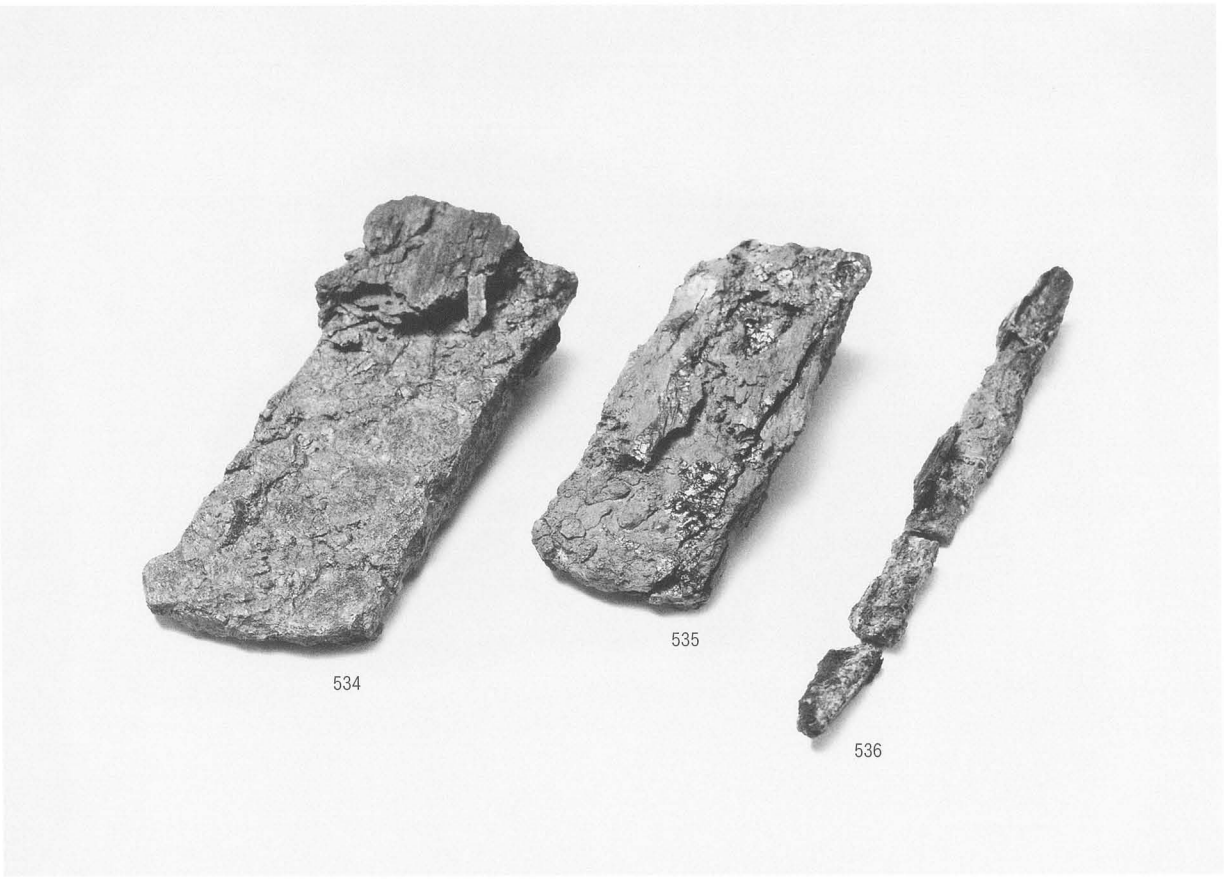



2. 木棺内出土鉄斧Ｘ線写真




3. 古墳に伴わない遺物

# 図版44　寺島大谷１号墳




1. 木棺内出土鉄斧・ヤリガンナ

2. 木棺内出土ヤリガンナ

3. 墳丘表土出土遺物

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | すけむねこようぐん　てらじまおおやいせき　てらじまおおやこふん |
| 書名 | 助宗古窯群　寺島大谷遺跡　寺島大谷古墳 |
| 副書名 | 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | 藤枝市－３ |
| シリーズ名 | 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 |
| シリーズ番号 | 第243集 |
| 編著者名 | 溝口彰啓　澁谷昌彦　大谷宏治　西尾太加二　パリノ・サーヴェイ(株) |
| 編集機関 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 |
| 所在地 | 〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20　電話　054（262）4261(代) |
| 発行年月日 | 平成23年３月25日 |

| 所収遺跡（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 助宗古窯群（すけむねこようぐん） | 静岡県藤枝市（しずおかけんふじえだし）助宗（すけむね） | 22209 | | 世界測地系 34°53′26″ | 世界測地系 138°13′34″ | 199801 ～ 199802 | 350㎡ | 開発等の事業に伴うもの（道路） |
| | | | | 日本測地系 34°53′15″ | 日本測地系 138°13′46″ | | | |
| 寺島大谷遺跡（てらじまおおやいせき）寺島大谷古墳（てらじまおおやこふん） | 静岡県藤枝市（しずおかけんふじえだし）寺島（てらじま） | 22209 | | 世界測地系 34°53′05″ | 世界測地系 138°12′41″ | 199801 ～ 199809 | 4,438㎡ | |
| | | | | 日本測地系 34°52′54″ | 日本測地系 138°12′53″ | | | |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 助宗古窯群 | 生産遺跡 | 奈良～平安時代 | 建物跡（工房跡）１<br>溝状遺構<br>小穴<br>灰原 | 須恵器・灰釉陶器 | |
| 寺島大谷遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 竪穴住居跡３ | 縄文土器・石器 | |
| | 集落 | 弥生時代後期～古墳時代前期 | 竪穴住居跡10土坑１ | 弥生土器・土師器・石器 | |
| | 墓 | 奈良時代 | 土坑墓１ | 土師器 | |
| 寺島大谷古墳（寺島大谷１号墳） | 古墳 | 古墳時代前期 | 古墳１ | 土師器・折曲げ鉄剣・短冊形鉄斧・ヤリガンナ・ガラス玉 | |


要　約

助宗古窯群では奈良時代～平安時代の窯跡に伴う灰原が検出された。隣接する形で工房跡の可能性がある建物跡が検出されている。出土した須恵器は須恵器生産から白瓷生産への移行を考える上で貴重な資料といえる。

寺島大谷遺跡では丘陵上に立地する小規模集落を検出した。主な遺構としては、縄文時代中期中葉～末葉に位置づけられる竪穴住居３棟、弥生時代後期～古墳時代前期に位置づけられる竪穴住居10棟が検出された。それにともなって縄文土器・弥生土器・土師器・石器などの遺物が出土している。

寺島大谷１号墳は古墳時代前期後半頃に造営された木棺直葬の埋葬施設を持つ古墳で、墳丘の形状は方墳あるいは円墳である可能性が高い。主体部からは折曲げ鉄剣、短冊形鉄斧・ヤリガンナなどの貴重な遺物が出土している。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第243集

# 助宗古窯群　寺島大谷遺跡　寺島大谷古墳

第二東名№86・87地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
藤枝市－3

平成23年3月25日

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054－262－4261(代)
FAX　054－262－4266
印　刷　所　文光堂印刷株式会社
〒410-0871　沼津市西間門68-1
TEL　055－962－2800